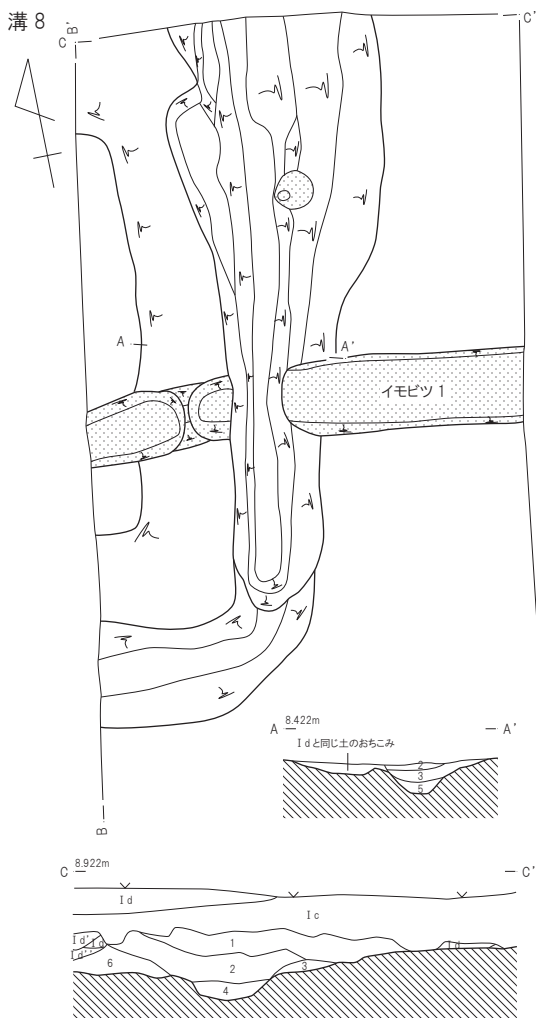


溝7

- I a. 暗褐色土 締り硬質、粘性有、ロームブロック、10mm以下礫多く含む、プラスチック含む
- I b. 暗褐色土 締り強、粘性有、灰色味あり、5mm以下ローム粒、15mm大ロームブロック少し含む
- I c'. (北部分にあり) 北部分は、H31住付近と同様にロームブロック・ローム粒さらに少なく、60mm以下黒色土ブロック混ざる、耕作土
- I d. 黒褐色土 締り強、粘性有、50mm以下ロームブロック多く、5mm以下ローム粒やや多く含む、旧耕作土
- 1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒均一に少し含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒をやや多く含む、10mm大ロームブロック少し含む
- 3'. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒を3層より多く含む、全体の色調明るめ
- 3''. 黒褐色土 締り強、粘性有、色調は3'より暗く3層に近い、3mm以下ソフト質のローム粒やや多く含む
- 3'''. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒を3層より多く含む、5~40mmロームブロック少し含む
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、灰色味あり、2mm以下ローム粒やや多く含む
- 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土分を含み、全体の色調は4層より暗い、3mm以下ローム粒を多く、5~10mmロームブロック少し含む
- 6. 暗褐色土 締り強、粘性有、20mm以下ハードロームブロック多く、3mm以下ローム粒やや多く含む(ハードロームブロックは、明黄褐色土と暗黄褐色土(ブラックバンド由来)混ざる)
- 6'. 暗褐色土 締り強、粘性有、6層と同様にロームブロックを多く含むが、10~80mmと大きい黒色土少し含む
- 7. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームを多く含む色調明るい、しみ状に黒色土を多く、3mm以下ローム粒やや多く(4~6層と比べ少)、5~10mm(東壁で40mm)ロームブロック少し含む、(8層と3~3''が混ざり合った様相で)斑状
- 7'. 暗褐色土 締り強、粘性有、7層より黒色土を多く含む、5~20mmソフトロームブロック、3mm以下ローム粒少し含む
- 7''. 黒褐色土 締り強、粘性有、類似する7・7'層に間層のように挟まれる、5mm以下ローム粒少し含む
- 8. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土・3mm以下ローム粒主体、30mm以下ソフト質の黒色土ブロック少し含む
- 9. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、8層と同じくローム土・3mm以下ローム粒主体だが、5~10mm以ロームブロックやや多く含む、20mm以下ソフト質の黒褐色土ブロック少し含む
- 10. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く、5~30mmロームブロック少し含む
- 11. 暗黄褐色土 締り強、粘性やや弱、ローム土と5mm以下ローム粒主体、10~50mmロームブロックやや多く含む
- 12. 暗黄褐色土ベース 締り強、粘性有、50mm以下ロームブロック主体で緻密な堆積

第76図 松山遺跡第45地点溝7 (1/100)





溝 8

- I a. 暗褐色土 締り強、粘性有、灰色味あり、5mm 以下ローム粒・15mm 大ロームブロック少し含む
- I c. 暗褐色土 締り強、粘性有、灰色味あり、最大 70mm、平均 30mm 以下ローム粒少し含む、北部分は、H31 住付近と同様にロームブロック・ローム粒さらに少なく、60mm 以下黒色土ブロック混ざる、耕作土
- I c'. 暗褐色土 締り有、粘性有、5 ~ 60mm ロームブロック多く含む、I d 層に比べブロック少ない、旧耕作地
- I d. 黒褐色土 締り強、粘性有、100mm 以下ロームブロック多く、5mm 以下ローム粒やや多く含む、旧耕作土
- I d'. 暗褐色土 締り有、粘性有、15mm 以下ロームブロック・ローム粒やや多く含む
- I d''. 黒褐色土 締り有、粘性有、20mm 以下ロームブロック・ローム粒少し含む、I d 層間層
- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、最大 80mm、平均 5 ~ 30mm ロームブロックやや多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、5 ~ 80mm 大型のロームブロック多く含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く含む、ロームブロックは少ない（北壁 sec では、5 ~ 50mm ロームブロックやや多く含む）
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 30mm ロームブロック多く含む（I d 層に似る）
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ロームブロック・5mm 以下ローム粒やや多く含む、上部に 5mm 厚で暗褐色土の水成堆積を 2 層はさむ

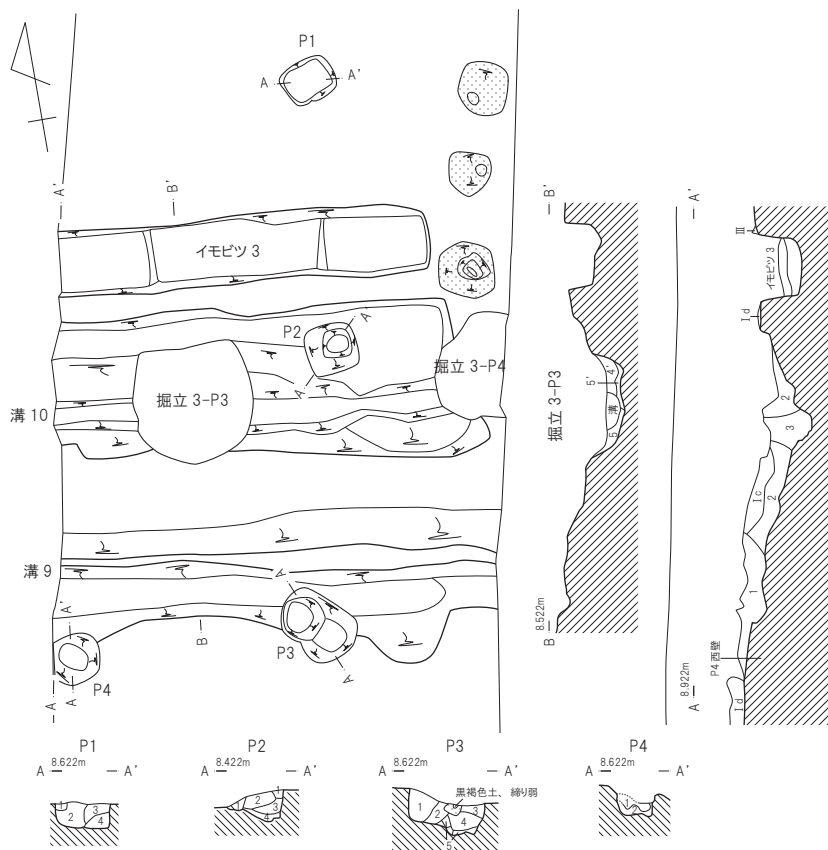
溝 9・10

- I a. 暗褐色土 締り強、粘性有、盛土、ローム土多く含む
  - I b. 暗褐色土 締り強、粘性有、耕作土、ロームブロック・ローム粒少し含む
  - I c. 黒褐色土 締り強、粘性有、20mm 以下ロームブロックやや多く含む
  - I d. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、斑状に黒褐色土が混ざる、旧耕作土
- Ⅲ. 地山ローム
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、20mm 以下ロームブロックやや多く含む、I c 層より色調暗め
  - 2. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、斑状に黒褐色土含む
  - 3. 黒褐色土 締り有、粘性やや弱、10 ~ 50mm ロームブロック多く含む、色調灰色味がある

ピット 1

- 1. 黄褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土ベース、10mm 以下ソフトロームブロック粒主体
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、10mm 以下ソフトロームブロック粒少し含む
- 3. 黒褐色土ベース 締り強、粘性有、ソフトロームブロック主体
- 4. 黒褐色土ベース 締り硬い、粘性有、5 ~ 30mm ロームブロック・ローム土主体

溝 9・10



ピット 2

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、15 ~ 50mm ロームブロック・2mm 以下ローム粒少し含む
- 4. 暗褐色土 締り硬い、粘性有、2 ~ 10mm ロームブロック・ローム粒多く含む、5 ~ 20mm 黒褐色土少し含む

ピット 3

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、30 ~ 70mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り硬い、粘性有、10mm 以下ロームブロック・ローム粒やや多く含む
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ソフトローム粒多く含む
- 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 20mm ソフトロームブロック・2mm 以下ローム粒少し含む
- 5. 黒褐色土ベース 締り強、粘性有、5 ~ 20mm ロームブロック主体

ピット 4

- 1. 黒褐色土 締り硬い、粘性有、しみ状の暗褐色土・2mm 以下ローム粒少し含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、10 ~ 30mm 黒褐色土ブロック少し含む

第 77 図 松山遺跡第 45 地点溝 8 ~ 10・ピット (1/60)



第34表 松山遺跡第45地点遺構一覧表 (単位cm)

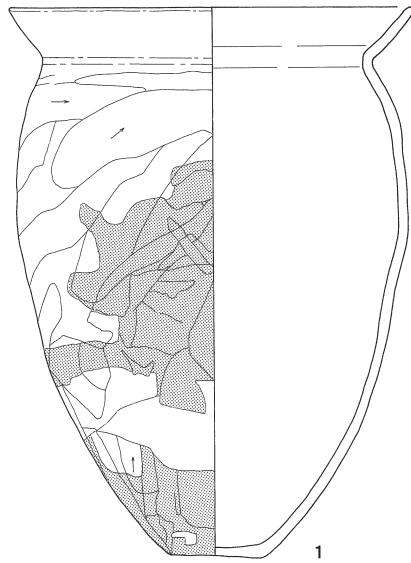
No	平面形態	確認面	底面	高さ	備考
H34住P1	楕円形	33 × 28	7 × 5	26	
H34住P2	楕円形	29 × 28	16 × 15	40	
H34住P3	隅丸方形	18 × 18	14 × 10	16	
H34住P4	楕円形	16 × 14	10 × 6	22	
H34住P5	楕円形	25 × 18	6 × 5	34	
1号掘立柱P1	隅丸長方形	125 × 100	110 × 90	49	暗褐色土と黄褐色土の交互堆積、版築
	下段1 瓢箪形	84 × 47	79 × 33	67	
	下段2 隅丸方形	54 × 42	32 × 21	54	
1号掘立柱P2	楕円形	97 × 69	74 × 56	34	22次調査隅
1号掘立柱P3	隅丸方形	153 ×	127 ×	40	22次調査隅
	下段(楕円)	103 × 55	90 × 35	55	
3号掘立柱P1	楕円形	105 × 86	80 × 59	52	版築土(黒褐色土)中に柱痕
	柱痕	20 ×	×	43	
3号掘立柱P2	隅丸方形	95 × 83	53 × 53	45	版築土(黒褐色土)中に柱痕
	柱痕	32 ×	×	45	
3号掘立柱P3	隅丸方形	95 × 93	75 × 64	29	
3号掘立柱P4	(隅丸方形)	82 ×	63 × 108	55	版築土(粘土含)中に柱痕
	柱痕	30 ×	×	45	
溝1	直線、断面皿状	78 ~	20 ~ 23	14	溝2、イモビツより新
溝2	直線、断面緩やかなV字	130 ~	10 ~ 15	36	溝1、3より旧

No	平面形態	確認面	底面	高さ	備考
溝3	直線、断面V字	180 ~	10 ~ 15	44	溝2より新
溝4	直線、断面皿状	27 ~ 45	8 ~ 12	10	
溝5	直線、断面皿状	64 ~ 80	10 ~ 12	16	
溝6	直線、断面V字	80 ~ 85	14 ~ 18	23	方形のピットが50cm間隔で底面に並ぶ
溝6P1	台形	40 × 27	15 × 10	33	
溝6P2	方形	37 × 30	15 × 10	33	
溝7	直線、12m~V字(菜研堀)	190 ~ 220	10 ~ 28	140 ~ 144	埋没後に掘り返し有、深さ80cm
溝8	L字形、断面皿状	145 ~ 215	15 ~ 20	38	南北4.4m、西へ1.4m
溝9	直線、断面皿状	115 ~	20 ~ 28	9	P4より新
溝10	直線、断面皿状	185 ~	12 ~ 20	34	掘立3より新
P1	隅丸長方形	41 × 34	34 × 24	19	
P2	隅丸方形	40 × 38	18 × 13	31	
P3a	円形	47 × 40	23 × 22	30	P3bより新
P3b	円形	42 × 40	23 × 22	40	P3aより旧
P4	円形	40 × 37	23 × 19	25	
溝状遺構1	長方形	(292) × 50	(290) × 42	40	イモビツ
溝状遺構2	長方形	(300) × 55	(300) × 44	35	イモビツ、H34住居の北
溝状遺構3	長方形	(340) × 57	× 48	25	イモビツ、溝8より新

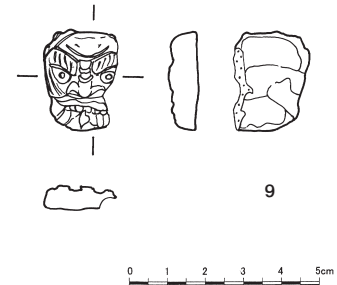
第35表 松山遺跡第45地点出土遺物観察表 (単位cm)

図版番号	掲載番号	遺構名	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	石材/推定生産地	推定年代・時期	残存/備考
78	1	H34号住居跡	土師器・甗	21.4	5.1	29.1	粘土粗積上。口縁部横撫で。胴部外面斜方向のヘラ削り。胴部内面横撫で。頸部は「く」字、口縁は若干内湾する/橙色/砂粒(〜1mm)多量含む。輝石含む/胴部に煤付着/注NoカマドNo1〜7、10、12〜22、24、25、27〜30、33		8C	ほぼ完形
	2	H35号住居跡	須恵器・蓋	15.2	天井径7.0	3.4	轆轤成形。天井部右回転糸切後、未調整。口縁部先端は折り返し/灰黄色/砂粒(〜5mm)多量含む/注NoB区No11〜14、19	南比企	9C中葉	完形
	3	H35号住居跡	須恵器・蓋	(15.0)	天井径6.0	2.7	轆轤成形。天井部右回転糸切後、未調整。口縁部先端は折り返し/灰黄色/砂粒(〜5mm)、海面骨針多量含む/注NoB区No4	南比企	9C中葉	1/2以下残存
	4	H35号住居跡	須恵器・坏	—	(6.8)	—	轆轤成形。右回転糸切後未調整/浅黄色/砂粒(〜1mm)多量含む/注NoB区No10、26、32	不明	8C後半	底部片
	5	H35号住居跡	須恵器・坏	—	(8.6)	—	轆轤成形。底部全面回転ヘラ削り調整/灰色/砂粒(〜1mm)、海面骨針多量含む/注NoB区No16、23	南比企	8C中葉〜後半	底部片
	6	H35号住居跡	須恵器・坏	—	7.2	—	轆轤成形。転糸切後、高台貼付け/灰色/砂粒(〜1mm)多量含む/注NoB区2	南比企	9C前半〜中葉	底部片
	7	H35号住居跡	土師器・甗	(17.0)	—	—	粘土粗積上。口縁部横撫で/明赤褐色/砂粒(〜1mm)少量含む。輝石含む/損壊後、口縁内側に煤付着/注NoB区No28、30		9C	口縁部片
	8	H35号住居跡	土師器・台付甗	—	—	—	粘土粗積上。内外面ヘラ削り/にぶい褐色/砂粒(〜1mm)少量/外面煤付着/注NoB区No5		9C	胴脚接合部
	9	遺構外	土製品・泥面子	2.6	—	0.8	型押成形/鬼面。裏面に指頭圧痕/橙色/砂粒少量含む/注NoH5		1790年代〜1890年代	一部欠

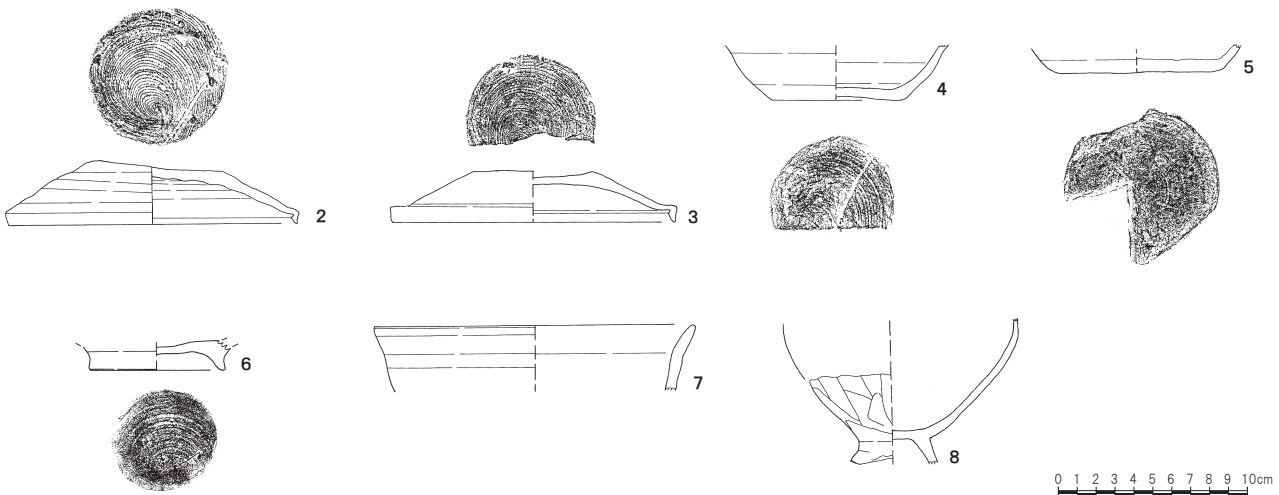
H34 号住居跡



遺構外



H35 号住居跡



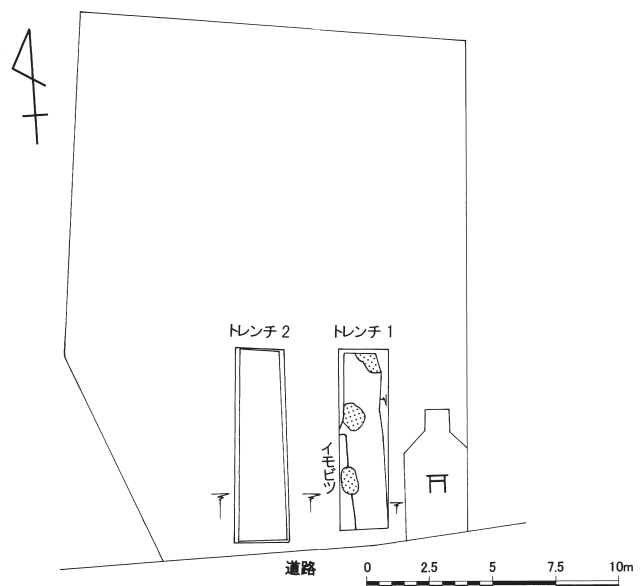
第 78 図 松山遺跡第 45 地点 H34・H35 号住居跡・遺構外出土遺物 (1/2・1/4)

IV 松山遺跡第 46 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2009 年 1 月 6 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2009 年 2 月 17 日に行った。2 m 幅のトレンチを 2 ヲ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで 80～90 cm を測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第 79 図 松山遺跡第 46 地点遺構区域図 (1/300)

## 第 7 章 東久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 500～1,000 m 程下った右岸に位置している。標高 17～20 m で現谷底との比高差は約 3～4 m を測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東大久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、町立亀久保小学校が建ち、現在は区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約 50 m に江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。

本遺跡の調査は 1976 年以來 2010 年 3 月現在まで、66 地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑等、中・近世は溝や柵跡が確認されている。

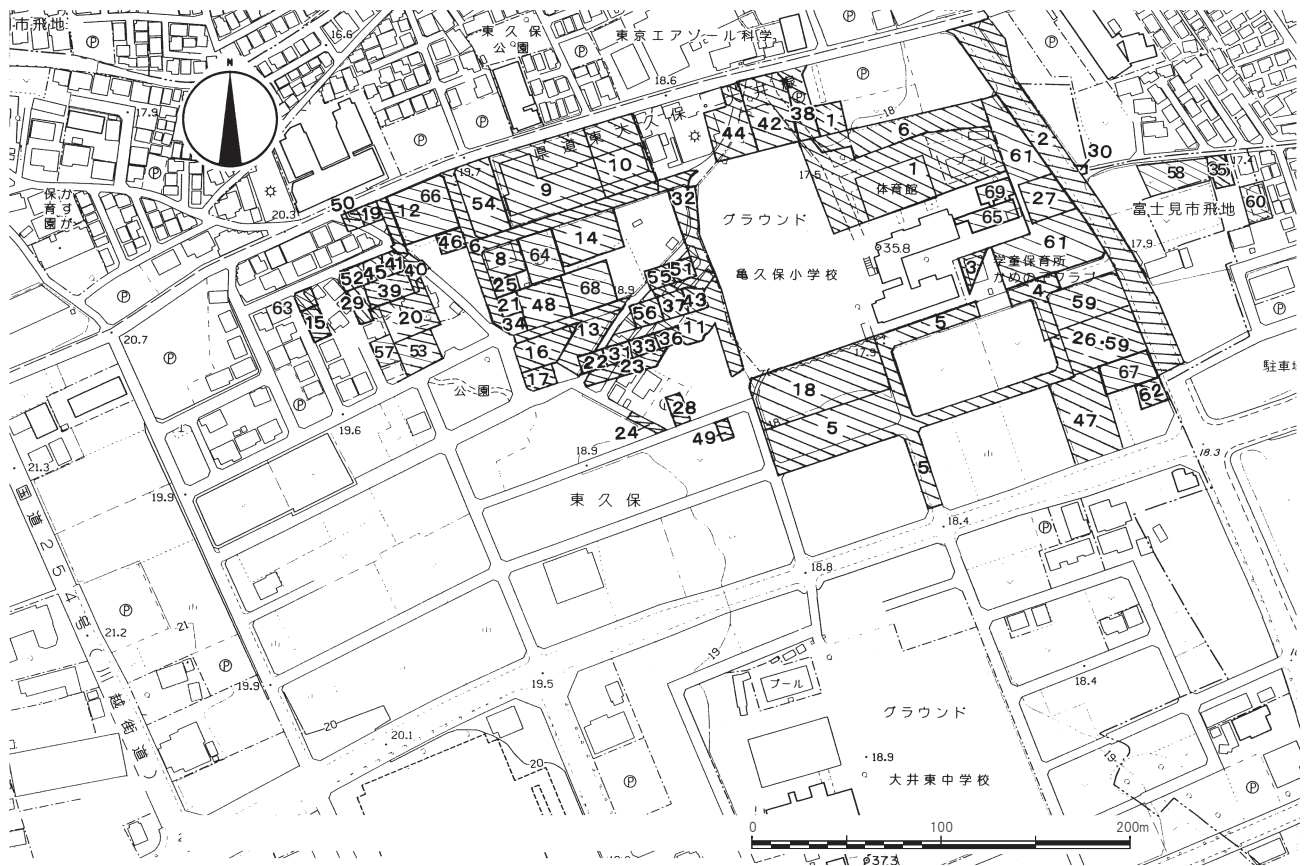
### II 東久保遺跡第 66 地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 3 月 24 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は 2008 年 5 月 22 日から同年 6 月 11 日まで行なった。幅約 2 m のトレンチを 5 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、溝跡と思われるプランを検出した。遺構の性格を確認するため検出部分のみ調査した。確認面まで 90 cm を測る。建築による遺構への影響がないため工事立会いとし、写真撮影・平板測量による全測図・遺構図面作成等記録保存を行ない、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

#### (2) 遺構と遺物

【溝】調査区中央トレンチ 2 から 4 にかけて、東西方向の溝を 3 条検出した。西側は攪乱により不明。溝 3 は東側のトレンチ 2 で溝 4 と連続する。溝底の工具



第 80 図 東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第36表 東久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	亀久保字東久保 285-1 他	(1976.6.29 ~ 7.27)	10,000	小学校建設	縄文：集石土坑6、土坑3、井戸2、溝2 縄文土器・石器	大井町文化財報告第7集 東久保遺跡
2	亀久保 293-1 他	1994.12.19 ~ 1995.3.23 (1995.5.18 ~ 5.22)	2,472	区画整理道路	中近世の溝4、ピット4、土坑2	調査会報告第14集
3	亀久保 284-1	(1996.11.15)	25	水道管理設	溝1	
4	亀久保 284-1	(1996.5.20 ~ 5.29)	270	学童保育所移設	溝2、欄列1、遺物無し	町内遺跡群VI
5	亀久保 364-1	(1996.6.7 ~ 6.10) 1996.9.2 ~ 9.4	320	区画整理道路	旧石器礫群1	町内遺跡群VI・ 調査会報告第14集
6	亀久保 366	1996.11.22 ~ 1997.3.5	3,314	区画整理道路	土坑3、中世の堀跡1、溝2、ピット1	調査会報告第14集
7	亀久保 271-1	<A区>1997.1.20 ~ 2.13 <B区>1997.2.24 ~ 3.19 <C区>1997.7.24 ~ 7.25 <D区>1997.8.6	2,309 168	区画整理道路	縄文：落とし穴2、集石土坑1、土坑1、ピット5、溝8	調査会報告第14集
8	(亀久保堀跡第1地点に変更)					調査会報告第14集
9	東久保 18 街区 12 画地	(1997.7.29 ~ 8.2)	305	個人住宅	縄文：土坑2、ピット2	町内遺跡群VII
10	東久保 18 街区 12 画地	(1997.8.18 ~ 8.28) 1998.3.1 ~ 5.18	2,117	共同住宅	縄文：集石土坑5、土坑13、ピット7、 近世以降の溝3	町内遺跡群VII・ 調査会報告第14集
11	東久保 19 街区	(1997.9.2 ~ 10.1)	1,067	分譲住宅	縄文：集石土坑1、近世以降の溝1	町内遺跡群VII
12	東久保	1998.7.13 ~ 8.6 1999.3.11 ~ 3.12	588	区画整理道路	中世以降の欄列1、ピット3、溝1	調査会報告第14集
13	東久保	1999.1.19 ~ 1.21	282	区画整理道路	縄文：集石土坑1、ピット10、近世以降の溝2	調査会報告第14集
14	東久保 381-5 他	1999.5.19 ~ 5.20 1999.11.2	360 162	区画整理道路 個人住宅	遺構・遺物無し	調査会報告第14集 町内遺跡群IX
15	東久保 18 街区 3 画地	(1999.6.29 ~ 7.16) 1999.7.19 ~ 7.29	823	共同住宅	溝2、欄列1 縄文土器片、瓦質陶器片	町内遺跡群IX・ 調査会報告第14集
16	東久保 5 街区 14 ~ 16 画地	(1999.8.2)	178	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
17	東久保 15 街区 1 ~ 5.32 画地	(1999.10.1 ~ 10.6)	334	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
18	東久保 381-5	(1999.6.14 ~ 6.15)	168	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
19	東久保 27 街区 2 画地	(1999.11.30 ~ 12.15)	14,989	小学校グラウンド	欄列	町内遺跡群IX
20	東久保 3 街区 9,10 画地	(1999.12.20 ~ 12.21)	108	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
21	東久保 4 街区 9 画地	(2000.2.28 ~ 3.3)	478	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
22	東久保 18 街区 14 画地	(2000.3.23 ~ 3.28)	114	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
23	東久保 15 街区 28 画地	(2000.3.22 ~ 3.23)	150	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群IX
24	東久保	2000.3.13 ~ 3.16 2000.3.27 ~ 4.6	280	区画整理道路	縄文：土坑1、焼土跡1	調査会報告第14集
25	東久保 14 街区	2000.1.19	390	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14集
26	東久保 18 街区 13 画地	(2000.4.13 ~ 4.14)	135	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群X
27	東久保 31 街区 9 画地	(2000.4.14)	1,107	砂利敷駐車場	溝、ピット	町内遺跡群X
28	東久保 26 街区	2000.5.17 ~ 6.8	560	区画整理調整池	縄文：ピット15、近世の土坑1、欄列1、溝2	調査会報告第14集
29	東久保 14 街区 8 画地	(2000.6.29 ~ 7.4)	130	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群X
30	東久保 4 街区 18,20 画地	(2000.6.30 ~ 7.4)	218	個人住宅	溝2	町内遺跡群X
31	東久保 294 番 2	2000.7.4	48	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14集
32	東久保 15 街区 26 画地	(2000.6.7)	126	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群X
33	東久保 277,381 番地他	2000.7.12 ~ 8.4 2001.7.16 ~ 11.30	265 590	区画整理道路	旧石器：石器製作跡2、縄文：土坑2、ピット12、 時期不明の溝・欄列各1	調査会報告第14集
34	東久保 15 街区 24 画地	(2000.8.2 ~ 8.3)	128	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群X
35	東久保 18 街区 15 画地	(2000.8.29 ~ 8.30)	110	個人住宅	ピット4	町内遺跡群X
36	東久保 23 街区 3,4 画地	(2000.12.7 ~ 12.9)	139	個人住宅	溝1、ピット1	町内遺跡群X
37	東久保 15 街区 21,22 画地	(2001.1.19 ~ 1.25)	135	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群X
38	東久保 15 街区 13,33 画地	(2000.12.11)	149	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群X
39	東久保 284-1,285-1	2000.12.13 ~ 12.15	501	区画整理道路	縄文：ピット1、遺物無し	調査会報告第14集
40	東久保 4 街区 8,9 画地	(2001.3.22 ~ 3.27)	317	個人住宅	縄文：落とし穴	町内遺跡群X
41	東久保 270-3,270-4	2001.3.23, 2001.6.1	128	区画整理道路	遺構・遺物無し	調査会報告第14集
42	東久保 4 街区 6,7 画地	(2001.5.28 ~ 5.29)	112	個人住宅	近世以降の溝1、遺物無し	町内遺跡群XI
43	東久保 19 街区 10 画地	(2001.4.18 ~ 4.21)	864	駐車場	近世以降の溝1、遺物無し	町内遺跡群XI
44	東久保 15 街区 14,15 画地	(2001.5.22 ~ 5.25)	142	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群XI
45	東久保 19 街区 9,11,12 画地	(2001.5.10 ~ 6.29)	757	倉庫	縄文：落とし穴1、風倒木跡、ピット5、溝2	町内遺跡群XI
46	亀久保 258-21	(2001.6.1)	100	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群XI
47	東久保 17 街区 3,4 画地	(2001.6.4 ~ 6.6)	135	個人住宅	溝1、縄文土器片2、磁器片1	町内遺跡群XI
48	東久保 31 街区 6,13 画地	(2001.10.11 ~ 10.26)	1,203	店 舗	縄文：落とし穴1、溝1	町内遺跡群XI
49	東久保 18 街区 9,10 画地	(2001.12.12 ~ 12.25)	518	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群XI
50	東久保 13 街区 7 画地	(2002.2.12 ~ 2.13)	100	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群XI
51	東久保 3 街区 22 画地	(2002.9.24)	102	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群XI
52	東久保 18 街区 11 画地	(2002.12.3)	155	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群XI
53	東久保 4 街区 3 画地	(2003.2.6 ~ 2.7)	64	個人住宅	溝、井戸	町内遺跡群XII
54	東久保 4 街区 10 画地	(2003.5.7 ~ 5.22)	408	共同住宅	ピット1	町内遺跡群XII
55	亀久保字東久保 272 (19 街区 1 画地)	(2003.5.9 ~ 5.22)	798	共同住宅	溝3、ピット4、落とし穴1	町内遺跡群XII
56	亀久保字東久保 488 (18 街区 7 画地)	(2003.6.9 ~ 6.12)	165	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群XII
57	亀久保字東久保 15 街区 12 画地	(2003.7.31 ~ 8.1)	165	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群XII
58	亀久保 258-26(4 街区 14 画地)	(2003.9.29 ~ 10.1)	133	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群XII
59	ふじみ野 2-27-2	(2004.4.13 ~ 4.14)	557	分譲住宅	溝2	町内遺跡群XII
60	ふじみ野 2-25-7 ~ 9	(2004.6.29) 2004.7.12 ~ 7.23	1,804	店 舗	土坑4、ピット9、溝2	町内遺跡群X・ 調査会報告第14集
61	ふじみ野 2-6-16	(2004.7.22 ~ 7.24)	336	個人住宅	ピット1	町内遺跡群XII
62	東久保 26 街区	2004.9.29 ~ 11.26	2,376	区画整理公園緑地	縄文時代の土坑7、ピット9、溝6、 (調査区内の一部は第27地点で調査済)	調査会報告第14集
63	ふじみ野 2-2-5-16	(2004.10.12 ~ 10.15)	220	宅地造成	溝3	町内遺跡群XII
64	ふじみ野 2-5-10,12	(2006.2.1)	105	個人住宅	遺構・遺物無し	市町内遺跡群2
65	ふじみ野 2-18-6 の一部	(2006.10.12 ~ 10.20) 2006.10.24 ~ 26	437	共同住宅	近世の欄列1、溝4	市町内遺跡群3
66	ふじみ野 2-22-2,5 ~ 7	(2008.1.18 ~ 2.8)	260	小学校増築	遺構・遺物無し	市町内遺跡群4
67	ふじみ野 2-19-4,19-5	(2008.5.22 ~ 6.11)	862	分譲住宅建設	溝3	市町内遺跡群6
68	ふじみ野 2-25-10,11	2009.11.9	492	分譲住宅建設	遺構・遺物無し	未報告
69	ふじみ野 2-18-3	(2010.11.22 ~ 26) 2010.11.29 ~ 12.8	791	分譲住宅建設	縄文：集石1、近世以降溝跡2、欄列1	未報告



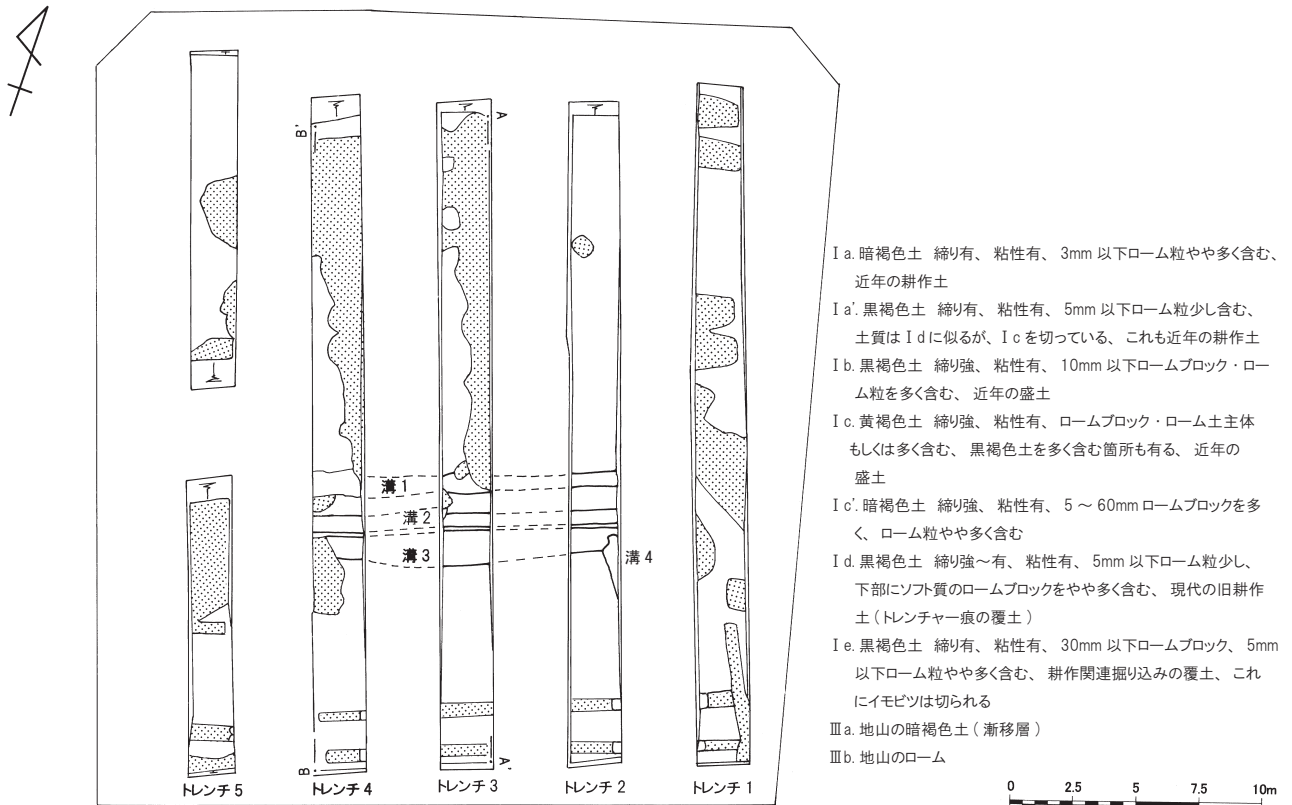
痕や土層が溝 3 と溝 4 で類似しており、底に段差はあるが、同一遺構の可能性が高い。

【溝状土坑】 調査区南端で、断面「 $\square$ 」の長方形土坑を検出した。いわゆるイモ類を貯蔵する「イモビツ」と思われる。

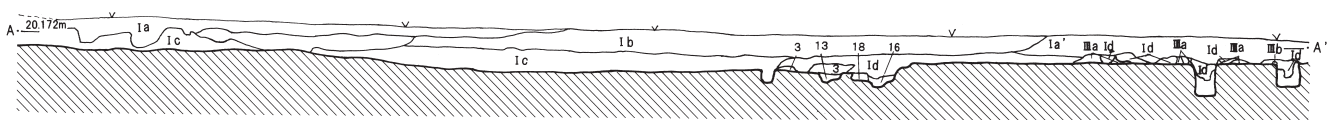
【遺物】 1 は溝 2 出土で、内面に幅広押引文 2 列、間に三角押文を波状に巡らす浅鉢口縁。2 はトレンチ 3 の遺構外出土で、隆帯脇に 1 列の角押文を施文する深鉢口縁。3 もトレンチ 3 の遺構外出土で、雲母片含む胎土で、指頭圧痕が巡る深鉢胴部。5 は溝 2 出土の片岩製打製石斧で完形品。抉りの入る撥形。

第 37 表 東久保遺跡第 66 地点遺構一覧表 (単位cm)

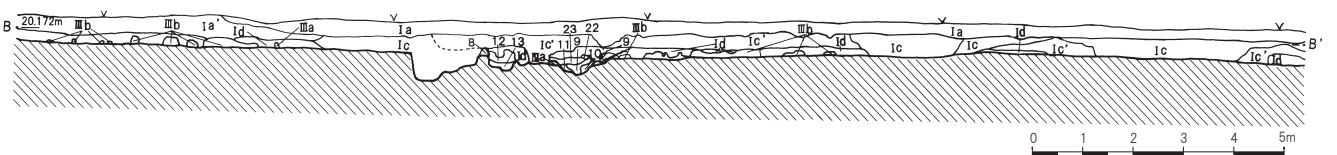
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝 1	東西直線 12m へ、 断面 U 字形	47 ~ 95	20 ~ 23	34 ~ 47	東へ傾斜
溝 2	東西直線 12m へ、 断面 U 字形	42 ~ 68	25 ~ 47	25 ~ 31	東へ傾斜
溝 3	東西直線 12m へ、 断面 U 字形	95 ~ 105	12 ~ 32	23 ~ 38	東へ傾斜。北側に幅 25 ~ 30cm の段差有
溝 4	南北直線 2.7m へ、断 面 U 字形	(65) ~	(35) ~	42	溝 3 と掘方、土層類似する。連続する可能性有
溝状遺構 1	断面 $\square$	45 ~	40 ~	62	イモビツ
溝状遺構 2	長方形、 断面 $\square$	43 ~	43 ~	45	イモビツ



トレンチ 3

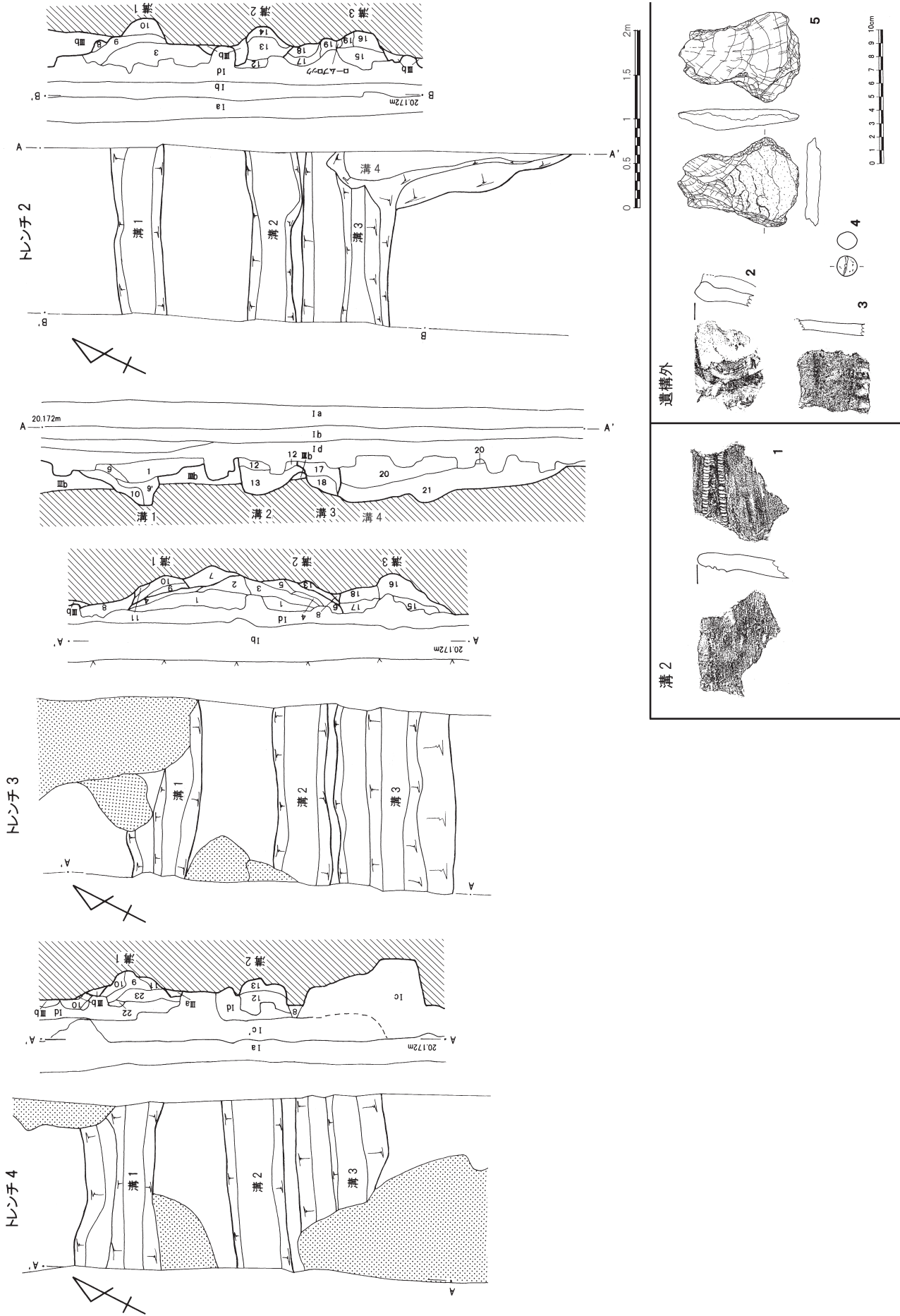


トレンチ 4



第 81 図 東久保遺跡第 66 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)





第82図 東久保遺跡66地点溝1～3 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第 38 表 東久保遺跡第 66 地点出土遺物観察表 (単位cm)

図版 番号	掲載 番号	遺構名	種別・器種	口径・ 長	底径・ 幅	器高・ 厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定 生産地	推定年代・ 時期	残存 / 備考
82 図	1	溝 2	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 内面口縁部に半載竹管による連続押し文を 2 列と、その間に三角押し文を波状に施文する / 砂粒多量 / 注№ 2M2 トレ		縄文中期・ 猪沢	口縁部片
	2	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯による楕円区画脇を、角押し文で押さえる / 砂粒、雲母多量含む / 注№ 3 トレ 1		縄文中期・ 阿玉台 I b	口縁部片
	3	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 輪積み部分にヒダ状指頭圧痕 / 砂粒、橙色粒子多量含む / 注№ 3 トレ 2		縄文中期・ 阿玉台 I b	胴部片
	4	遺構外	土製品・小玉	1.4	1.45	—	粘土玉。糸を挟み込んだ跡がある / 注№ 5 トレカクラン			完形
	5	溝 2	石器・打製石斧	9.06	6.70	1.60	重量 96.5g / 両極敲打技法 / 注№ 2M2 トレ	緑泥片岩	縄文時代	完形

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 30mm ロームブロック多く、5mm 以下ローム粒やや多く、黒褐色土の薄層を挟む
2. 黄褐色土 締り強、粘性有、50mm 以下ロームブロック・ローム土主体、黒褐色土ブロック少し含む
3. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体 30mm 以下ロームブロック・ローム粒多く含む、黒褐色土少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 10mm ロームブロック少し、3mm 以下ローム粒少し含む
5. 暗褐色土ベース 締り強、粘性有、5 ~ 10mm ロームブロック主体、黒褐色土少し含む
6. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 15mm ロームブロック少し、5mm 以下ソフトローム粒主体、ベースは暗褐色土
7. 黄褐色土 締りやや弱、粘性有、40mm 以下ロームブロック主体、隙間をローム土が埋める、黒褐色土を少し含む、この凹みの底面は起伏著しい
8. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 40mm(平均 10mm 以下)ロームブロックやや多く、5mm 以下ローム粒多く含む
9. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 30mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む
- 9'. 黒灰色土 シルトブロック 60 ~ 10mm やや多く吹くむ
10. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 50mm ロームブロック多く、ローム粒やや多く含む
11. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く含む
12. 暗褐色土 締り強、粘性有、10 ~ 20mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む
13. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 20mm ロームブロックと 5mm 以下ローム粒多く含む
14. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 20mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む、ベースの土はローム分を多く含み色調明るい
15. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 30mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む、5 ~ 10mm 黒色土少し含む、色調は 3 層より暗い
16. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 40mm ロームブロック多く、5mm 以下ローム粒やや多く含む、色調は 4 層より暗い
17. 暗褐色土 締り強、粘性有、平均 15mm 以下ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む、南に落ち込むような堆積
18. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 30mm ロームブロック多く、5mm 以下ローム粒やや多く含む、北壁側に堆積する
19. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 10mm ロームブロック多く、ローム粒やや多く含む
20. 暗褐色土 締り強、粘性有、10 ~ 30mm ロームブロック少し、5mm 以下ローム粒やや多く含む、最大 20cm の黒褐色土ブロックを少し含む
21. 黒褐色土 締り強、粘性有、10 ~ 80mm ロームブロック多く、ローム粒やや多く含む
22. 暗褐色土 締り強、粘性有、10mm ロームブロック、2mm 以下ローム粒少し含む
23. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベース、ソフトロームブロック主体 15mm 以下ハードロームブロック少し含む

## 第8章 東久保西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東久保西遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間低位台地に位置する。

遺跡の南側から東側にかけて埋没河川が流れ、現在では用水路になっている。以前は埋没河川を取り巻くように段差などがみられたが、こうした地形や環境も、区画整理事業と大規模開発により無くなりつつある。以前の標高は18.0～21.0 mだったが、区画整理後は19.5～20.0 mである。

周辺の遺跡は北西に江川南遺跡、北側に亀久保堀跡遺跡・東久保遺跡、南側に東中学校西遺跡が隣接する。

本遺跡は遺物の散布地であったが、1993年に東久保西遺跡として新規登録し、さらに1997年東久保土地区画整理事業に伴い区画道路部分を調査した際、遺構の検出範囲が広がったため、遺跡の変更増補を行なった。

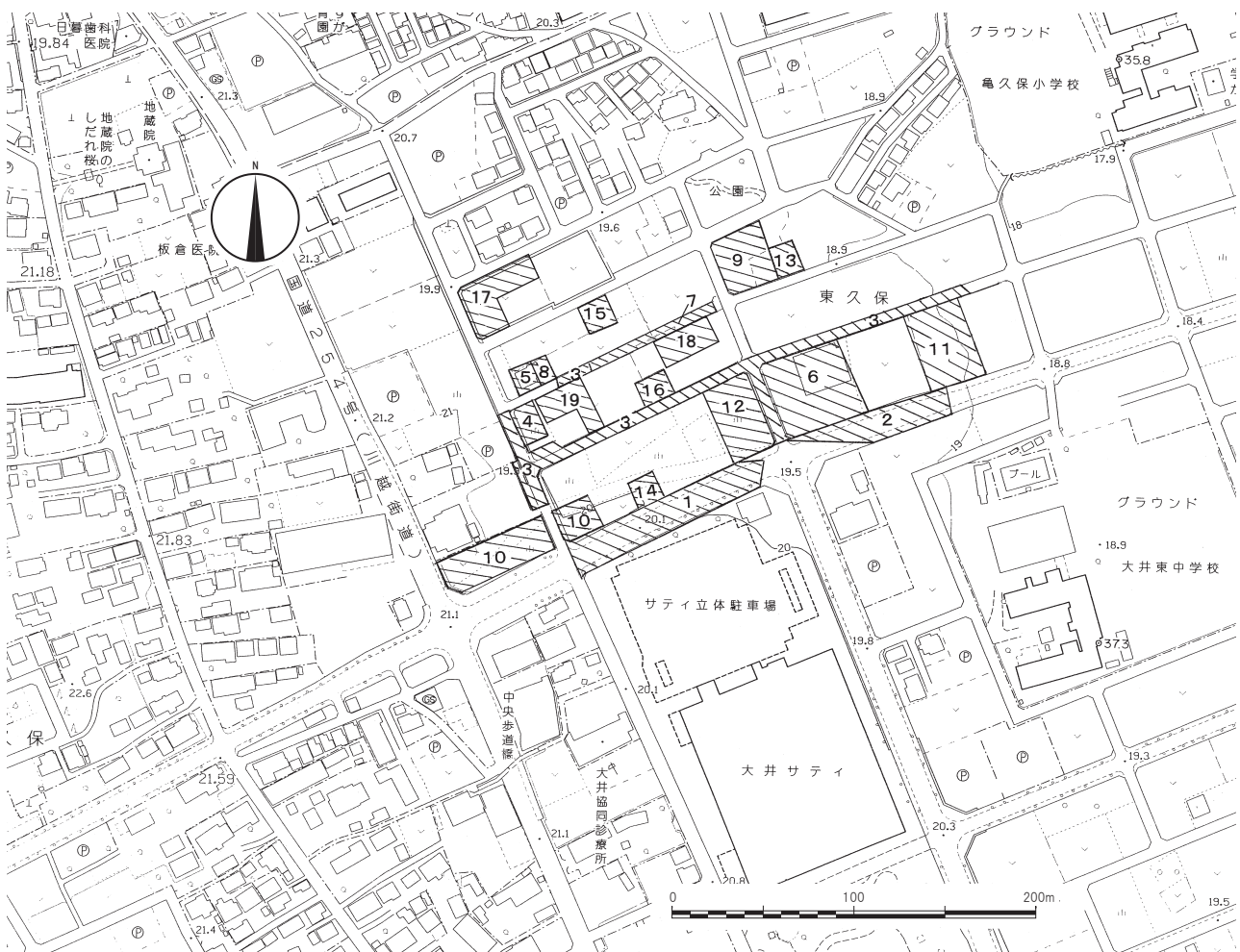
1994年の初調査以来、2010年3月現在19地点で調査を行ない、埋没河川であった用水路周辺から旧石

器時代の礫群、縄文時代の落とし穴、屋外炉、中・近世の溝などを検出している。

### II 東久保西遺跡第19地点

#### (1) 調査の概要

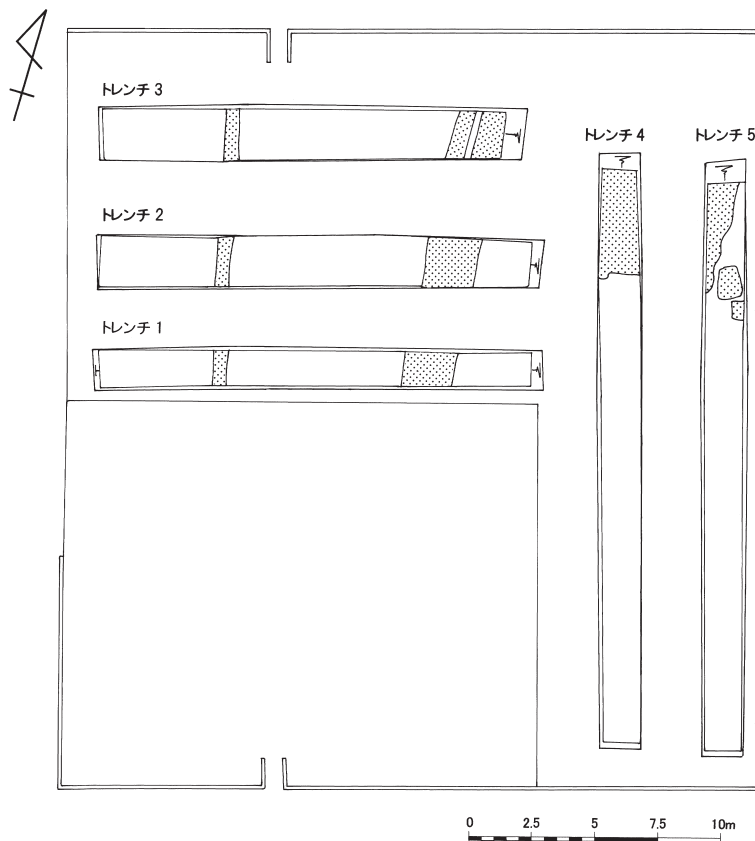
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年6月16日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2008年7月2日から3日まで行なった。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったが、イモビツの他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで40cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第83図 東久保西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 39 表 東久保西遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	亀久保 399-1、400-1、 407-1.2、408-1	1995.1.9 ~ 2.1	1,392	区画整理道路	溝状プラン確認、遺物無し	遺跡調査会報告第 14 集
		(1993.8.24 ~ 26)	75	区画整理竪坑	第 1 地点調査区内で工事立会い、遺構・遺物無し	
2	亀久保 419-1 他	1997.11.27 ~ 1998.1.27 1998.2.23 ~ 3.9	1,400	区画整理道路	縄文：落とし穴 1、土坑 1、 ピット 16	遺跡調査会報告第 14 集
3	東久保	<A 区>1998.1.19 ~ 2.3	680	区画整理道路	縄文：落とし穴 1、土坑 1、ピット 9、溝 3	遺跡調査会報告第 14 集
		<B 区>1998.6.1 ~ 15	1,754			
		<C 区>1998.7.14 ~ 29				
		<D 区>1998.12.21 ~ 22 <E 区>1999.1.18 ~ 22				
4	東久保 10 街区 1 画地	(1998.12.1 ~ 2)	298	砂利敷駐車場	溝 1	町内遺跡群Ⅷ
5	東久保 9 街区 9 画地	(1998.12.10 ~ 14)	194	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅷ
6	東久保 12 街区 1,2,10 画地	(1999.2.9 ~ 15) 1999.2.24 ~ 3.1	1,959	店 舗	旧石器時代の石器ブロック 3、縄文時代の落とし穴 1 黒曜石製の削器 1	町内遺跡群Ⅷ・ 遺跡調査会報告第 14 集
7	東久保 250 - 1 他	1999.6.8 ~ 7.24	528	区画整理道路	中近世以降の溝 1	遺跡調査会報告第 14 集
8	東久保 9 街区 13 画地	(1999.11.2 ~ 5)	135	個人住宅	ピット 1	町内遺跡群Ⅸ
9	東久保 14 街区 1,2,12 画地	(2000.1.28 ~ 2.9)	1,074	共同住宅	溝 1、ピット 11	町内遺跡群Ⅸ
10	東久保 11 街区 3,11 画地	(2000.5.8 ~ 10)	1,760	店 舗	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅹ
11	東久保 12 街区 5,9 画地	(200.6.11 ~ 12)	1,445	駐車場	遺構無し、土器片 3	町内遺跡群Ⅹ I
12	東久保 11 街区 9,13 画地	(2001.6.25 ~ 7.2)	1,074	店 舗	遺構無し、近世以降の陶磁器片 7	町内遺跡群Ⅹ I
13	東久保 14 街区 11 画地	(2001.10.13 ~ 26)	275	個人住宅	黒色プラン確認、遺物無し	町内遺跡群Ⅹ I
14	東久保 11 街区 10 画地	(2002.1.31 ~ 2.4)	237	店 舗	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅹ I
15	東久保 9 街区 3 画地	(2003.2.3 ~ 5)	225	個人住宅	溝 2、土坑 1、ピット 1	町内遺跡群Ⅹ II
16	東久保 10 街区 6 画地	(2003.6.3 ~ 4)	273	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅹ II
17	ふじみ野 2-9-1,2,3	(2006.10.26)	919	共同住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 3
18	ふじみ野 2-11-8,11-5	(2007.1.16 ~ 19)	478	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 3
19	ふじみ野 2-11-3,11-4	(2008.7.2,3)	824	個人住宅建設	遺構・遺物無し	市内遺跡群 6



第 84 図 東久保西遺跡第 19 地点調査区域図 (1/300)



## 第9章 東中学校西遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東中学校西遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間、標高は20.0～21.0 mの低位台地に位置する。現在は平坦であるが、区画整理事業以前は遺跡の北側に、西から北東側にかけて埋没河川（現在用水路）が流れ、東側には僅かな窪地もみられた。

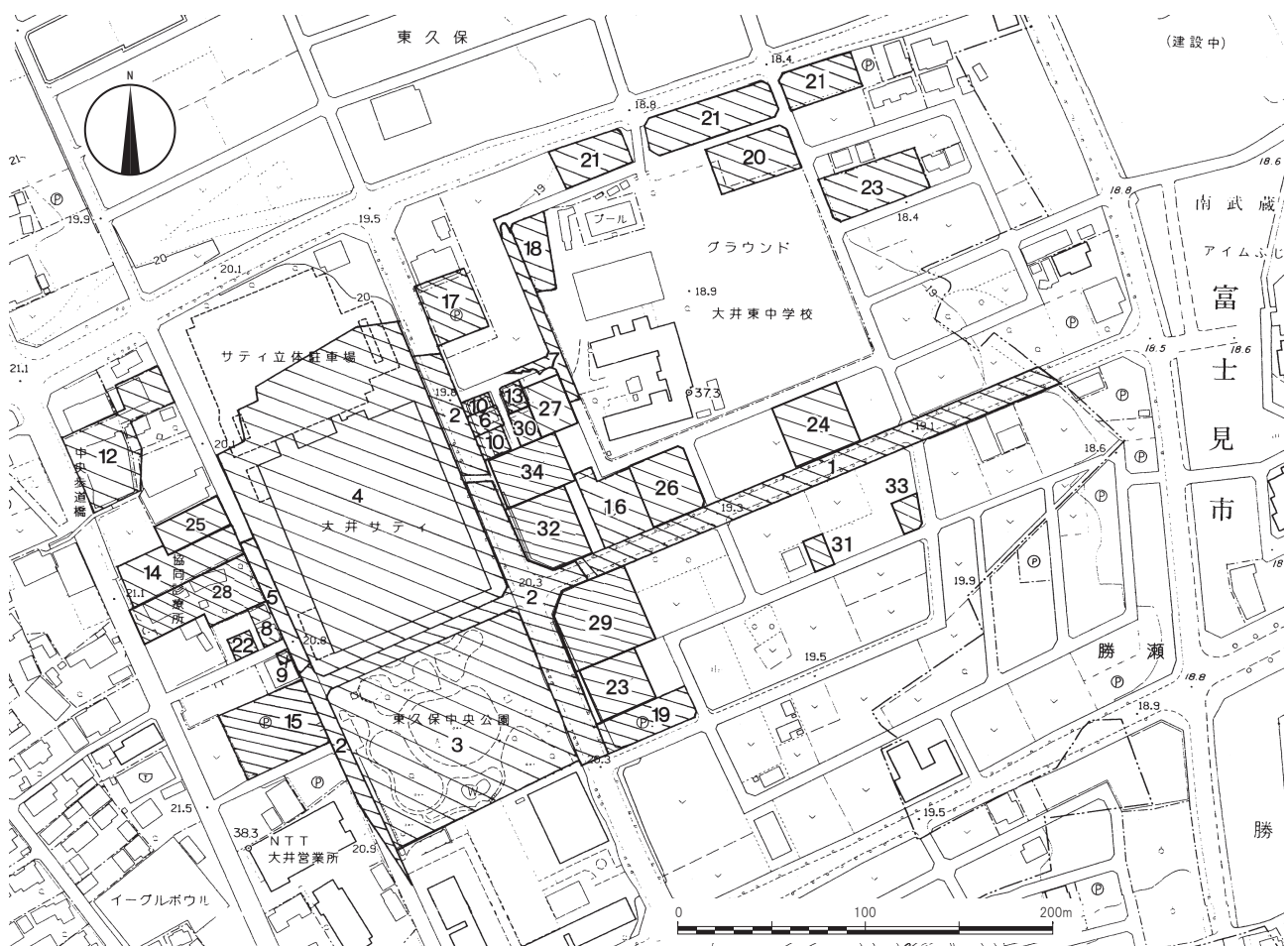
遺跡は埋没河川と窪地の縁に位置するが、遺構は埋没河川からやや離れた遺跡の中央部から西部にかけて分布する。周辺の遺跡は、前述した埋没河川を隔てた北側約50 mに東久保西遺跡、南東に東久保南遺跡が隣接する。

遺跡の時期は縄文時代では早期の炉穴群、縄文時代中期前葉の屋外埋甕、落とし穴や集石土坑などを検出している。中・近世では墓壇・溝・柵列などが確認されている。本遺跡の調査は1995年以来2008年1月現在、30ヶ所で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

### II 東中学校西遺跡第32地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅及び店舗建設に伴うもので、原因者より2008年4月25日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試掘調査は2008年6月13日から25日まで行なった。幅約2 mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。トレンチ1で覆土らしき暗褐色土を検出したが、確認したところ自然の窪みであった。遺構・遺物を検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで110～130 cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第85図 東中学校西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



Ⅲ 東中学校西遺跡第 33 地点

(1) 調査の概要

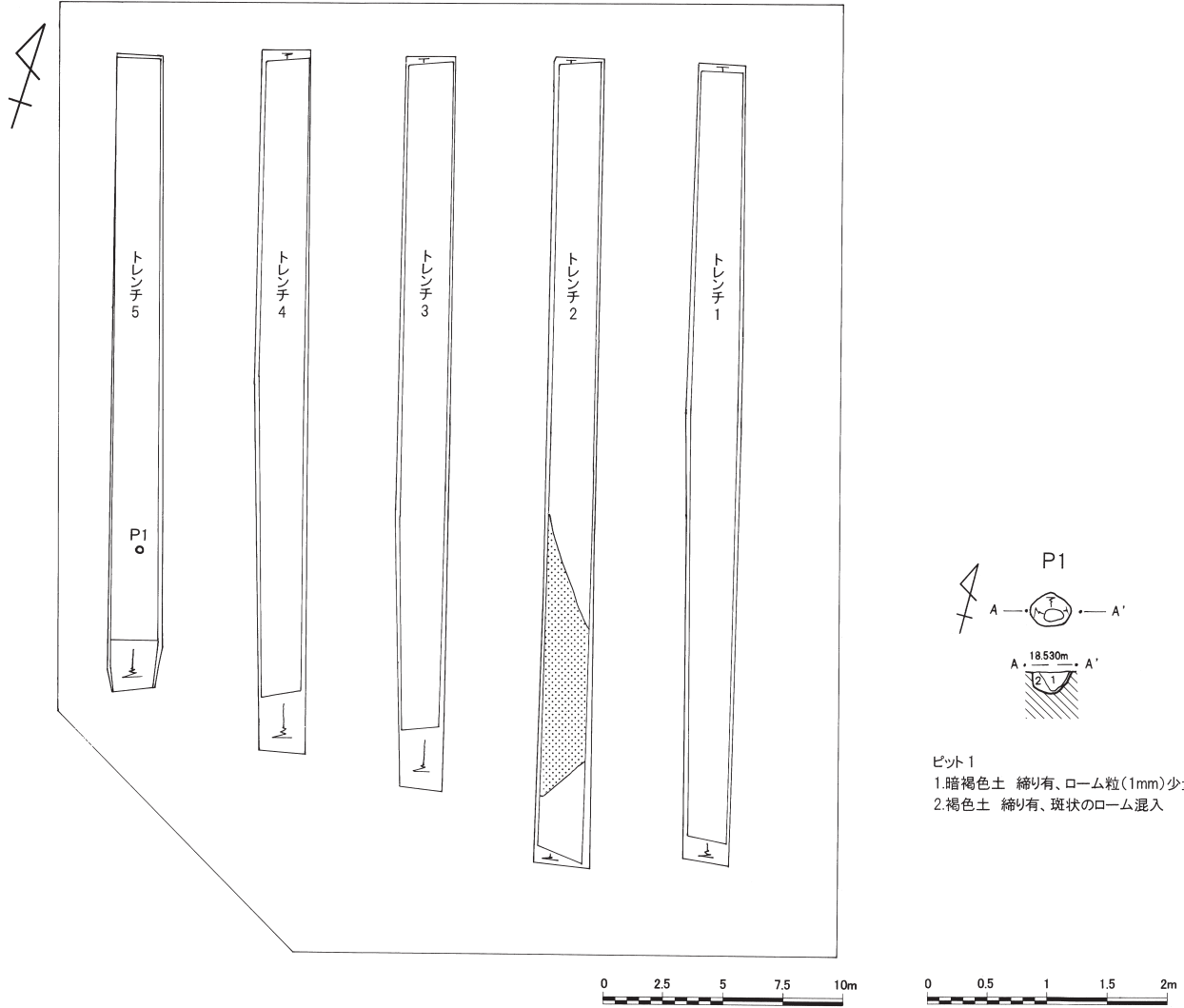
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 10 月 1 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南西に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。試

掘調査は 2008 年 10 月 3 日に行なった。幅約 2 m と 1.5m のトレンチを 1 本ずつ設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったが、遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで 110 cm を測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

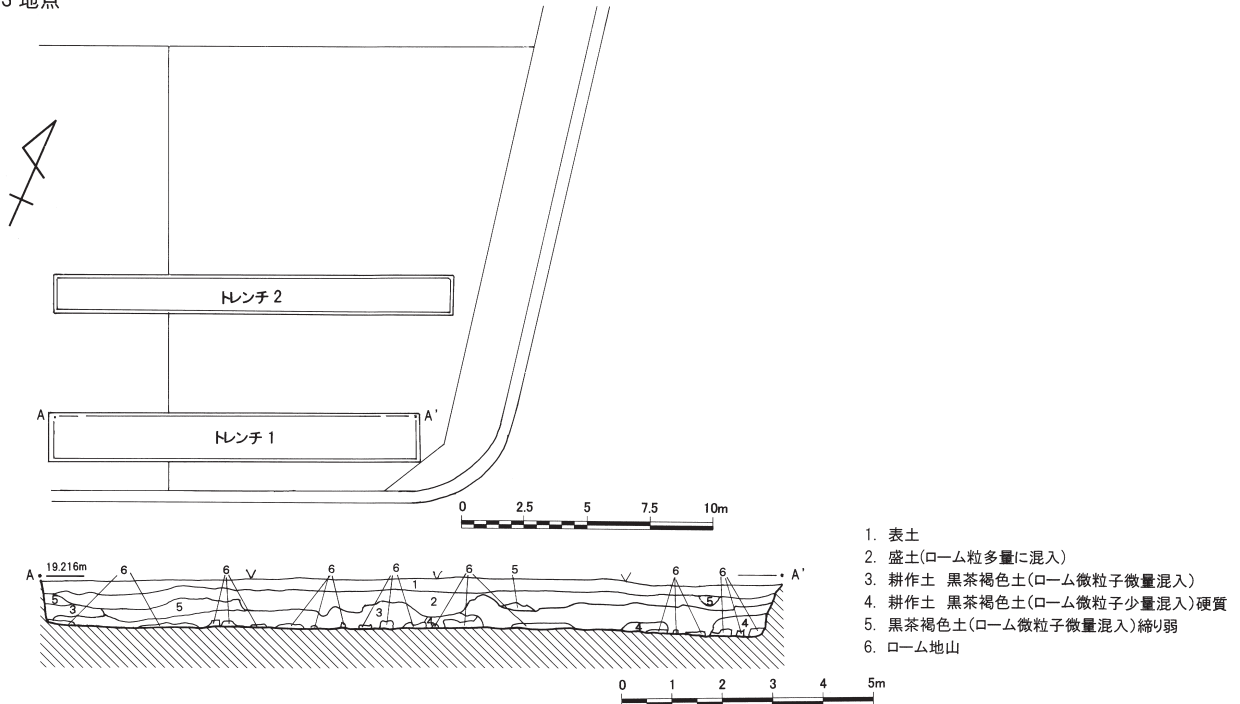
第 40 表 東中学校西遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保 551.526.531 他	1994.10.6 ~ 11.9	3,168	区画整理道路	縄文:土坑 1、ピット 8	遺跡調査会報告第 14 集
2	亀久保 466-1 他	<A 区>1996.10.7 ~ 11.15	3,308	区画整理道路	縄文:炉穴 26、集石土坑 1、落とし穴 4、土坑 2、ピット 26、中近世:溝 5	遺跡調査会報告第 14 集
		<B 区>1996.12.12 ~ 17	1,168			
		<C 区>1997.3.5 ~ 19	880			
		<D 区>1997.6.12 ~ 19				
		<E 区>1997.7.8 ~ 8.8				
		<F 区>1996.1.18 ~ 31				
		<G 区>1996.1.25				
3	東久保 465.500 他	(1996.8.29 ~ 9.13) 1996.10.7 ~ 21	10,200	区画整理公園	縄文:落とし穴 1、溝 1、土坑 6、ピット 4、石鏃 1	町内遺跡群Ⅶ・ 遺跡調査会報告第 14 集
4	東久保 326 他	(1997.2.6 ~ 10.29) 1997.6.12 ~ 8.8	24,681	店 舗	縄文:落とし穴 3、集石土坑 2、屋外埋喪 1、近世: 土壇 1、溝 9、柵列 1、ピット多数	町内遺跡群Ⅶ・Ⅷ・ 遺跡調査会報告第 14 集
5	東久保 487-1.474-4 他	1997.6.12 ~ 7.24	688	区画整理道路	縄文:炉穴 6、落とし穴 1、溝 2、ピット 2	遺跡調査会報告第 14 集
6	亀久保 325-1.7.8.9	(1997.6.26 ~ 27)	136	事務所	遺構・遺構無し	町内遺跡群Ⅶ
7	東久保 402-1 他	1997.7.21 ~ 31	636	区画整理道路	柵列 1、ピット 5	遺跡調査会報告第 14 集
8	東久保 44 街区 13.14 画地	1997.8.5 ~ 9	252	個人住宅	縄文:落とし穴 1、溝 1、ピット 9、(落とし穴は第 5 地点で報告)	町内遺跡群Ⅶ
9	東久保 45 街区 2.3 画地	(1997.8.19 ~ 9.1)	325	個人住宅	溝 2、ピット 9	町内遺跡群Ⅶ
10	東久保 42 街区 1 画地	(1997.12.10 ~ 20)	135	店 舗	遺構・遺構無し	町内遺跡群Ⅶ
12	東久保 44 街区 3.23.24 画地	(1998.1.6 ~ 24)	1,879	店 舗	遺構・遺構無し	町内遺跡群Ⅶ
13	東久保 2 街区 12 画地	(1998.6.9 ~ 11)	218	専用住宅	ピット 1	町内遺跡群Ⅷ
14	東久保 44 街区 11.20.26 画地	(1998.6.23 ~ 26)	1,231	共同住宅	ピット 2、風倒木痕	町内遺跡群Ⅷ
15	東久保 45 街区 1.4.6 画地	(1998.8.17 ~ 24)	2,649	店舗専用駐車場	中世以降:ピット 2	町内遺跡群Ⅷ
16	東久保 42 街区 6 画地	(1998.8.17 ~ 31)	1,347	店舗専用駐車場	ピット 2	町内遺跡群Ⅷ
17	東久保 38 街区 7.8 画地	(1998.8.19 ~ 24)	1,131	店舗専用駐車場	縄文:石鏃 1	町内遺跡群Ⅷ
18	亀久保 319-1	(1999.2.8 ~ 24)	850	テニスコート	ピット 5、柵列 1	町内遺跡群Ⅷ
19	東久保 52 街区 8 画地	(1999.3.17)	944	アパルト駐車場	遺構無し、陶器 2	町内遺跡群Ⅷ
20	東久保 39 街区 1 画地	(1999.6.16 ~ 7.19)	900	区画整理調整池	溝 1、ピット 26	町内遺跡群Ⅸ
21	東久保 37 街区 1 ~ 3 画地	(1999.11.18 ~ 12.9)	1,311	店 舗	縄文:土坑 1、溝 3、ピット 23	町内遺跡群Ⅸ
22	東久保 44 街区 15 画地	(2000.3.7 ~ 9)	150	個人住宅	中世以降:溝 1、ピット 5	町内遺跡群Ⅸ
23	東久保 33 街区 6 画地	(2003.8.5 ~ 13)	1,233	共同住宅	焼土跡 1、ピット 1	町内遺跡群ⅩⅡ
23	ふじみ野 4-1-6 の一部	(2005.5.24 ~ 30)	926	店 舗	土坑 1	市内遺跡群 2
24	ふじみ野 3-9-5	(2005.6.20 ~ 7.7) 2005.7.11 ~ 13	1,425	店 舗	縄文:炉穴 5	市内遺跡群 2
25	ふじみ野 1-1-9.10	(2005.6.28 ~ 7.2)	604	分譲住宅	遺構・遺構無し	市内遺跡群 2
26	ふじみ野 3-10-8 ~ 11	(2006.1.5 ~ 10)	1,060	店 舗	遺構・遺構無し	市内遺跡群 2
27	ふじみ野 3-10-3 の一部-4	(2006.1.11)	120	個人住宅	遺構・遺構無し	市内遺跡群 2
28	ふじみ野 1 丁目 1-13,14,15,32,23	(2006.4.24 ~ 5.10)	1,568	共同住宅	遺構・遺構無し	市内遺跡群 3
29	ふじみ野 4-4-1	(2006.5.15 ~ 19, 7.28 ~ 8.1)	2,004	店舗	縄文:土坑検出	市内遺跡群 3
30	ふじみ野 3-10-13	(2006.7.3)	634	保育所	遺構・遺構無し	市内遺跡群 3
31	ふじみ野 4-3-14	(2008.2.14)	165	個人住宅	遺構・遺構無し	市内遺跡群 4
32	ふじみ野 3-10-12	(2008.6.13 ~ 25)	1,231	分譲及び店舗	遺構・遺構無し	市内遺跡群 6
33	ふじみ野 4-3-8 の一部	(2008.10.3)	215	個人住宅	遺構・遺構無し	市内遺跡群 6
34	ふじみ野 3-10-6	(2011.2.2 ~ 4)	1,032	宅地造成	遺構・遺構無し	未報告

32 地点



33 地点



第 86 図 東中学校西遺跡第 32・33 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ピット (1/60)

## 第10章 亀久保堀跡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

亀久保堀跡遺跡は、福岡江川とさかい川の間で低位台地に位置している。遺跡の標高は18.0～21.0 mで、堀跡は自然の地形を考慮せずに直線的にのびる。

周辺の遺跡は、北側に東久保遺跡、南側に東久保西遺跡が隣接する。

これまでの調査から、堀跡は福岡江川付近から南下し江川南遺跡の中央部を南北にのびた後、地蔵院の東約80 m付近で南東に向きを変える。向きを変えた堀跡は、東久保遺跡と東久保西遺跡の間を約600 m以上直線で延び富士見市域へと続く。富士見市域では調査が行われていないため遺跡の有無は不明である。

堀跡の規模は上幅約3 m、底幅約1.5 m、深さは地表面から約1 m、長さは800 m以上で断面形は逆台形を呈する。覆土層上層に焼土を多く含む層が所々で確認されているが出土遺物は無く、時代などは不明であるが、本遺跡の第30地点と江川南遺跡第17・19地点の調査で検出した堀跡の覆土層に含まれるテフラ分析を行なった結果、堀跡の時期が平安時代の11世紀以前に遡るとする検査結果が出ている。

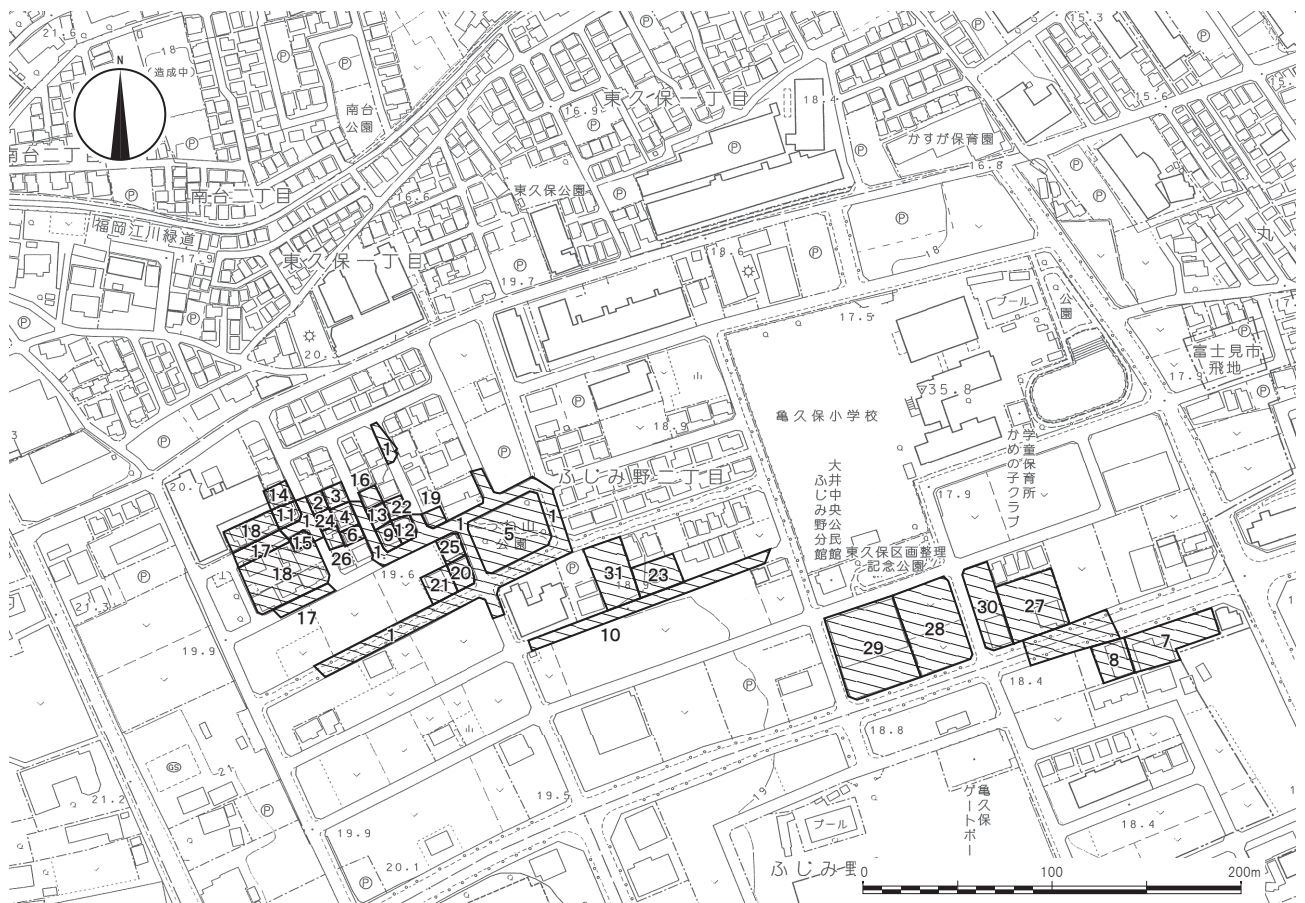
### II 亀久保堀跡遺跡第31地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅及び個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2009年2月4日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央に位置し、隣接地の調査で堀跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2009年2月6日から同月10日まで幅約2 mのトレンチを3本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、堀跡を確認した。遺構確認面まで70 cmあった。分譲住宅部分は当面の開発がないため、遺構の確認に留め、個人住宅部分は本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2009年2月12日から13日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を人力で表土除去後調査を行なった。調査の結果、古代から中世と思われる堀跡を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。



第87図 亀久保堀跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)





第88図 亀久保堀跡遺構分布図 (1/2,500)

(2) 遺構

【堀跡】東西 800m にわたって検出されている堀跡の一部を 21m にわたって検出した。断面形は逆台形のいわゆる「箱薬研」底直上は掘り返したままの状態、ロームブロック主体。覆土は全体に黒褐色から暗褐色土で締め強く粘性がある。水性堆積の様相は認められない。

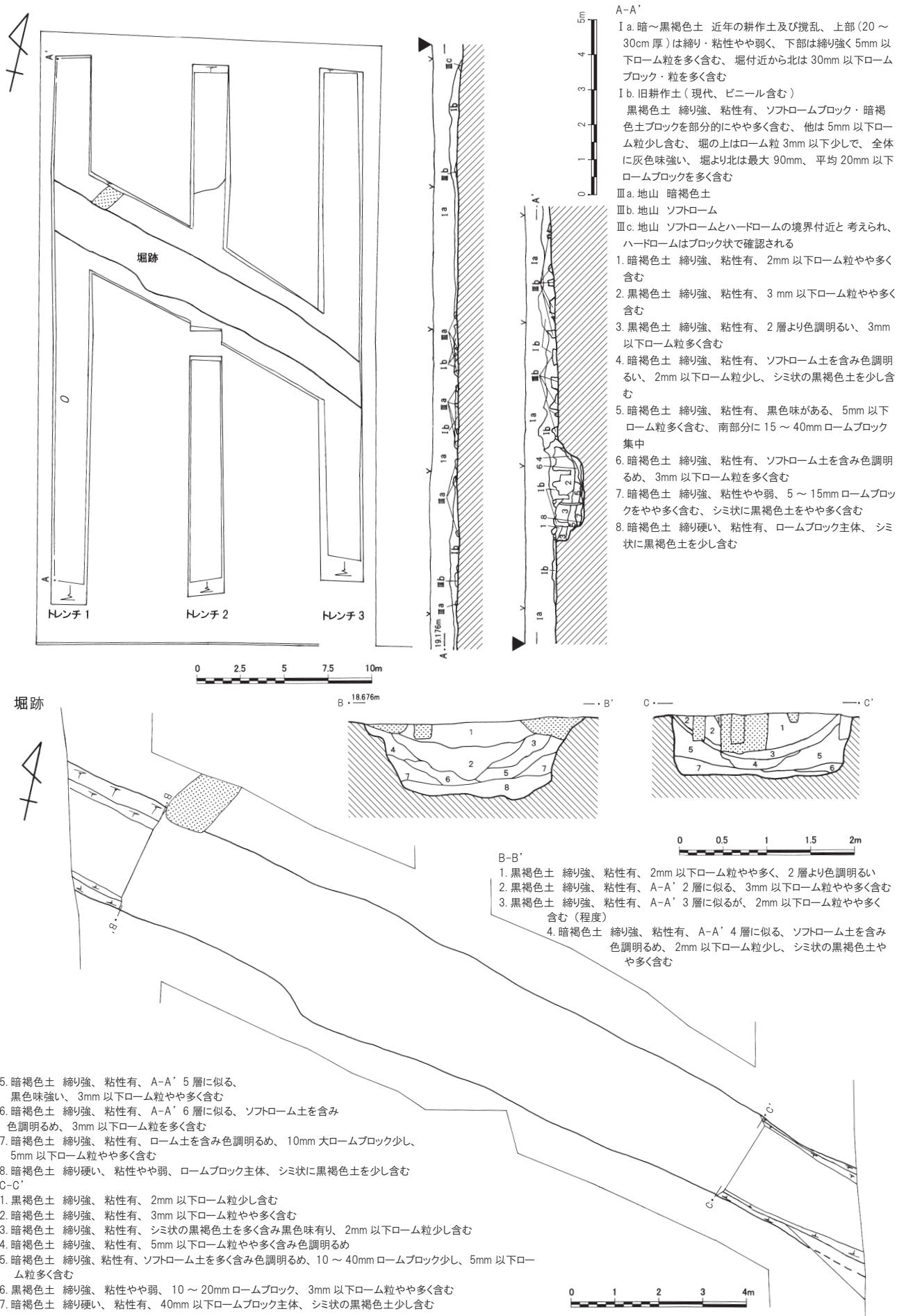
第 42 表 亀久保堀跡遺跡第 31 地点遺構一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
堀跡	東西直線 21m へ、断面逆台形「箱薬研」	190 ~ 300	150 ~ 168	95 ~ 109	東西 800m 近く続く堀跡の一部。底はローム塊主体

第 41 表 亀久保堀跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保 260-1,2 他	<A ~ C 区>1997.4.2 ~ 6.19 <D 区>1997.9.8 ~ 12 <E 区>2000.5.16 ~ 19	2,610 120	区画整理道路	縄文：屋外炉 1、土坑 3、ピット 73、 中世：堀跡、溝 6、縄文土器片他、 (旧東久保遺跡第 7 地点)	遺跡調査会報告第 14 集
2	東久保 6 街区 4.5 画地	(1997.9.11 ~ 25)	127	個人住宅	近世以降：溝 2	町内遺跡群VII
3	東久保 6 街区 7.8 画地	(1997.9.11 ~ 25)	130	個人住宅	近世以降：溝 1	町内遺跡群VII
4	東久保 6 街区 9.10 画地	1997.9.11 ~ 25	113	個人住宅	中世：堀跡	町内遺跡群VII
5	亀久保 264-1,264-2,264-3,266 (2号緑地)	1997.9.22 ~ 10.27	1,200	区画整理公園	縄文：落とし穴 1、土坑 4、中世：堀跡、溝 2、柵列 1	遺跡調査会報告第 14 集
6	東久保 6 街区 11,12 画地	(1997.9.11 ~ 25)	102	個人住宅	中世：堀跡、近世以降：溝 1、	町内遺跡群VII
7	東久保 32 街区 5.6 画地	(1997.10.29 ~ 11.4) 1998.2.2 ~ 19	739	店 舗	縄文：落とし穴 1、中世：堀跡、溝 2、柵列 1	町内遺跡群VII・VIII
	東久保 32 街区 7 画地	(1998.11.12 ~ 16)	165	砂利敷駐車場	中世：堀跡	町内遺跡群VIII
8	東久保 32 街区 2 画地の一部	(1998.2.6 ~ 19)	318	共同住宅	近世以降：溝 2、柵列	町内遺跡群VII
9	東久保 5 街区 9,10 画地	1998.2.24 ~ 3.10	131	個人住宅	中世：堀跡、縄文中期：土器片 2	町内遺跡群VII
10	東久保 382,385 他	<A 区>1998.3.9 ~ 16	436	区画整理道路	縄文：落とし穴 1、ピット 3、石鏃 1、 近世：陶磁器片	遺跡調査会報告第 14 集
		<B 区>1998.4.23	324			
		<C 区>1998.5.20 ~ 21				
11	東久保 2 街区 12 画地	(1998.4.8 ~ 22)	151	個人住宅	中世：堀跡	町内遺跡群VII
12	東久保 258-46	(1998.5.8 ~ 21)	123	個人住宅	中世：堀跡	町内遺跡群VII
13	東久保 5 街区 11,12 画地	(1998.5.8 ~ 21)	107	個人住宅	中世：堀跡	町内遺跡群VII
14	東久保 2 街区 11 画地	(1998.5.1 ~ 7)	132	個人住宅	近世以降：溝 1	町内遺跡群VII
15	東久保 7-2 街区 4.5 画地	(1998.5.8 ~ 21)	111	個人住宅	近世以降：溝 1	町内遺跡群VII
16	東久保 5 街区 18,19 画地	(1998.5.29 ~ 6.1)	117	個人住宅	溝 2	町内遺跡群VII
17	東久保 253,254 他	1998.10.21 ~ 12.2	360	区画整理道路	旧石器：剥片 2、中世以降：溝 2、近世以降：土壌 2	遺跡調査会報告第 14 集
18	東久保 7-2 街区 1,2,7 ~ 9 画地	(1998.11.3 ~ 30)	908	個人住宅 4 軒分	縄文：落とし穴 1、溝 6、土坑 2、ピット 3	町内遺跡群VII
19	東久保 4 街区 11,12 画地	(1998.11.3 ~ 10)	99	個人住宅	溝 3、土坑 1、ピット 2	町内遺跡群VII
20	東久保 8 街区 5 画地	(1998.11.21 ~ 24)	185	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群VII
21	東久保 262,263,266	(1999.4.19 ~ 22)	232	個人住宅	溝 1、ピット 7	町内遺跡群IX
22	東久保 5 街区 7,20 画地	(1999.6.10 ~ 12)	99	個人住宅	近世以降：ピット 5	町内遺跡群IX
23	東久保 14 街区 10 画地	(1999.10.4 ~ 8)	386	駐車場	中世：堀跡	町内遺跡群IX
24	東久保 6 街区 14 画地	1999.12.14 ~ 16	105	個人住宅	中世：堀跡	町内遺跡群IX
25	東久保 8 街区 9 画地	2000.4.10 ~ 12	187	個人住宅	中世：堀跡、土坑 1	町内遺跡群X
26	東久保 6 街区 13 画地	(2000.5.11 ~ 17)	105	個人住宅	溝、柵列	町内遺跡群X
27	東久保 31 街区 2,3 画地	(2000.5.29 ~ 6.1)	1,011	駐 車 場	中世：堀跡	町内遺跡群X
	東久保 31 街区 2,3 画地	(2002.6.10 ~ 11)	980	店 舗	試掘調査、土坑 2	町内遺跡群XII
28	東久保 29 街区 3-6,9 画地	(2000.9.28 ~ 29)	1,365	整地工事	中世：堀跡 (西側半分は第 29 地点で再調査)	町内遺跡群X
29	東久保 29 街区 1,2,7,8 画地	(2001.4.17) 2001.4.18 ~ 20	1,769	店 舗	中世：堀跡 (第 28 地点でプラン確認した部分の再調査)	町内遺跡群XI
30	ふじみ野 2 丁目 25 番 1 号	(2005.1.11 ~ 12) 2005.1.31 ~ 2.7	695	店 舗	中世：堀跡、土坑 1(風倒木痕)	遺跡調査会報告第 14 集
31	ふじみ野 2-15-4	(2009.2.6 ~ 10) 2009.2.12 ~ 13	661	個人住宅建設	古代～中世：堀跡 1	市内遺跡群 6





第 89 図 亀久保堀跡遺跡第 31 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150・1/60)、堀跡 (1/120)

## 第11章 駒林遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12～15m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北300m、東西800mの広大な範囲であったが、2002年から2004年にかけて行なった駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大半の地域で遺構を確認できなかったため、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。

しかし、今回第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140

～160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、北側にある葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓、東側にある地下式坑を検出した駒林新田前遺跡を統合して駒林とし、2008年2月に遺跡範囲の変更増補を行なった。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。

2002年以降の試掘調査の結果、幅4.2m、深さ1.7mの大溝や茶毘跡を検出する。周辺の遺跡の様相から遺跡の時期は中世から近世と思われる。



第90図 駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)



第43表 駒林遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積(㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	駒林字南原 353,354	1986.8.13 ~ 25	1,536	範囲確認調査	平安土器散布他	埋蔵文化財の調査(IX)
1992年度試掘(1)	大字駒林字南原 341	(1992.9.16 ~ 18)	987	共同住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査(15)
1995年度試掘(1)	駒林字新田前 271-2	(1995.11.8 ~ 24)	231	個人住宅	溝 1	埋蔵文化財の調査(18)
1996年度試掘(1)	駒林本町 153-3,4	(1996.6.10 ~ 13)	231	個人住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査(19)
1997年度試掘(1)	駒林字新田前 266-2	(1997.5.8 ~ 12)	132	個人住宅	溝 1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(20)
1997年度試掘(2)	駒林字新田前 223	(1997.5.9 ~ 15)	991	宅地造成	溝 1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(20)
1997年度試掘(3)	駒林字新田前 291-1,2	(1997.10.6 ~ 17)	991	診療所	溝 1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(20)
1998年度試掘(1)	駒林字新田前 312	(1998.8.10)	234	個人住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査(21)
1999年度試掘(1)	駒林字南原 424-2の一部,20の一部,23	(1999.4.9)	330	個人住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査(22)
1999年度試掘(2)	駒林字南原 394-2	(1999.5.25)	125	個人住宅	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査(22)
1999年度試掘(3)	駒林字南原 420-1	(1999.7.1)	1,322	礼拝堂(道場)	溝 1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(22)
2000年度試掘(1)	駒林字南原 344-2	(2000.1.18 ~ 20)	785	共同住宅	溝 1(時期不明)	埋蔵文化財の調査(22)
2002年度試掘(1)	駒林字新田前 238,240 ~ 242-1の一部	(2002.6.3 ~ 21)	650	区画整理	溝 8、土坑 7、地下式坑 1	埋蔵文化財の調査(25)
2002年度試掘(2)	駒林字新田前 243 ~ 245	(2002.8.9 ~ 30)	275	区画整理	溝 1、遺物無し	埋蔵文化財の調査(25)
2002年度試掘(3)	駒林字新田前 262-1,263,264の一部	(2002.8.30 ~ 9.19)	1,120	区画整理	土坑 1、遺物無し	埋蔵文化財の調査(25)
2002年度試掘(4)	駒林字新田前 280 ~ 282-2,290,292-1 ~ 298の一部	(2002.11.11 ~ 27)	1,150	区画整理	溝 4、遺物無し	埋蔵文化財の調査(25)
2003年度試掘(1)	駒林字新田前 263,273,275(字新田前)試掘調査	(2003.5.16 ~ 21)	558	区画整理	溝 1	埋蔵文化財の調査(26)
2003年度試掘(2)	駒林字南原 364 外 41 筆の一部(字南原)試掘調査	(2003.4.25 ~ 12.22)	7,278	区画整理	遺構・遺物無し	埋蔵文化財の調査(26)
2003年度試掘(3)	駒林字南原 409,410の一部(字南原)試掘調査(区 6-10 号線予定地東端)	(2004.1.21)	292		遺構・遺物無し	15年度教育要覧
2004年度試掘(1)	駒林字新田前 281	(2006.1.7 ~ 24)	1,487	範囲確認調査	溝 1	埋蔵文化財の調査(27)
1	駒林土地区画整理事業地内 20 街区 4,8,9	2006.7.13 ~ 28	646	共同住宅	堀跡、茶毘跡検出	市内遺跡群 3
2	駒林土地区画整理事業地内 17 街区 7,8の一部	2006.11.21 ~ 29	421	専用住宅	堀跡検出	市内遺跡群 3
3	駒林土地区画整理事業地内 21 街区 3,4の一部	2006.11.30 ~ 12.18	1,916	店舗	近世遺構建設	市内遺跡群 3
4	駒林 B 地区 7 街区 3,4	2007.6.11 ~ 13	1,866	共同住宅	縄文：土坑 1	市内遺跡群 4
5	大字駒林字新田前 256(仮換地指定 30 街区 2)	(2008.4.9 ~ 16) 2008.5.30 ~ 6.28	509	分譲住宅	縄文：集石 3、中近世：地下式坑 1、竪穴状遺構 25、溝 4、柵列、ピット	市内遺跡群 5、6
6	大字駒林字新田前 248-2(仮換地 1 街区 27 符号 1)	(2008.8.27)	257	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 6
7	駒林土地区画整理事業地内 28 街区 5 画地	(2009.2.3) 2009.2.4,5	152	個人住宅	時期不詳の堀・溝跡 2	市内遺跡群 6
8	大字駒林字新田前 245-5	(2009.6.8)	132	個人住宅	遺構・遺物無し	未報告
9	大字駒林字新田前 284	(2009.7.22 ~ 30) 2009.7.30 ~ 8.5	892	共同住宅	縄文：集石土坑 1、土坑 2、ピット 9、溝 1	未報告
10	大字駒林字新田前 288-1の一部	(2010.2.17,18)	400	個人住宅	遺構・遺物無し	未報告
11	駒林区画整理事業 27 街区 2,10 画地, 11 画地の一部	(2010.4.12 ~ 21)	689	個人住宅	遺構・遺物無し	未報告
12	駒林字新田前 258-2(28 街区 12 画地)	(2010.7.14)	115	個人住宅	中世～近世：溝確認	未報告
13	新駒林 3-722-1,3,4	(2010.7.27 ~ 29)	927	共同住宅	近世の土坑 2、ピット 11	未報告
14	駒林字新田前 285 ~ 287、288-2,3(22 街区内)	(2010.9.1 ~ 8)	2,000	公園工事	遺構・遺物無し	未報告
15	大字駒林字新田前 266-3(24 街区 12 符号)	(2011.2.16,17) 2011.2.17	115	個人住宅	時期不詳の土坑 1	未報告

Ⅱ 駒林遺跡第5地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2007年5月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南西端に立地し、隣接地では地下式坑や溝を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年4月9日から同年4月16日まで行った。幅約2mのトレンチを5本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、集石や暗褐色土の遺構プラン多数を確認した。遺構の性格を確認するため一部調査したところ、溝跡や地下式坑群であった。遺構確認面まで30cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はし

ていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は原因者と発掘調査に係わる委託契約を締結した上で2008年5月30日から同年6月28日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、縄文時代の集石、中世以降の地下式坑、溝跡を検出した。

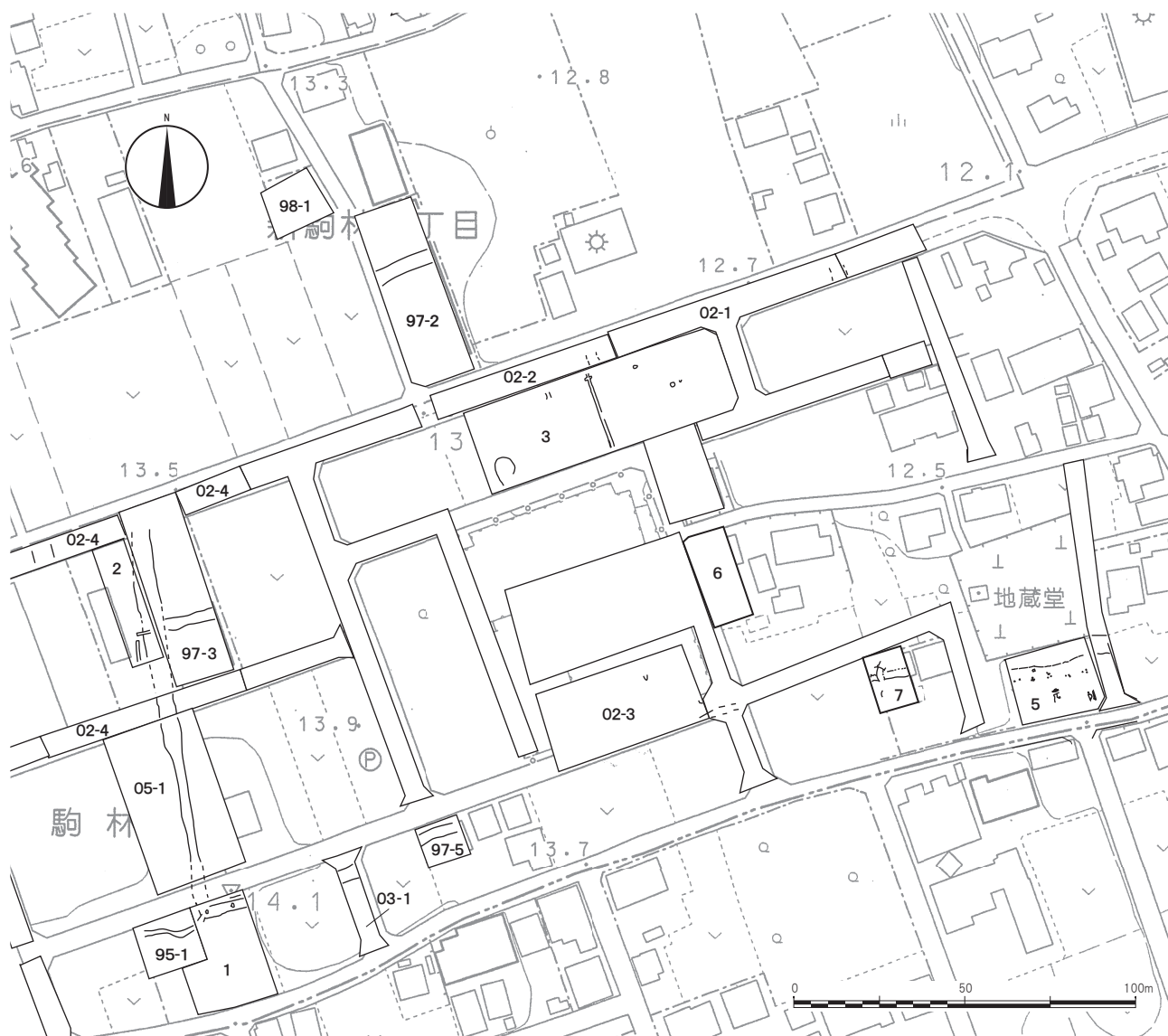
(第Ⅱ部第1章「駒林遺跡第5地点の本調査」参照)

Ⅲ 駒林遺跡第6地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年7月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西側に立地するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年8月27日に行なった。幅約2



第91図 駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)

mのトレンチを2本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで40cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

【遺物】遺構外から泥メンチが1点出土した。

#### IV 駒林遺跡第7地点

##### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2009年1月23日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南端に立地し、大溝の検出が予測されるため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2009年2月3日に行なった。2×2mのグリッドを5カ所設定し、人力で表土除去し表面精査を行なった結果、溝跡らしき黒褐色土プランを検出した。確認面まで70cmを測り、保護層が確保されるため工事立会いとしたが、浄化槽設置箇所のEグリッドと駐車場の北西部分のみ本調査することとした。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

本調査は2009年2月4日から5日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を重機で表土除去後、調査を行なった。調査の結果、時期不明の溝跡2条を検出した。写真撮影・平板測量による全測図作成・遺構図面作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

##### (2) 遺構と遺物

【溝1】調査区中央に東西方向の溝を11m検出した。本調査区東側の第5地点で検出した溝や、西側の2002年度試掘(3)で検出した溝に連なると思われ、遺跡全体では一辺140～160mの台形区画に巡る溝に連なると思われる。中央で南北方向の溝2と重複し、溝2より古い。溝2は溝1が完全に埋没した後に構築している。

断面形態は「V」字形の薬研堀で、溝は黒褐色土で埋まるが、最上層の土が硬化している。

【溝2】調査区中央に南北から東西へ湾曲する溝を6m検出した。中央で東西方向の溝1と重複し、溝1より新しく、北側で重複する性格不明遺構より古い。溝2は溝1が完全に埋没した後に構築している。

断面形態は「V」字形の薬研で、溝は黒褐色土で埋まる。南側の溝3に連なる可能性がある。

【溝3】調査区南側のグリッド内で検出した。

断面形態は「V」字形の西側が緩やかな片薬研で、溝は黒褐色土で埋まる。

【性格不明遺構】調査区北側に段差20cmほどの掘り込みを検出した。溝2と重複し溝2より新しい。

【遺物】全て遺構外出土。

第44表 駒林遺跡第7地点遺構一覧表 (単位cm)

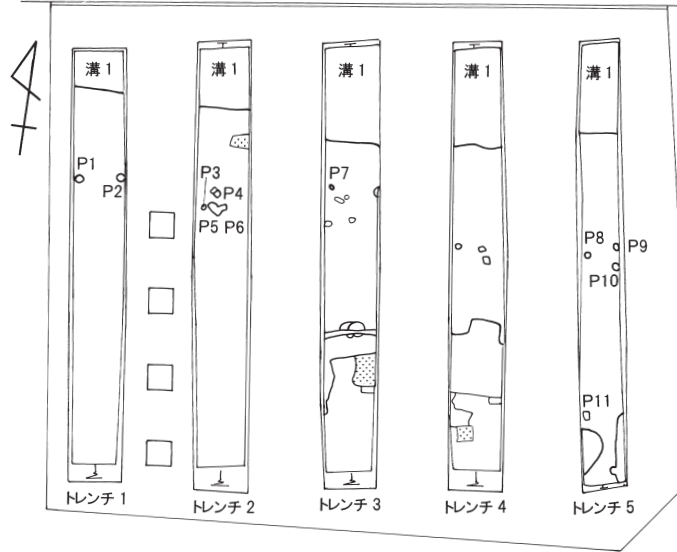
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1	東西直線11m～、断面V字形「薬研」	225～235	62～	130	上層に硬化面。溝2より古
溝2	湾曲。断面V字形「薬研」	180～200	20～	114	溝1より新。性格不明遺構より古
溝3	湾曲。断面V字形「薬研」	(160)～	25～	66	溝2と連なる可能性有
性格不明遺構		320～	～	20	溝2より新

第45表 駒林遺跡第6・7地点出土遺物観察表 (単位cm)

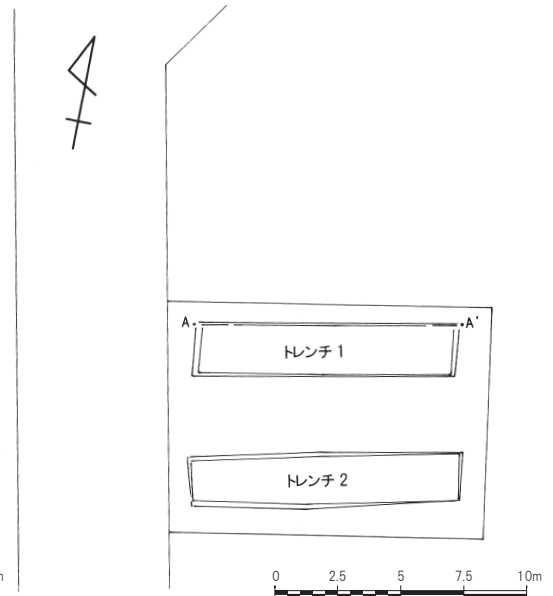
図版番号	掲載番号	遺構名	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	石材/推定生産地	推定年代・時期	残存/備考
92図	1	第6地点・遺構外	土製品・泥面子	2.5	2.1	0.9	型押し成形/達磨。裏面に指頭圧痕/砂粒少量含む/橙色/注No.1トレー一括		1790年代～1890年代	完形
93図	2	第7地点・遺構外	陶器・ミニチュア	—	1.7	0.5	型押し成形/裏面に布目圧痕/透明釉、緑釉/灰白色/砂粒少量含む/注No.H2	京都	17C末～	一部欠
	3	第7地点・遺構外	土製品・泥面子	—	2.9	0.9	型押し成形/「福」字。裏面に指頭圧痕/橙色/雲母、砂粒少量含む/注No.H2		1790年代～1890年代	一部欠
	4	第7地点・遺構外	土製品・基石?	2.6	2.5	0.9	砂粒少量含む/浅黄褐色/注No.H2			完形



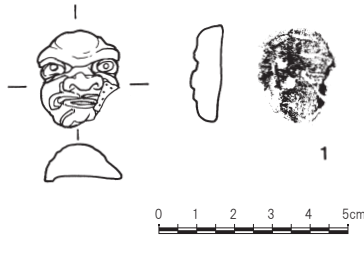
5 地点



6 地点

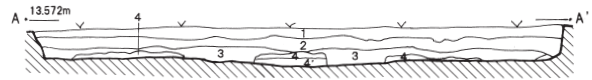


6 地点



6 地点

1. 盛土 ローム 硬く締る
2. 表土 耕作土 黒褐色土 締り有
3. 攪乱 黒褐色土とローム塊の混合
4. ソフトローム 地山 黄褐色土 やや色は暗い
- 4'. 色は明るくなる



7 地点

7 地点

溝1 A-A'

- I. 表土 耕作土 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む、灰色味がある
- IIa. 地山 暗褐色土 締り有、粘性有、地山の漸移層、但し所々5mm以下ローム粒少し含む
1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒わずかに含む、斑状に暗褐色土ブロックやや多く含む
2. 黒褐色土 硬化、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む、1mm以下ローム粒が目立つ
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5~10mmロームブロック少し、2mm以下ローム粒やや多く含む
4. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒わずかに含む、黒色味は強い
6. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム土を含み色調はやや明るい、3mm以下ローム粒少し含む
7. 黒褐色土 締り有、粘性有、ローム土を含み色調は明るい、15mm以下ロームブロックやや多く、5mm以下ローム粒多く含む
8. 黒褐色土 締り有、粘性有、斑状にソフトロームブロックをやや多く含む

B-B'

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、40mm以下ロームブロック多く含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm大ロームブロック多く含む

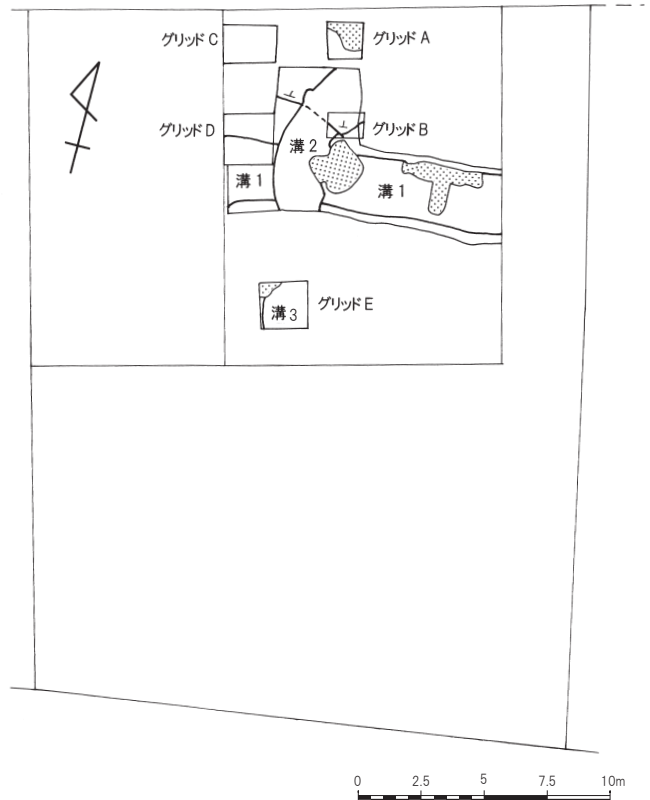
溝2 C-C'

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、上部に黒褐色土の薄層がのる、10mm大ロームブロック、5mm以下ローム粒やや多く含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、5~40mmロームブロック多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む、粘性の有るシルト質の土が混ざる
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
5. 暗褐色土 締り有、粘性有、5~10mmロームブロック、3mm以下ローム粒やや多く含む
6. 暗褐色土 締りやや弱、粘性有、5~10mmロームブロック少し含む
7. 暗褐色土 締り有、粘性有、5~40mmロームブロック多く含む

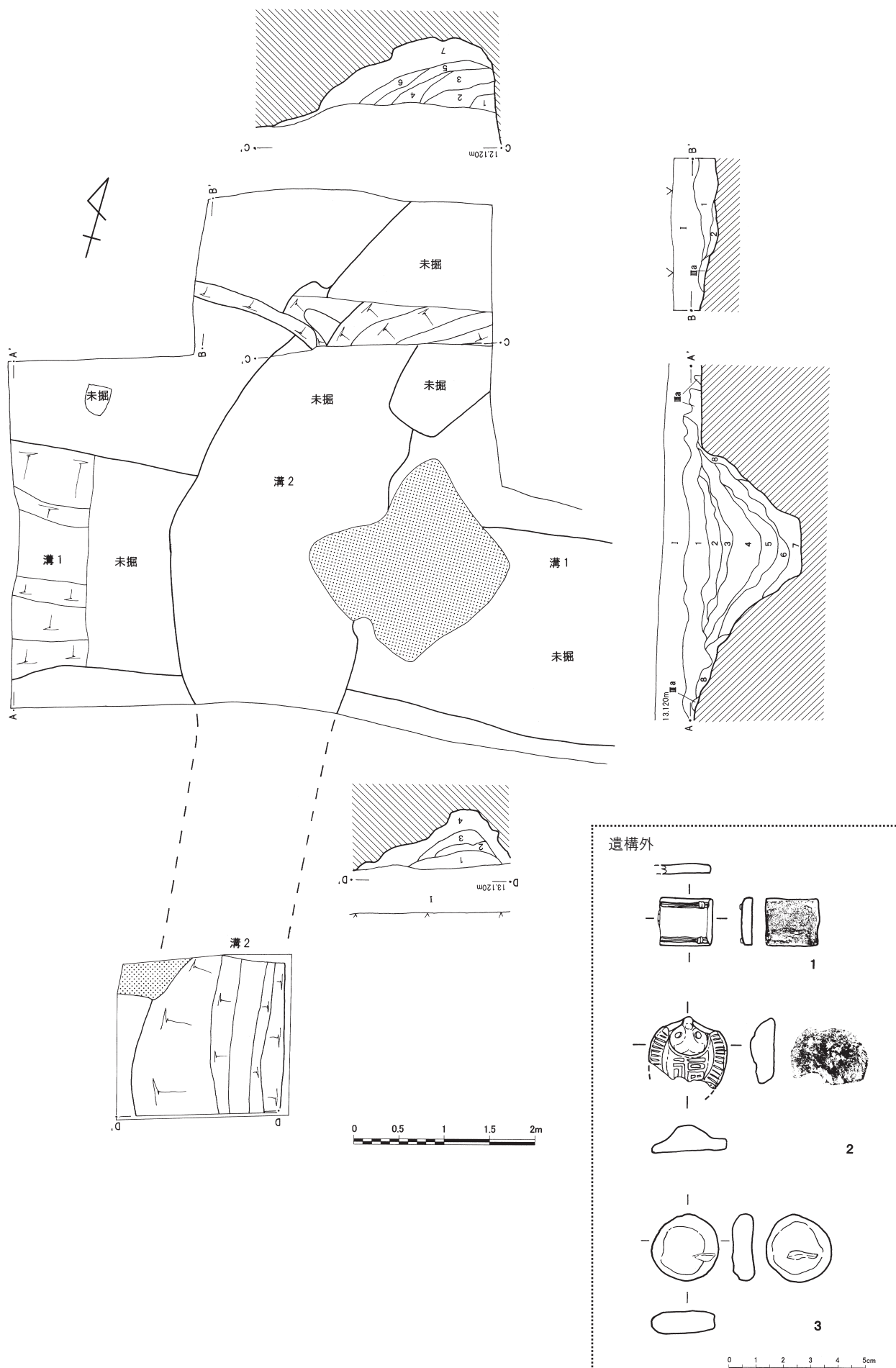
溝2 D-D'

IIIa. 黒褐色土混じり

1. 黄褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土ベース、ソフトロームブロック主体
2. 暗褐色土 締り有、粘性有、黒褐色土ベース、暗褐色土(ソフト質漸移層土)ブロック主体
3. 暗褐色土 締り有、粘性有、5~60mm以下ソフトロームブロック多く、15mm以下黒褐色土ブロック少し含む
4. 黒褐色土 締り有、粘性有、最大60mm、平均5~15mm、ロームブロックやや多く含む



第92図 駒林遺跡第5~7地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、出土遺物(1/2)



第 93 図 駒林遺跡第 7 地点溝 1～3 (1/60)、出土遺物 (1/2)

## 第12章 西ノ原遺跡の調査

## I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東

久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来2011年3月現在で149地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、180軒を越す住居跡が環状集落として形成され、町内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第94図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)



第 46 表 西ノ原遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1		1971			住居跡 1、土坑 3、集石土坑 1	大井町史資料編 I
2	西ノ原 83	1978.12.6 ~ 26	270	宅地造成	住居跡 1、溝 2、旧石器、縄文時代土器	1979 大井町教育委員会(西ノ原遺跡)
3		1979.3		宅地造成	土器片のみ出土	
4	西ノ原 125-1	1979.7.2 ~ 9	668	宅地造成	遺構無し、縄文中期土器	東部遺跡群 I
5	西ノ原 170-2	1979.8.1 ~ 14	450	宅地造成	住居跡 1、土坑 1、早期炉穴 2、縄文中期土器	大井町史料 7 集
6	西ノ原 170-2	1980.6.19 ~ 27	450	宅地造成	土坑 2、柱穴 2、堀之内 II 式土器他	東部遺跡群 II
7	西ノ原 96-1	1080.10.1 ~ 29	563	宅地造成	旧石器群 2、縄文土坑 1	東部遺跡群 II
8	西ノ原 95-2.3	1980.10.30 ~ 11.14	661	宅地造成	縄文集石土坑 2、土坑 1、溝 2、縄文中期土器	東部遺跡群 II
9	西ノ原 93-198-1	1981.6.1 ~ 23	600	宅地造成	柱穴 6、溝 2、石器、土器	東部遺跡群 III
10	西ノ原 180-2	1981.11.4 ~ 13	400	個人住宅	柱穴 11	東部遺跡群 III
11	西ノ原 143-4	1983.5.23 ~ 27	198	宅地造成	縄文土坑 1、縄文中期土器	東部遺跡群 V
12	西ノ原 123-3	1983.7.6 ~ 8.11	330		縄文中期住居 2、縄文土坑 39	東部遺跡群 V
13	西ノ原 114-6	1983.9.13 ~ 10.18	350		縄文中期住居 1、縄文土坑 56、集石 1、溝 1	東部遺跡群 V
14	西ノ原 143	1983.10.24 ~ 11.7	240		縄文中期住居 2、縄文土坑 3、集石 1、溝 1	東部遺跡群 V
15				共同住宅	縄文土坑 2、ピット 6	
16					遺構無し	
17	西ノ原 135-3	1985.5.13 ~ 22	165	宅地造成	縄文土坑 2、溝 1	東部遺跡群 VI
18	西ノ原 141-2	1985.7.26 ~ 8.5	569	宅地造成	縄文中期住居 1、縄文土坑 1、ピット群	東部遺跡群 VI
19	西ノ原 135-1	1986.7.8 ~ 21	230	住宅建設	縄文中期住居 1、縄文土坑 1、屋外埋裏 2	東部遺跡群 VII
20	西ノ原 135-1	1986.11 ~ 1987.4	3,553	区画道路	縄文早期炉穴 4、中期住居跡 12、竪穴状遺構、屋外埋裏 2、落とし穴 5、土坑 40	調査報告 6 集
21	西ノ原 95-1	1986.12.11 ~ 1987.1.9	447	住宅建設	竪穴状遺構 1	東部遺跡群 VII
22		1987	480	資材置場	縄文中期住居跡 2、縄文土坑 11、ピット 2	東部遺跡群 VIII
23		1987.7 ~ 8	1,024	区画道路	土坑 2	調査報告 6 集
24		1987			縄文中期住居 2 確認、未検出	
25		1988.3 ~ 2	781	区画道路	遺構無し	調査報告 6 集
26		1988.3 ~ 4	1,649	区画道路	旧石器群、縄文中期住居跡 3、土坑 9、ピット、屋外埋裏 1	調査報告 6 集
27		1988.10	942	区画道路	縄文中期住居跡 5、縄文土坑 2、炉穴 1、集石土坑 1	調査報告 6 集
28		1988.11		区画道路	遺構無し	調査報告 6 集
29		1988.12		区画道路	調査報告 6 集	
30		1989.2 ~ 3		区画道路	土坑 1	調査報告 6 集
31	西ノ原 115-1	1989.11.4 ~ 11	21	下水管理施設	遺構無し	東部遺跡群 IX
32	西ノ原 122	1989.11.10 ~ 19	21	区画道路	縄文中期住居跡 1、屋外埋裏 3	東部遺跡群 IX
33	西ノ原 153-2	1989.11.10 ~ 19	21	区画道路	縄文中期住居跡 1	東部遺跡群 IX
34	西ノ原 171	1989.1.24 ~ 31	21	区画道路	縄文中期住居跡 1	東部遺跡群 IX
35		1989.2 ~ 3		区画道路	縄文中期住居跡 1、土坑 1	調査報告 6 集
36		1989.3 ~ 4	4,000	区画道路	縄文中期住居跡 4、縄文土坑 5、落とし穴 2 井戸 1	調査報告 6 集
37		1989.5 ~ 8	200	区画道路		
38	西ノ原 142-2	1989.8.29 ~ 9.12	74	個人住宅	縄文中期住居跡 1、土坑 3	東部遺跡群 X
39	西ノ原 142-2	1989.8.29 ~ 9.12	94	個人住宅	土坑 2、溝 2	東部遺跡群 X
40		1989.9.18 ~ 10.16 1989.10.19 ~ 11.4	980	消防訓練場	縄文中期住居跡 4、土坑 4、集石土坑 1 ピット 28	東部遺跡群 X
41		1989.9 ~ 10	476	区画道路	縄文中期住居跡 4、土坑 1	調査報告 6 集
42		1991.12 ~ 1992.7		区画道路	屋外埋裏 2、土坑 19	調査報告 6 集
43	苗間 153-3	1990.6.26 ~ 7.9	272	個人住宅	縄文中期住居跡 4、土坑 3	東部遺跡群 XI
44		1990.6 ~ 8	3,224	区画道路	屋外埋裏、炉穴 3、落とし穴 2、土坑 16、集石土坑 1	調査報告 6 集
45		1991.2		区画道路		
46	苗間 83-2	1991.4.9 ~ 10	199	個人住宅	遺構無し、土器のみ	町内遺跡群 I
47	苗間 136-2	1991.7.15 ~ 26	141	個人住宅	遺構無し、石蔵、土器のみ	町内遺跡群 I
48		1991.9 ~ 10		区画道路	縄文中期住居跡、土坑 3	調査報告 6 集
49		1991.12 ~ 1992.1	2,610	区画道路	縄文中期住居跡 12、集石土坑 1、土坑 8	調査報告 6 集
50		1991.11 ~ 12		区画道路	縄文中期住居跡 15、屋外埋裏 1、土坑 3	調査報告 6 集
51	苗間 153-2	1991.2.4 ~ 12	1,190	モデルルーム	縄文中期住居跡 2、竪柱跡、土坑 2、ピット 5	町内遺跡群 I
52	苗間 122	1991.2.10 ~ 20	984	ガソリンスタンド	縄文中期住居跡 14、集石土坑 7、土坑 5、屋外炉 1、ピット 19	調査報告 5 集
53	西ノ原 133-2	1992.6	261	分譲住宅		
54		1992.5 ~ 7		区画道路	集石土坑 1、土坑 1	調査報告 6 集
55	西ノ原 135-5 他	1992.5.21 ~ 6.23	241	駐車場造成	縄文中期住居跡 2、炉穴 5、土坑 1	調査報告 5 集
56	西ノ原 133-2	1992.6.23 ~ 26	261	分譲住宅	集石土坑 1、土坑 3、ピット 6、溝 1	町内遺跡群 II
57	西ノ原 143-3-4	1992.7.6 ~ 9.1	174	個人住宅	縄文中期住居跡 2、土坑 1	町内遺跡群 II
58	西ノ原 137-2	1992.9.8	146	個人住宅	遺構無し、縄文土器若干	町内遺跡群 II
59	西ノ原 135-1	1992.10.6 ~ 11.12	494	個人住宅	縄文中期住居跡 3、炉穴 11、屋外埋裏 1、土坑 1、ピット 12	町内遺跡群 II
60	西ノ原 136-2	1992.12.10 ~ 25	253	個人住宅	縄文中期住居跡 2、炉穴 4、土坑 1、ピット 34、落とし穴 1	町内遺跡群 II
61	西ノ原	1993.2	2,240	区画整理	早期竪穴状遺構 1、落とし穴 3、土坑 2、炉穴 2	調査報告 6 集
62	西ノ原 162-3.169	1993.4.13 ~ 22	147	共同住宅	中(近世)ピット群、遺物無し	町内遺跡群 III
63	西ノ原 94-1	1993.4.27 ~ 28	327	共同住宅	近世・近代溝、前期土器	町内遺跡群 III
64	西ノ原 145-1	1993.6.7 ~ 11	615	共同住宅	縄文中期土坑 3、平安時代住居跡 1、土師器、須恵器	町内遺跡群 III
65	西ノ原 133-2	1993.6.30 ~ 7.19	474	共同住宅	近代溝、縄文土器	町内遺跡群 III
66	西ノ原 159-2	1994.1.20 ~ 21	308	倉庫建設	縄文中期土坑、ピット、近代溝	町内遺跡群 III
67	西ノ原 91-2.6	1994.3.22 ~ 25	285	店舗住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群 III
68	苗間 106	(1994.4.8 ~ 27) 1994.5.16 ~ 10.24	1,821	店舗建設	縄文中期住居跡 28、土坑 6、ピット 11、溝 1	調査報告 13 集
69	苗間 136	1994.5	551	店舗建設	屋外埋裏 4、土坑 14	調査報告 6 集
70	苗間 112	1994.6 ~ 7	309	個人住宅	落とし穴 1	
71	苗間 112-109	1994.11.2 ~ 28	321	個人住宅	縄文中期住居跡 3、土坑 2、溝 2	町内遺跡群 IV
72	苗間 92-1	1994.3.27 ~ 29	274	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群 IV
73	苗間 163	(1994.4.21 ~ 5.13)	169	事務所建設	ピット 6	町内遺跡群 V
74	苗間 122	(1995.5.16 ~ 23) 1995.6.2 ~ 9.23	379	事務所建設	縄文中期住居跡 17、集石土坑 1、土坑 4、集石 2、ピット 9、溝 1	調査報告 13 集
75	苗間 151-2 他	(1995.4.20 ~ 27) (1995.5.24 ~ 25) 1995.6.1 ~ 7.28	468	倉庫建設	ピット 1、溝 1	町内遺跡群 V
76	苗間 143-2	(1995.6.28 ~ 8.8)	45	貯水槽建設	縄文中期住居跡 3	町内遺跡群 V
77	苗間 162-2 他	(1995.6.29 ~ 7.24)	135	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群 V

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
80	苗間 83-2	(1995.7.19 ~ 25)	319	駐車場造成	遺構・遺物無し	町内遺跡群 V
81	苗間 169	(1995.8.2 ~ 7)	223	店舗付住宅建設	溝 1、遺物無し	町内遺跡群 V
82	苗間 168	(1995.8.1 ~ 5)	249	事務所建設	遺構・遺物無し	町内遺跡群 V
83	苗間 136-2	1995.8.23 ~ 10.21	190	個人住宅	縄文中期住居跡 2、集石土坑 2、土坑 2、ピット 22	町内遺跡群 V
84	苗間 108.109	(1995.11.30 ~ 12.9)	135	個人住宅	土坑 1、ピット 5	町内遺跡群 V
85	苗間 181-3	(1996.1.9 ~ 26)	654	パチンコ店建設	遺構・遺物無し	町内遺跡群 V
86	苗間 113-2.93-1	(1996.4.19) 1996.4.22 ~ 5.15	698	個人住宅	土坑 6、ピット 26、溝 2	町内遺跡群 VI
87	苗間 182-1	(1996.6.14 ~ 17)	344	学習塾	遺構・遺物無し	町内遺跡群 VI
88	苗間西ノ原 182-3.189-2.5 202-1	(1996.7.16 ~ 22) 1996.8.1 ~ 8	745	共同住宅	土坑 3、ピット 29、棚列 1、落とし穴 1、銭	調査報告 13 集
89	苗間西ノ原 112	(1996.7.17 ~ 18)	143	個人住宅	溝、土器片のみ	町内遺跡群 VI
90	苗間西ノ原 142-2	(1996.7.31) 1996.8.7 ~ 30	177	個人住宅	縄文中期住居跡 2、炉穴 2、土坑 1、ピット 9	町内遺跡群 VI
91	苗間 169	(1996.8.1 ~ 5)	477	店舗	遺構・遺物無し	町内遺跡群 VI
92	苗間 192-2	(1996.10.23 ~ 28)	684	店共用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群 VI
93	苗間 315	(1996.10.22 ~ 23)	141	分譲住宅	遺構無し、土器片のみ	町内遺跡群 VI
94	苗間 145-2	(1996.11.11 ~ 12)	165	個人住宅	遺構無し、土器片のみ	町内遺跡群 VI
95	苗間 154	(1996.11.14 ~ 19)	283	商業ビル	炉 1	町内遺跡群 VI
96	苗間 441	(1996.12.17 ~ 20) 1997.1.9 ~ 14	333	個人住宅	縄文中期住居跡 2、炉穴 2、土坑 1、ピット 3	町内遺跡群 VI
97	苗間 97-2	(1996.12.19 ~ 20)	141	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群 VI
98	苗間 171-2	(1997.1.6)	206	個人住宅	盛土保存	町内遺跡群 VI
99	苗間 97-1	(1997.1.20 ~ 24)	396	個人住宅	土坑 1、落とし穴 1、ピット 12、溝 1	町内遺跡群 VI
100	苗間 150-2	(1997.4.5 ~ 12)	447	共同住宅	土坑 2、ピット 3	町内遺跡群 VII
101	苗間 183-1.3	(1997.7.22 ~ 25)	187	モデルハウス	遺構・遺物無し	町内遺跡群 VII
102	炊調 2 軒 5 階	(1997.10.9 ~ 20)	179	個人住宅	ピット 2、溝 2	町内遺跡群 VII
103						
104	苗間 22 街区 2 画地	(1997.10.6 ~ 8)	223	個人住宅	坑土、溝 2	町内遺跡群 VII
105	苗間 125-2.126-2	(1998.1.13 ~ 2.12)	565	共同住宅	縄文中期住居跡 1、炉穴 1、溝 9	町内遺跡群 VII
106	苗間 112	(1998.1.28 ~ 2.4)	135	個人住宅	ピット 1	町内遺跡群 VII
107	苗間 112	(1998.2.9 ~ 13)	135	個人住宅	ピット 4、溝 1	町内遺跡群 VII
108	苗間 91-1.92-199-1	(1998.3.3) 1998.3.4 ~ 17	413	個人住宅	縄文住居跡 1、土坑 1、近世溝 3	町内遺跡群 VII
109	苗間 83-4.429	(1998.3.11 ~ 18)	429	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群 VII
110	苗間 146-2	(1998.4.20 ~ 5.28)	385	郵便局	落とし穴 1、集石 1、礎群 1	町内遺跡群 VII
111	大井苗間 23 街区 9 画地	(1998.10.23 ~ 27)	354	個人住宅	ピット 1、近世の溝 1、道跡 1	町内遺跡群 VIII
112	大井苗間 23 街区 9 画地	(1999.2.9)	144	個人住宅	近世の溝のみ	町内遺跡群 VIII
113	大井苗間 57.58 街区	(1999.4.5 ~ 12.14) 2000.1.6 ~ 3.13	2,817	店舗	旧石器時代のコンクリート、縄文中期住居跡 6、炉穴 2、土坑、ピット、近世溝	町内遺跡群 IX
114	西ノ原 194-1	(1999.8.4 ~ 12)	676	駐車場	落とし穴 1、ピット 2	町内遺跡群 IX
115	大井苗間 52 街区 3 画地	(1999.9.27 ~ 29)	135	事務所	遺構・遺物無し	町内遺跡群 IX
116	大井苗間 59 街区 1 画地	(1999.12.2 ~ 3)	119	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群 IX
117	大井苗間 199-2	(1999.12.2 ~ 4)	131	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群 IX
118	大井苗間 59 街区 4 画地	(2000.4.3 ~ 12)	548	店舗住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町内遺跡群 X
119	大井苗間 18 街区 4 画地	2000.11.15 ~ 12.6	221	倉庫建設	縄文中期住居跡 3、土坑 1、近世溝 1	町内遺跡群 X
120	大井苗間 24 街区 4 画地	(2001.5.7 ~ 15)	1,120	共同住宅	遺構無し、縄文中期土器片	町内遺跡群 XI
121	旭 1-15	2002.2.7 ~ 3.8	803	個人住宅	縄文中期住居跡 2、土坑 2、ピット 35、近世溝 4	町内遺跡群 XI
122	大井苗間 14 街区 8 画地	(2002.3.9 ~ 19) 2002.6.21 ~ 7.22	593	共同住宅	縄文中期住居跡 4、溝 3	町内遺跡群 XI
123	大井苗間 19 街区 10 画地	(2002.9.3 ~ 9)	252	共同住宅	根切溝のみ	町内遺跡群 XII
124	苗間 137-2	(2002.10.2 ~ 6) 2002.10.8 ~ 11	524	個人住宅	縄文中期住居跡 1、土坑 2、溝 2	町内遺跡群 XII
125	旭 1-8-2	(2003.2.14 ~ 19)	182	個人住宅	ピット 5	町内遺跡群 XII
126	旭 1-13-6-7	(2004.2.23 ~ 25)	153	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群 XII
127	旭 1-13-4-19	(2004.5.24 ~ 25)	327	個人住宅	土坑 1	町内遺跡群 XII
128	旭 1-16-9-10	(2004.6.14 ~ 7.15) 2004.7.16 ~ 9.29	614	店舗	縄文中期住居跡 17、集石 5、土坑 10、ピット 17	町内遺跡群 XII

Ⅱ 西ノ原遺跡第 142 地点

(1) 調査の概要

調査は学生寮建設に伴うもので、原因者より 2008 年 2 月 12 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南東側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

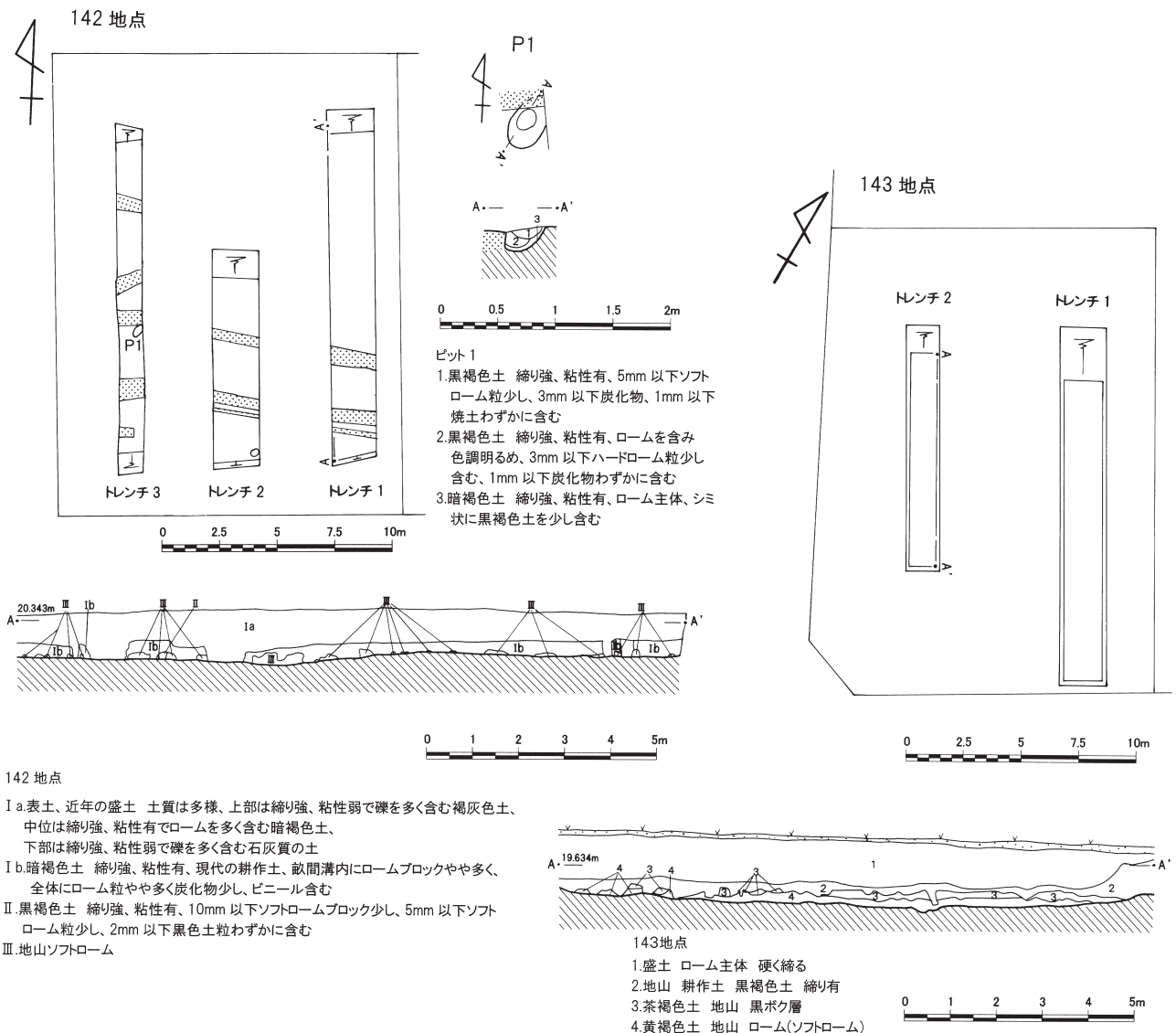
試掘調査は 2008 年 4 月 4 日から同年 4 月 7 日まで行なった。1 m と 2 m 幅のトレンチを 3 ヲ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なった。調査の結果、黒褐色の遺構らしき範囲を検出したので調査したが、自然の窪みであった。その他には遺構・遺物は検出しなかった。確認面まで 90 ~ 120 cm を測る。旧石器時代の確認調査は行っていない。写真撮影・遺構測量等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。

Ⅲ 西ノ原遺跡第 143 地点

(1) 調査の概要

調査は学生寮建設に伴うもので、原因者より 2009 年 1 月 20 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南東側に立地しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2009 年 3 月 23 日に行なった。1.5 m と 2 m 幅のトレンチを 2 ヲ所設定し、重機で表土除去後、人力で表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで 120 ~ 160 cm を測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第 95 図 西ノ原遺跡第 142・143 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150)、ピット (1/60)

## 第13章 神明後遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行なわれた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2010年3月現在36地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

### II 神明後遺跡第33地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅及び個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2008年3月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年4月25日から同年5月16日まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土プランを検出した。遺構の性格を確認するためさらに一部を掘り下げ確認したところ、縄文時代の落とし穴、近世以降の井戸、土坑、ピット、溝等であった。確認面まで80cmを測るが、建築による遺構への影響がないため工事立会いとした。写真撮影・平板測量による全測図・遺構図面作成等記録保存を行ない、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第96図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

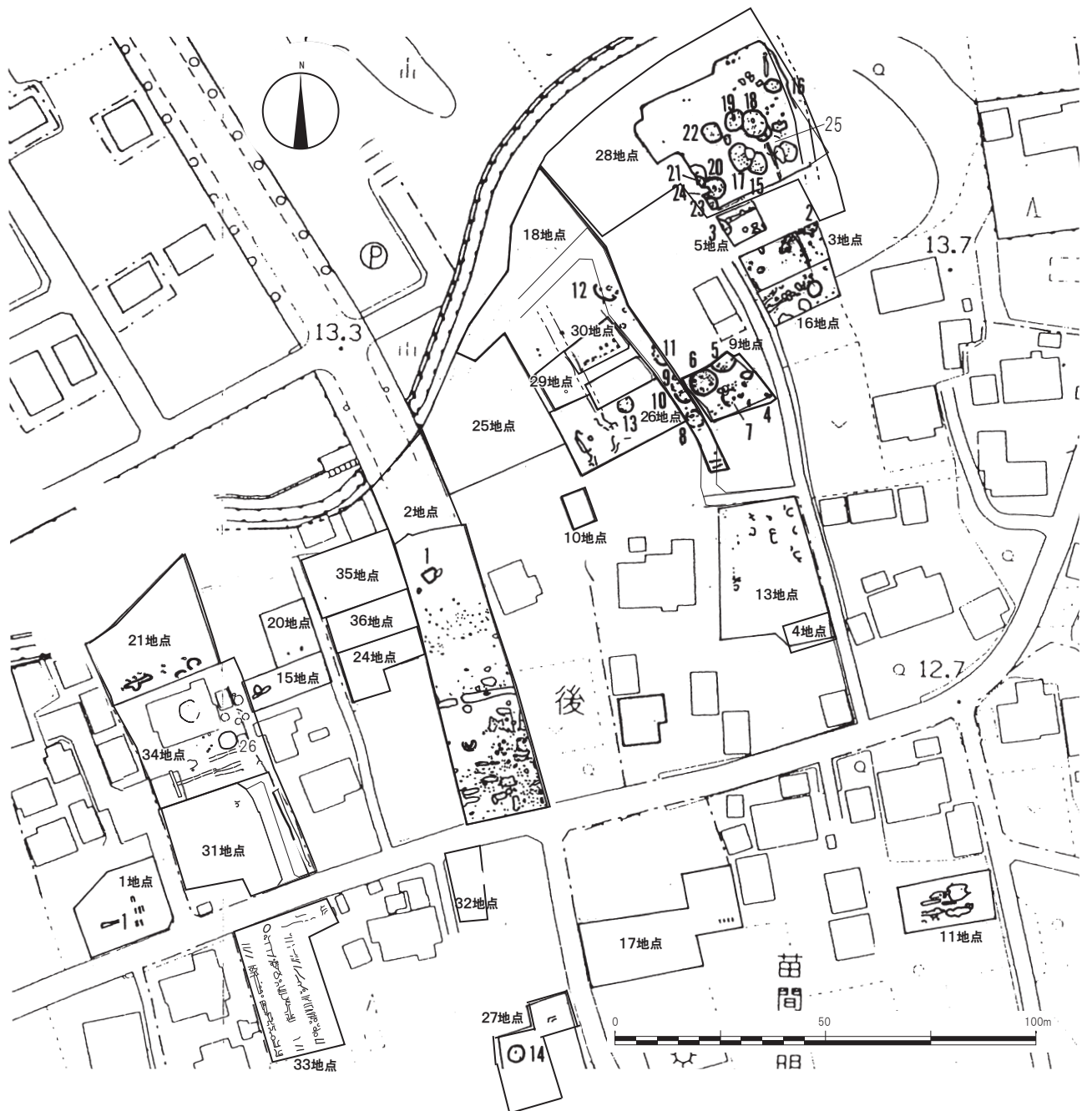


第 47 表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( ) は掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6 ~ 11	615	共同住宅	遺構無し、平安時代須恵器片、陶器片	町内遺跡群Ⅲ
2	苗間 295-2,299-3	1993.5.12 ~ 20	1,688	道路築造	落とし穴 1、平安住居跡 1(H1 号)、縄文土坑 1、中・近世掘建柱建物跡、地下式竈 1、井戸、堀	町内遺跡群Ⅲ
3	苗間 309-12	(1995.3.24 ~ 29) 1995.4.3 ~ 5.19	200	分譲住宅	縄文住居跡 1(2 号)、伏襲 2、埋襲 1、土坑 2、ピット 34 他	町内遺跡群Ⅵ
4	苗間 302	(1996.6.17 ~ 19)	703	物置	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅵ
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15 ~ 4.2	80	個人住宅	縄文住居跡 1(3 号)、土坑 5、溝、他 縄文中期後半～後期初頭	町内遺跡群Ⅵ
6	苗間 255,227-2	(1997.9.29 ~ 30)	150	個人住宅	土坑 1、土器片・石器片	町内遺跡群Ⅶ
7	苗間 260	(1998.6.1 ~ 2)	1,460	個人住宅	近世地下室 1	町内遺跡群Ⅷ
8	苗間 235-1	(1998.7.13 ~ 24)	458	共同住宅	集石土坑 1、土坑 2、ピット 40、柵列 1、溝	町内遺跡群Ⅷ
9	苗間 310-1	(1998.9.1 ~ 11) 1998.9.14 ~ 10.15	219	共同住宅	縄文住居跡 4、集石土坑 1、落とし穴 1、縄文土坑 2、近世土坑 1、井戸 2、地下室 1、ピット 33	町内遺跡群Ⅷ
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅸ
11	苗間 366	(1999.10.21) 1999.10.22 ~ 26	239	個人住宅	土坑 17、ピット 7	町内遺跡群Ⅸ
12	苗間 282-2,5	(2000.3.6)	211	共同住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅸ
13	苗間 302-1	(2000.4.17 ~ 19)	694	個人住宅	土坑 12、ピット	町内遺跡群Ⅹ
14	苗間 252-2	(2000.8.18 ~ 23)	357	共同住宅	土坑 1、近世掘建柱建物跡 1、溝 2、井戸 1、柵列、ピット 38	町内遺跡群Ⅹ
15	苗間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12 ~ 13	163	個人住宅	集石土坑 1 (阿玉台期)	町内遺跡群Ⅹ I
16	苗間 309-14	(2001.7.23 ~ 24) 2001.7.25 ~ 9.3	165	個人住宅	縄文屋外埋襲 4、土坑 13、溝 2、地下式竈 1、地下室 1、竪穴状遺構 1、ピット 38	町内遺跡群Ⅹ I
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	個人住宅	近世溝	町内遺跡群Ⅹ I
18	苗間 304-1,303-6	(2002.5.15 ~ 25) 2002.5.27 ~ 6.21	672	分譲住宅	縄文中期住居跡 5(8 ~ 12 号)、土坑、 古代・中世堀跡	町内遺跡群Ⅹ II
19	苗間 264-4	(2002.9.18 ~ 20)	216	個人住宅	根切溝、溝 4	町内遺跡群Ⅹ II
20	苗間 293-11	(2003.1.14 ~ 15)	143	個人住宅	中・近世溝 2、ピット 2	町内遺跡群Ⅹ II
21	苗間 283-1	(2003.1.10 ~ 30)	674	土地造成	ピット 7、井戸 1、近世地下室 2、土坑 1	町内遺跡群Ⅹ II
22	苗間 235-2,3	(2003.7.8 ~ 29)	430	分譲住宅	井戸 1、土坑 10、ピット 38、江戸後期陶磁器	町内遺跡群Ⅹ II
23	苗間 253	(2004.4.9)	62	個人住宅	地下室 1、銭貨	町内遺跡群Ⅹ II
24	苗間神明後 293-4,10	(2004.9.30 ~ 10.7)	148	個人住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅹ II
25	苗間 295-1	(2004.9.30 ~ 10.7)	660	店舗併用住宅	遺構・遺物無し	町内遺跡群Ⅹ II
26	苗間神明後 301,303-3,303-4,303-5,304-1,303-7	(2005.6.1 ~ 8) 2005.6.15 ~ 30	689	分譲住宅	縄文中期住居跡 1(13 号) 中世地下室、 近世土坑 5、溝	調査会報告 18 集
27	苗間 248-2,249-1	2005.7.20 ~ 25 2005.7.27 ~ 29	385	共同住宅	縄文中期住居跡 1(14 号)	調査会報告 18 集
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8 ~ 31) 2006.6.29 ~ 10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡 11(15 ~ 25 号)、集石 23、土坑 5、落とし穴 1、竪穴 3、ピット、溝 4、古代・中世堀跡 1	市内遺跡 3
29	苗間神明後 303-21,24	(2006.5.8 ~ 11) 2006.5.12 ~ 19	136	個人住宅	ピット 1、古代・中世堀跡 1	市内遺跡 3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8 ~ 19) 2006.12.14 ~ 19	101	個人住宅	ピット 12	市内遺跡 3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3 ~ 7)	499	個人住宅	土坑 2	市内遺跡 4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代攪乱	市内遺跡 4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	298	個人住宅	落とし穴 1、中世以降溝 6、井戸 2、土坑 38、ピット 16	市内遺跡 6
33b	苗間 240-2	(2008.4.25 ~ 5.16)	357	分譲住宅		市内遺跡 6
34	苗間字神明後 283-1,284-1 の一部	(2008.4.30 ~ 5.15) 2008.5.16 ~ 28	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡 1(26 号)、落とし穴 1、集石 3、ピット	市内遺跡 5
35	苗間字神明後 293 番 6,20	(2008.8.1)	247	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡 6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	ピット 1	市内遺跡 6
37	苗間 258-1 の一部	(2009.4.13) 2009.4.15 ~ 30	120	個人住宅	縄文後期住居跡 1	未報告
38	苗間字神明後 293-1,292-13	(2009.7.6 ~ 14)	265	個人住宅	中近世溝 1	未報告
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5 ~ 12) 2009.8.24 ~ 9.1	378	共同住宅	中～近世溝 2、ピット 28、落とし穴 1	未報告
40	苗間 309-1	(2009.11.9 ~ 18) 2009.12.18 ~ 2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑 1、中世地下式竈 2、井戸 1、竪穴状遺構 1、土坑 9	未報告
41	苗間字神明後 298-1,299-1 の各一部	(2010.5.25 ~ 31) 2010.6.15 ~ 7.21	486	共同住宅	縄文時代集石土坑 1、中世の掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構 16、溝 5、木炭窯 1、ピット 214、本調査 (140 ㎡)	未報告
42	苗間神明前 380-3	(2010.6.1 ~ 2)	312	宅地造成	遺構・遺物無し (隣接地)	未報告
43	苗間 292-14	(2010.10.20 ~ 22) 2010.10.22	107	個人住宅	中世～近世期ピット 7、本調査	未報告

第 48 表 神明後遺跡住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査率	平面形( )は推定	規模	炉			理張	壁溝	備考	時期	文献
				地床	理設	石圍					
1号	10%	(円形)	不明	未掘				○	中世土壁の下	加曾利 E II	大井町史資料編 1
2号	65%	(円形)	不明×435×16	○	○			○	土坑と複合	加曾利 E IV、埋裏も E IV	町内遺跡群 VI
3号	45%	(円形)	410×不明×30					○	北半未掘	加曾利 E II 新	町内遺跡群 VI
4号	15%	不明	不明					○	掘乱著しい	加曾利 E II 中	町内遺跡群 VII
5号	45%	(円形)	565×?×33	○				○	東北部未掘	加曾利 E II 新	町内遺跡群 VII
6号	95%	円形	596×542×45	○	②	②	有・建替	○	拡張と建替各 2	加曾利 E 新古相	町内遺跡群 VII
7号	70%	円形	不明×498×18	○				○	東南部床まで削平	加曾利 E 新中相	町内遺跡群 VII
8号	70%	(円形)	580×?					○	床面掘乱	加曾利 E I	調査会報告 16 集
9号	50%	(不整形)	(490×270)	未掘				○	10号に切られる	(加曾利 E I 新新相)	調査会報告 16 集
10号	50%	不明	(300×250)×50	未掘				○	9号を切る	曾利 III 式	調査会報告 16 集
11号	40%	(不整形)	(490×?)×55	未掘				○	貼床	加曾利 E II	調査会報告 16 集
12号	70%	(不整形)	(570)×550×80	○				○		加曾利 E III	調査会報告 16 集
13号	完掘	隅丸方形	343×370×13	○	○					加曾利 E I	調査会報告 18 集
14号	完掘	円形	404×403×20	○					2本柱のみ	阿玉台 II	調査会報告 18 集
15号	完掘	円形	573×499×35			②			入口に張り出し、17住を埋める	加曾利 E III	市内遺跡群 3
16号	完掘	隅丸方形	338×337×25	②						加曾利 E II 新	市内遺跡群 3
17号	完掘	隅丸長方形	684×525×70	②				○	有	加曾利 E I 新	市内遺跡群 3
18号	完掘	隅丸方形	608×600×90	○	△	○		○	石圍いの可能性有、19住に切られる	加曾利 E I 新	市内遺跡群 3
19号	完掘	隅丸長方形	476×448×60	②		△			石圍いの可能性有、18住を切る	加曾利 E II~III	市内遺跡群 3
20号	完掘	隅丸方形	473×483×28			○			入口近くに配石、伏裏	加曾利 E II	市内遺跡群 3
21号	40%	(隅丸)	?×?×10	○					20、24住より古い	加曾利 E I 新	市内遺跡群 3
22号	完掘	隅丸五角形	491×513×113	○						加曾利 E I 新	市内遺跡群 3
23号	25%	不明	?×?×21	②		△			石圍いの可能性有、20住より古、24住より新	加曾利 E II	市内遺跡群 3
24号	10%	不明	?×?×55	未掘				○	20、24住より古、21住より新	加曾利 E	市内遺跡群 3
25号	完掘	不明	(500×400)×5	○		○				加曾利 E II 新	市内遺跡群 3
26号	完掘	隅丸長方形	585×486×31	○					土坑より新、落とし穴より旧	加曾利 E III	市内遺跡群 5



第 97 図 神明後遺跡遺構分布図 (1/1,500)

(2) 遺構と遺物

【溝1】溝1は調査区南端、東西方向に位置する。井戸等は溝の埋没後に掘削されている。

溝2は調査区北側北西から南東方向に位置する。断面形態は深い角形、底はローム塊主体の土層である。根切り溝の様相を呈する。

溝4、6は溝2から分派するように平行する。溝5は調査区北端、道路と平行する東西方向に位置する。

【落とし穴】調査区北端に位置する。長軸方位はN-36°-Eである。下層はローム主体の土で埋る。

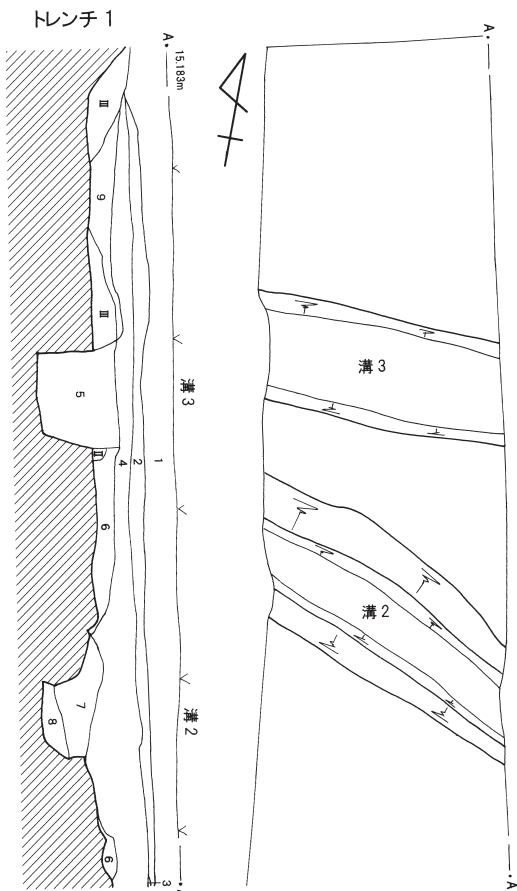
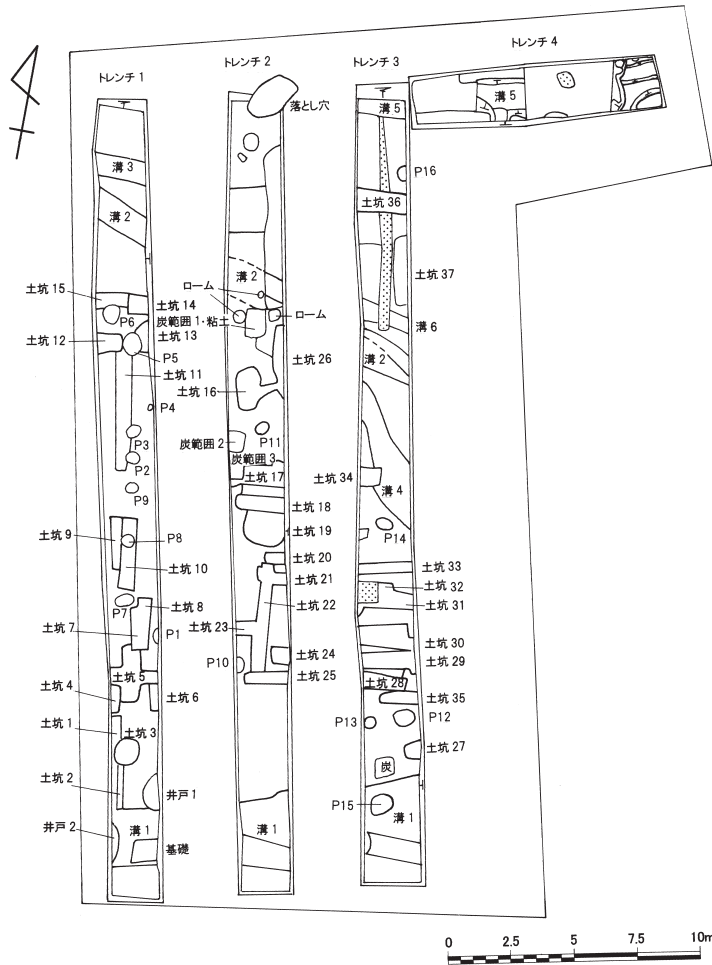
【井戸】井戸1、2とも調査区南西部に位置し、溝1埋没後に掘削されている。

【土坑】ほとんどの土坑は長方形、断面角形で方位も南北か東西である。イモ類を貯蔵するための「イモビツ」と思われる。

第49表 神明後遺跡第33地点遺構一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
溝1	直線12m～、断面V字形	180～250	25～80	42～67	土1、2と井1、2はP15より旧
溝2	直線14m～、断面U字形	80～108	25～35	48	根切り溝、ローム塊主体
溝3					土38に変更
溝4	直線5.6m～、a断面皿状、b断面U字形	70～62～74 72～	28～38	31 24	二股(a、b)に分かれる
溝5	直線12m～、断面浅い皿状	150～	100～	36	道路際に並行する
溝6	直線2m～、断面浅い皿状	60～90	35～65	13	
落とし穴1	楕円形	200×124	150×28	176	下層はローム主体
井戸1	(円形)	(145)×(43)	×		未掘、挿鉢出土
井戸2	(円形)	128×(55)	×		溝1より新、未掘、鉄輪出土
土坑1	(長方形、断面口)	(375)×(28)	(372)×(25)	27	溝1、土2より新、土3より旧
土坑2	(長方形、断面口)	(185)×(45)	(185)×(34)	9	溝1より新、土1、3より旧
土坑3	楕円形	95×78	66×62	40	土1、2より新
土坑4	(長方形、断面口)	120×(50)	98×(42)	14	
土坑5	十字形、断面口	235×75	215×62	15	土7より旧
土坑6	(長方形、断面口)	105×(24)	98×(18)	8	
土坑7	長方形、断面口	163×52	155×42	10	土5、8より新
土坑8	長方形、断面口	160×58	145×47	8	土7より旧
土坑9	長方形、断面口	203×(33)	190×(28)	11	土10より旧
土坑10	長方形、断面口	238×50	275×45	17	土9より新
土坑11	長方形、断面口	460×50	450×37	25	P2、3より旧
土坑12	(長方形、断面口)	(100)×90	(95)×65	30	
土坑13	(楕円形)	130×(60)	105×(50)	30	P5より新
土坑14	長方形、断面口	(85)×90	(85)×65	10	
土坑15	(長方形、断面口)	(150)×65	(150)×52	10	P6より新
土坑16	長方形(T字形)溝部分	172×90 80×35	145×68 ×15	14 13	
土坑17	(長方形、断面口)	(155)×95	(155)×55	59	土18より新
土坑18	長方形、断面口	180×68	160×57	40	土17、19より旧
土坑19	長方形、断面口	148×128	48×	34	土18、20より新
土坑20	(長方形、断面口)	(66)×45	(65)×35	26	土19より旧
土坑21	(長方形、断面口)	(111)×58	(100)×42	24	土22より新
土坑22	長方形、断面口	435×55	×42	51	土23より新、土21より旧
土坑23	(長方形、断面口)	(72)×48	(70)×35	11	土22より旧
土坑24	(長方形、断面口)	(62)×57	(60)×48	28	溝1、土2より新、土26より旧
土坑25	(長方形、断面口)	(168)×40	×		溝1、土2より新、土27より旧
土坑26		(350)×(30)	(350)×25	29	溝2より旧
土坑27	長方形	(57)×72	(45)×(50)	12	
土坑28	長方形	(165)×50	×		
土坑29	(長方形、断面口)	(200)×60	×38	30	
土坑30	(長方形、断面口)	(190)×80	×42	29	
土坑31	(長方形、断面口)	(60)×70	×40	23	
土坑32	(長方形、断面口)	(200)×100	×		
土坑33	(長方形、断面口)	(200)×45	×40	10	
土坑34	(長方形、断面口)	(80)×70	×	46	
土坑35	(長方形、断面口)	(150)×50	×15	65	
土坑36	(長方形、断面口)	(200)×80	×60	44	
土坑37	(長方形、断面口)	280×(65)	265×(58)	4	
土坑38	長方形	(200)×85	(200)×65	40	旧溝3
P1	(円形)	(55)×	(40)×	47	
P2	楕円形	52×40	38×30	50	土11より新
P3	隅丸方形	50×48	31×30	39	土11より新
P4	楕円形	38×30	12×10	32	
P5	楕円形	85×60	32×22	60	土13より旧
P6	円形	68×67	40×33	45	土15より旧
P7	楕円形	78×50	18×30	43	斜向ピット
P8	楕円形	58×50	42×30	50	
P9	円形	52×50	38×38	33	
P10	楕円形	62×47	23×15	52	
P11	楕円形	62×48	32×24	43	
P12	楕円形	73×68	48×50	38	
P13	円形	50×(45)	10×6	62	
P14	楕円形	46×42	13×10	61	
P15	楕円形	105×80	25×12	88	溝1より新
P16	(円形)	52×(35)	38×(28)	24	
炭範囲1	隅丸方形	115×82	×		
炭範囲2	(隅丸方形)	95×(65)	×		
炭範囲3		90×	×		





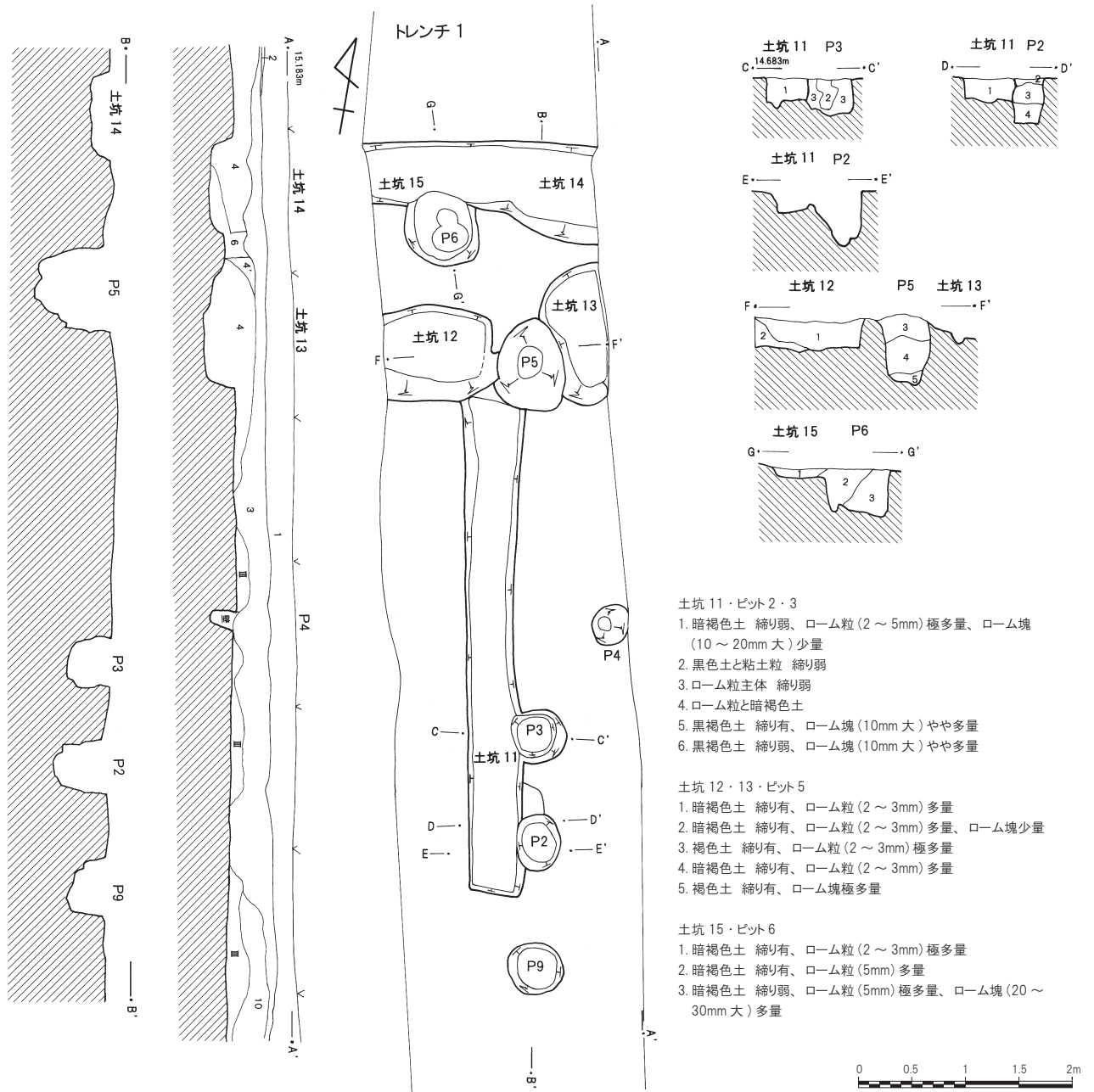
トレンチ 1

II. 暗褐色土 包含層

III. ローム地山

1. 表土 現在家屋の基礎 締り硬い、砂利、下層には炭化層
2. 表土 現在家屋の基礎 締り硬い、ローム粒と褐色土混合
3. 表土 暗褐色土 締り有、ローム粒(3~5mm)多く、ローム塊(2~3cm大)含む
4. 暗褐色土 締り有、ローム粒(3~5mm)多く、土坑13・14の土、土坑13は根痕
- 4'. 締り弱
5. 暗褐色土 締り弱、ローム粒(3~5mm)多く、ローム塊(2~3cm大)少し含む
6. 暗褐色土 締り弱、ローム粒(3~5mm)極多く、ローム塊(1cm)多く、一度掘り返されている
7. 暗褐色土 締り弱、5層と同じ、ローム塊無し、根切溝
8. ローム塊主体 締り無、根切溝
9. ローム主体 締り弱、ロームが掘り返されたもの
10. もと表土 締り弱、ローム粒(2~3mm)やや多く、焼土粒・炭少量含む
11. 黒褐色土 締り有、ローム粒(2mm)少し含む、他のピットと同じ
12. 暗褐色土 締り弱、根の抜痕跡、ガラス瓶出土
13. ローム主体 硬く締る、何かの基礎?
- 13'. ほぼローム 少し土混入 やや脆い
- 13''. 土とローム塊の混合
14. 黒褐色土 締り弱、ローム粒(1mm)少量
15. 黒褐色土 締り弱、ローム粒(1mm)やや多量
16. 黒褐色土 締りやや有、ローム粒(1mm)やや多量、焼土粒(1mm)少量、砂利少量
17. 黒褐色土 締り無、ローム粒(1mm)少量、焼土粒(1mm)少量、摺鉢出土
18. 黒褐色土 締りやや有、ローム粒(1mm)やや多量、砂利少量
19. 黒褐色土 締り有、ローム粒(2~3mm)多量、砂利多量
20. 黒褐色土 締り有、ローム粒(2~3mm)多量、砂利無し
21. 黒褐色土 締り有、ローム粒(5mm)極多量
22. 表土 暗褐色土 締り弱、ローム粒(1mm)やや多量
23. 表土 暗褐色土 締り弱、ローム粒(2~3mm)多量

第98図 神明後遺跡第33地点遺構配置図(1/300)、トレンチ1溝(1/60)



土坑 1・2

- 1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (5 ~ 10mm 大) 極多量
- 2. 黒褐色土 締り弱、ローム粒 (5mm) 少量
- 3. 黒色土 締り弱、ローム粒 (5mm) やや多量

土坑 3

- 1. 暗褐色土
- 2. 黒褐色土 締り弱、ローム粒 (5mm) 少量
- 3. 黒色土 締り弱、ローム粒 (5mm) やや多量

土坑 5・7・8

- 1. 黒褐色土 締り弱、ローム粒 (2 ~ 3mm) 少量、ローム塊少量
- 2. 黒褐色土 締り弱、ローム粒 (2 ~ 3mm) 少量
- 3. 黒褐色土 締り弱、ローム粒 (2 ~ 5mm) 極多量

土坑 9・10

- 1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2 ~ 3mm) 少量
- 2. 黒褐色土 締り弱、ローム粒 (2 ~ 3mm) 多量
- 3. 黒褐色土 締り弱、ローム粒 (2 ~ 3mm) ローム塊少量

ピット 8

- 1. 黒色土 締り弱、白色粘土混入、ローム粒 (5mm) 多量
- 2. 褐色土 締り有、ローム粒と褐色土混合
- 3. 暗褐色土 締り弱、ローム塊 (20 ~ 30mm 大) 多量

土坑 11・ピット 2・3

- 1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (2 ~ 5mm) 極多量、ローム塊 (10 ~ 20mm 大) 少量
- 2. 黒色土と粘土粒 締り弱
- 3. ローム粒主体 締り弱
- 4. ローム粒と暗褐色土
- 5. 黒褐色土 締り有、ローム塊 (10mm 大) やや多量
- 6. 黒褐色土 締り弱、ローム塊 (10mm 大) やや多量

土坑 12・13・ピット 5

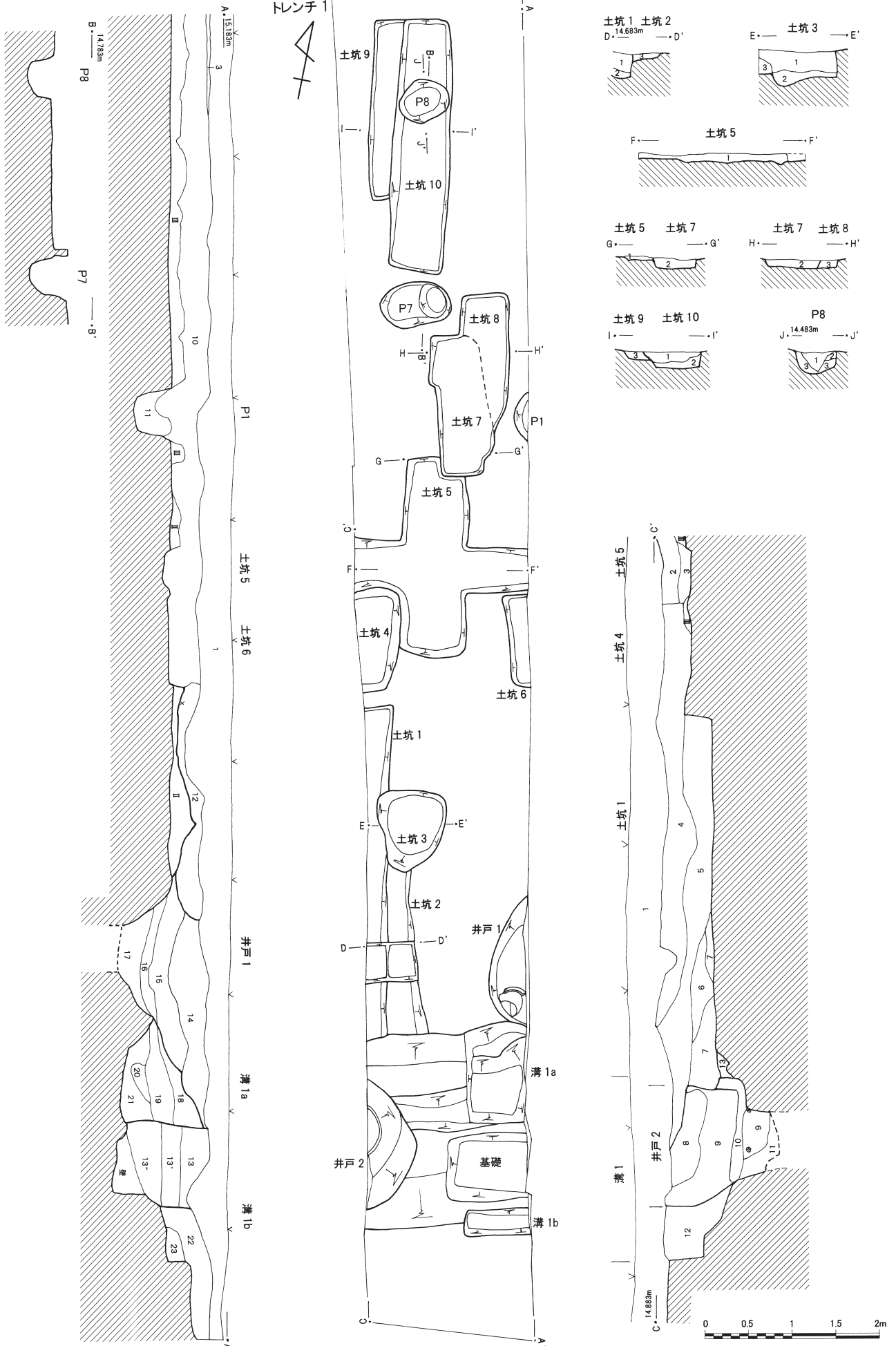
- 1. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (2 ~ 3mm) 多量
- 2. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (2 ~ 3mm) 多量、ローム塊少量
- 3. 褐色土 締り有、ローム粒 (2 ~ 3mm) 極多量
- 4. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (2 ~ 3mm) 多量
- 5. 褐色土 締り有、ローム塊極多量

土坑 15・ピット 6

- 1. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (2 ~ 3mm) 極多量
- 2. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (5mm) 多量
- 3. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (5mm) 極多量、ローム塊 (20 ~ 30mm 大) 多量



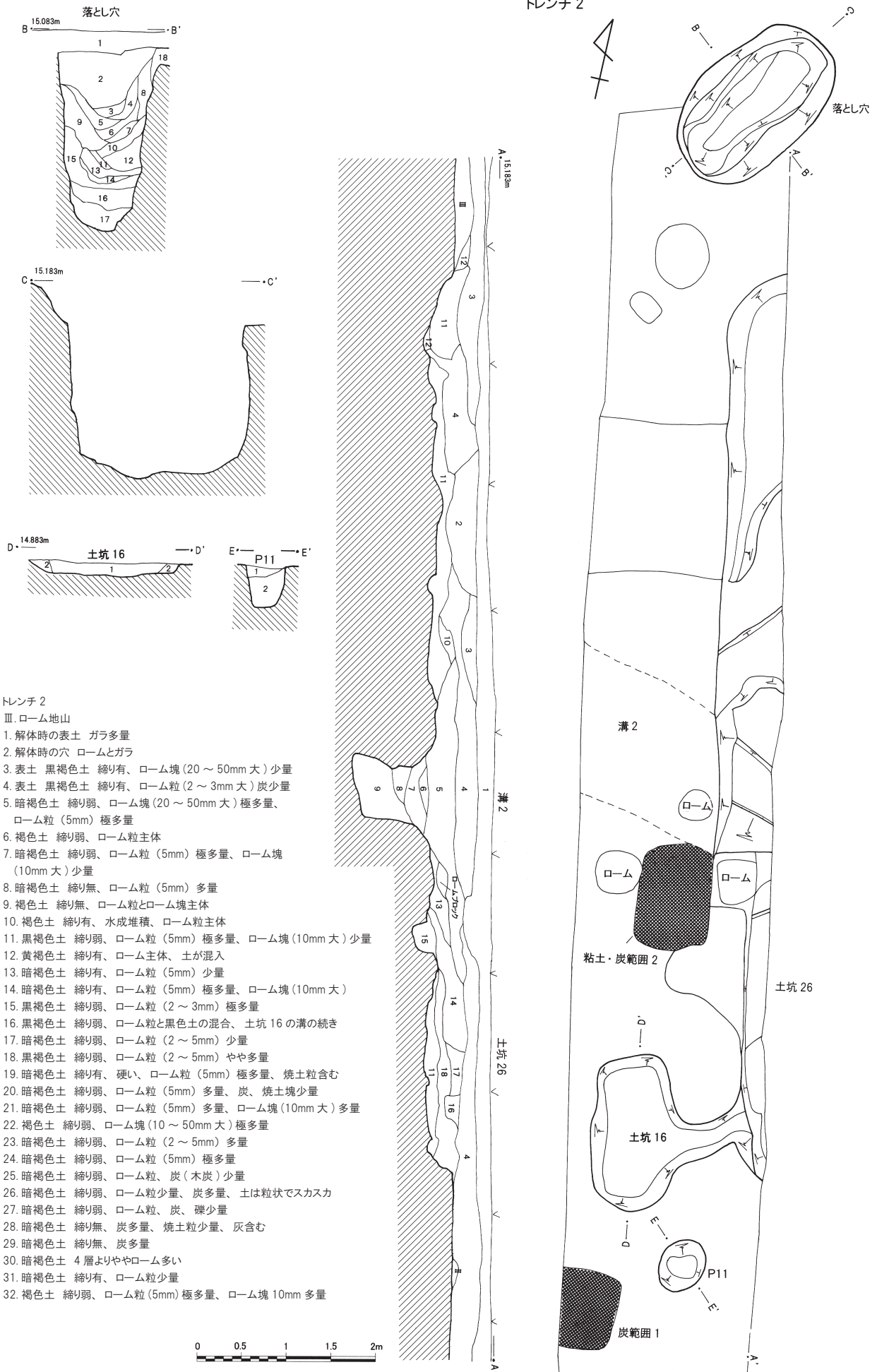
第 99 図 神明後遺跡第 33 地点トレンチ 1 溝・土坑・ピット (1/60)



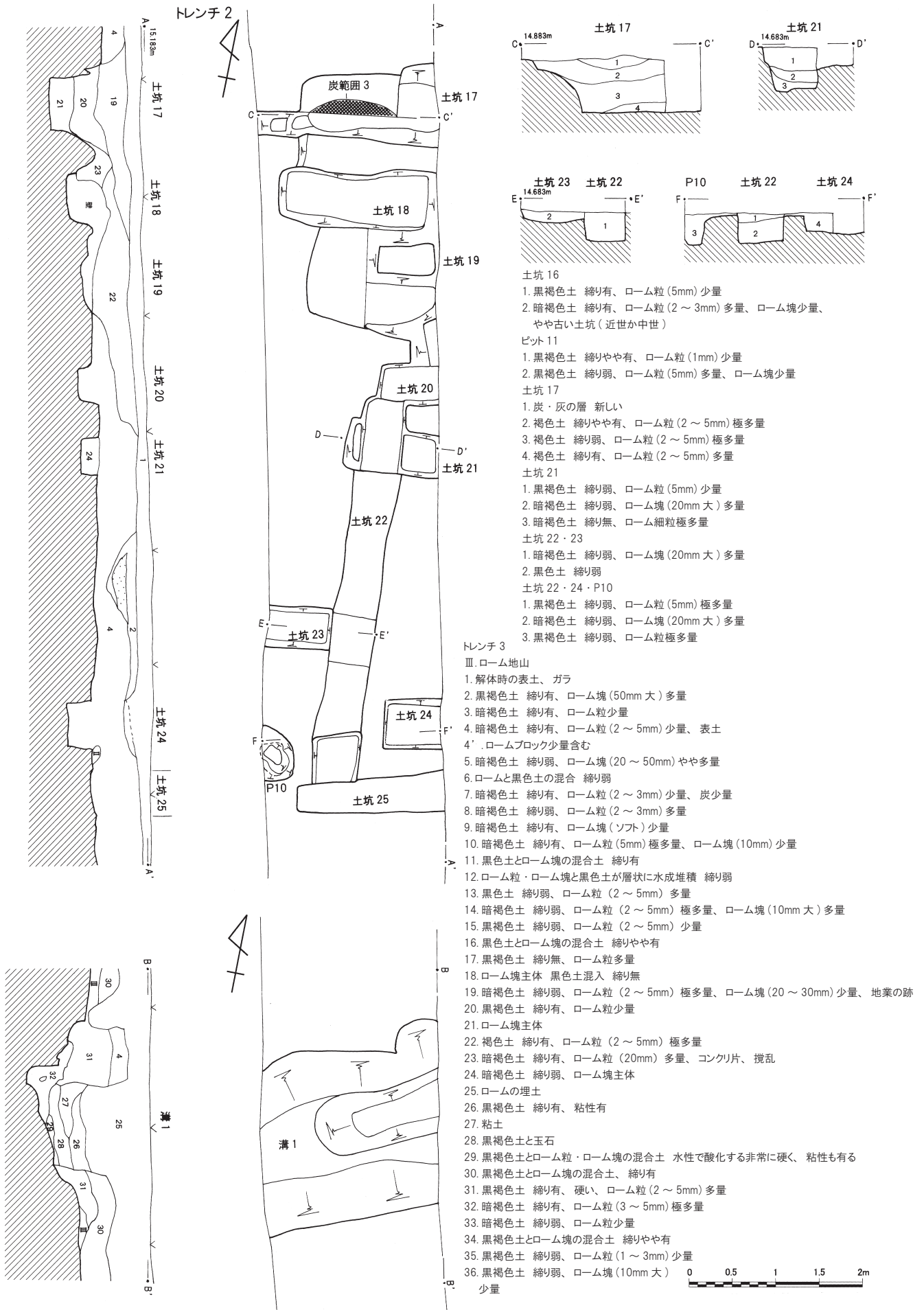
第100図 神明後遺跡第33地点トレンチ1井戸・溝・土坑・ピット (1/60)



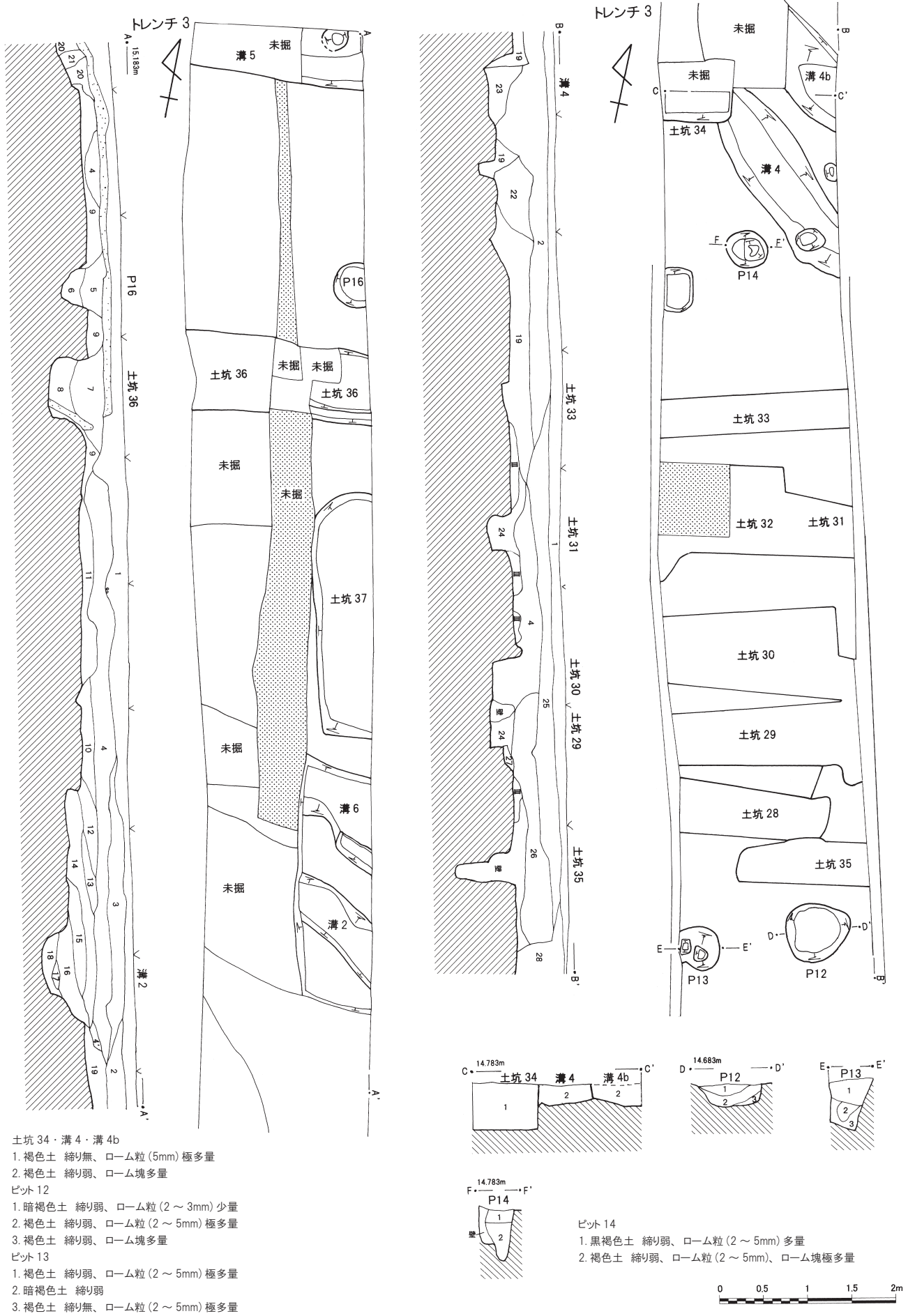
トレンチ 2



第101図 神明後遺跡第33地点トレンチ2 落とし穴・溝・土坑・ピット (1/60)



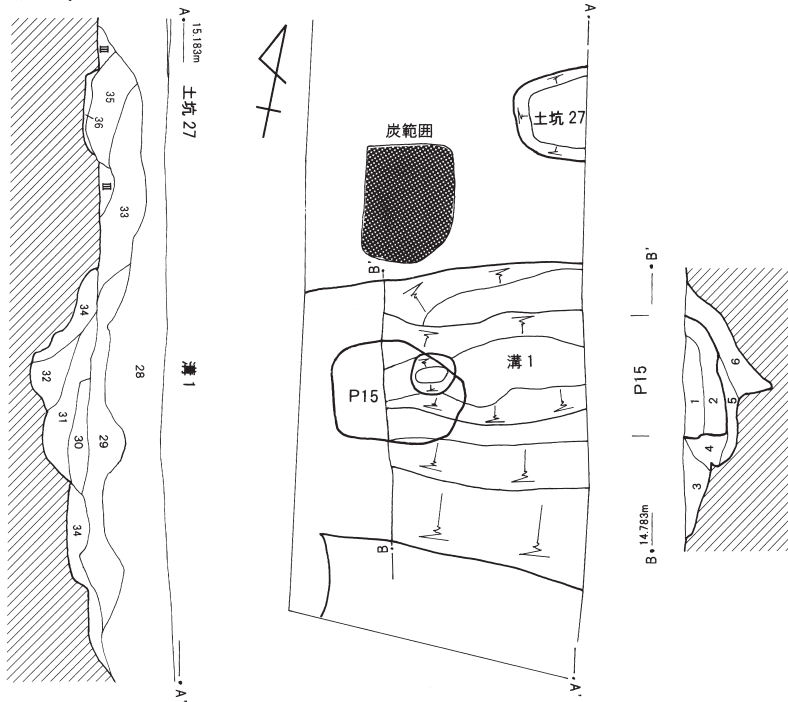
第 102 図 神明後遺跡第 33 地点トレンチ 2 溝・土坑・ピット (1/60)



第 103 図 神明後遺跡第 33 地点トレンチ 3 溝・土坑・ピット (1/60)



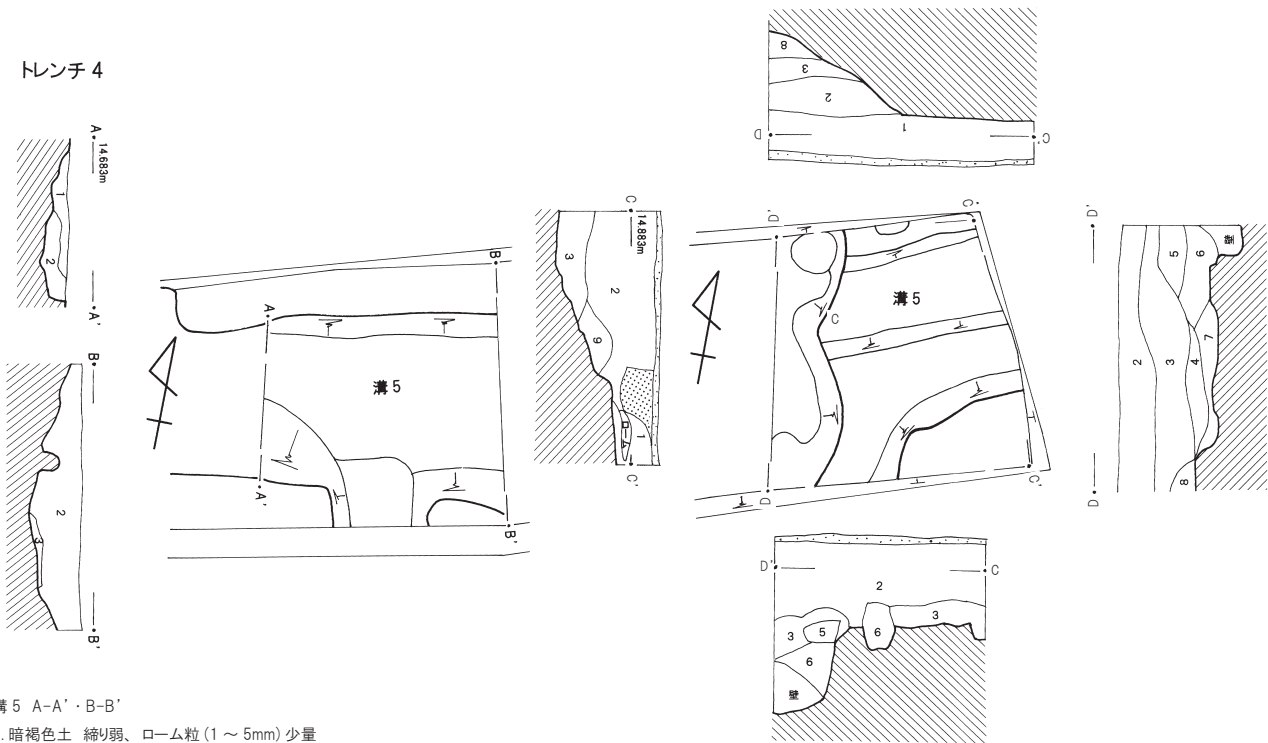
トレンチ 3



ピット 15・溝 1

1. 暗褐色土 締り有、硬い、酸化した根が入る
2. 黒褐色土 締り有、ローム粒 (1mm) やや多い
3. 黒褐色土とローム粒・ローム塊の混合土、水性で酸化する、非常に硬く、粘性も有る
4. 黒褐色土 締り有、硬い、ローム粒 (2 ~ 5mm) 多量
5. 黒褐色土とローム塊の混合土 締り有
6. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (3 ~ 5mm) 極多量

トレンチ 4



溝 5 A-A'・B-B'

1. 暗褐色土 締り弱、ローム粒 (1 ~ 5mm) 少量
2. 黒褐色土 締り弱、ローム塊 (5cm 大) 多量
3. 黒褐色土 締り弱

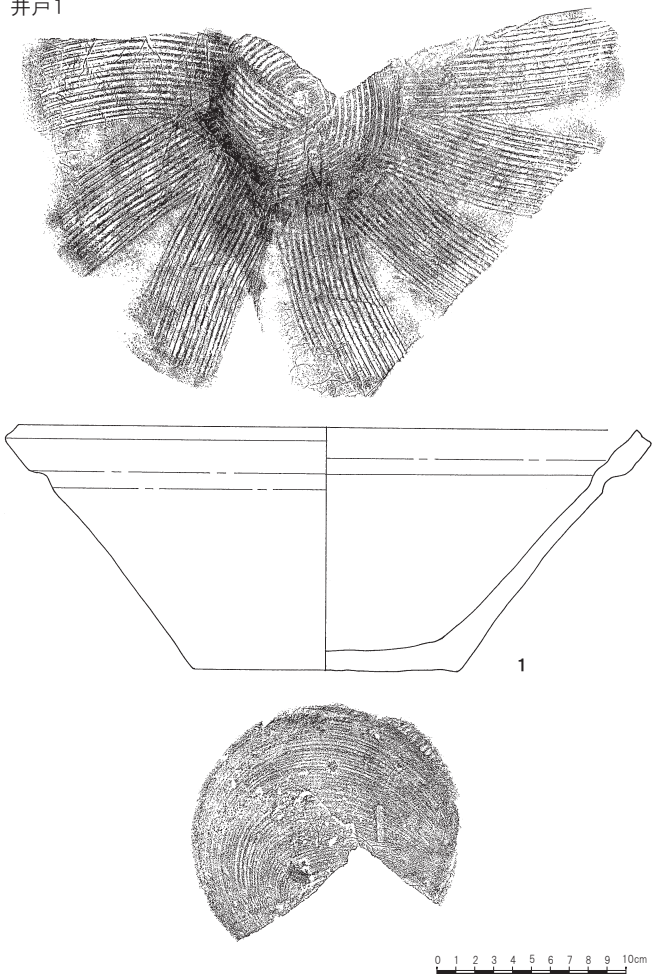
溝 5 C-C'・D-D'

1. 家基礎工事の土 ローム、ガラ含む
2. 黒褐色土 締り弱、ローム粒 (5mm) 少量
3. 黒褐色土 締り弱、ローム塊 (5cm 大) 多量
4. 褐色土 締り有、ローム塊、黒色土の混合土
5. ローム塊
6. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (1 ~ 5mm) 極多量
7. 暗褐色土 締りやや有、ローム粒 (1mm) 多量
8. 黄褐色土 締り有、ローム粒主体
9. 暗褐色土 締り有、ローム粒 (1mm) 少量

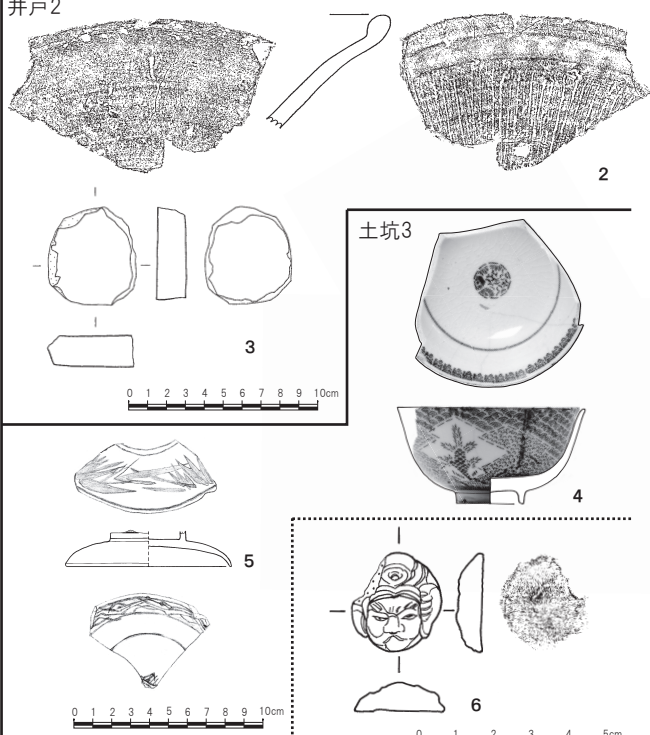


第 104 図 神明後遺跡第 33 地点トレンチ 3・4 溝・土坑・ピット (1/60)

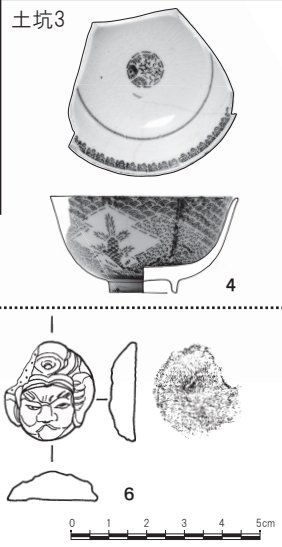
井戸1



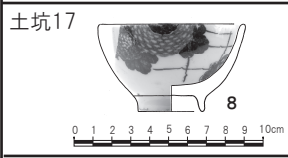
井戸2



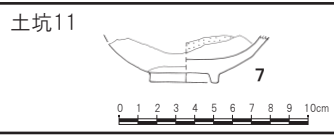
土坑3



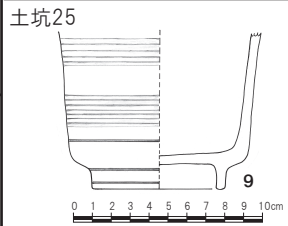
土坑17



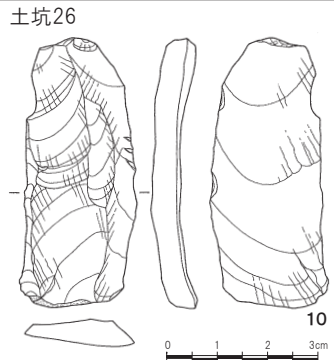
土坑11



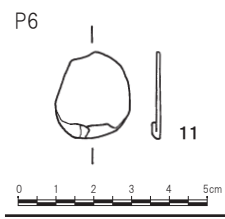
土坑25



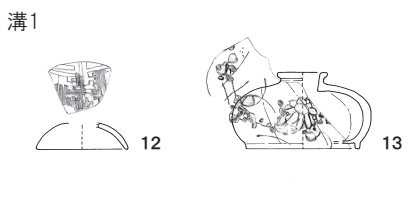
土坑26



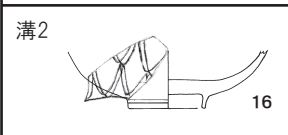
P6



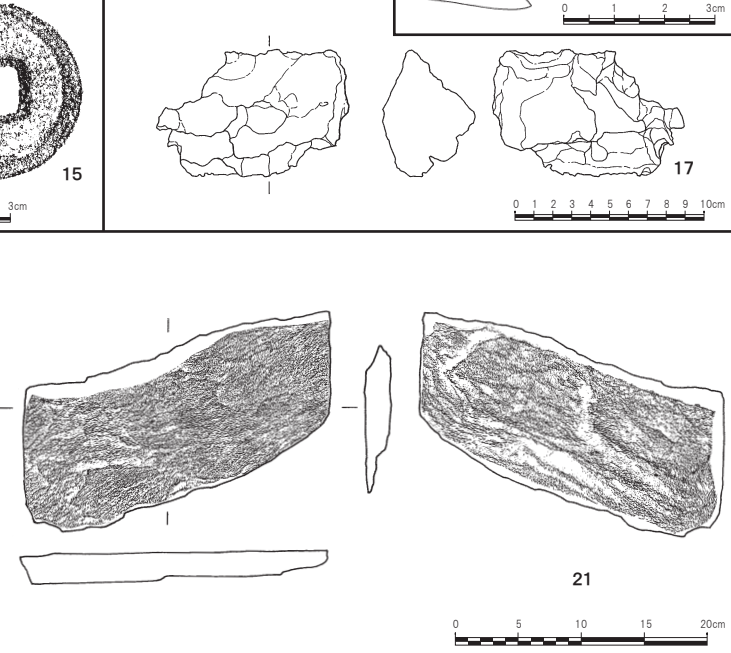
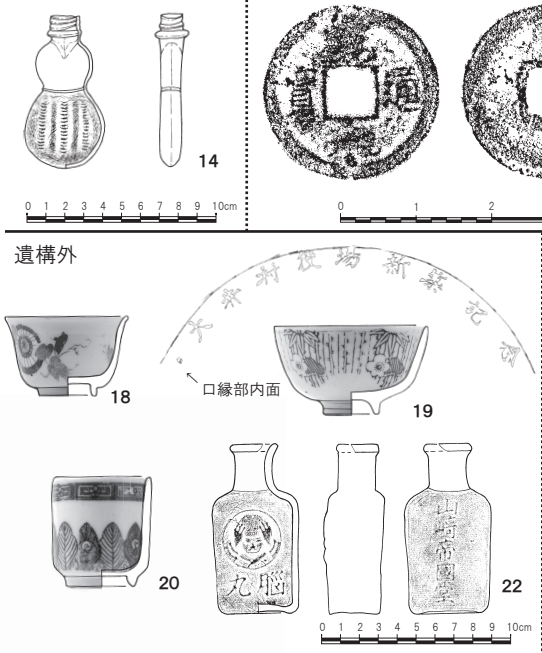
溝1



溝2



遺構外



第105図 神明後遺跡第33地点井戸・土坑・溝・ピット・遺構外出土遺物 (1/1・1/2・2/3・1/4・1/6)

第 50 表 神明後遺跡第 33 地点出土遺物観察表 (単位cm)

図版番号	掲載番号	遺構名	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法/文様/その他	石材/推定生産地	推定年代・時期	残存/備考
105 図	1	井戸 1	陶器・播鉢	(32.2)	13.8	12.8	紐積み轆轤成形。底部右回転糸切り後未調整。口縁と体部の境を指撫で/櫛目 15 本単位 (4.5cm 幅) を見込みから放射状、左回りに重ね、見込みも短く櫛目を重ねる/鉄軸/にぶい赤褐色/見込みは磨り減り、口縁内側も細かく打ち欠く/注No.1 井 2	瀬戸・美濃	18C 第 3 四半期	1/2 以上残存
	2	井戸 2	焼締み陶器・播鉢	—	—	—	紐積み轆轤成形/櫛目 7 本単位 (2.3cm 幅) を放射状、左回りに重ねる/にぶい褐色/砂粒 (~6 mm) 極多量含む/注No.2 井 2		近世	口縁部片
	3	井戸 2	瓦	5.4	4.8	1.6	棧瓦の破片を円形に打ち欠く/灰色/注No.2 井 1		近世~	
	4	土坑 3	磁器・茶碗	(10.0)	3.5	5.1	轆轤成形/コバルト染付け、型紙絵付け/注No.3D	瀬戸・美濃	1880 年代~	1/2 以上残存
	5	土坑 3	磁器・蓋	(8.7)	(1.9)	—	轆轤成形/コバルト染付け/注No.3D	瀬戸・美濃	1870 年代~	1/4 以上残存
	6	土坑 3	土製品・泥面子	2.6	2.3	0.6	型押し成形/裏面に指頭圧痕。毘沙門天/橙色/砂粒少量含む/注No.3D		1790 年代~ 1890 年代	一部欠
	7	土坑 11	陶器・碗	—	3.5	—	轆轤成形/灰釉。高台無軸/灰白色/注No.11D	京都・信楽	19C	底部片
	8	土坑 17	磁器・茶碗	7.8	3.6	4.6	轆轤成形/黒色と茶色の銅版絵付/注No.17D		1890 年代~	口縁部一部欠
	9	土坑 25	磁器・香炉	—	(7.0)	—	轆轤成形/コバルト染付け、クロム青磁。内面無軸/注No.25D	肥前	近代	1/4 以下残存
	10	土坑 26	石器・縦長剥片	5.43	2.38	0.92	重量 9.67g。縦長剥片を素材とする。右側辺に使用痕有/注No.26D	頁岩	旧石器時代	完形
	11	P6	銅製品・薄板	2.3	1.3	0.1	楕円形の薄板の端が折れた状態で発見/注No.P 6			
	12	溝 1	磁器・合子蓋	(4.8)	—	(1.4)	型押し成形/口縁内側無軸。矩形文に染付け/注No.1M1	肥前	1650 ~ 1690 年代	1/4 以下残存
	13	溝 1	磁器・水滴	2.6	6.0	4.0	上部と下部を型押し成形後、合体/内面無軸、指頭圧痕。コバルト染付け/注No.1M カクラン	瀬戸・美濃	1870 年代~	1/4 以上残存
	14	溝 1	ガラス製品/ 医療用薬瓶	1.5	3.1	7.3	型吹き成形(割型)/スクリュー栓用/無色・透明、気泡有り/瓢箪型/注No.1M カクラン		1920 年代~	完形
	15	溝 1	銭貨・銅貨	外径 2.33	穿孔 0.65	0.10	重量 1.75 g 鑄造/「寛永通寶」新寛永/注No.1M カクラン		1697 ~ 1781	完形
	16	溝 2	磁器・茶碗	—	(3.5)	—	轆轤成形/染付け。二重網目文。高台二重圏線。高台置付無軸/くらわんか手/注No.2M2	肥前	1700 年代~ 1800 年代	底部片
	17	溝 2	製錬滓・炉内滓	6.6	10.2	4.8	重量 156.5g スサ入炉壁がガラス状に溶融し、炉底の滓が付着したもの/注No.2M3		古代	炉壁~炉底
	18	遺構外	磁器・小杯	(6.5)	3.0	4.2	轆轤成形/コバルト染付けと緑色の銅版絵付。傘と朝顔。高台置付無軸/注No.1 トレ 1		1890 年代~	1/2 以上残存
	19	遺構外	磁器・茶碗	8.2	3.0	4.8	轆轤成形/コバルト染付けの型紙絵付。松竹梅。高台置付無軸/注No.2 トレ 1		1880 年代~	完形
	20	遺構外	磁器・湯飲み碗	5.1	3.5	5.8	轆轤成形/コバルト染付けの銅版絵付。桜、鶴。高台置付無軸/注No.2 トレ 1		1890 年代~	完形
	21	遺構外	石製品・板碑	11.4	26.6	2.5	注No.2 トレ 1	緑泥片岩	中世	1/4 以下残存
	22	遺構外	ガラス製品/ 一般用薬瓶	2.3	3.4	9.0	型吹き成形(割型)/コルク栓用。角瓶/表「脳丸」「人物絵」、裏「山崎帝國堂」の陽刻。無色・透明、気泡有/注No.1 トレ 2 No.1		1900 ~ 1920 年代	完形

### III 神明後遺跡第 34 地点

#### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2007 年 12 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央北に立地し、隣接地では集石や地下式坑、溝跡等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 4 月 30 日から同年 5 月 15 日まで行った。幅約 2 m のトレンチを 5 本、幅約 1.5 m のトレンチを 1 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、縄文時代の遺構・遺物を確認したが、遺構確認面まで 40 cm と浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は原因者と発掘調査に係わる委託契約を締結した上で 2008 年 5 月 16 日から同年 5 月 28 日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、縄文時代の住居跡 1 軒、落とし穴 1 基、集石 3 基、中世以降の土坑、ピ

ットを検出した。

(市内遺跡群 5「神明後遺跡第 34 地点の本調査」参照)

### IV 神明後遺跡第 35 地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 6 月 24 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 8 月 1 日に行なった。幅約 1.5 m のトレンチを 3 本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、時期不明のピットを 1 基検出したが、その他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。北側の斜面に向かって傾斜していき、70 cm 以上の盛土で造成されていた。確認面まで 130 cm を測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



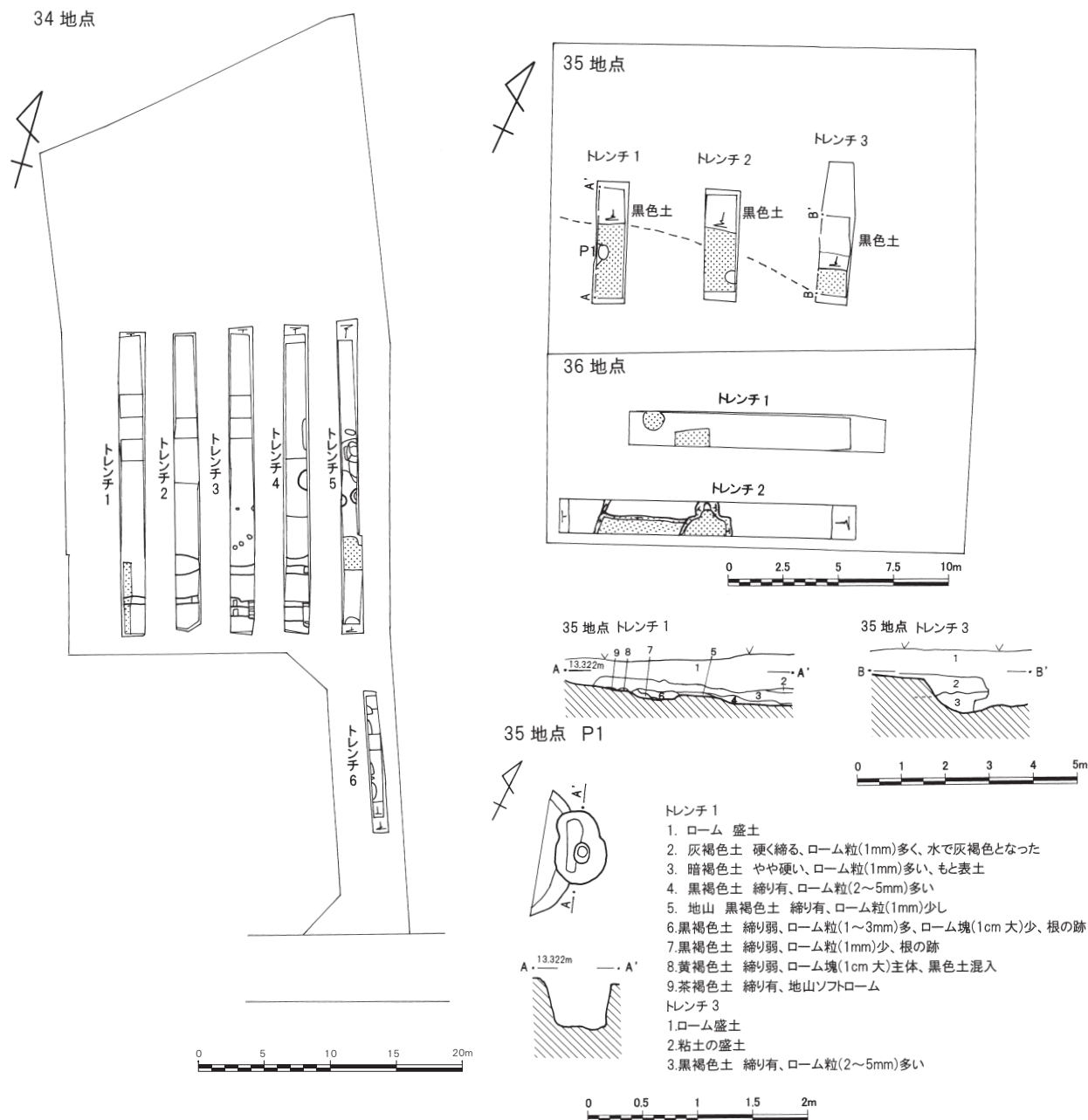
V 神明後遺跡第36地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年8月19日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2008年9月2日に行なった。幅約1.5

mのトレンチを2本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、黒褐色の遺構らしき範囲を検出したので調査したが、自然の窪みであった。その他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで60~100cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第106図 神明後遺跡第34~36地点遺構配置図(1/500・1/300)、土層図(1/150)、ピット(1/60)



## 第14章 小田久保遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約1.3km、砂川堀の左岸、標高23～28mに位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武蔵野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

1990年に最初の試掘調査が行なわれて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003年と2004年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。

分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中世～近世である。

### II 小田久保遺跡第7地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年3月3日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央南側に立地し、隣接地では住居跡や集石等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

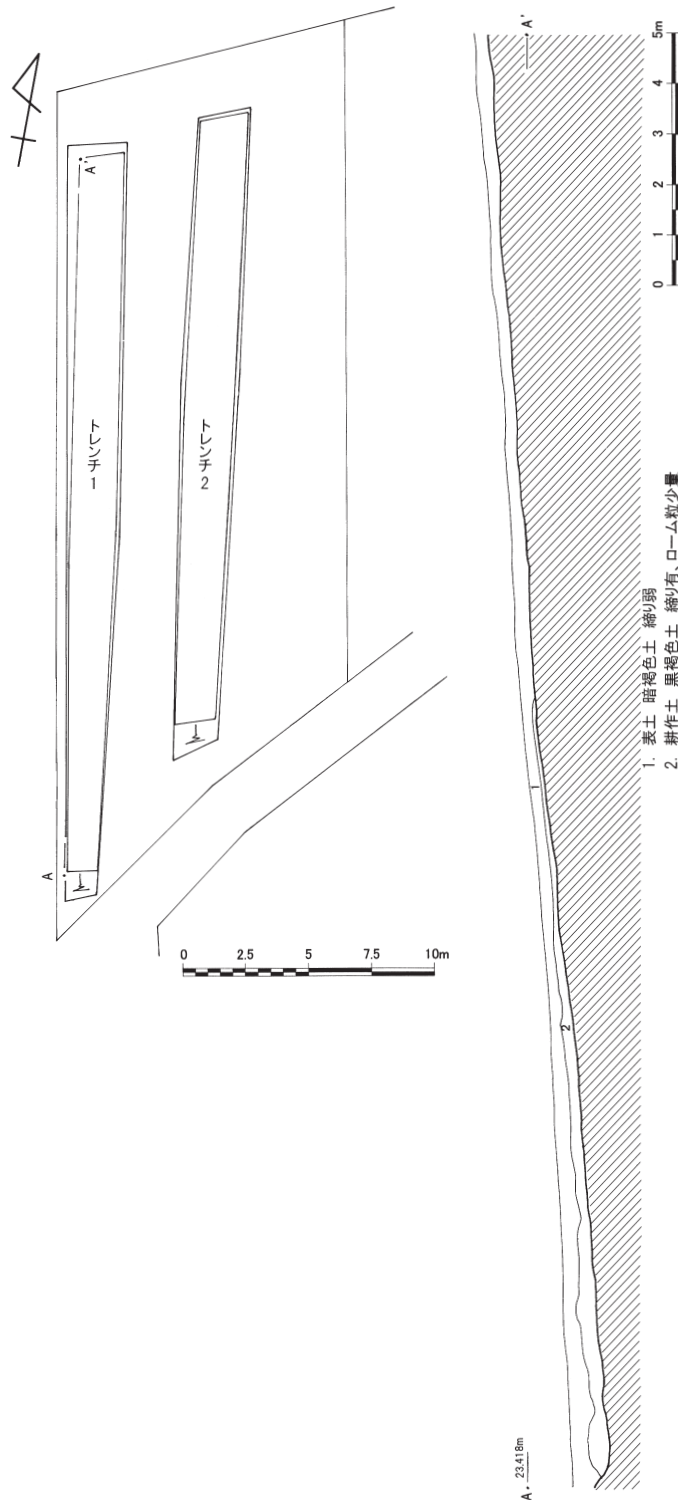
試掘調査は2008年5月19日から21日まで行なった。幅約2mのトレンチを2本設定、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とし、写真撮影・平板測量による全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。確認面まで30～80cmを測る。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



第107図 小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第51表 小田久保遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井 1223-3	1990.10.12 ~ 18	694	資材置場	遺構無し、縄文中期土器片	東部遺跡群X I
2	大井 1249-1	1993.9.21 ~ 10.1	498	個人住宅	遺構無し、縄文中期土器片、石器	町内遺跡群III
3	大井 1214-3	1994.6.7	330	個人住宅	遺構無し、縄文中期土器片、石器	町内遺跡群IV
4	大井 1185-5	(1997.6.24 ~ 26)	271	分譲住宅	土坑 1	町内遺跡群VII
5	大井字西原 1023	(2003.8.18,19) 2003.8.20 ~ 9.2	165	個人住宅	縄文中期住居跡 1	町内遺跡群X II
6	大井字小田久保 1207-5	2004.10.26 ~ 11.13	306	個人住宅	縄文中期住居跡1、集石土坑1、土坑2、ピット8	町内遺跡群X II
7	大井字西原 1023-9,8	(2008.5.19 ~ 21)	333	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 6



第108図 小田久保遺跡第7地点調査区域図 (1/300)、土層図 (1/150)

## 第15章 本村遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約800m、砂川堀の左岸で標高15～20mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

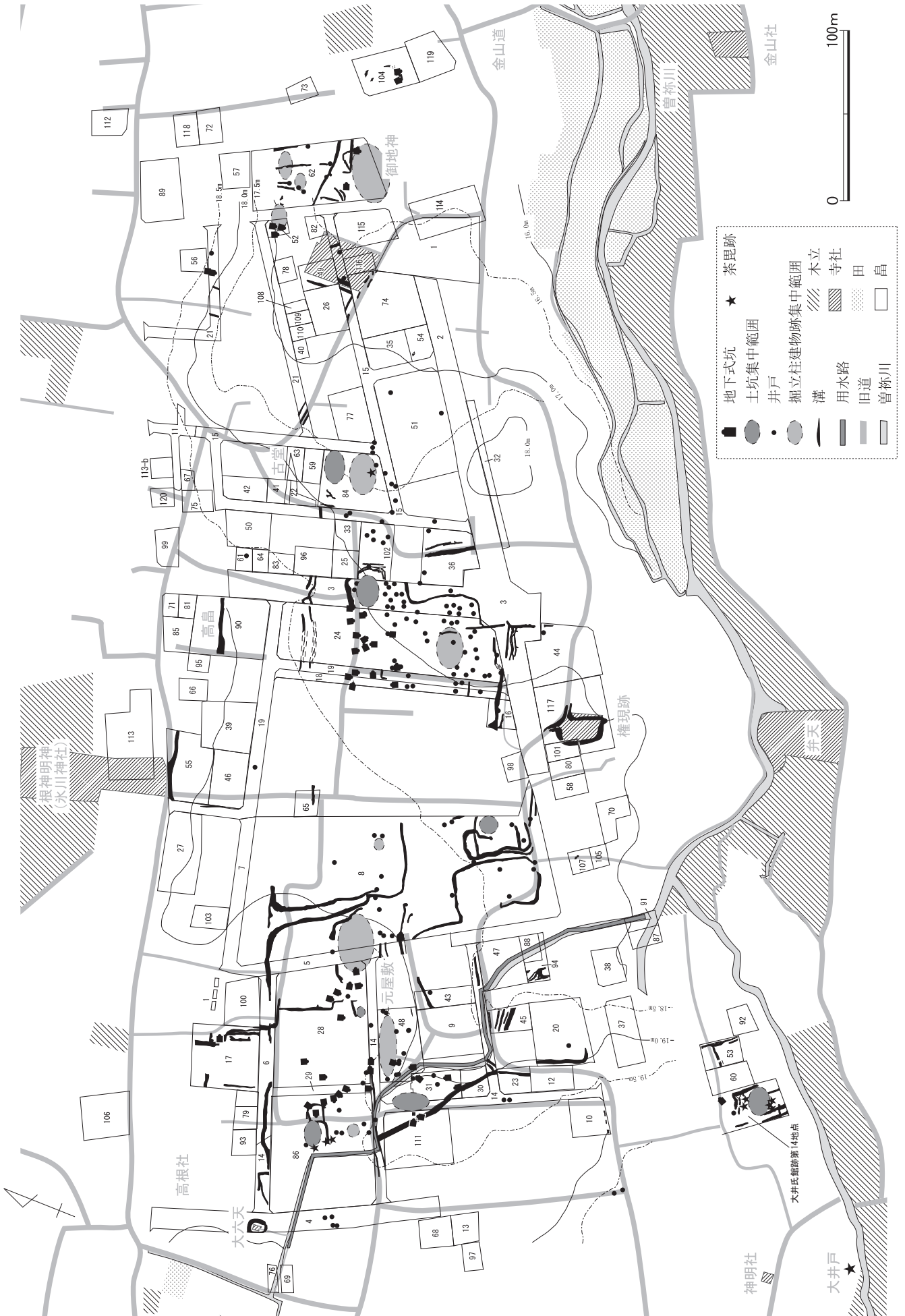
周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場および集落とみることが出来る。いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は旧石器時代から現代にかけて良好な生活・住環境であったことがわかる。

2011年3月現在127地点で調査を行ない、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘建柱建物・方形竅穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式墳・茶毘跡等を多数検出している。



第109図 本村遺跡の地形と調査区 (1/5,000)





第110図 本村遺跡遺構分布図 (1/3,000)



第 52 表 本村遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	報告書
1	市沢 210, 市沢 3-12 (弁天後 1)	1985.8.27 ~ 30	2,000	農地転用	遺構・遺物無し	なし
2	大井 280-1 他 (弁天後 2)	1987.9.1 ~ 12.4	2,500	土地区画整理	旧石器・縄文:集石、落とし穴、土坑	大調 7
3	大井 111.113-1.2, 114-1.115-1.282 (弁天後 3)	1988.9.5 ~ 1989.1.13	3,600	土地区画整理	縄文:落とし穴、土坑、中世:井戸、土坑、溝、掘立柱建物跡、地下式坑	大調 7
	大井 2-20(東原 1)	1978.7.27 ~ 8.5	40	町史編纂事業	遺構・遺物無し	大史 12
	大井 2-20(東原 2)	1979.4.29 ~ 5.6	80	町史編纂事業	地下式坑、ビット、土坑	大史 12
	大井 2-20(東原 3)	1980.12.25 ~ 1981.1.5	130	町史編纂事業	地下式坑、ビット、土坑	大史 12
4	大井 189,190,191,192 (東原 4)	1987.12.8 ~ 1988.1.29	1,872	土地区画整理	縄文:落とし穴、中世:井戸、第六天	大調 7
5	大井 143,144-2 (東原 5)	1989.1.13 ~ 2.3	1,600	土地区画整理	中世:井戸、土坑、溝、掘立柱建物跡	大調 7
6	大井 149,160,164-1 (東原 6)	1989.5.15 ~ 6.15	1,565	土地区画整理	旧石器礫群、縄文:落とし穴、中世:土坑、溝	大調 7
7	大井 134 の一部 (東原 7)	1989.8.2 ~ 31	500	土地区画整理	諸磯 C 式土器、堀之内式土器	大調 7
8	大井 134	1989.9.30 ~ 1991.7.11	13,161	小学校グラウンド	縄文:落とし穴、中世:土坑、溝、掘立柱建物跡	大調 4
9	大井 138	1989.12.4	200	ゲートボール場	盛土保存	東部 X
10	大井 172-1	1989.2.21 ~ 28	500	範囲確認調査	縄文:落とし穴	東部 X
11	大井 82-3	1990.2.7 ~ 22	370	範囲確認調査	旧河道の北側落ち込み	東部 X
12	大井 240,241-4	1990.5.8 ~ 9	340	個人住宅	土坑、常滑片	東部 XI
13	大井 180	1990.7.25 ~ 26	428	個人住宅	土坑	東部 XI
14	大井 151,152,154 ~ 157	1990.9.17 ~ 10.31	2,160	土地区画整理	井戸 2、土坑 36、溝 4	大調 7
15	大井 100,106 ~ 109,344	1990.10.1 ~ 11.30	2,820	土地区画整理	井戸 13、土坑 26、溝 6、掘立柱建物跡 1	大調 7
16	大井 110-2	1990.11.6 ~ 12.23	230	学童保育所	井戸 1、溝 2	東部 XI
17	大井 146,149	1991.1.7 ~ 3.7	1,270	事務所	旧石器:礫群、ブロック 6、縄文:穴 4、土坑 2、中世:櫛列、溝 2、地下式坑 1、段切	大調 3
18	大井 110	1991.4.1 ~ 6.11	252	フェンス工事	旧石器:礫群 2、中世:井戸 6、溝 4、地下式坑 5、土坑 15	大調 3
19	大井 110-2	1991.4.1 ~ 6.11	1,420	土地区画整理	旧石器:礫群 2、中世:井戸 6、溝 4、地下式坑 5、土坑 16	大調 7
20	大井 253-1	1991.5.21 ~ 6.14	1,150	個人住宅	井戸 2、土坑 3、溝 1	町内 I
21	大井 81-3,364	1991.6.17 ~ 8.31	1,772	土地区画整理	井戸 1、溝 6、地下式坑 2、土坑 6、柱穴列	大調 7
22	大井 108,109	1991.7.15 ~ 31	110	個人住宅	縄文土器、石器、陶器、磁器、ガラス、瓦、板碑、針金	町内 I
23	大井 169	1991.8.29 ~ 30	268	個人住宅	溝 1	町内 I
24	大井 110-2	1992.2.28 ~ 7.31	4,646	土地区画整理	旧石器:礫群、中世:井戸 24、地下式坑 10、掘立柱建物跡、溝 6、土坑 40	大調 7
25	大井 107	1992.5.21	370	倉庫建設	ビット	町内 II
26	大井 348,369,370 の一部	1992.10.4 ~ 17	576	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 II
27	大井 145	1992.10.27	1,101	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 II
28	大井 21-2, 137,143,150, 156,159,373-1	1992.12.1 ~ 1993.2.28	4,358	土地区画整理	縄文:土坑、中世:段切 2、井戸 3、地下式坑 7、掘立柱建物跡、土坑 3、近世:土坑墓 6	大調 7
29	大井 159	1993.5.20 ~ 6.4	330	土地区画整理	地下式坑 3、ビット、土坑	大調 7
30	大井 155	1994.7.28 ~ 8.30	411	個人住宅	溝 1、土坑 1、ビット 25	町内 III
31	大井 154,155	1994.8.4 ~	484	共同住宅	井戸 2、地下式坑 2、溝 1、土坑 14	大調 7
32	大井 351	1994.11.9 ~ 25	14,310	共同住宅	縄文:落とし穴	町内 III
33	大井 107,427-1	1994.11.11	337	駐車場造成	段切状遺構、土坑	町内 III
34	大井 533-5	1994.12.2 ~ 3	1,013	共同住宅	遺構・遺物無し	町内 III
35	大井 357-1	1994.4.4 ~ 12	452	共同住宅	遺構・遺物無し	町内 IV
36	大井 101-9,10	1994.9.2 ~ 10.31	890	共同住宅	旧石器:礫群 2、縄文:落とし穴、土坑、中世:井戸 2、溝 3、土坑 16、櫛列、ビット	大調 12
37	大井 251	1994.8.31 ~ 9.2	596	事務所	遺構・遺物無し	町内 IV
38	大井 253	1994.8.30 ~ 9.7	264	個人住宅	中世~近世の溝 1	町内 IV
39	大井 124-1	1994.11.9 ~ 16	805	共同住宅	遺構・遺物無し	町内 IV
40	大井 321-1	1994.11.22	131	宅地分譲	遺構・遺物無し	町内 IV
41	大井 325	1994.11.29 ~ 12.7	614	宅地分譲	近代のゴミ穴	大調 12
42	大井 326	1994.11.29 ~ 12.7		宅地分譲	近代のゴミ穴	大調 12
43	大井 153-2,3	1995.2.23 ~ 3.29	704	宅地開発	縄文:土坑、中世:井戸 1、土坑 3、溝 1、水路跡	大調 12
44	大井 287-1	1995.4.10 ~ 5.25	1,198	共同住宅	縄文:落とし穴 1、土坑 3、中世:井戸 1、溝 1、土坑 1、櫛列、ビット 34	大調 12
45	大井 253 他	1995.6.18 ~ 7.17	324	個人住宅	縄文:落とし穴 1、中世:溝 5、土坑 14、ビット 23	町内 V
46	大井 126	1995.6.1 ~ 7.28	744	共同住宅	中世:土坑 15、ビット 7、南側旧河床	大調 12
47	大井 253,255	1995.7.18 ~ 28	608	宅地分譲	土坑 2	町内 V
48	大井 140	1995.9.30 ~ 11.20	1,122	宅地分譲	中世:井戸 11、掘立柱建物跡 7、溝 2、地下式坑 3、土坑 14、櫛列 4、水路跡	大調 12
49	大井 333	1996.1.16 ~ 2.3	280	個人住宅	溝 1、土坑 5、ビット 51、北側埋没河川	町内 V
50	大井 106	1996.2.20 ~ 24	571	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 V
51	大井 350,360 他	1996.4.3 ~ 5.30	2,412	共同住宅	旧石器、縄文:落とし穴 8、集石土坑 2、中世:井戸 2、土坑 1、櫛列	大調 12
52	大井 328	1997.4.10 ~ 25	140	倉庫	地下式坑 3、掘立柱建物跡 1、土坑 6、ビット 24	町内 VI
53	大井 243-2, 244-1,289-1	1997.4.17 ~ 6.25	275	個人・分譲住宅	礫群 1、土坑 4、近世:溝 4	町内 VI
54	大井 3491-2	1997.4.11 ~ 17	207	個人住宅	溝	町内 VI
55	大井 125-1,38-2	1996.6.25 ~ 7.31	936	共同住宅	旧石器:石器群 2、礫群 5、中世:溝 1、土坑 26、櫛列、焼土跡、ビット 21	大調 12
56	大井 302-1	1996.7.24 ~ 8.7	243	個人住宅	地下式坑 1 (21 地点で確認の地下式坑)	大調 12
57	大井 331	1996.8.28 ~ 29	300	共同住宅	遺構・遺物無し	町内 VI

地点	所在地	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	報告書
58	大井 279,282	1996.12.24 ~ 1997.1.9	284	店舗併用住宅	土坑 1	町内 VI
59	大井 365-2	1997.2.12	331	共同住宅	遺構・遺物無し	町内 VI
60	大井 129	1997.6.2 ~ 14	320	分譲住宅	礫集中 5・ビット 3	町内 VII
61	大井 76	1997.6.4 ~ 14	134	個人住宅	井戸 1	町内 VII
62	大井 342	1997.10.21 ~ 1998.1.20	391	共同住宅	旧石器:礫群 1、縄文:落とし穴、中世:井戸 5、溝 16、土坑 98、櫛列 2、ビット、地下式坑 2、掘立柱建物跡、竪穴状遺構	大調 12
63	大井 380	1998.10.31 ~ 11.1	154	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 VII
64	市沢 2-8-2	1998.10.13 ~ 18	134	個人住宅	ビット 1	町内 VII
65	大井 110-2	1998.4.16 ~ 5.21	391	学校増築	旧石器:礫群 5、中世:溝 1、土坑 2、ビット 13	大調 12
66	大井 2-8-8,9	1999.2.7 ~ 16	179	駐車場造成	近世以降:溝、ビット	町内 VII
67	市沢 2-1-4	1999.3.25 ~ 26	140	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 VII
68	大井 182	1999.4.17 ~ 21	302	個人住宅	落とし穴 1	町内 VIII
69	大井 1-4-5	1999.8.24	116	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 VIII
70	大井 2-12-7	1999.9.4	354	個人住宅	縄文:ビット 1	町内 VIII
71	大井 2-7-3	1999.10.12	116	個人住宅	ビット	町内 VIII
72	市沢 2-12-12	1999.11.12	210	アスファルト駐車場	ビット	町内 VIII
73	市沢 2-14-1	1999.11.12	156	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 VIII
74	大井 108-2,3,6,7	1999.2.8 ~ 17	1,495	共同住宅	中世:溝 4、土坑 2、ビット 18、櫛列 1	町内 VIII
75	市沢 2-1-2	1999.1.18	224	個人住宅	遺構・遺物無し (地山は水成堆積した黑色土)	町内 VIII
76	大井 1-4-6	1999.5.15 ~ 18	118	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 IX
77	市沢 2-6-18,19	1999.7.27 ~ 8.2	538	駐車場造成	ビット 1	町内 IX
78	市沢 2-6-6	1999.9.20	158	個人住宅	ビット 1	町内 IX
79	大井 2-19-9	1999.10.22 ~ 30	642	個人住宅	集石土坑 1・ビット 2	町内 IX
80	大井 2-11-2	1999.10.26 ~ 30	204	個人住宅	縄文:土坑 2、ビット 1	町内 IX
81	大井 2-7-3	1999.12.8 ~ 10	117	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 IX
82	市沢 2-6-11	1999.12.9 ~ 10	171	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 IX
83	市沢 2-8-4	1999.12.9 ~ 13	181	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 IX
84	市沢 2-7-6	2000.2.2 ~ 3.6	1,310	共同住宅	縄文:落とし穴 1、中世:段切、井戸 2、奈良跡 1、掘立柱建物跡 10、土坑 26、溝 2、櫛列 2	大調 15
85	大井 2-7-2	2000.1.6	409	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 IX
86	大井 2-19-1 ~ 4.14	(2000.4.19 ~ 5.11) 2000.5.15 ~ 6.29	5,745	公衆浴場	古代:木炭 1、中世:掘立柱建物跡 1、段切 1、地下式坑 5、井戸 6、溝 13、奈良跡 3、土坑 97、櫛列 2、ビット 531	大調 15・町内 X
87	大井 2-12-2	2000.5.31 ~ 6.3	165	個人住宅	旧河川流域路、ビット 3	町内 X
88	大井 2-17-6	2000.6.27 ~ 7.3	154	個人住宅	用水路	町内 X
89	市沢 2-11-1,2	2000.7.19 ~ 8.1	326	分譲住宅	縄文:落とし穴 1、イモビツ	町内 X
90	大井 2-7-4,5	2000.8.31 ~ 9.22	540	店舗	縄文:集石 1、近世:溝	町内 X
91	大井 2-12-2	2000.9.25 ~ 27	37	個人住宅	旧河川流域路	町内 X
92	大井 2-14-11	2000.10.10	25	個人住宅	旧河川流域路	町内 X
93	大井 2-20-9	2001.2.16 ~ 21	283	社員寮	ビット	町内 X
94	大井 2-18-6	2001.2.20 ~ 3.6	87	個人住宅	中世:溝 6、坑 1、ビット 7、近世:溝 4	町内 X
95	大井 2-7-10	2001.3.6 ~ 9	41	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 X
96	市沢 2-8-5	2001.7.10 ~ 13	99	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 XI
97	大井 1-7-11	2001.7.11 ~ 12	41	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 XI
98	大井 2-9-3	2001.12.17 ~ 19	17	学童保育所	溝 2	町内 XI
99	市沢 2-1	2002.7.1 ~ 31	300	共同住宅	旧石器:礫群 4、石器集中 1、中世:土坑 4、櫛列 1	大調 15
100	大井 2-20-7	2002.8.20 ~ 26	463	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内 XII
101	大井 2-11-3	2002.9.30 ~ 10.4	217	店舗併用住宅	溝	町内 XII
102	市沢 2-8	2002.12.11 ~ 2003.2.10	1,264	共同住宅	縄文:落とし穴 7、古代以降:井戸 7、柱穴列 8、溝 4、土坑 11、道路状遺構	大調 15
103	大井 143	2003.2.13 ~ 18	237	個人住宅	土坑 1、ビット 1	町内 XII
104	市沢 3-4-1	2003.5.14 ~ 30	804	共同住宅	縄文:竪穴 4、中世:段切遺構、地下式坑 2、溝 3、土坑 4、ビット 36	町内 XII
105	大井 2-12-4	2003.6.4 ~ 6	131	個人住宅	土坑 1	町内 XII
106	大井 2-1-11	2003.7.2 ~ 8	135	分譲住宅	遺構・遺物無し	町内 XII
107	大井 2-12-4	2003.7.3 ~ 5	130	個人住宅	溝 1、土坑 1、ビット 1	町内 XII
108	市沢 2-6-25	2003.7.17 ~ 23	109	個人住宅	ビット 5	町内 XII
109	市沢 2-6-26	2003.7.17 ~ 23	114	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 XII
110	市沢 2-6-27	2003.10.16 ~ 18	101	個人住宅	遺構・遺物無し	町内 XII
111	大井 2-16-2	2003.11.21 ~ 12.11	1,033	分譲住宅	縄文:竪穴 1、風倒木痕 2、中世:溝 1、地下式坑 2、土坑 1、木炭 1、不明遺構 1、ビット 10	大調 21
112	市沢 1-17-16	2004.7.27	289	共同住宅	遺構・遺物無し	町内 XII
113	大井 2-4-8	2002.8.22	1,051	駐車場造成	遺構・遺物無し	町内 XII
113a	市沢 2-2-3	2005.5.9 ~ 10	27	個人住宅	櫛列の一部	市内 2
114	市沢 3-2-1,12	2005.10.21 ~ 28	129	分譲住宅	遺構・遺物無し	市内 2
115	市沢 2-10-6	2005.11.21 ~ 2006.1.31	170	分譲住宅	中世:掘立柱建物跡、井戸、土坑、ビット、溝	市内 2
116	市沢 2-10-4 の一部	2006.1.17	9	個人住宅	遺構・遺物無し	市内 2
117	大井 2-11-4,6	2006.3.22 ~ 4.14	1,487	店舗	溝・土坑・櫛列	市内 2
118	市沢 2-12-13	2006.5.24 ~ 25	80	個人住宅	縄文:落とし穴 1	市内 3
119	市沢 3-2-2	2008.6.4 ~ 25	559	共同住宅	中世:地下式坑 2、土坑 16、ビット 58	市内 5
120						

## Ⅱ 本村遺跡第 119 地点

### (1) 調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2008 年 3 月 24 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南東端に立地し、隣接地では集石や地下式坑、溝等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 5 月 27 日から同年 6 月 4 日まで行なった。幅約 2 m のトレンチを 5 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土の遺構プラン多数を確認したため、遺構の性格を確認するため一部調査したところ、土坑や地下式坑であった。遺構確認面まで 150 cm あるが、工事による掘削が遺構に影響を与える為、本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

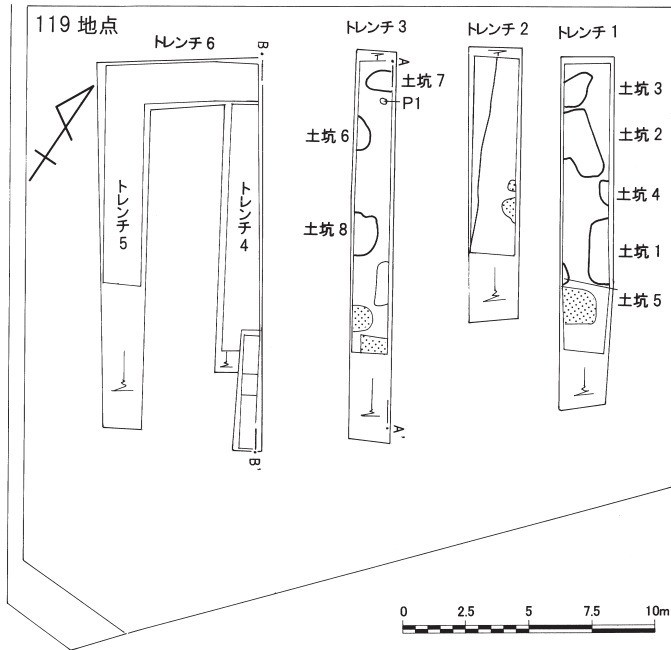
本調査は原因者と発掘調査に係わる委託契約を締結した上で 2008 年 6 月 4 日から同年 6 月 19 日まで、ふじみ野市教育委員会が行ない、中世以降の地下式坑 2 基、土坑 14 基、ピット 58 基を検出した。

(市内遺跡群 5「本村遺跡第 119 地点の本調査」参照)

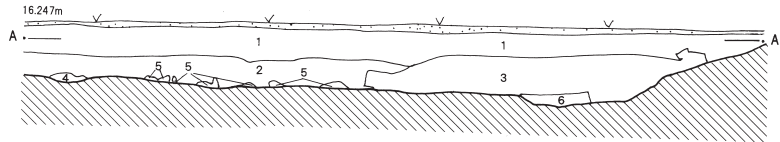
## Ⅲ 本村遺跡第 120 地点

調査は分譲住宅の建設に伴うもので、原因者より 2008 年 12 月 12 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央北側に立地し、隣接地では旧石器時代の石器群等を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2008 年 12 月 18 日に幅約 1.5 m のトレンチを 1 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土の遺構プラン多数を確認したため、遺構の性格を確認するため一部調査したところ、溝状遺構（イモビツ）や柱穴であった。確認面まで 105cm を測る。建築による遺構への影響がないため工事立会いとし、写真撮影・平板測量による全測図・遺構図面作成等記録保存を行ない、調査を終了した。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。



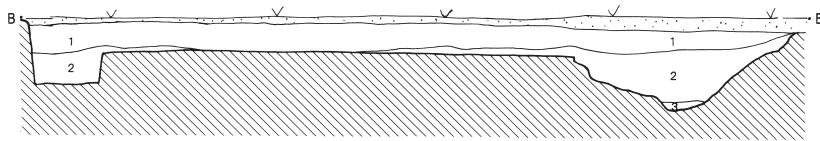
トレンチ 3



トレンチ 3

- 1. 黒色土 盛土 硬く締る、ローム粒多量に含む、天地返し
- 2. 黒色土 盛土 締り有、天地返し
- 3. 盛土 ローム 天地返し
- 4. 褐色土 締り有、ローム粒(1~5mm)、ローム塊(1cm大)多量に含む、土坑の土、やや新しい
- 5. ローム地山 ハードローム
- 6. 茶褐色土 盛土 締り有、天地返し

トレンチ 4

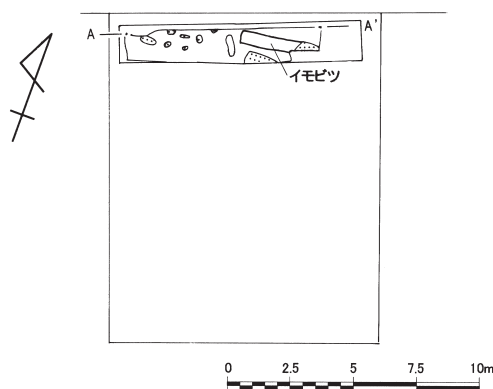


トレンチ 4

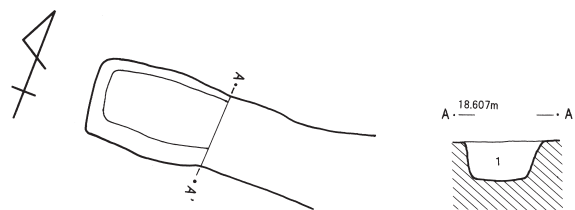
- 1. 黒褐色土 盛土 締り有、硬い、天地返し
- 2. 黄褐色土 盛土 締り有、硬い、ローム、天地返し



120 地点



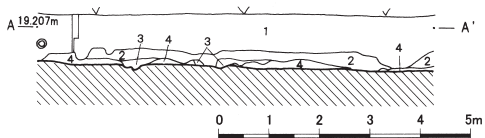
イモビツ



- 1. 盛土 ローム、ガラ主体
- 2. 耕作土(元表土) 暗褐色土 締り有、ローム粒(1~2mm)少量、炭極少量
- 3. 黒褐色土 締り弱、ローム粒(2~5mm)多量、茶褐色土(地山)塊少量、耕作の鉄跡
- 4. 地山 締り有、茶褐色ローム

イモビツ

- 1. 黒褐色土 締り弱、ローム塊(10~50mm大)多量



第111図 本村遺跡第119・120地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)、溝状遺構(1/60)



## 第 16 章 東台遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみの駅の南約 1 km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は 24 ~ 26 m で砂川堀との比高差は約 5 m で急崖をなし、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

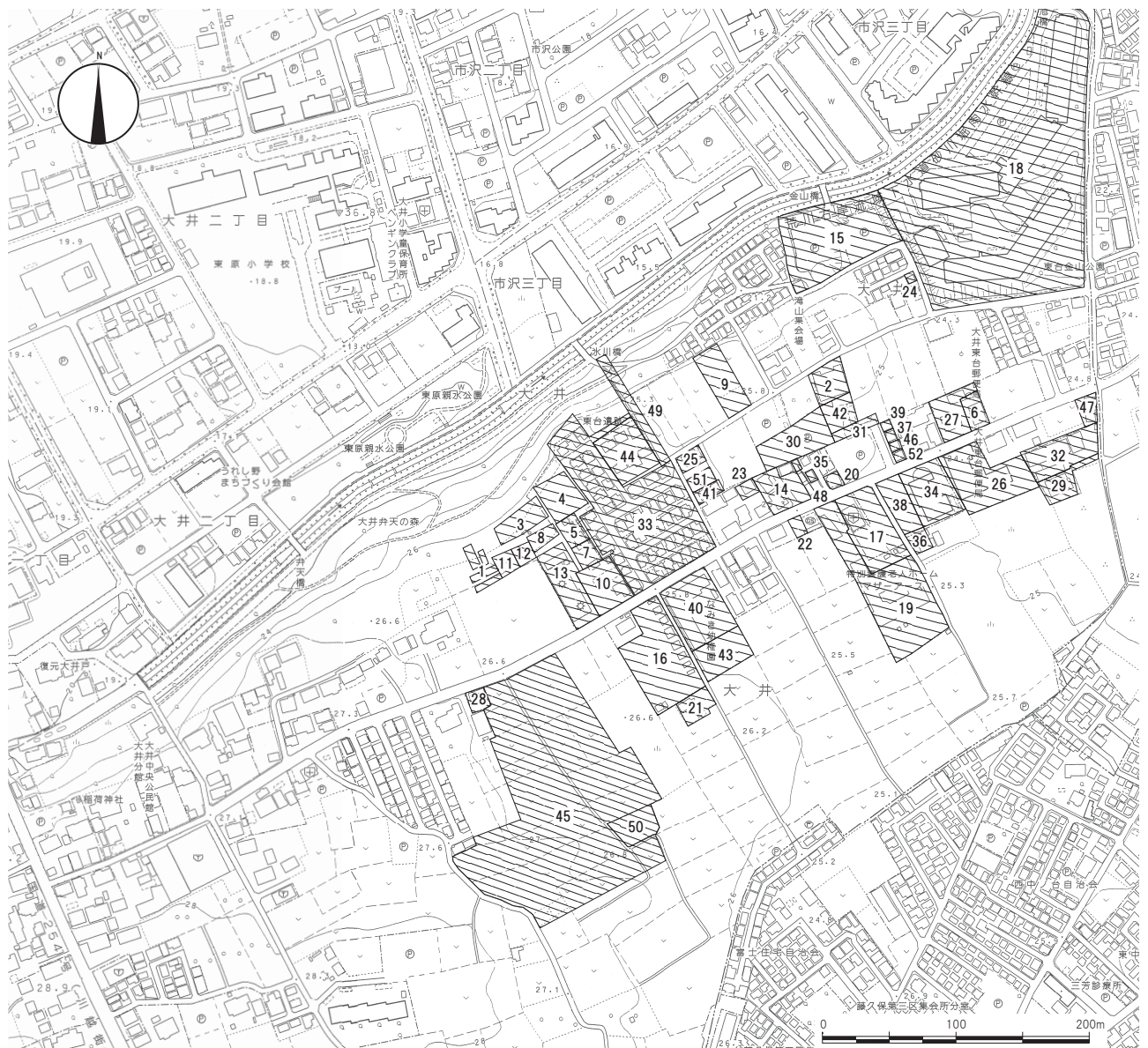
遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西 700 m、南北 250 m、遺跡面積約 170,000 m<sup>2</sup>、市内で最大規模の遺跡であり、約 17% の 30,000 m<sup>2</sup> を調査している。

旧石器時代の調査では、第 18 地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いに VI・VII 層～IV 層下部のナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。縄文時代の調査では早期

1 軒、後期 7 軒、中期 146 軒、不明 24 軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている（2010 年 3 月現在）。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第 15・18 地点で八世紀後半の製鉄炉や炭焼き窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約 50 m に大井戸上遺跡、西約 300 m に旧石器時代の西台遺跡が位置する。また砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代～近世の本村遺跡が位置する。今後旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡との関係が注目される。



第 112 図 東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)





第113図 東台遺跡遺構分布図 (1/2,000)

第53表 東台遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	大井東台	1981.		町史編纂事業	遺構無し、縄文中期土器	
2	大井東台 640-7	1981.12.14 ~ 1982.2.13	667	宅地造成	縄文中期住居跡 12、旧石器時代石器	東部遺跡群Ⅲ
3	大井東台 672	1982.5.19 ~ 6.15	666	宅地造成	炉穴 7、土坑 2、柱穴群	東部遺跡群Ⅳ
4	大井東台 671	1982.6.17 ~ 11.18	587	農地転用	旧石器ユニット、縄文中期住居跡 3、後期住居跡 1、集石 4、土坑 14、溝	東部遺跡群Ⅳ
5	大井東台	1983.7.25 ~ 8.9	195	町史編纂事業	縄文中期住居跡 2、土坑 1	東台遺跡
6	大井東台	1984.1.9 ~ 1.12		宅地造成	縄文中期住居跡 1	
7	大井東台 670-2	1984.5.15 ~ 6.13		共同住宅	縄文中期住居跡 4、後期住居跡 1	
8	大井東台 672	1984.8.18 ~ 9.21	345	町史編纂事業	縄文中期住居跡 1、炉穴 2、土坑 14	東台遺跡Ⅱ
9	大井東台	1984.10.25 ~ 1985.2.15	1,000	駐車場造成	旧石器礫群、縄文中期住居跡 22、後期住居跡 1、炉穴、ピット群	大井町史資料Ⅰ
10	大井東台 670-1	1985.10.1 ~ 11.25	896	住宅建設	縄文中期住居跡 5、土坑 5	東部遺跡群Ⅵ
11	大井東台 673	1986.1.14 ~ 3.20	660	宅地造成	縄文中期住居跡 2、集石土坑 3、土坑 1、ピット	東部遺跡群Ⅵ
12	大井東台 673	1987.5.6 ~ 6.26	330	転地返し	縄文早期住居跡 1、土坑 18、平安時代住居跡 2、溝 1	東部遺跡群Ⅶ
13	大井東台 670-6	1988.1.14 ~ 2.27	971	倉庫建設	縄文中期住居跡 9、集石 1、土坑 9、ピット 20	東部遺跡群Ⅷ
14	大井東台 649-16 他	1988.1.27 ~ 2.24	735	住宅建設	縄文中期住居跡 12、屋外埋土 1、集石土坑 1、土坑 8、ピット 38	東部遺跡群Ⅸ
15	大井市沢 577-1 他	(1989.10.17 ~ 11.10) 1989.11.17 ~ 1990.8.1	700	住宅建設	落とし穴 1、木炭窯 1、粘土採掘坑 2、奈良・平安土器	東部遺跡群Ⅹ
16	大井 713-4.5	(1990.8.1 ~ 4)	3,048	資材置場設置	縄文中期住居跡 1、土坑 1	東部遺跡群ⅩⅠ
17	大井 621-1	(1990.9.5 ~ 12) 1990.10.9 ~ 12.27	1,470	診療所建設	縄文中期住居跡 8、土坑 30、ピット 94、柵列	東部遺跡群ⅩⅠ
18	大井 529-1.588	(1991.3.11 ~ 5.20) 1992.2.24 ~ 1994.7.5	20,000	共同住宅	旧石器礫群、石器集中 17、落とし穴 1、整形製鉄炉 7、木炭窯 9、採掘坑 4、土坑 9、溝、柵列、道路跡、平安土器	東台製鉄遺跡
19	大井 621	(1992.5.31 ~ 6.7)	4,489	特養新設	縄文中期住居跡 8	町内遺跡群Ⅰ
20	大井 649-27	1992.1.30	5	個人住宅	縄文中期住居跡 1	町内遺跡群Ⅲ
21	大井 713-11.12	1992.3.7 ~ 11	299	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅲ
22	大井 651-6	(1994.5.10 ~ 11) 1994.5.30 ~ 7.30	146	店舗建設	縄文中期住居跡 6、土坑 1	調査会報告 13 集
23	大井 649-12.13	(1995.6.23 ~ 27)	285	個人住宅	縄文中期住居跡 2	町内遺跡群Ⅳ
24	大井 634-20	(1995.7.6)	58	個人住宅	縄文時代集石、土坑	町内遺跡群Ⅳ
25	大井 648-13.14	1995.10.22 ~ 12.16	296	個人住宅	縄文中期住居跡 5、後期住居跡 1、袋状土坑 1、土坑 10、ピット 6	町内遺跡群Ⅳ
26	大井東台 601-1.4.5	(1996.11.6 ~ 18) 1997.1.14 ~ 3.18	2,248	共同住宅	縄文中期住居跡 1、土坑 3、落とし穴 1、ピット 24	調査会報告 13 集
27	大井 600-1	(1997.2.19) 1997.2.19 ~ 3.14	965	個人住宅	縄文中期住居跡 1、炉穴 1、土坑 1、落とし穴 1、ピット 44	町内遺跡群Ⅵ
28	大井東台 710-4	(1997.3.17 ~ 19)	231	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅵ
29	大井東台 606-3	(1998.2.27 ~ 3.3) 1998.3.4 ~ 5	500	個人住宅	縄文早期炉穴 9、ピット 2	町内遺跡群Ⅶ
30	大井 640-1	(1998.11.4 ~ 12)	1,330	駐車場	縄文中期住居跡 1、屋外炉、ピット	町内遺跡群Ⅷ
31	大井 630-3.640-8	(1999.5.7 ~ 21)	186	道路築造	縄文中期住居跡 2	町内遺跡群Ⅸ
32	大井 603-1	(2000.8.4 ~ 9)	92	製茶工場	ピット 3	町内遺跡群Ⅹ
33	大井 662-1	(2000.8.4 ~ 8) 2000.8.10 ~ 2001.1.25	7,076	分譲住宅	石器群 4、礫群 4、縄文中期住居跡 30、後期住居跡 4、掘立柱建物跡 1、炉穴 14、集石土坑 4、他	町内遺跡群Ⅹ
34	大井東台 624-2	(2002.3.12 ~ 25) 2002.3.26 ~ 5.8	1,414	共同住宅	縄文中期住居跡 5、土坑 11、ピット 16	町内遺跡群ⅩⅠ
35	大井東台 649-31	(2001.9.6 ~ 8)	48	個人住宅	縄文中期住居跡 1	町内遺跡群ⅩⅠ
36	大井東台 614	(2001.10.15 ~ 11.2)	272	倉庫建設	ピット 5、土器片	町内遺跡群ⅩⅠ
37	大井東台 626-12	2001.10.12 ~ 11.5	100	個人住宅	縄文中期住居跡 2、ピット 1	町内遺跡群ⅩⅠ
38	大井東台 614-3	(2002.1.28 ~ 2.15)	787	駐車場	縄文中期住居跡 1、竪穴状遺構 1、集石土坑 2、土坑 2、ピット 2	町内遺跡群ⅩⅠ
39	大井 626-8	(2002.6.3 ~ 20)	100	個人住宅	ピット 3、縄文土器片、石屑	町内遺跡群ⅩⅡ
40	大井 661	(2003.10.6 ~ 11.4)	1,875	幼稚園	土坑 6、ピット 10、柵列	町内遺跡群ⅩⅡ
41	大井東台 648-4	(2004.5.11 ~ 14)	182	個人住宅	縄文中期住居跡 3、集石 1、土坑 1、屋外ピット 1	町内遺跡群ⅩⅡ
42	大井 640-4	(2004.9.7 ~ 17)	515	教会建築	縄文中期住居跡 2、落とし穴 1、土坑 3、ピット 20	町内遺跡群ⅩⅡ
43	大井東台 661-6	(2005.1.13)	964	駐車場	ピット 4	町内遺跡群ⅩⅡ
44	大井東台 664-15	2005.12.8 ~ 28	200	個人住宅	縄文中期住居跡 1、後期住居跡 2、土坑 5、ピット 9	市内遺跡群 2
45	大井東台 710-1 711-1,717-1,717-2	(2006.5.31 ~ 9.1) 2006.9.8 ~ 2007.3.7	7,971	小学校建設	縄文中期住居跡 1、後期住居 2、土坑 5、ピット 10	市内遺跡群 3
46	大井東台 626-11	(2006.9.4 ~ 6) 2006.9.15 ~ 28	100	個人住宅	縄文中期住居跡 2、集石 2、土坑 1	市内遺跡群 3
47	大井東台 602-4.602-5	(2006.9.19 ~ 20)	320	個人住宅	遺構・遺物無し	市内遺跡群 3
48	大井東台 649-21	(2007.1.16 ~ 26)	60	個人住宅	縄文中期住居跡 3	市内遺跡群 3
49	大井東台 646、647-1、 665	(2008.1.28 ~ 30、2.4 ~ 19) 2008.1.31 ~ 2.1	174	通学路築造	縄文時代中期～後期住居跡 1 検出・5 を確認、屋外埋土 1、粘土採掘坑 1、土坑 1、ピット 1、溝 6	市内遺跡群 4
50	大井東台 716-1 の一部	2008.7.14 ~ 22	646	東台小学校 プール	遺構・遺物無し	市内遺跡群 6
51	大井東台 648-2	(2009.3.10 ~ 18) 2009.3.18 ~ 5.7	296	個人住宅	縄文時代中期住居跡 6、土坑 4、ピット 14、縄文土器、石器	市内遺跡群 6
52	大井東台 626-8.14	2009.5.12 ~ 19	100	分譲住宅	縄文時代中期住居跡 2 確認	未報告

第 54 表 東台遺跡住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査率	平面形 ( )は推定	規模	炉			埋裏	拡張	壁溝	備考	時期	文献	
				地床	埋設	石囲							
1	80%	(円形)	(550×?)						有	曾利系多い	E I 新	東Ⅲ	
2	完掘	(円形)	(400)							床まで削平	E I 古	東Ⅲ	
3	80%	隅丸方形	(?×510)							大木系有り	E I 新古相	東Ⅲ	
4	完掘	隅丸方形	700×750	②						拡張	E II	東Ⅲ	
5	完掘	円形	460×470							床まで削平	E II	東Ⅲ	
6	完掘	円形	420×430							床削平	E II	東Ⅲ	
7	完掘	円形	510×525×25	②						曾利、連弧多い	E I 古	東Ⅲ	
8	完掘	隅丸方形	530×(465)×25						有	7号に切られる	E I 新	東Ⅲ	
9	50%	円形	約500							床削られる	E II	東Ⅲ	
10	完掘	円形	410×400							掘乱	E I 新	東Ⅲ	
11	完掘	円形	410×420								E II	東Ⅲ	
12	20%	円形									E II	東Ⅲ	
13	完掘	円形	300×270								E III	資	
14	完掘	円形	430×418								E I 新	資	
15	完掘	円形	514×520							連弧文多い	E I 古	資	
16	完掘	長円形	525×424							15号を切り、17号に切られる	E II	資	
17	完掘	長円形、円形	478×422						有	曾利系多い	E II 新	資	
18	90%	円形	523	②					有	19号を切る	E I 新	資	
19	完掘	隅丸台	517						有	曾利系多い	E I 古	資	
20	完掘	長円形	658×583							21号を切る	E I 中	資	
21	完掘	隅丸台形	482×462								E I 新	資	
22	55%	円形?	切×292						有	23号を切る	E II	資	
23	80%	長円形	622×約470						有	曾利系多い	勝Ⅲ末	東Ⅲ	
24	完掘	長円形	東は区域外								E II 新	資	
25	完掘	長円形?	西南掘乱							24号に切られる	E II	資	
26											勝	資	
27		長円形	部分発掘								時期不明	資	
28	完掘	長円形	473×450								E II 新	資	
29	完掘	?	切×563	②					有	28号に切られる	E I 新	資	
30	完掘	長円形?	切×532							31号に切られる	E II	資	
31	完掘	長円形	618×472							曾利系多い	勝Ⅲ新	資	
32	完掘	長円形	573×525							34号と複合	E II	資	
33	完掘	楕円形	?×520						③	32号に切られる	称古	資	
34	完掘	隅丸方形	720×628							32号と複合	E I	資	
35	90%	長円形	510×540								E II 古	資	
36	35%	円形	西半部不明							楕円形?	E IV	資	
37	完掘	長円形	530×420×15						有	入口部に段	勝Ⅲ古	東Ⅲ	
38	40%	隅丸方形	南半部未掘							39号を切る	E I 新	東Ⅲ	
39	15%	隅丸方形	大部分未掘						不明		E II	東Ⅲ	
40	35%	隅丸方形	南半部未掘								E I 新	東Ⅲ	
41	完掘	楕円形	480×390×20							44号に切られる	勝Ⅲ新	東Ⅲ	
42	45%	不明	南部・東部未掘								E I 新	東Ⅲ	
43	60%	長円形	650×600×60	②					有		E II	東Ⅲ	
44	完掘	隅丸方形	550×(500)×20							41・47号を切る	E I 新	東Ⅲ	
45	完掘	長楕円形	740×600×25	③					有	44号と接する、 2段以上拡張	E II	東Ⅲ	
46	完掘	楕円形	400×380×10							45号に切られる	E	東Ⅲ	
47	30%	円形	300×未掘×25							44号に切られる	阿Ⅱ	東Ⅲ	
48	20%	隅丸方形	南大部分未掘								E I 新	東Ⅲ	
49	完掘	円形	560×550×30								E II	東Ⅲ	
50	完掘	長円形	420×380×30								阿Ⅱ	東Ⅲ	
51	完掘	円形	330×310×30							柱穴なし	阿Ⅱ	東Ⅲ	
52	完掘	円形	495×490×50						有		勝Ⅲ	東Ⅲ	
53	完掘	円形	340×310×30							8号土坑で壊れる	勝Ⅲ	東Ⅲ	
54	40%	円形	?×460×65						有		E I 古	東Ⅲ	
55	70%	(円形)	半掘550						有		阿Ⅱ	東Ⅲ	
56	60%	(円形)	(480)×半掘								E III	東Ⅲ	
57	完掘	円形	600×600						②		E II	東Ⅲ	
58	完掘	楕円形	520×420								勝Ⅲ末	東Ⅲ	
59	50%	(楕円形)	560×半掘								E I 新	東Ⅲ	
60	完掘	円形	520×510						有		E I 新	東Ⅲ	
61	50%	(円形)	1/2調査								E II	東Ⅲ	
62	25%	(楕円形)	1/4調査							北大部分未発掘	E I 古	東Ⅲ	
63	45%		一部調査						未掘	②	有	E I 古	東Ⅲ
64	70%	(楕円形)	453×(408)×22							65、67住と複合	E III	調13集	
65	55%	(楕円形)	502×不明×22						有	64住と複合、東半未発掘	E I 古	調13集	
66	完掘	(楕円形)	(668×560)×48								E I 新古相	調13集	
67	完掘	隅丸方形	667×590×72						有	拡張、64住と複合	E I 古	調13集	
68	20%	(楕円形)	(480)×不明×47							北大部分未発掘	不明	調13集	
69	75%	(楕円形)	(580)×不明×50						有	拡張、南部分未発掘	E II	調13集	
70	90%	円形	570×(510)×30						有		E II 中相	町Ⅳ	
71	完掘	(楕円形)	440×410×16								勝Ⅲ新	町Ⅳ	
72	15%	隅丸(長)方形	(480)×?							西大部分未発掘	E I 新	町Ⅳ	
73	完掘	楕円形	606×550×30						②	伏裏有、75住と重なる	E II 中相	町Ⅳ	
74	完掘	楕円形	612×514×40						有		勝Ⅲ古相	町Ⅳ	
75	70%	楕円形	(590)×40							73住・8号土坑と重なる	堀	町Ⅳ	
76	完掘	楕円形	391×366								E II 新	調13集	
77	完掘	隅丸六角形	595×480×24								E II	町Ⅳ	
78	40%	不明	不明							床まで削平	E II 新相	町Ⅳ	
79	40%	不明	不明							未掘	不明	町Ⅳ	
80	20%	不明	不明							未掘	不明	町Ⅳ	
81	40%	不明	不明								不明	町Ⅳ	
82	65%	(円形)	(546)×?						有	異系統土器多し	E I 新古相	町Ⅳ	
83	30%	(楕円形)	410×310×35							覆土内に土坑	勝Ⅲ	町Ⅳ、市3	
84	30%	(楕円形)	不明(南大部分未掘)							掘乱で炉のみ検出	不明	町Ⅳ	
85	完掘	楕円形	530×476								不明	調17集	
86	完掘	円形	464×492							曾利多し	E II 古	調17集	
87	完掘	楕円形	415×552						②		田新、EIV	調17集	
88	完掘	不明	(465×380)							床削平	E III	調17集	
89	完掘	不明	(335×315)							削平	阿Ⅱ 古	調17集	
90	30%	不明	(190×60×10)							未掘	町Ⅳ	調17集	

住居番号	調査率	平面形 ( )は推定	規模	炉			埋裏	拡張	壁溝	備考	時期	文献			
				地床	埋設	石囲									
91	25%	(円形)	(200×170)									床面まで削平され、92住に切られる	町Ⅳ		
92	25%	(円形)	(330×260×20)										勝Ⅲ末	町Ⅳ	
93		不明	(700)										床面まで削平される	町Ⅳ	
94	33%	隅丸方形	(370×180×10)											町Ⅳ	
95	50%	(円形)	(504×423)										96・97住と複合	市2	
96		円形	(560×555)										95・97住と複合	市2	
97		不明											95・96住と複合	市2	
98	60%	(隅丸方形)	(?×610)×35						△	有			覆土内に集石	E II 新	市3
99	10%	(楕円形)	(?)×18							未掘			170住より新、100住より古	E II	市3
100	25%	(楕円形)	(?)×12							未掘			99・170住を理める	E II	市3
101	完掘	円形	695×600											E I 新	東Ⅳ
102	完掘	円形	480×460											E II	東Ⅳ
103	完掘	隅丸台形	700×615	②									有孔鍍付土器多い	E I 新	東Ⅳ
104	50%	円形	500×500											E I 新古相	東Ⅳ
105	完掘	楕円形	460×430										曾利系多い	E I 新	史30集
106	完掘	円形	450×410											E II 古	史30集
107	完掘	楕円形	380×390	②										E I 新	資
108	完掘	長円形	395×325											E IV	資
109		楕円形													
110	完掘	円形	406×406										北関東系有り	E I 新	資
111	完掘	隅丸長方形	486×437	②										E I 新	資
112	完掘	円形	約420×408											E II	資
113	完掘	隅丸台形	450×460										曾利系多い	E I 新	東台Ⅱ
114	完掘	長円形	510×450											勝Ⅲ末	東Ⅳ
115	完掘	長円形	545×495											勝Ⅲ末～E I	東Ⅳ
116	完掘	長円形	575×520											E I 末	東Ⅳ
117	完掘	楕円形?	(640)×590							有			入口有り	E IV	東Ⅳ
118	80%	隅丸方形	450×410～420							有				E I	東Ⅳ、Ⅶ
119	完掘	円形	770×750										120号住居と重複	E II	東Ⅳ、Ⅶ
120	完掘	楕円形	390×(750)	土器・石囲?	②				有				溝敷、埋設?	E IV	東Ⅳ、Ⅶ
121	完掘	長方形	530×430						有				北カマド・東カマド	平安	東Ⅳ
122	完掘	方形	400×370										東カマド、墨土器 新 資成	平安	東Ⅳ
123	完掘	円形	365×350							有				茅山下	東Ⅳ
124	完掘	正円形	465×455×7											E II	東Ⅳ
125	完掘	楕円形	420×370											阿Ⅱ	東Ⅳ
126	完掘	楕円形	465×420											E I 新	東Ⅳ
127	完掘	長楕円形	565×485×10	②						有				E I 新	東Ⅳ
128	完掘	隅丸方形	510×480							有			129住に切られる	E I 新	東Ⅳ
129	完掘	隅丸方形	560×530										128住を切る	E II	東Ⅳ
130	70%	楕円形	540×510×20							有				E I 新	東Ⅳ
131	完掘	不整形	600×580											E I	東Ⅳ
132	完掘	隅丸方形	494×(480)			</									



II 東台遺跡第 50 地点

(1) 調査の概要

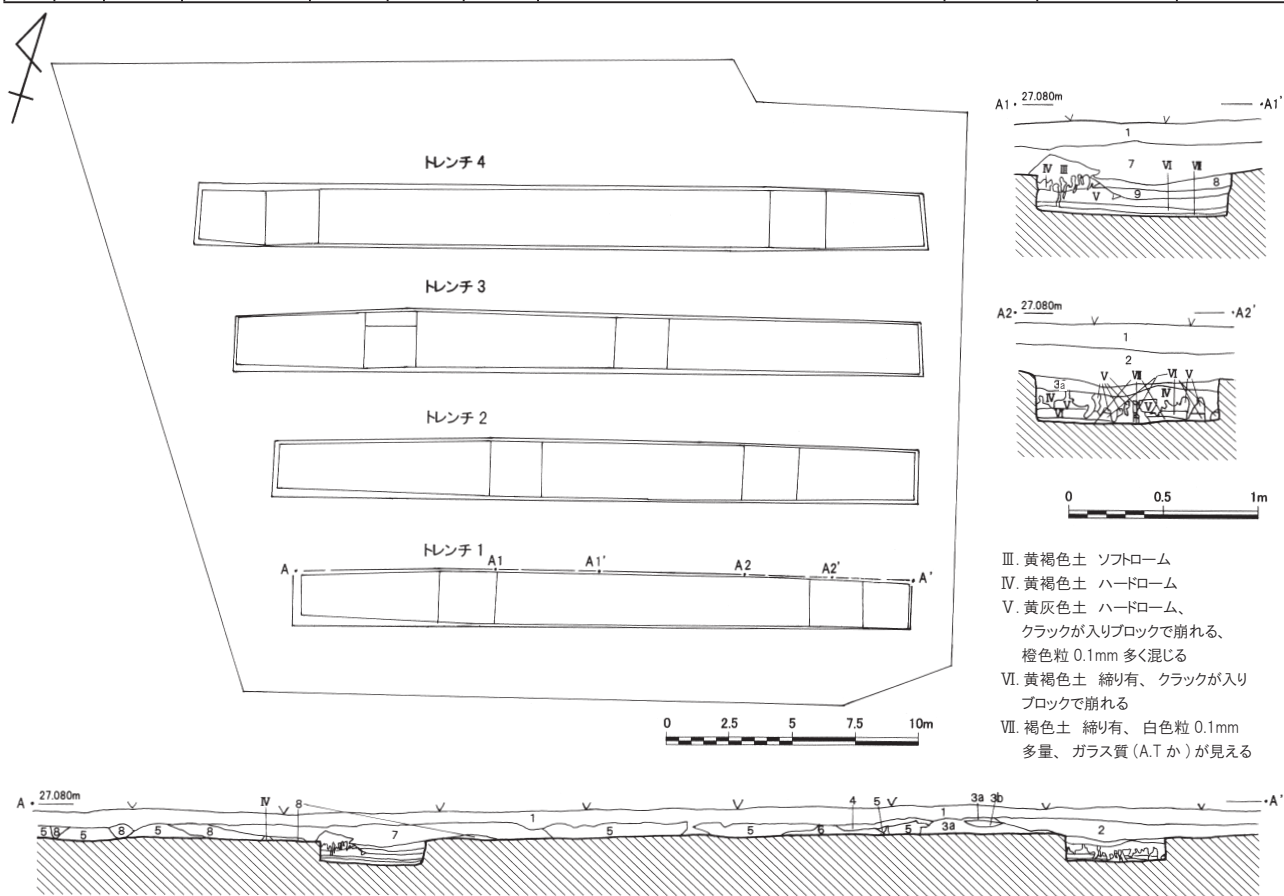
調査は小学校建設に伴うもので、ふじみ野市長より 2008 年 4 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西端に位置しているため、東台小学校建設準備室と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

試掘調査は 2008 年 7 月 14 日から同年 7 月 22 日

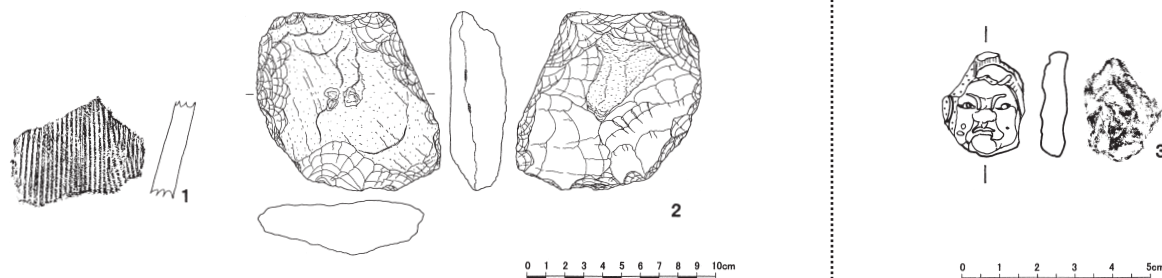
まで行なった。幅約 2 m のトレンチを 4 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかった。引き続き旧石器時代の確認調査を行なうため 2×2 m のグリッドを 8ヶ所設定し、ローム層を深掘りしていったが遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認面まで 50cm を測る。写真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

第 55 表 東台遺跡第 50 地点出土遺物観察表 (単位 cm)

図版番号	掲載番号	遺構名	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
114 図	1	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 条線を縦に施文 / 砂粒少量含む / 注No.H		縄文中期後半	胴部欠
	2	遺構外	石器・打製石斧	(9.40)	9.73	2.98	重量 350.97g / 両極敲打技法 / 注No.H	緑泥片岩	縄文時代	基部欠
	3	遺構外	土製品・泥面子	2.8	2.2	0.6	型押成形 / 阿修羅?。裏面に指頭圧痕 / 橙色 / 砂粒少量含む / 注No.H		1790 年代～1890 年代	一部欠



- 1. 耕作土 黒褐色土 締り弱、ローム粒多く混じる
- 2. 耕作土 黒褐色土 締り弱 (1 層より強)、ローム粒 1 層より多く混じる
- 3a. 黒色土 焼土混、最近のゴミ跡?
- 3b. 褐色土 締り弱
- 4. 耕作土 黒褐色土 締り強
- 5. 耕作土 黄褐色土 締り強、黒色土混
- 6. 耕作土 黒褐色土 締り弱、ローム粒 10 ~ 20mm 多く混じる
- 7. 耕作土 黒褐色土 締り弱、6 層より多くローム粒混じる
- 8. 耕作土 黒褐色土 締り弱、ローム塊少量混じる
- 9. 耕作土 黒褐色土 締り弱、1 ~ 2mm ローム粒多く混じる



第 114 図 東台遺跡第 50 地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/150・1/80)、出土遺物 (1/4・1/2)



### Ⅲ 東台遺跡第51地点

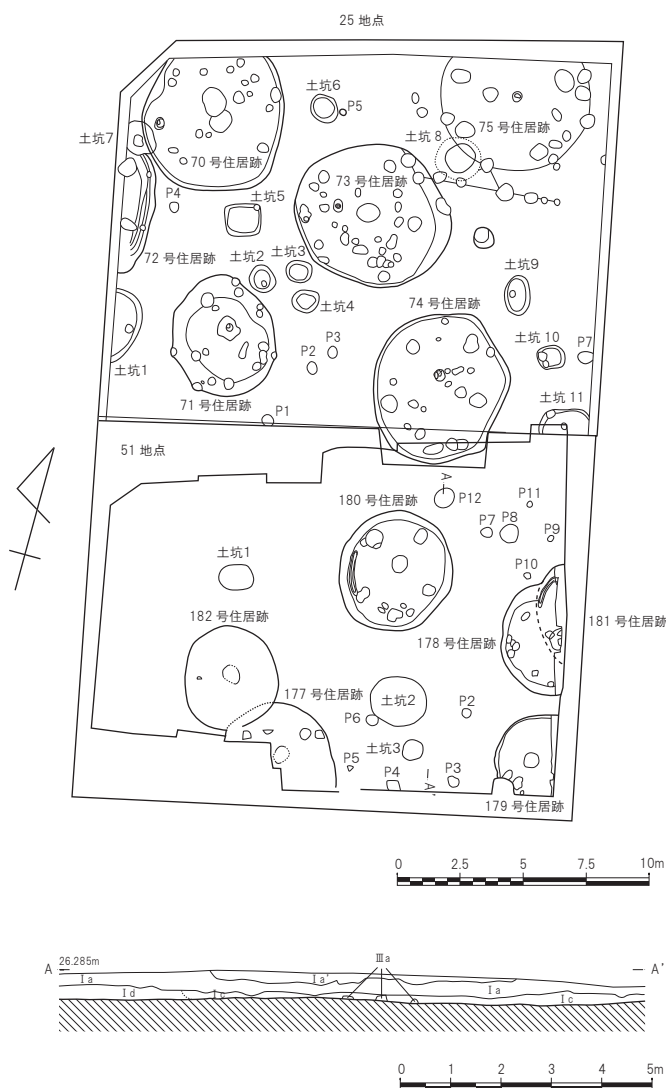
#### (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より2009年2月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央に立地し、隣接地では縄文時代の住居跡等多数検出しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2009年3月10日から同年3月18日まで行なった。幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なっ

たところ、縄文時代の遺構・遺物を確認した。遺構確認面まで40～50cmと浅く、工事による掘削が遺構に影響を与える為、住宅建設部分については本調査を行なうこととなった。なお、旧石器時代の確認調査はしていない。

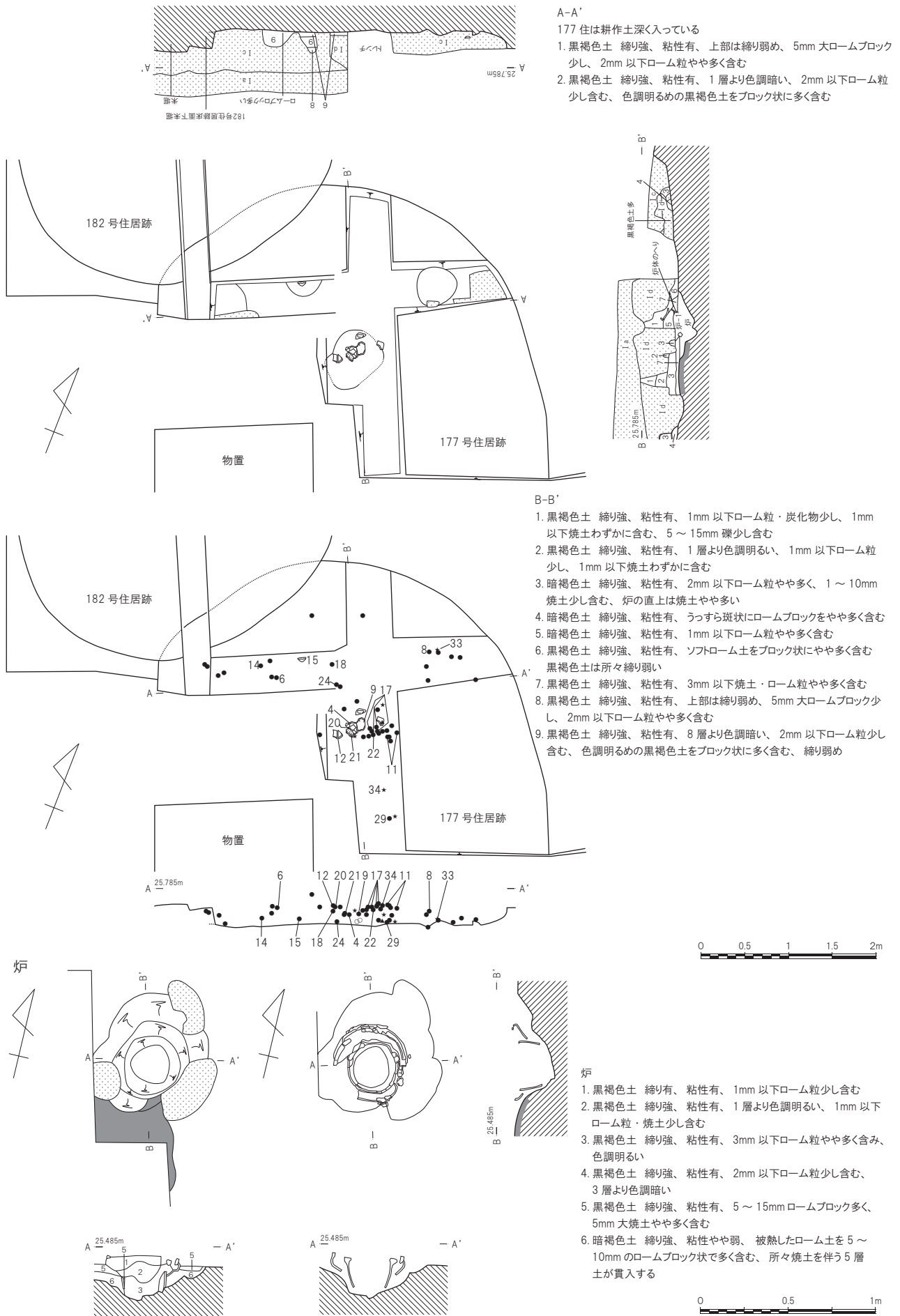
本調査は2009年3月18日から同年5月7日まで、試掘調査で確認した遺構の場所を重機で表土除去後、調査を行なった。調査の結果、縄文時代の住居跡6軒、土坑、ピットを検出した。写真撮影・全測図作成・平板および遣り方測量による遺構図面作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、調査を終了した。



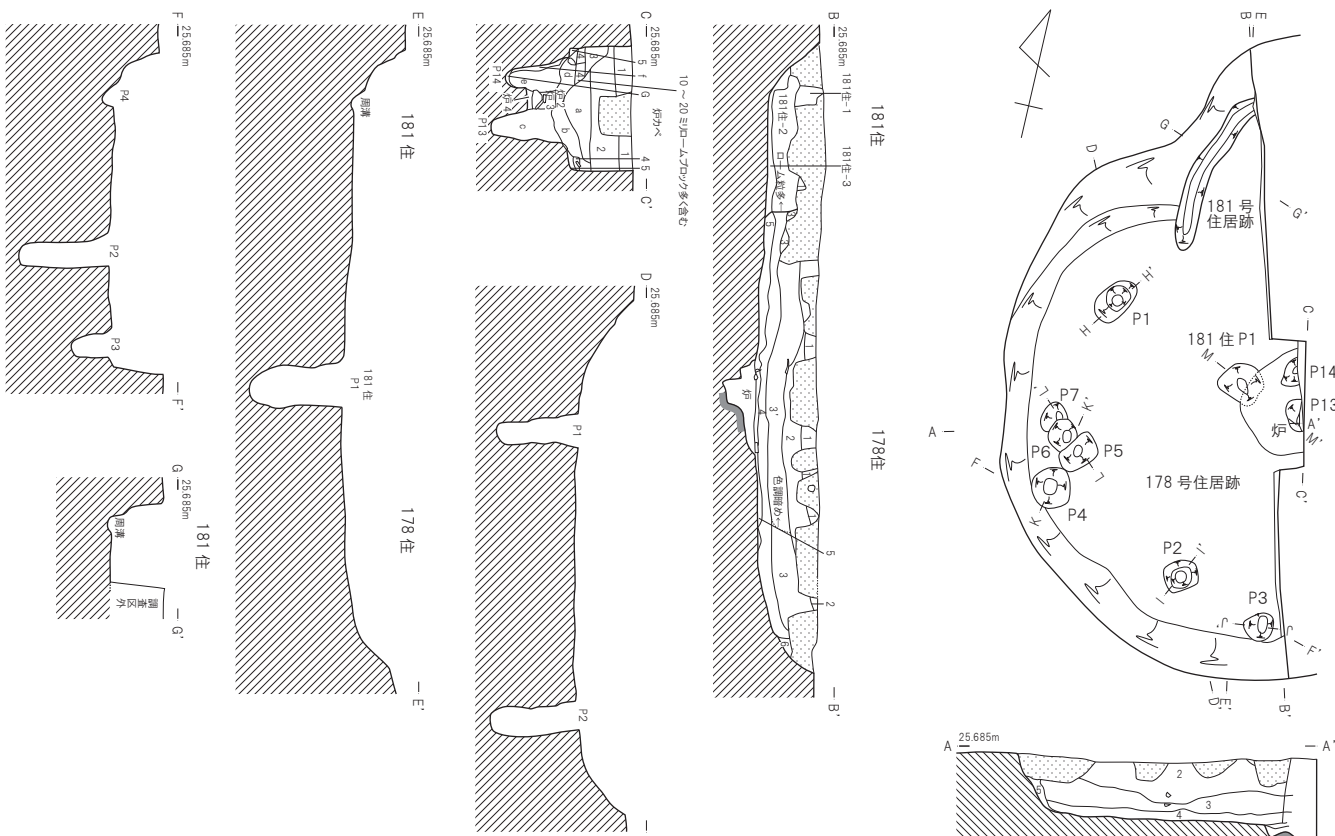
#### トレンチ

- I a. 黒褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、ローム粒2mm以下少し、色調やや灰色味あり、部分的に炭化物・ロームブロックを含む
- I a'. I aよりロームブロック多く含む
- I b. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、30mm以下ロームブロック多量、100mm以下硬質の黒褐色土ブロックを少し含む
- I c. 黒褐色土 締り強、粘性有、30mm以下ロームブロックをやや多く含む
- I d. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し、10mm以下炭化物・礫少し含む、住居跡付近は暗褐色土ブロック20mm以下含む
- Ⅲa. 暗褐色土 地山漸移層

第115図 東台遺跡第51地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)



第116図 東台遺跡第51地点 177号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)、炉 (1/30)



178 号住居跡

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く、1mm 以下焼土・炭化物少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒 2 層より多く、5 ~ 10mm ロームブロック少し、2mm 以下炭化物・焼土やや多く含む
3. 色調暗め
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3 層より色調暗い、3mm 以下ローム粒やや多く、5 ~ 10mm ロームブロック少し、5mm 以下炭化物・焼土少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、うすら斑状に 5 ~ 10mm ロームブロックを多く含み、色調明るい
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、斑状に 5 ~ 15mm ロームブロック少し、2mm 以下ローム粒多く、2mm 以下炭化物やや多く含む、全体の色調は明るい

181 号住居跡

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・1mm 以下炭化物・焼土をやや多く含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒を多く、5 ~ 15mm ロームブロック・3mm 以下炭化物・2mm 以下焼土を少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ベースの土は 2 層より色調暗く、うすら斑状にロームブロックを多く、2mm 以下ローム粒少し含む

178 号住居跡 ビット 1・3

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下ローム粒、5mm 大ロームブロックやや多く、2mm 以下炭化物少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、2mm 以下炭化物少し含む、3 層に似るが締り強
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、2mm 以下炭化物少し含む
4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、暗褐色ベースにローム土を多く含み、色調明るい

178 号住居跡 ビット 2

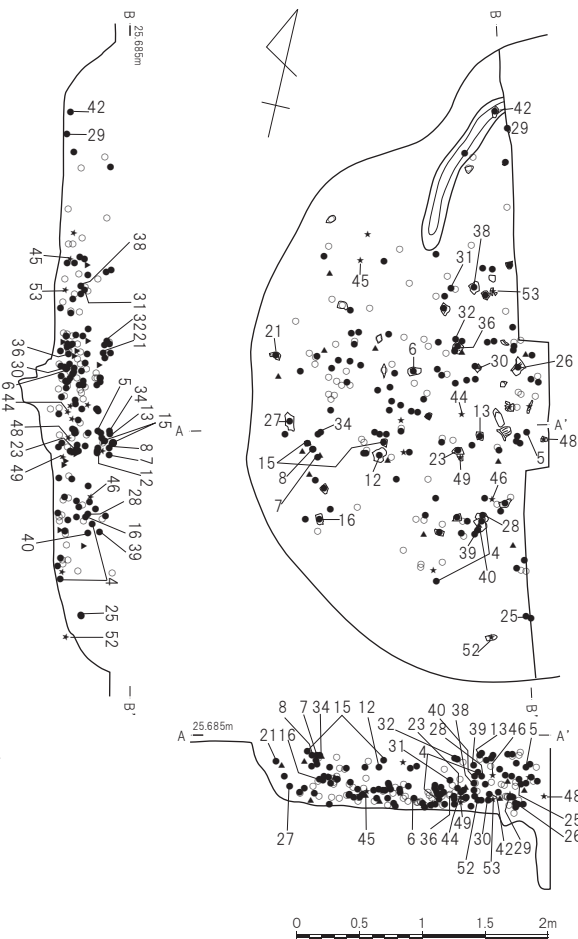
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く、2mm 以下炭化物少し含む、3 層に似るが締り強
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、2mm 以下炭化物少し含む
3. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、暗褐色ベースにローム土を多く含み、色調明るい

ビット 13

- a. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物・焼土少し含む、b 層より締り強い
- b. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物やや多く、焼土少し含む
- c. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、3mm 以下焼土やや多く、5mm 以下炭化物少し含む

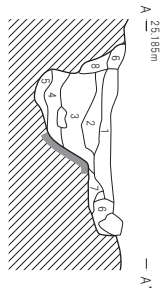
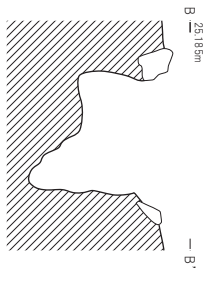
ビット 14

- d. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・焼土やや多く、5mm 以下炭化物少し含む
- e. 暗褐色土 締り強、粘性有、10mm 以下ロームブロック粒を少し、10mm 以下焼土・炭化物やや多く含む
- f. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトロームを多く含み、色調明るい、3mm 以下焼土少し含む
- g. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、5mm 以下焼土少し含む

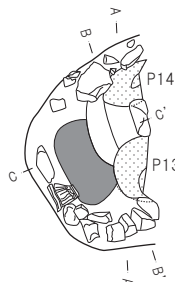


第 117 図 東台遺跡第 51 地点 178・181 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)

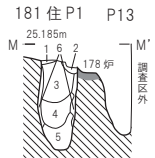
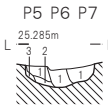
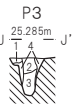
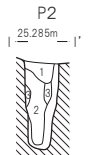
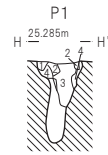
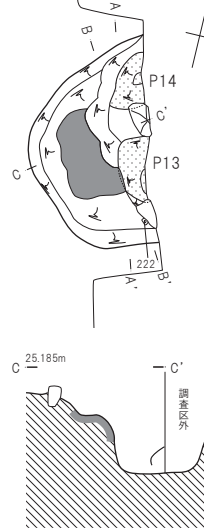
炉



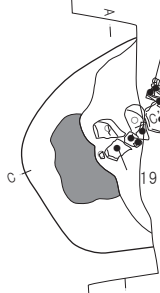
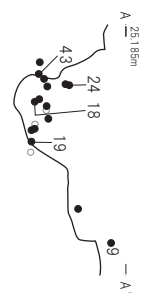
石材検出状況



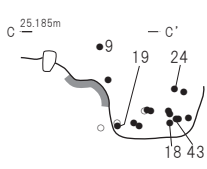
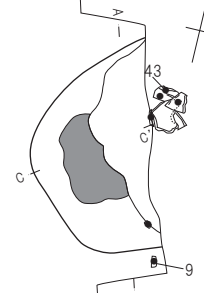
完掘状況



一層目



二層目



178 号住居跡 石囲い炉

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土をやや多く、炭化物少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、しみ状の黒褐色土、5mm 以下焼土やや多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下焼土多く、炭化物少し含む、被熱したローム粒も多く含む、黄褐色味を呈する
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、10mm 大焼土ブロック少し、2mm 以下焼土・ローム粒やや多く含む（炭化物のような色調）
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く、焼土やや多く含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土やや多く、炭化物少し含む、1 層に比べ締り強い、石材を支える土
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒、3 ~ 10mm 赤褐色土を多く含むやや黒色味がある
8. 黒褐色土 5mm 以下焼土やや多く含む、2mm 以下ローム粒少し含む

178 号住居跡 ピット 4

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く、1mm 以下炭化物・焼土少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土ベースで、斑状に 50mm 以下ロームブロック多く含む

178 号住居跡ピット 5

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 10mm ロームブロック少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、斑状にローム土やや多く、15mm 大礫少し含む
3. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土ベースに 15mm 以下ロームブロック多く含む

178 号住居跡ピット 6

1. P1 の 3 層に似る（色調暗い）

178 号住居跡ピット 7

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 20mm ロームブロック多く含む

181 号住居跡 ピット 1

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土を含み、色調明るい、2mm 以下ローム粒多く、焼土・炭化物少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土を含み、色調明るい、3 ~ 10mm 焼土少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・5 ~ 10mm ロームブロック少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3 層より色調暗め、3mm 以下ローム粒やや多く含む

第 118 図 東台遺跡第 51 地点 178 号住居跡炉 (1/30)、ピット (1/60)



## (2) 遺構と遺物

【177 号住居跡】調査区南端に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。北側で 176 号住居跡と重複するが、本住居跡埋没後に 176 号住居を構築している。

家屋の建築予定地外のため本調査をせず、プラン確認後、深さや炉の位置確認のため幅 30cm のサブトレントを十字に設定して調査した。

住居全体の 1/3 ～ 1/2 程度の検出で、南側は調査区域外である。平面形態は楕円形を呈すると思われる。東西 405 cm、確認面からの深さ 27 cm である。

炉は住居の中央やや北寄りに位置し、平面形態は楕円形である。炉は北側に土器を二重に埋設して土器囲い炉とし、南側は火床面で僅かにくぼみ、焼けて赤化している。炉体土器は内側に深鉢、外側に浅鉢を使用している。

床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。径 40 ～ 50 cm のピットプランを 3 カ所検出した。

出土遺物は点上げ遺物、一括遺物の総計 701 点中、土器 495 点、石器 15 点、礫 191 点である。時期の明確な破片では中期前半が 67 点で最も多い。

時期は炉体土器から勝坂末期である。

【178 号住居跡】調査区東端に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。北側で 181 号住居跡と重複するが、181 号住居埋没後に本住居を構築している。

住居全体の 1/2 程度の検出で、東側は調査区域外である。平面形態は楕円形を呈すると思われる。南北 430 cm、確認面からの深さ 49 cm である。

炉は住居のほぼ中央に位置し、平面形態は楕円形である。炉は石囲い炉で、中央の火床面は深く窪み、焼けて赤化している。礫は炉の西側で 18 点検出したが、東側は新しいピットの P13、14 により壊れているため残っていない。また、炉は 181 号住居跡の柱穴と思われるピットの埋没後に構築している。

ピットは 7 基検出し、P1 と P2 が支柱穴と思われる。

床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物は細片が多く、住居全体に出土する。点上げ遺物、一括遺物の総計 1,716 点中、土器 902 点、石器 54 点、礫 760 点である。時期の明確な破片では中期後半が 76 点で最も多い。

時期は出土遺物から加曾利 E II 式期である。

第 56 表 東台遺跡第 51 地点 178 号住居跡ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	39 × 23	8 × 8	67	支柱穴
P2	隅丸長方形	38 × 23	8 × 8	77	支柱穴
P3	楕円形	25 × 20	14 × 7	34	支柱穴
P4	円形	33 × 31	12 × 10	15	支柱穴、P11 より新
P5	楕円形	32 × 20	9 × 7	23	P6・7 より旧
P6	円形	24 × 22	11 × 7	26	P7 より旧、P5 より新
P7	円形	23 × 22	7 × 5	18	P5・6 より新

【179 号住居跡】調査区中央に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。

住居全体の 2/3 程度の検出で、南東側は調査区域外である。平面形態は円形を呈すると思われる。確認面からの深さ 31 cm である。

炉は住居の中央あたりに位置し、平面形態は隅丸方形である。炉は幅 5 cm 程度の輪状の窪みが認められ、礫 3 点が残っていることから、本来は石囲い炉で、礫が抜き取られたと思われる。中央の火床面は浅く窪み、焼けて赤化している。

第 57 表 東台遺跡第 51 地点 179 号住居跡ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	40 × 29	13 × 9	22	
P2	楕円形	45 × 30	15 × 12	30	
P3	楕円形	21 × 16	5 × 5	16	

ピットは 3 基検出した。床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物は点上げ遺物、一括遺物の総計 568 点中、土器 275 点、石器 11 点、礫 282 点で、礫が多い。時期の明確な破片では中期後半が 10 点で最も多い。

時期は出土遺物から加曾利 E II 式期である。

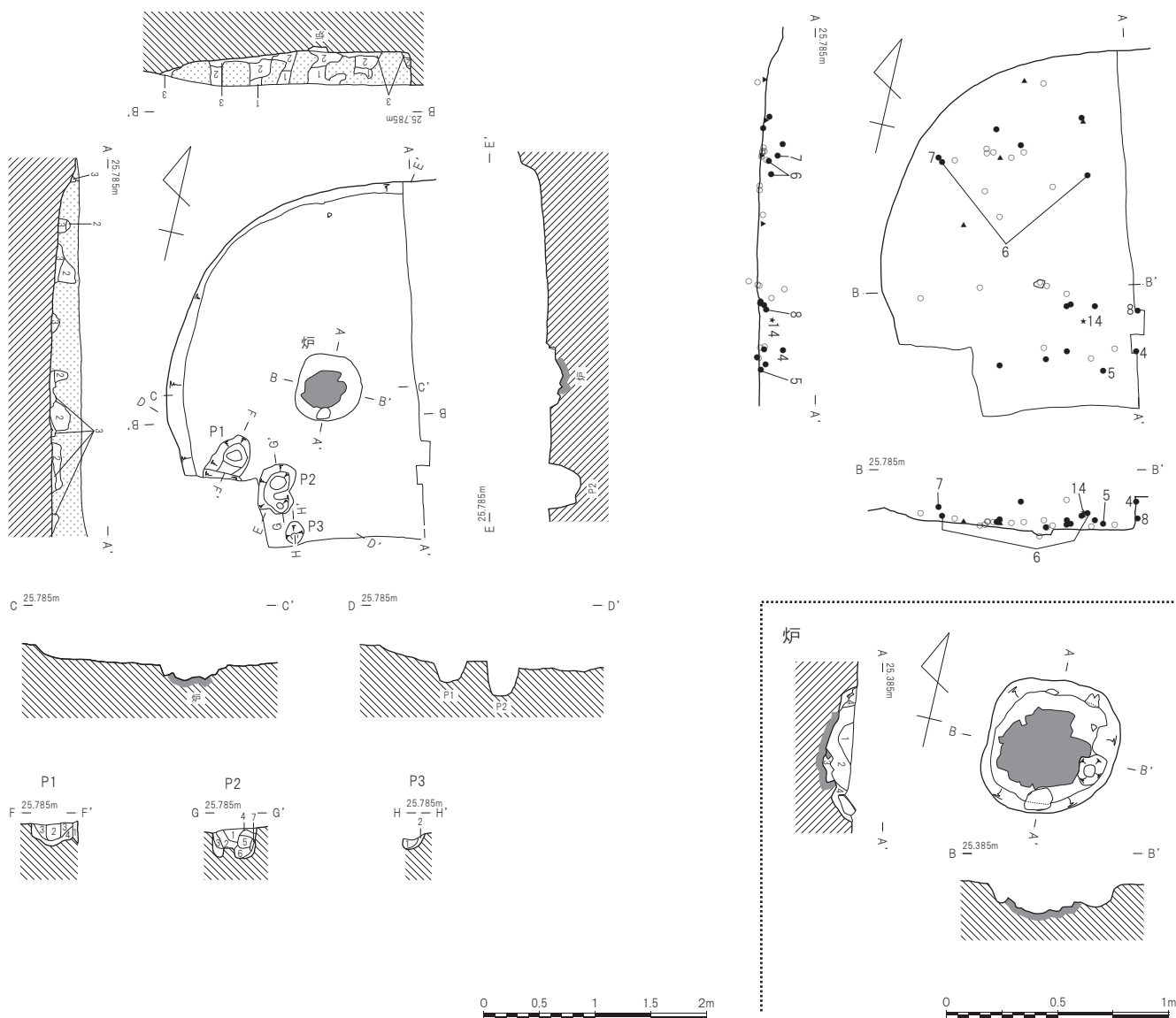
【180 号住居跡】調査区南東端に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。

平面形態は楕円形を呈し、長軸 482cm、短軸 440cm、確認面からの深さ 42 cm である。

炉は住居の中央やや北寄りに位置し、平面形態は楕円形である。炉は中央に土器を埋設する土器囲い炉である。土器の東側には土器破片が残り、埋設土器が二重になっている。お土器外側の地面は、被熱し硬化している。

周溝は南西部の P4 ～ P5 の間にのみある。

ピットは 12 基検出した。P1 ～ P5 が支柱穴で、P11 も P4 より古い支柱穴である。柱穴間は 150 ～



179号住居跡

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く、3mm以下焼土わずかに含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1層より色調暗く、2mm以下ローム粒少し、2mm以下焼土・炭化物わずかに含む、炉の直上は3mm以下焼土やや多い
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状に15mm以下ロームブロックをやや多く含む、3mm以下ローム粒やや多く、2mm以下炭化物わずかに含む

ピット1

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、2層より色調暗い
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し、1mm以下炭化物・焼土わずかに含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、20mm以下ロームブロック多く含む、色調明るい

ピット2

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・5mm大ハードロームブロック少し含む、2mm以下焼土わずかに含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状に20mm大ロームブロック多く、1mm以下焼土・炭化物少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、(色調明るめ)1mm以下ローム粒・炭化物少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、柱痕か、5~20mmハードロームブロック少し、1mm以下ローム粒少し含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、柱痕か、うっすら斑状にロームブロックを多く、2mm以下ローム粒少し含む
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土を多く含む、色調明るい

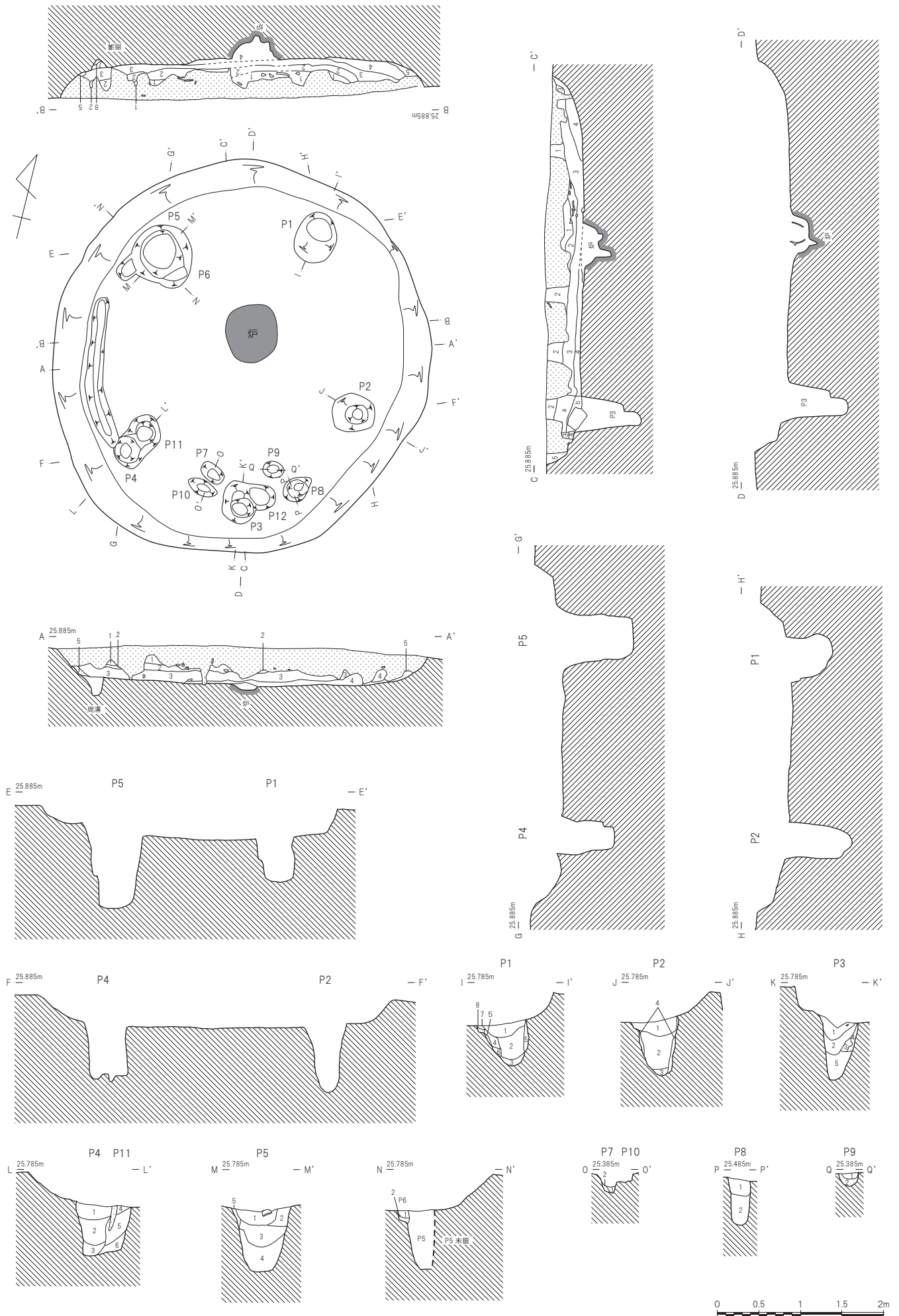
ピット3

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・5mm大ハードロームブロック少し含む、2mm以下焼土わずかに含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状に20mm大ロームブロック多く、1mm以下焼土・炭化物少し含む

炉

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土やや多く、2mm以下炭化物少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm以下焼土多く含む(10mm大焼土ブロック少し)
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調赤褐色味あり、5mm以下焼土多く含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む、60~110mm円礫伴う

第119図 東台遺跡第51地点 179号住居跡・遺物出土状況図(1/60)、炉(1/30)



第 120 図 東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡 (1/60)

## 180 号住居跡

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、3mm 以下炭化物やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒をやや多く含む、1 層より色調明るい、2mm 以下炭化物やや多く含む、南半に 2mm 焼土少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒をやや多く含む、3mm 以下炭化物少し含む（遺物は上層より少なめ）、西半下部に 15 ～ 20mm ロームブロック少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く（3 層より少）、下部に 5 ～ 15mm ロームブロックやや多く混ざる、3mm 以下炭化物少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状にロームブロックを多く含む、色調 4 層より明るい、2mm 以下ローム粒も含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒、3mm 以下焼土多く含む
- a. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒多く、2mm 以下炭化物・焼土少し含む
- b. 黒褐色土 締り強、粘性有、a 層より黒色味強い、平均 2mm 以下ローム粒多く含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、10mm ロームブロック少し、3mm 以下ローム粒多量
8. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多量（主体）

## ピット 1・2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒を多く、5 ～ 10mm ロームブロック少し含む
2. 暗褐色土（色調暗い）締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒をやや多く、2mm 以下炭化物、5 ～ 10mm ロームブロック少し含む
3. 暗褐色土（色調暗い）締り強、粘性有、斑状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む、2mm 以下ローム粒少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状に暗褐色土を多く含む、色調明るめ、2mm 以下ローム粒少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、5 ～ 10mm ロームブロックをやや多く含む、色調明るめ、2mm 以下ローム粒少し含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、色調暗いロームブロック主体、3mm 以下明黄褐色ローム粒少し含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く（1 層より多）含む、色調明るめ
8. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム粒を多く含む色調明るめ、2mm 以下ローム粒多く含む

## ピット 3

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒多く、1 ～ 3mm 焼土・炭化物少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒を多く、5 ～ 10mm ロームブロック少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、斑状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む、2mm 以下ローム粒少し含む
4. 暗褐色土（色調暗い）締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒をやや多く、2mm 以下炭化物、5 ～ 10mm ロームブロック少し含む
5. 暗褐色土（色調暗い）締り強、粘性有、斑状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む、2mm 以下ローム粒少し含む

## ピット 4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒を多く、5 ～ 10mm ロームブロック少し含む
2. 暗褐色土（色調暗い）締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒をやや多く、2mm 以下炭化物、5 ～ 10mm ロームブロック少し含む
3. 暗褐色土（色調暗い）締り強、粘性有、斑状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む、2mm 以下ローム粒少し含む
4. ピット 1 ～ 7 層に似るが、1mm 以下焼土少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状に暗褐色土を多く含む、色調明るめ、2mm 以下ローム粒少し含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、15mm 以下ロームブロック少し含む、地山？

## ピット 5

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒を多く、5 ～ 10mm ロームブロック少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く、10mm 大ロームブロック少し含む
3. 暗褐色土（色調暗い）締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒をやや多く、2mm 以下炭化物、5 ～ 10mm ロームブロック少し含む
4. 暗褐色土（色調暗い）締り強、粘性有、斑状にソフト質の暗褐色ロームブロックをやや多く含む、2mm 以下ローム粒少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く（1 層より多）含む、色調明るめ

## ピット 6

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く含む、硬い
2. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、2mm 以下ローム粒やや多く含む

## ピット 7

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く、色調明るい

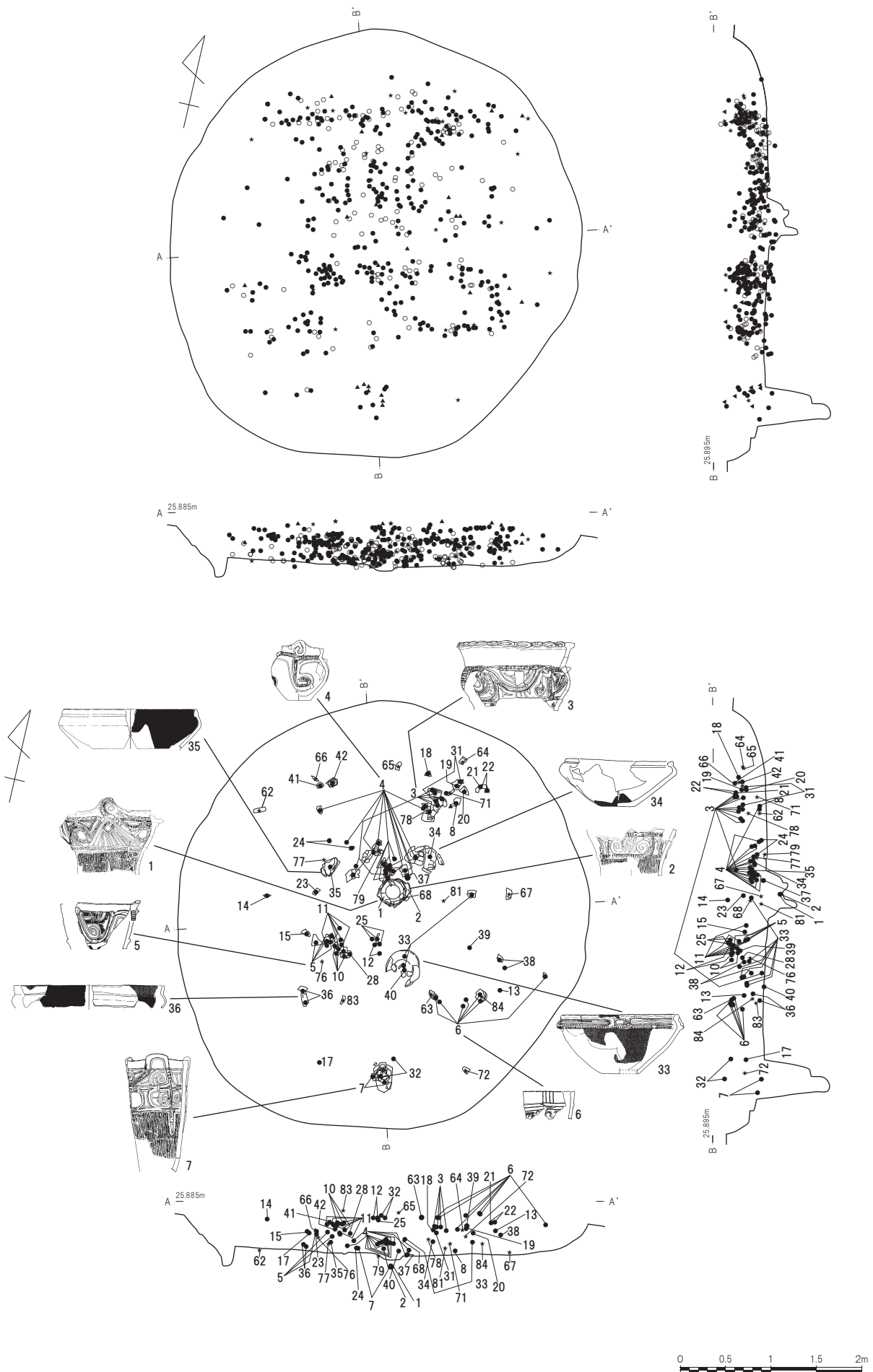
## ピット 8

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多、5 ～ 20mm ロームブロック少
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、100mm 以下大型のロームブロックを多く含む

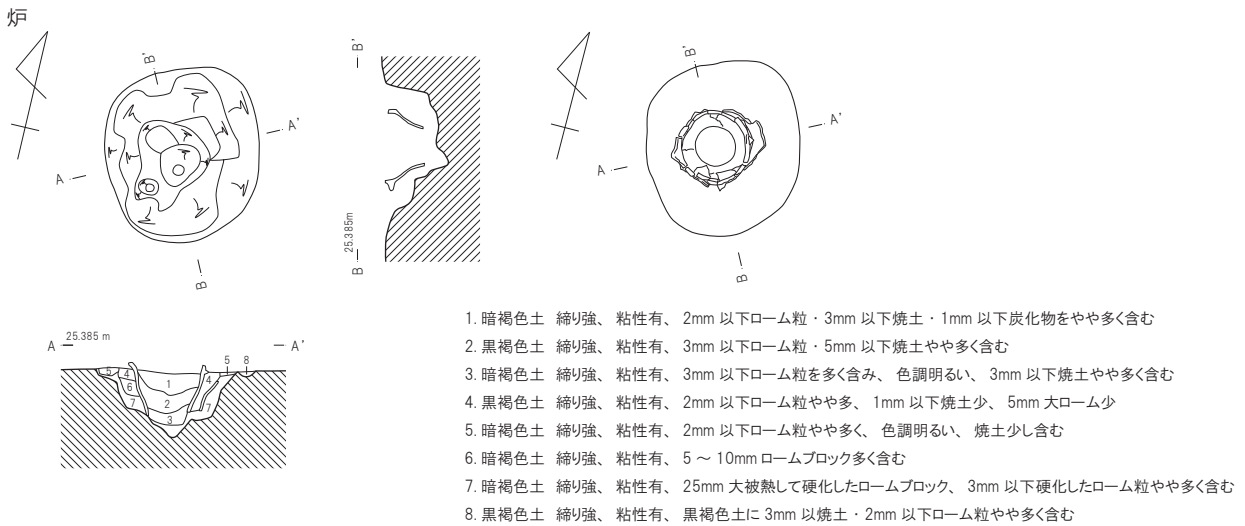
## ピット 9

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒やや多く、炭化物・焼土少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状に 20mm 以下ロームブロック多く含む

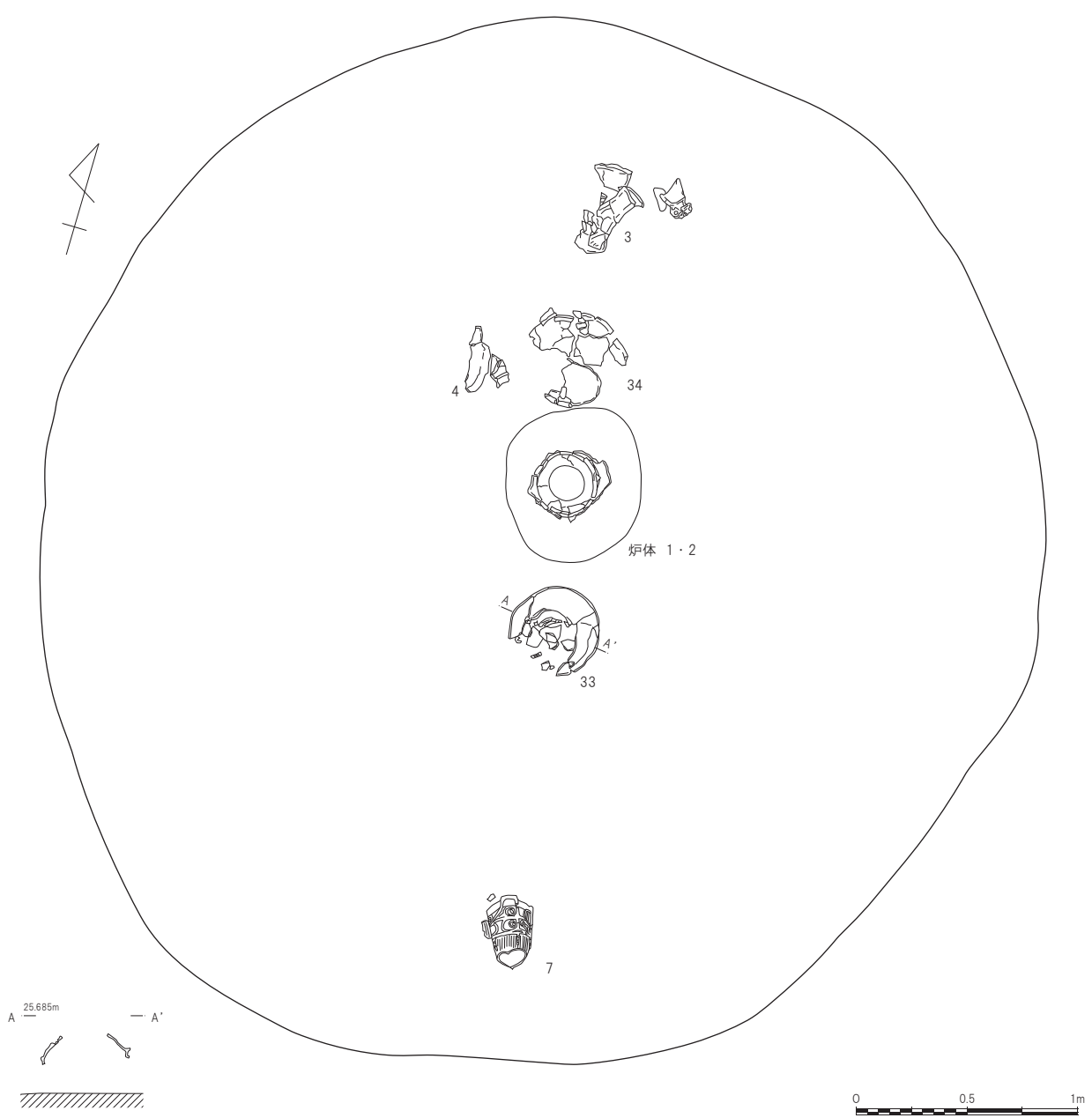




第121図 東台遺跡第51地点180号住居跡遺物出土状況図 (1/60)



1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・3mm以下焼土・1mm以下炭化物をやや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・5mm以下焼土をやや多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒を多く含み、色調明るい、3mm以下焼土をやや多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多、1mm以下焼土少、5mm大ローム少
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多、色調明るい、焼土少し含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、5～10mmロームブロック多く含む
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、25mm大被熱して硬化したロームブロック、3mm以下硬化したローム粒やや多く含む
8. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土に3mm以焼土・2mm以下ローム粒やや多く含む



第122図 東台遺跡第51地点180号住居跡炉、遺物出土状況図 (1/30)

240cm である。床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物は床面から 15cm 上の土層から多量に出土する。点上げ遺物、一括遺物の総計 5,941 点中、土器 2,890 点、石器 135 点、礫 2,916 点で、礫が多い。時期の明確な破片では中期前半が 350 点で最も多い。また、黒曜石の剥片も 58 点出土している。

時期は炉体土器から勝坂末期である。

第 58 表 東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	61 × 47	32 × 25	52	主柱穴
P2	楕円形	51 × 45	12 × 12	77	主柱穴
P3	楕円形	52 × 40	18 × 15	72	主柱穴
P4	楕円形	45 × 38	20 × 12	66	主柱穴、P11 より新
P5	円形	70 × 65	38 × 37	83	主柱穴、P6 より新
P6	(円形)	40 × (18)	28 × (12)	22	P5 より旧
P7	楕円形	30 × 18	17 × 12	24	
P8	楕円形	38 × 26	13 × 8	54	
P9	楕円形	26 × 20	14 × 11	15	
P10	楕円形	36 × 17	16 × 9	10	
P11	円形	38 × 35	18 × 17	66	主柱穴、P4 より旧
P12	楕円形	32 × 30	24 × 20	24	

【181 号住居跡】調査区東端に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。南側で 178 号住居跡と重複するが、178 号住居に本住居が壊される。

住居全体の 1/4 程度の検出で、東側は調査区域外である。平面形態は円形を呈すると思われる。確認面からの深さ 42 cm である。

周溝は西側で検出した。また、178 号住居跡の炉下から本住居跡の柱穴と思われるピットを検出した。主柱穴と思われる。

床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物は 8 点中、土器 5 点、礫 3 点である。

時期は出土遺物から加曾利 E II 式期である。

第 59 表 東台遺跡第 51 地点 181 号住居跡ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	隅丸方形	34 × 30	14 × 7	74	

【182 号住居跡】調査区南西部に位置し、東台遺跡縄文集落全体の分布では中央部環状集落の西側に位置する。南側で 177 号住居跡と重複するが、177 号住居埋没後に本住居を構築している。

家屋の建築予定地外のため本調査をせず、プラン確認後、深さや炉の位置確認のため幅 30cm のサブトレントを十字に設定して調査した。

平面形態は円形。南北 410 cm、東西 362 cm、確認面からの深さ 23 cm である。

炉は住居のほぼ中央に位置し、平面形態は長軸 80 cm の楕円形である。

床面は比較的硬く平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

出土遺物は点上げ遺物、一括遺物の総計 323 点中、土器 205 点、石器 6 点、礫 112 点である。時期の明確な破片では中期前半が 6 点で最も多い。

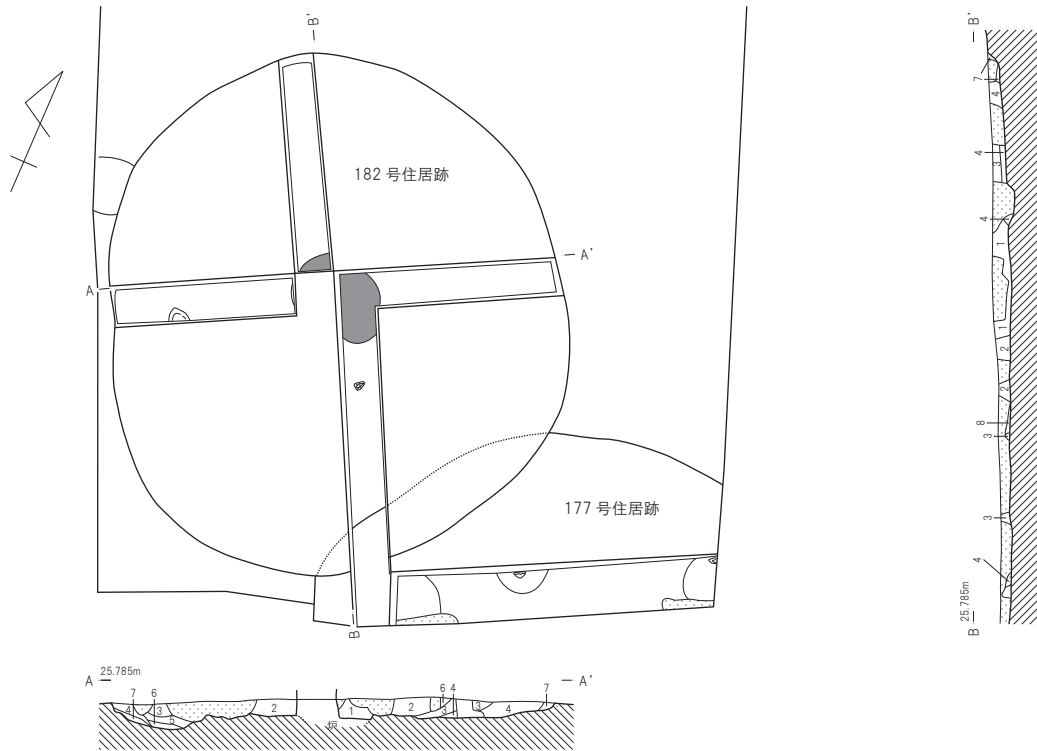
時期は出土遺物から勝坂末期である。

【土坑】土坑 1、2 とともに耕作による攪乱で残りは良くない。土坑 3 は上層が焼土層で、暗褐色土上で焼成が行なわれていた様子がある。土坑 4 は北側の第 25 地点で検出した土坑 11 の続きで、同一遺構である。

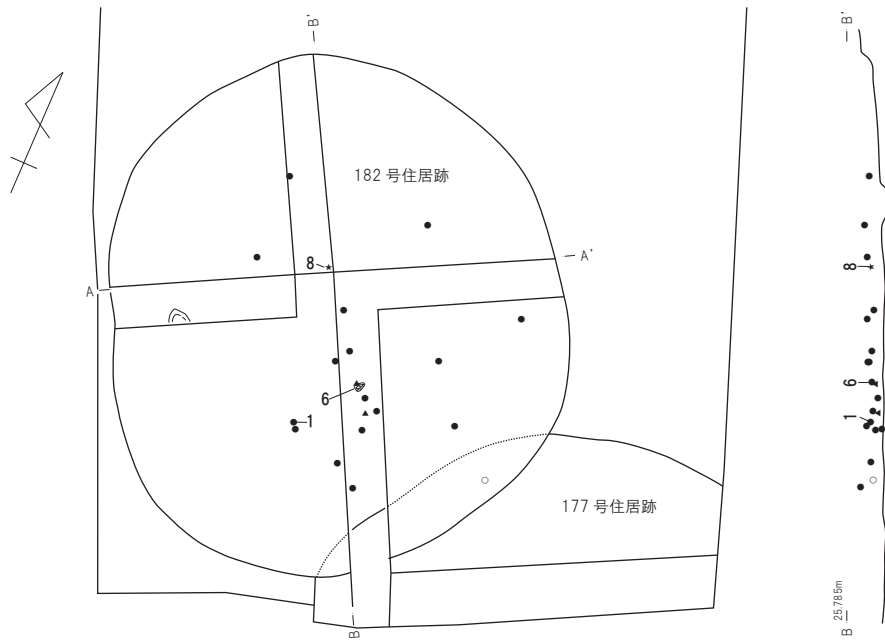
【ピット】14 基検出したが、全て時期は縄文時代である。P13、P14 は 178 号住居跡埋没後に掘られたピットで、178 号住居跡炉を壊している。同炉の遺物と思われる礫や土器が出土した。

第 60 表 東台遺跡第 51 地点遺構一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
土坑1	楕円形	137 × 97	126 × 78	17	周囲は耕作で壊される
土坑2	楕円形	225 × 195	135 × 110	27	上層に焼土層
土坑3	楕円形	80 × 71	61 × 49	22	土 1、2 より新
土坑4	隅丸長方形	(190) × 150	(170) × 115	20	25 地点土坑 11
P1	楕円形	80 × 60	×		未掘
P2	楕円形	41 × 25	27 × 15	14	
P3	隅丸方形	28 × 24	18 × 16	36	
P4	(楕円形)	51 × (30)	13 × 13	23	
P5	円形	26 × 25	8 × 7	6	
P6	楕円形	57 × 34	7 × 6	16	
P7	円形	45 × 43	28 × 16	22	
P8	円形	74 × 70	54 × 46	17	
P9	隅丸方形	27 × 27	18 × 16	12	
P10	円形	26 × 25	12 × 5	17	
P11	円形	31 × 30	16 × 16	14	
P12	楕円形	90 × 80	55 × 38	29	
P13	(楕円形)	25 × (15)	10 ×	68	178 住居の炉を切る
P14	(楕円形)	22 × (15)	5 ×	55	178 住居の炉を切る

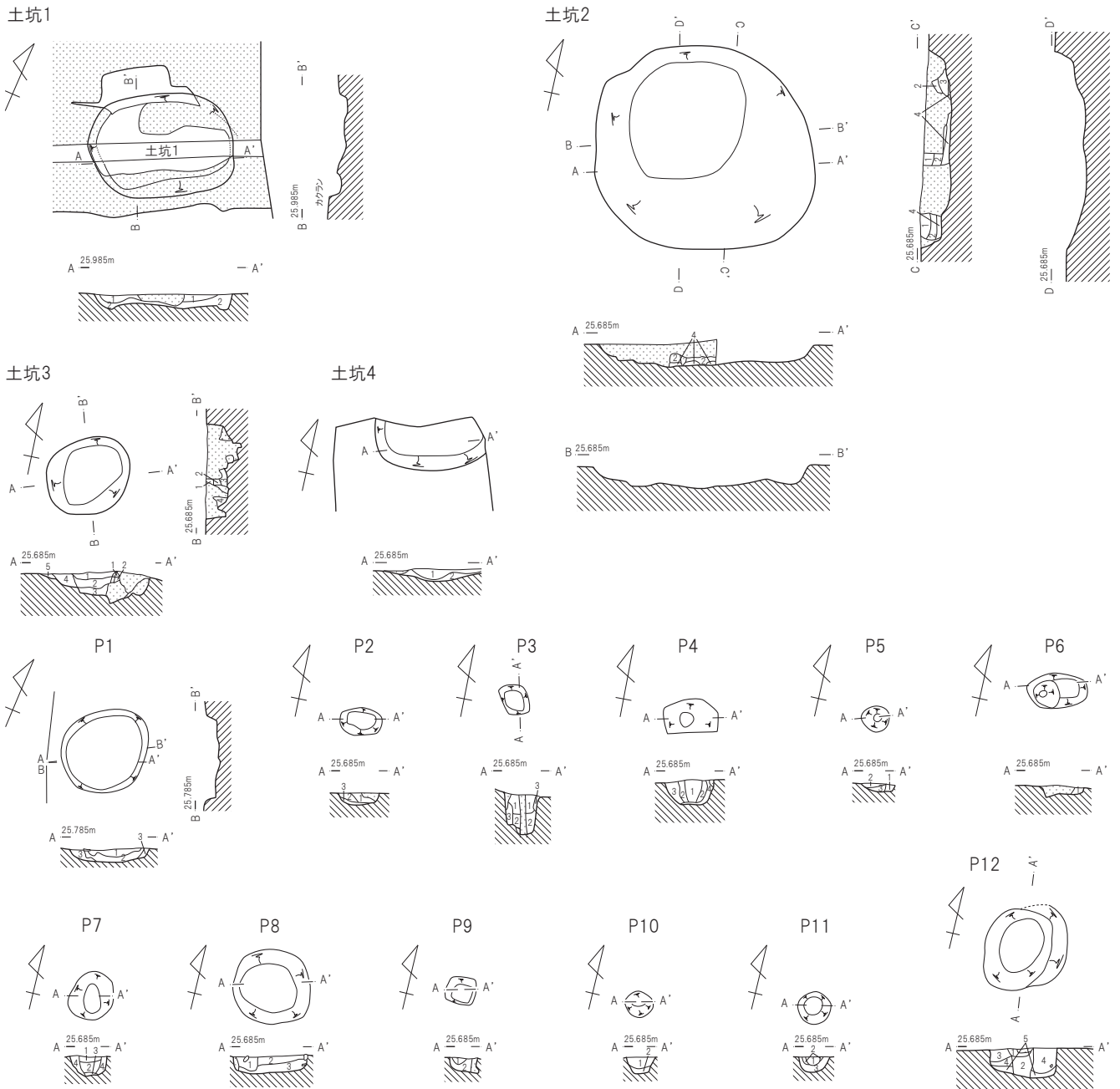


1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土をやや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 より色調明るい、2mm 以下ローム粒をやや多く含む
3. 暗褐色土 (2 より明るい程度) 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒をやや多く、3mm 以下炭化物少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、3 より色調明るい、2mm 以下ローム粒をやや多く、炭化物少し含む、5 ~ 20mm ロームブロック少し含む
5. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く含む
6. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ~ 10mm ロームブロック、2mm 以下ローム粒多く含む
7. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土を含み、色調明るい 5 ~ 30mm ロームブロック・3mm 以下ローム粒をやや多く含む
8. 攪乱されているが、3mm 以下ローム粒を多く含む、硬質の暗褐色土ブロック (床面の土) 主体



第 123 図 東台遺跡第 51 地点 182 号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)





土坑 1

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、5～30mm 色調明るいブロックをうすすら斑状にやや多く含む、2mm 以下ローム粒をやや多く、1mm 以下焼土・炭化物を少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土含み色調明るい、10～20mm ロームブロック多く斑状を呈する、1mm 以下炭化物少し含む

土坑 2

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し、2mm 以下炭化物わずかに含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、やや黒色味強い、2mm 以下ローム粒やや多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、やや黒色味強い、3mm 以下ローム粒やや多く、1mm 以下炭化物少し含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、5～10mm ロームブロックやや多、5mm 以下ローム粒多く含み、色調明るい

土坑 3・4

1. 赤褐色土 締り強、粘性有、粒径細かな焼土主体、2mm 以下焼土粒多く含む、黒褐色土が上部に貫入する
2. 赤褐色土 締り強、粘性有、粒径細かな焼土主体、2mm 以下焼土粒多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、2mm 以下焼土粒やや多く含み、赤味を帯びる
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、焼土を含み、赤味を帯びる、3mm 以下焼土少し含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下焼土少（4層より少ない）

第124図 東台遺跡第51地点土坑・ピット (1/60)

## ビット 1

- I a. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む、焼礫・土器片含む
- I b. 黄褐色土 締り強、粘性有、5～10mm ソフトロームブロック、5～20mm 黒褐色土をやや多く含む、斑状を呈する
- I c. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム分を含み、色調明るい、1mm 大炭化物・ローム粒少し含む

## ビット 2

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトローム土やや多、3mm 大炭化物少
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、斑状にソフト質ロームブロック多

## ビット 3

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し、2mm 以下炭化物少
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多
- 3. 暗褐色土 締り強、5mm 以下ローム粒多く色調明るい

## ビット 4

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し、2mm 以下炭化物少
- 2. ビット 3 の 2 層に似る、ローム粒はうっすら斑状に見られる（締り強い）
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状に 20mm 以下ロームブロックを多く含む
- 4. 暗褐色土 締り強、5mm 以下ローム粒多く色調明るい

## ビット 5

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm 以下ローム粒少し、2mm 以下炭化物少
- 2. 暗褐色土 締り強、5mm 以下ローム粒多く色調明るい
- 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多

## ビット 6

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多

## ビット 7

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物やや多
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状にローム土を含み、色調明るい、2mm 以下炭化物少

## ビット 8

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物やや多
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～10mm ロームブロック少し、2mm 以下焼土・炭化物少
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、斑状に黒褐色土をやや多く含む

## ビット 9

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状にローム土を含み、色調明るい、2mm 以下炭化物少

## ビット 10

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状にローム土を含み、色調明るい、2mm 以下炭化物少
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多

## ビット 11

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物やや多
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、うっすら斑状にローム土を含み、色調明るい、2mm 以下炭化物少

## ビット 12

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒・炭化物やや多
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、締り強い、2mm 以下ローム粒わずか
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、15mm 大ロームブロック少、1mm 以下ローム粒少、5～15mm 土器細片、30mm 大礫わずかに含む

第 61 表 東台遺跡第 51 地点出土遺物観察表 (単位cm)

図版番号	掲載番号	遺構名	種別・器種	口径・長	底径・幅	器高・厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
125 図	1	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	(30.0)	—	(18.9)	輪積み成形 / 口縁部は突帯上に連鎖状隆帯。胴部は楕円形区画の隆帯上に連続刺突し、区画内は縦沈線列や三叉文を太い単沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No 炉体 1、H 7 炉		縄文中期・勝坂 3	口縁部 1/2 以上残存
	2	177 号住居跡	縄文土器・浅鉢	(42.0)	—	(13.3)	輪積み成形 / 無文 / 内外面塗彩。外面一部に赤色塗彩の痕跡有 / 砂粒多量含む / 黒斑有 / 注No 炉体 2、No 380、H10 炉		縄文中期	口縁部 1/4 以下残存
	3	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯上に連続刺突。口縁内側に幅広突帯 / 砂粒多量含む / 注No H6		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	4	177 号住居跡	縄文土器・深鉢				波状口縁。口縁は内側に屈曲する / 砂粒多量含む / 注No 56		縄文中期・阿玉台	口縁部片
	5	177 号住居跡	縄文土器・深鉢				輪積み成形 / 口縁幅広突帯。胴部、半載竹管で半隆起伏の区画割をおこなう / 砂粒多量含む / 注No H6		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	6	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁幅広突帯。胴部は隆帯上に連続刺突 / 砂粒多量含む / 注No 8		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	7	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を横位に施文後、隆帯を貼付し、脇に波状沈線 / 砂粒多量含む / 注No H1		縄文中期	口縁部片
	8	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯脇を連続爪形刺突し、その内側を波状沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No 1		縄文中期・勝坂 2	胴部片
	9	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯上に連続刺突し、区画内は沈線列や交互刺突、三叉文を太い単沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No 38		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	10	177 号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪積み成形 / 幅広隆帯で区画 / 砂粒多量含む / 注No H5		縄文中期	胴部片
	11	177 号住居跡	縄文土器・深鉢				輪積み成形 / 隆帯上に連続刺突 / 砂粒多量含む / 注No 25、45		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	12	177 号住居跡	縄文土器・深鉢				輪積み成形 / 隆帯上に連続刺突 / 砂粒多量含む / 注No 54		縄文中期・勝坂 3	胴部片 / No 6 と同一個体
	13	177 号住居跡	縄文土器・深鉢				注No H5		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	14	177 号住居跡	縄文土器・深鉢				輪積み成形 / 太い単沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No 10		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	15	177 号住居跡	縄文土器・浅鉢				輪積み成形 / 体部から口縁への屈曲部に連鎖状隆帯。口縁は、区画内は太い単沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No 7		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	16	177 号住居跡	縄文土器・深鉢				輪積み成形 / 体部から口縁への屈曲部の隆帯上に連続刺突 / 砂粒多量含む / 注No H7		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	17	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文後、口縁部へは渦巻状に隆帯を貼付、頸部へも隆帯を巡らし、胴部は沈線による懸垂文 / 砂粒多量含む / 注No 29、30、33、34		縄文中期・加曾利 E I 古	口縁部片
	18	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 半載竹管で半隆起伏の渦巻文 / 砂粒多量含む / 注No 4		縄文中期・加曾利 E I	口縁部片
	19	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯上に交互刺突 / 砂粒多量含む / 注No H1		縄文中期・加曾利 E、連弧	口縁部片
	20	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 前々段多条の RL 縄文を縦位に施文後、沈線による懸垂文 / 砂粒多量含む / 注No 52、H6		縄文中期・加曾利 E II	胴部片
	21	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(9.0)	(4.3)	輪積み成形 / 前々段多条の RL 縄文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注No 57		縄文中期	底部片
	22	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(7.6)	(4.0)	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文後、懸垂隆帯貼付け / 砂粒多量含む / 注No 35		縄文中期・加曾利 E I	底部片
	23	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を横位に施文 / 砂粒多量含む / 注No H6		縄文中期	胴部片
126 図	24	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 波状口縁の口唇部へ沈線を巡らし、沈線端部は円形刺突。懸垂隆帯上も連続円形刺突。地文は RL 縄文を横位に施文。胴部との境に沈線を巡らす / 砂粒多量含む / 注No 6、H5・6 床直		縄文後期・堀之内 1 式	口縁部片
	25	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 波状口縁の口唇部へ沈線を巡らし、波頂部は円形刺突 / 砂粒多量含む / 注No H5		縄文後期・堀之内 1 式	口縁部片
	26	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / LR 縄文を横位に施文後、沈線で区画史、沈線間を磨り消す / 砂粒多量含む / 注No H2		縄文後期・堀之内	胴部片
	27	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 懸垂沈線で区画した中を縦位の LR 縄文で充填 / 砂粒多量含む / 注No H2		縄文後期・堀之内	胴部片
	28	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(7.1)	(5.6)	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 内面にタール状付着 / 注No H7		縄文時代	底部片
	29	177 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	9.1	(2.9)	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No 43 床直		縄文時代	底部片
	30	177 号住居跡	縄文土器・土製円盤	—	—	—	破片を円形に打ち欠く。地文は RL 縄文 / 注No H1		縄文中期	胴部片
	31	177 号住居跡	縄文土器・土製円盤	—	—	—	破片を円形に打ち欠く。地文は RL 縄文 / 注No H3		縄文中期	胴部片
	32	177 号住居跡	石器・打製石斧	(6.95)	4.7	1.8	重量 65.83g 両極敲打技法 / 注No H2	玄武岩?	縄文時代	刃部欠
	33	177 号住居跡	石器・打製石斧	9.7	6.5	2.85	重量 228.70g 両極敲打技法 / 注No 18 床直	片岩	縄文時代	完形
	34	177 号住居跡	石器・打製石斧	(6.1)	(4.60)	1.74	重量 63.30g 両極敲打技法 / 注No 42	ホルンフェルス	縄文時代	刃部欠
	35	177 号住居跡	石器・打製石斧	6.7	4.9	2.1	重量 83.67g 両極敲打技法 / 注No H6	ホルンフェルス	縄文時代	刃部欠
	36	177 号住居跡	石器・打製石斧	4.8	4.2	1.2	重量 36.90g 両極敲打技法 / 注No H10	ホルンフェルス	縄文時代	完形
	37	177 号住居跡	石器・磨石	4.2	3.9	2.5	重量 58.46g 側面敲打痕有。表裏面磨跡有 / 注No H3	安山岩	縄文時代	一部
	1	74 号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁直下に沈線。R 右巻きの燃糸文を横位に施文 / 砂粒多量含む / 注No H1		縄文後期・称名寺	口縁部片
	2	74 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 条線を縦に施文。3 本組みの沈線で連弧を巡らす / 砂粒多量含む / 注No H1		縄文中期・加曾利 E、連弧	胴部片
	3	74 号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁部は折返される。L 左巻きの燃糸文を横位に施文する / 砂粒多量含む / 注No H1		縄文中期・加曾利 E	口縁部片
	4	74 号住居跡	縄文土器・鉢	—	(13.0)	3.8	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No H2		縄文	底部片
	1	182 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁内面に小渦巻。外面無節 L 縄文を横位に施文 / 内外面赤色塗彩 / 砂粒多量含む / 注No 16		縄文後期・堀之内	口縁部片
	2	182 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁無文の幅広突帯 / 砂粒多量含む / 内外面煤付着 / 注No H3		縄文中期・勝坂	口縁部片
3	182 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯脇を爪形連続刺突、反対側を半載竹管による平行沈線と波状沈線 / 砂粒多量含む。輝石多量含む / 注No H2		縄文中期・阿玉台 II 期	胴部片	

図版 番号	掲載 番号	遺構名	種別・器種	口径・ 長	底径・ 幅	器高・ 厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定 生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
126 図	4	182 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / R 右巻きの擦糸文を縦位に施文 / 砂粒多量含む。角閃石含む / 注No D トレ-2		縄文中期	胴部片
	5	182 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯上に爪形刺突、隆帯脇は単沈線で囲う / 砂粒多量含む / 注 No AB トレ中央 3		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	6	182 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	双環状把手。隆帯上を爪形刺突。区画内は刃先の丸い押し引文で充填 / 砂粒多量含む / 注No 4		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	7	182 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯脇を爪形連続刺突 / 砂粒多量含む / 注No D トレ-1		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	8	182 号住居跡	石器・打製石斧	(5.8)	(3.70)	1.94	重量 54.4g 両極敲打技法 / 注No H4	緑泥片岩	縄文時代	基部
	9	182 号住居跡	石器・打製石斧	6.98	4.37	2.5	重量 84.91g 両極敲打技法 / 注No 8	ホルンフェルス	縄文時代	刃部一部欠
	10	182 号住居跡	石器・石匙	4.3	4.8	0.8	重量 17.15g 横長剥片。押圧剥離で加工 / 注No H3	ホルンフェルス	縄文時代	基部、先端欠
127 図	1	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	19.1	—	—	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No 219、221、224、227、228、231			口縁部片
	2	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口唇部は内側に折り返され、沈線列で施文。口縁部は半載竹管を利用した直角の沈線列。頸部には粘土紐を波状に貼付 / 砂粒多量含む / 注No 13  炉		縄文中期・曾利Ⅱ	口縁部片
	3	178 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	(8.0)	(2.5)	輪積み成形 / 無文 / 内外面塗彩の痕跡有 / 砂粒多量含む / 黒斑有 / 注No 4  炉		縄文中期	底部片
	4	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯による区画内を沈線列で充填する。隆帯脇を連続爪形刺突 / 砂粒多量含む / 注No 107、155		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	5	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯脇を幅広角押文で押さえる。三角押文も平行させる / 砂粒多量含む / 注No 211		縄文中期・新道	胴部片
	6	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯脇を沈線で押さえ、区画内は沈線と連続爪形文で充填する / 砂粒多量含む / 注No 50		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	7	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	注No 135		縄文中期	口縁部片
	8	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 波状口縁 / 砂粒多量含む / 注No 134		縄文中期	口縁部片
	9	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文縄文に、口縁は隆帯で渦巻きと楕円区画、胴部は沈線による懸垂文 / 砂粒多量含む。角閃石含む / 注No 223  炉		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	口縁部片
	10	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は RL 縄文を縦位に施文後、口唇部直下に沈線を 2 条巡らし、蛇行懸垂沈線を胴部へ施文 / 砂粒多量含む / 注No B 区-2		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	口縁部片
	11	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は RL 縄文を縦位に施文後、蛇行懸垂沈線を胴部へ施文 / 砂粒多量含む / 注No A 区-2		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	12	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は RL 縄文を縦位に施文後、蛇行と直線の懸垂文を 3 本組み沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No 122		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	13	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は LR 縄文を縦位に施文後、頸部へ 2 列 (以上) の沈線を巡らし、胴部へ懸垂文を沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No 90		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	14	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は RL 縄文を縦位に施文後、直線の懸垂文を 3 本組み沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No A 区-2		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	15	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(8.6)	(5.0)	輪積み成形 / 地文は RL 縄文を縦位に施文後、直線の懸垂文を 2 本組み沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No 120、133		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	底部片
	16	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は R 右巻きの擦糸文を縦位に施文後、隆帯を貼付し脇を沈線で押さえる / 砂粒多量含む / 注No 142		縄文中期・加曾利 E Ⅰ	胴部片
	17	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は R 右巻きの擦糸文を縦位に施文後、口縁直下に 3 本の沈線を巡らし、上 2 本の沈線には列点文を施文。胴部は沈線による連弧文 / 砂粒多量含む / 注No A 区-2		縄文中期・加曾利 E Ⅱ、連弧	口縁部片
	18	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は R 右巻きの擦糸文を縦位に施文後、口縁直下に 3 本の沈線を巡らす。胴部は 2 本組み沈線による円形文や懸垂文 / 砂粒多量含む / 注No 230		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	口縁部片
	19	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は RL 縄文を縦位に施文後、2 本組み沈線の懸垂文と単線の波状文を施文 / 砂粒多量含む / 注No 2、No 217		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	20	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は条線、口縁直下に 3 本の沈線を巡らし、その上へ伏せた半載竹管による波状文を巡らす / 砂粒多量含む / 注No H1		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	口縁部片
	21	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文条線の上に粘土紐による蛇行懸垂文を貼付 / 砂粒多量含む / 注No 82		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	22	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文条線 / 砂粒多量含む / 注No A 区-2		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	23	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は条線。伏せた半載竹管による 2 本組み沈線で、頸部へ 3 本の沈線を巡らし、胴部へは蛇行懸垂文 / 砂粒多量含む / 注No 95		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	24	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文条線 / 砂粒多量含む / 注No 225		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	25	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文条線へ 2 本組み沈線による懸垂文 / 砂粒多量含む / 注No 152		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	底部片
	26	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯で口縁と胴部を区画。口縁は沈線で渦巻文などを施文。胴部は上端が逆 U 字の 3 本組み沈線による懸垂文。懸垂文間は斜位の沈線列 / 砂粒多量含む / 注No 203		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	口縁部片
	27	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は縦位の沈線列。曲線文様を平行沈線列で施文 / 砂粒多量含む。輝石含む / 注No 199		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	口縁部片
	28	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は斜位の沈線列。頸部に粘土紐を波状に貼付 / 砂粒多量含む / 注No 108		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	胴部片
	29	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は斜位の沈線列。口縁直下に 2 本の沈線列を巡らす。内面は断面三角に突出し、斜位の沈線列を施文 / 砂粒多量含む。輝石含む / 注No 2		縄文中期・曾利Ⅲ	口縁部片
	30	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は斜位の沈線列。内面は断面三角に突出し、斜位の沈線列を施文 / 砂粒多量含む。輝石含む / 注No 163		縄文中期・曾利Ⅲ	口縁部片
	31	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は縦位の沈線列。粘土紐を波状に貼付 / 砂粒多量含む / 注No 25		縄文中期・曾利Ⅲ	口縁部片
	32	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 沈線による綾杉文に懸垂隆帯 / 砂粒多量含む / 注No 39		縄文中期・曾利Ⅲ	胴部片
	33	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 沈線による懸垂文 / 砂粒多量含む / 注No 抵		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	底部片
	34	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 管状工具による列点文 / 砂粒多量含む / 注No 131		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	口縁部片
	35	178 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁部へ列点文列を巡らす / 砂粒多量含む / 注No B 区-2		縄文中期・加曾利 E Ⅱ	口縁部片



図版 番号	掲載 番号	遺構名	種別・器種	口径・ 長	底径・ 幅	器高・ 厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定 生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
127 図	36	178号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 管状工具による列点文 / 砂粒多量含む / 注No 36		縄文中期・ 加曾利 E II	胴部片
	37	178号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No A区-2		縄文中期	口縁部片
	38	178号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No 23		縄文中期	口縁部片
	39	178号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No 109		縄文中期	口縁部片
	40	178号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪積み成形 / 無文。内面に赤色塗彩 / 砂粒多量含む / 注No 173		縄文中期	口縁部片
	41	178号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 無文。高台状の底部片 / 砂粒多量含む / 注No A区-1		縄文中期	底部片
	42	178号住居跡	縄文土器・深鉢		(9.0)	(2.2)	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No 1		縄文中期	底部片
	43	178号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	(8.0)	(2.2)	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No 229		縄文中期	底部片
	44	178号住居跡	石器・ナイフ形	(1.3)	(1.33)	0.4	重量 0.68g 縦長剥片を素材とし、基部の両側片をブランディング / 注No 179	黒曜石	縄文時代	基部片
	45	178号住居跡	石器・石鏃	1.5	1.3	0.34	重量 0.50g 押圧剥離 / 注No 15	黒曜石	縄文時代	完形
	46	178号住居跡	石器・石鏃	(1.6)	(0.9)	0.28	重量 0.34g 押圧剥離 / 注No 104	黒曜石	縄文時代	基部欠
	47	178号住居跡	石器・打製石斧	8.33	6.63	1.7	重量 112.69g 両極敲打技法 / 注No A区-2	砂岩	縄文時代	完形
	48	178号住居跡	石器・打製石斧	8.82	4.04	1.38	重量 55.90g 両極敲打技法 / 注No 214	ホルンフェ ルス	縄文時代	完形
	49	178号住居跡	石器・打製石斧	8	(3.6)	2.3	重量 78.40g 両極敲打技法 / 注No 96	ホルンフェ ルス	縄文時代	刃部一部欠
128 図	50	178号住居跡	石器・打製石斧	4.15	4.1	1	重量 21.55g 両極敲打技法 / 注No B区-1	ホルンフェ ルス	縄文時代	基部欠
	51	178号住居跡	石器・打製石斧	6.1	3.9	1.4	重量 55.34g 両極敲打技法 / 注No A区-2	砂岩	縄文時代	刃部、基部 一部欠
	52	178号住居跡	石器・打製石斧	8.2	4.5	2.3	重量 136.40g 両極敲打技法 / 注No 153 床直	泥岩?	縄文時代	刃部、基部 一部欠
	53	178号住居跡	石器・敲石	12.7	4.2	1.1	重量 107.43g 図右側面に敲打痕有 / 注No 22	チャート	縄文時代	裏半分欠
	54	178号住居跡	石器・くぼみ石	12	9.6	2.4	重量 346.36g 径 2.5 cm、深さ 1 cmの孔 1ヶ所有 / 注No P 1	片岩	縄文時代	左上、下部欠
	1	179号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 半載竹管による斜向沈線列を口唇部から口縁部に掛けて施文後、粘土紐を波状に貼付 / 砂粒多量含む / 注No A区-1		縄文中期・曾利II	口縁部片
	2	179号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	口縁部の渦巻状突起の一部 / 注No B区-1		縄文中期・加曾利E	口縁部片
	3	179号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は条線。口縁部へ2本の沈線を巡らす / 砂粒多量含む / 注No B区-2		縄文中期・ 加曾利 E II	口縁部片
	4	179号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文縦位の沈線列 / 砂粒多量含む / 注No 28		縄文中期・加曾利E	口縁部片
	5	179号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 連鎖状懸垂隆帯を2本組みの沈線列や押し印文で抑え、隆帯間も同一工具で蛇行懸垂文を施文 / 砂粒多量含む / 注No 21		縄文中期・加曾利E	胴部片
	6	179号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文縦位の条線 / 砂粒多量含む / 注No 13、19		縄文中期・ 加曾利 E	胴部片
	7	179号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯を沈線で押さえた区画内を、管状工具による列点文で充填 / 砂粒多量含む / 注No 11		縄文中期・加曾利E	胴部片
	8	179号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は無節1縄文を斜位に施文後、平行沈線の波状文 / 砂粒多量含む / 注No 29 床直		縄文中期・加曾利E	胴部片
	9	179号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文はRL縄文を縦位に施文後、直線の懸垂文を3本組み沈線で施文 / 砂粒多量含む / 注No H2		縄文中期・ 加曾利 E II	胴部片
10	179号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No B区-1		縄文中期	底部片	
11	179号住居跡	縄文土器・鉢	—	(12.4)	(1.8)	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No B区-2		縄文中期	底部片	
12	179号住居跡	縄文土器・鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯貼付 / 砂粒多量含む。雲母片多量含む / 注No P2 P2内		縄文中期	胴部片	
13	179号住居跡	石器・石鏃未成品	1.9	2.1	0.55	重量 1.91g 押圧剥離。下部からの剥離時に先端部が欠けたと思われる / 注No H2	黒曜石 (未成品)	縄文時代	一部欠	
14	179号住居跡	石器・磨製石斧	7.9	2.4	0.7	重量 22.8g 刃部が蛤状に磨製された小形石斧の両側片を、両極敲打技法で成形(途中) / 注No 23	片岩	縄文時代	基部欠	
129 図	1	180号住居跡	縄文土器・深鉢	(3.18)	—	(22.1)	輪積み成形 / 口縁は4ヶ所に把手突起が有ると思われ、2ヶ所残存する。図正面と裏面は沈線による渦巻文を隆帯で囲う。右側は立体の把手が備わると思われる。口縁文様の基本は、隆帯により横「S」字状に文様を配置する。隆帯上はへら状工具による連続刺突、もしくは管状工具による交互刺突である。区画内は円形、三角形を基本に、沈線による囲いと連続刺突や交互刺突及び沈線列で充填する。胴部との境界に三角押文を施文した隆帯を巡らせる。胴部はR右巻きの燃糸文を縦位、時計回りに重ねる / 砂粒多量含む / 注No H1 体1、H1		縄文中期・勝坂3	胴部下半欠、 口縁一部欠
	2	180号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯により楕円区画を配置する。隆帯上はへら状工具による連続刺突。区画内は沈線による渦巻き文。楕円区画間は沈線による三叉文で充填する。胴部はR右巻きの燃糸文を縦位、時計回りに重ねる / 砂粒多量含む / 注No H1 体1、2		縄文中期・勝坂3	胴部中位の 1/2以下残存
	3	180号住居跡	縄文土器・深鉢	34.0	—	(20.2)	輪積み成形 / 口唇部は内外に突出し、連鎖状隆帯にする。口縁は無文。胴部との境界は平行沈線間を交互刺突する。胴部上半は隆帯により円形、半月形、波状に文様を配置する。隆帯上はへら状工具による連続刺突。区画内は沈線による円形文や三叉文で、連続刺突や交互刺突及び列点文で充填する。胴部はLR縄文を縦位に重ねる / 砂粒多量含む / 注No 41、43、45、66、347、356、357、359、360、362、390、758、A区3・4・8		縄文中期・勝坂3	胴部下半欠
	4	180号住居跡	縄文土器・ 小形深鉢	12.0	17.6	15.8	輪積み成形 / 口縁は1ヶ所に把手突起が有り渦巻きの隆帯が張り付く。口縁は無文、頸部に隆帯が1条巡り、交互刺突される。胴部は頸部隆帯から伸びる懸垂隆帯で四分割され、うち3ヶ所は端部が「b」字状に回る。隆帯上はへら状工具による連続刺突。把手反対側の懸垂は十字に沈線で分割される / 砂粒多量含む / 注No 44、76～79、427、434、435、442、477、478、480、481、482、487、ベルト1		縄文中期・勝坂3	ほぼ完形
	5	180号住居跡	縄文土器・深鉢	22.0	—	(14.5)	輪積み成形 / 口縁は最低1ヶ所に把手突起が有る。幅広突帯下の文様態は隆帯で「U」字等に区画し、区画内は沈線で渦巻きや半円区画などがなされ、沈線列、連続刺突、半載竹管による半円形刺突などで充填する / 砂粒多量含む / 注No 223、230、233、234		縄文中期・勝坂3	口縁部 1/2 以上残存

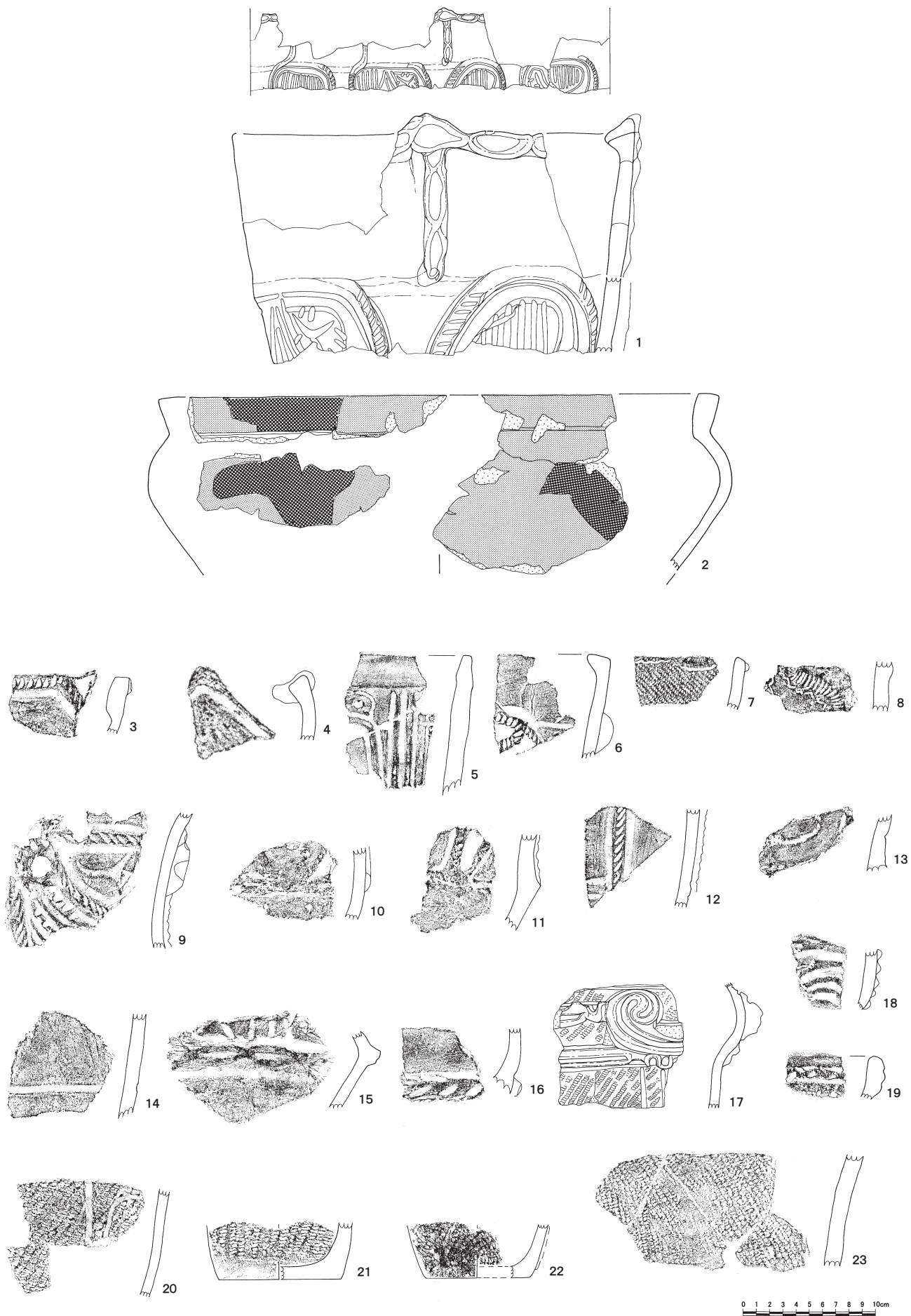
図版 番号	掲載 番号	遺構名	種別・器種	口径・ 長	底径・ 幅	器高・ 厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定 生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
129 図	6	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁は 3 本組み平行沈線でおそらく四分割される。胴部との境は 3 本組みの平行沈線が巡り、若干半隆帯になる。胴部は RL 縄文を縦位に施文する / 砂粒多量含む / 外面、煤や炭化物が付着する / 注№ 119、158、160、162、167、173、274		縄文中期・勝坂 3	口縁部 1/4 以上残存
	7	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	18.0	—	(32.3)	輪積み成形 / 口縁は、2ヶ所に大形、2ヶ所に小形の計 4ヶ所に把手突起があり、直下に懸垂隆帯を降ろして、文様帯が四分割される。文様帯は隆帯でさらに上下二分割される。隆帯の交差部分は隆帯中央へ十字形に沈線を入れ、その間は交互刺突する。上部文様帯は 3ヶ所が隆帯上を矢羽状に刺突した斜向隆帯で分割され、1ヶ所は隆帯で半円に分割される。下部文様帯は懸垂隆帯で貫くように、隆帯による楕円区画を配置する。上下各区画内は沈線による渦巻文、三叉文、沈線列等で充填されるが、無文の区画もある。胴部は R 左巻きの縹糸文を縦位、時計回りに重ねる / 砂粒多量含む / 注№ 炉 H1、№ 461、462		縄文中期・勝坂 3	底部欠
130 図	8	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 大形の中空把手の口縁部片。把手は円形や渦巻きを主体とし、沈線で隆帯上をなぞる。口縁部は RL 縄文を横位に施文後、2 本組み隆帯を貼付、沈線で脇を撫で付ける。口縁上端には波状沈線を巡らす / 砂粒多量含む / 注№ 366		縄文中期・勝坂末、中峠式	口縁部片
	9	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁は幅広の無文突帯の下へ R 右巻きの縹糸文を縦位、時計回りに重ねる。胴部との境は隆帯が巡り隆帯上はへら状工具による連続刺突である / 砂粒多量含む / 注№ B 区 -5、C 区 -1・4、D 区 -3、H1		縄文中期・勝坂 3	口縁部片 / № 9 ~ 11 は同一個体
	10	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 胴部文様帯は隆帯による楕円区画で、隆帯上はへら状工具により連続刺突される。区画内は平行沈線と連続刺突である。胴部は R 右巻きの縹糸文を縦位、時計回りに重ねる / 砂粒多量含む / 注№ 206 ~ 208、213、B 区 -5、C 区 -2・4		縄文中期・勝坂 3	胴部片 / № 9 ~ 11 は同一個体
	11	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は R 右巻きの縹糸文を縦位、時計回りに重ねる / 砂粒多量含む / 注№ 209 ~ 211、219、220、231、B 区 -5、C 区 -4・7		縄文中期・勝坂 3	胴部片 / № 9 ~ 11 は同一個体
	12	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 大形把手の口縁部片。隆帯上は一部へら状工具による連続刺突 / 砂粒多量含む / 注№ 197、200		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	13	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 大形把手の口縁部片。隆帯縁は爪形連続刺突。隆帯内や脇は三角押文 / 砂粒多量含む。雲母片多量含む / 注№ 127		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	14	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 把手突起から、直下に懸垂隆帯を降ろし、隆帯上をへら状工具により矢羽状に連続刺突。幅広の無文口縁突帯を持つ / 砂粒多量含む / 注№ 115		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	15	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 把手突起から、直下に懸垂隆帯を降ろし、隆帯上をへら状工具により矢羽状に連続刺突。幅広の無文口縁突帯を持つ / 砂粒多量含む / 注№ 228、C 区 -4		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	16	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 小形把手突起から、直下に懸垂隆帯を降ろし、隆帯上をへら状工具により連続刺突。幅広の無文口縁突帯を持つ / 砂粒多量含む / 注№ H1		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	17	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 三角形把手の口縁部片。隆帯縁は連続刺突、隆帯上を連鎖状にする。口縁内面は沈線で三叉文 / 砂粒多量含む / 注№ 269		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	18	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯脇は三角押文 / 砂粒多量含む。雲母片多量含む / 注№ 270		縄文中期・阿玉台 1 b 期	胴部片
	19	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 三角形把手の口縁部片。縁は内側へ突出する。頂点から懸垂隆帯 / 砂粒多量含む。角閃石含む / 注№ 15		縄文中期・阿玉台	口縁部片
	20	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁は内側へ突出する / 砂粒多量含む。角閃石含む / 注№ 300、AB ベルト 1		縄文中期	口縁部片
	21	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁へ懸垂隆帯 / 砂粒多量含む / 注№ 12		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	22	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁へ懸垂隆帯 / 砂粒多量含む / 注№ 11、12、A 区 -1		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	23	180 号住居跡	縄文土器・小形深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 胴部へ隆帯を貼付し脇を沈線で押さえる / 砂粒多量含む / 注№ 425、H4		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	24	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯上を連続刺突した渦巻き文と、半載竹管による半隆帯で区画し、区画内は横位の沈線列で充填する / 砂粒多量含む / 注№ 93、440		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	25	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 上を連続刺突した隆帯で区画し、区画内は縦位の沈線列で充填する / 砂粒多量含む / 注№ 196、199、279、H1		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	26	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を横位に施文する / 砂粒多量含む / 注№ P5-1		縄文中期	胴部片
	27	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(10.0)	(8.1)	輪積み成形 / RL 縄文を横位に施文する / 砂粒多量含む / 注№ CD ベルト 1		縄文中期	底部片
28	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	9.6	(5.2)	輪積み成形 / RL 縄文を横位に施文する / 砂粒多量含む / 注№ 382		縄文中期	底部片	
29	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(11.4)	(5.5)	輪積み成形 / RL 縄文を横位に施文する / 砂粒多量含む / 注№ B 区 -5、C 区 -4		縄文中期	底部片	
30	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(12.2)	(4.5)	輪積み成形 / 縄文を施文する / 砂粒多量含む / 注№ BC ベルト 1		縄文中期	底部片	
31	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(7.0)	(3.0)	輪積み成形 / 縄文を施文する / 砂粒多量含む / 注№ 302、364		縄文中期	底部片	
32	180 号住居跡	縄文土器・深鉢	—	(12.6)	(7.0)	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文後懸垂隆帯と波状隆帯を貼付する / 砂粒多量含む / 注№ 178、179		縄文中期・加曾利 E I	底部片	
131 図	33	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	24.5	10.5	17.2	輪積み成形 / 口縁は内側に屈曲し、隆帯による楕円区画で四分割する。隆帯上はへら状工具による連続刺突。隆帯脇は角押文。区画内は沈線を横一文字に施文する / 砂粒多量含む。雲母片多量含む / 黒斑付着 / 注№ 349 ~ 353、355、394		縄文中期・勝坂 3	1/2 以上残存
	34	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	(31.1)	10.0	13.0	輪積み成形 / 口縁は内側に湾曲し、口唇は内外に突出する。無文 / 砂粒多量含む / 外面一部に赤色塗彩痕有。内面黒斑付着 / 注№ 484、ABC ベルト		縄文中期	3/4 以上残存
132 図	35	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	(39.0)	—	(11.4)	輪積み成形 / 口縁は内側に湾曲し、やや幅広の突帯が巡る / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩痕有。内面は半円形や矩形の模様を描かれる / 注№ 347		縄文中期	1/4 以下残存
	36	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	(44.0)	—	(6.5)	輪積み成形 / 口縁は内側に湾曲し、やや幅広の突帯が巡る / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩痕有。内面黒斑付着 / 注№ 248、249		縄文中期	1/4 以下残存

図版 番号	掲載 番号	遺構名	種別・器種	口径・ 長	口径・ 長	口径・ 長	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定 生産地	推定年代・時期	残存 / 備考	
132 図	37	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁は内側に湾曲し、隆帯が貼付される / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩痕有。内面黒斑付着 / 注No.488		縄文中期	口縁部片	
	38	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁は内側に湾曲し、隆帯が貼付される / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩痕有。内面黒斑付着 / 注No.134、137		縄文中期	口縁部片	
	39	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁は内側に湾曲し、突帯が巡る / 砂粒多量含む / 外面に赤色塗彩痕有 / 注No.145、B区-4		縄文中期	口縁部片	
	40	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口唇部に連続爪形文。 / 砂粒多量含む。雲母片多量含む。 / 焼成後の穿孔有。 / 注No.373		縄文中期	口縁部片	
	41	180 号住居跡	縄文土器・ 注口土器	—	—	—	地文に R 右巻ききの撚糸文を縦位に施文後、沈線で文様帯を区画、渦巻文や交互刺突を施文する / 砂粒多量含む。角閃石含む / 注No.81	縄文中期・勝坂 3		注口部	
	42	180 号住居跡	縄文土器・ 有孔罎付土器	—	—	—	輪積み成形 / 直立する口縁下端に径 3.5 mm の孔が 3cm 間隔で並ぶ。穿孔は焼成前。罎は 2 重に巡り、幅広の環状把手が付く / 砂粒多量含む。角閃石含む / 内外面に赤色塗彩痕有 / 注No.337		縄文中期・新道	口縁部片 / No.43 と 同一個体	
	43	180 号住居跡	縄文土器・ 有孔罎付土器	—	—	—	輪積み成形 / 幅広の環状把手が付く罎部分 / 砂粒多量含む。角閃石含む / 内面に赤色塗彩痕有 / 注No.B区-4		縄文中期・新道	罎部片 / No.42 と同一個体	
	44	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / やや幅広の突帯が巡る / 砂粒多量含む。角閃石含む / 内外面に赤色塗彩痕有 / 注No.C区-4		縄文中期	口縁部片	
	45	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁は内側に湾曲する / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩痕有 / 注No.B区-2		縄文中期	口縁部片	
	46	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁は内側に湾曲する / 砂粒多量含む / 内外面に赤色塗彩痕有 / 注No.C区-4		縄文中期	口縁部片	
	47	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 砂粒多量含む / 内面は黒斑もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩痕有 / 注No.C区-5		縄文中期	胴部片	
	48	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 砂粒多量含む / 内面は黒斑もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩痕有 / 注No.C区-3		縄文中期	胴部片	
	49	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 砂粒多量含む / 内面は黒斑もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩痕有 / 注No.B区-3		縄文中期	胴部片	
	50	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 砂粒多量含む / 内面には赤色塗彩痕有。外面は黒斑もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩痕有 / 注No.P4-2		縄文中期	胴部片	
	51	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 砂粒多量含む / 内外面に黒斑もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩痕有 / 注No.B区-5、CDベルト 1		縄文中期	胴部片	
	52	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 砂粒多量含む。 / 内面は黒斑もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩痕有。 / 注No.C区-3		縄文中期	胴部片	
	53	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 砂粒多量含む / 外面は黒斑もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩痕有 / 注No.C区-5		縄文中期	胴部片	
	54	180 号住居跡	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 砂粒多量含む / 内面は黒斑もしくは黒色塗彩の上に赤色塗彩痕有 / 注No.B区-4		縄文中期	胴部片	
	55	180 号住居跡	縄文土器・ 土製円盤	—	—	—	土器片を円形に打ち欠く / 砂粒多量含む / 内面に赤色塗彩痕有 / 注No.B区-5		縄文中期	胴部片	
	56	180 号住居跡	土製品・鳩笛	—	—	—	型合わせ成形 / 透明釉 / 注No.BCベルト 1		19C 後半	吹き口部	
	57	180 号住居跡	焼成粘土塊	—	—	—	注No.CDベルト 1				
	58	180 号住居跡	炉壁	—	—	—	製鉄関連の炉壁片 / 注No.D区-4		奈良・平安		
	59	180 号住居跡	土製品・泥面子	2.7	2.3	0.8	型押成形 / ヒョットコ。裏面に指頭圧痕 / 砂粒少量含む / 注No.B区-2		1790 年代～ 1890 年代	完形	
	133 図	60	180 号住居跡	石器・石鏃	(1.71)	1.34	0.37	重量 0.74g 押圧剥離 / 注No.C区-1	チャート	縄文時代	先端欠
		61	180 号住居跡	石器・楔形	1.5	1.4	0.7	重量 0.95g 両極打法 / 注No.C区-2	黒曜石	縄文時代	完形
		62	180 号住居跡	石器・打製石斧	11.2	4.4	1.55	重量 106.39g 両極打法 / 注No.113 周溝	砂岩	縄文時代	完形
		63	180 号住居跡	石器・打製石斧	(9.43)	4.85	1.45	重量 71.62g 両極打法 / 注No.172	片岩	縄文時代	刃部欠
		64	180 号住居跡	石器・打製石斧	(8.20)	5.13	2.60	重量 123.7g 両極打法 / 注No.57	ホルンフェ ルス	縄文時代	刃部欠
65		180 号住居跡	石器・打製石斧	(8.95)	4.90	3.10	重量 134.4g 両極打法 / 注No.60	砂岩	縄文時代	刃部欠	
66		180 号住居跡	石器・打製石斧	(7.90)	5.88	1.78	重量 79.72g 両極打法 / 注No.103	ホルンフェ ルス	縄文時代	基部欠	
67		180 号住居跡	石器・打製石斧	(9.85)	5.40	2.90	重量 189.3g 両極打法 / 注No.390 床直	砂岩	縄文時代	刃部欠	
68		180 号住居跡	石器・打製石斧	(9.10)	5.30	1.60	重量 88.1g 両極打法 / 注No.407	砂岩	縄文時代	基部欠	
69		180 号住居跡	石器・打製石斧	(9.73)	5.08	1.48	重量 66.65g 両極打法 / 注No.D区-4	ホルンフェ ルス	縄文時代	刃部欠	
70		180 号住居跡	石器・打製石斧	(10.20)	5.00	1.95	重量 108.98g 両極打法 / 注No.CDベルト 1	片岩	縄文時代	基部欠	
71		180 号住居跡	石器・打製石斧	9.60	4.77	1.87	重量 106.8g 両極打法 / 注No.308	黒色安山岩	縄文時代	完形	
72		180 号住居跡	石器・打製石斧	(6.78)	(4.90)	1.13	重量 45.2g 両極打法 / 注No.177	ホルンフェ ルス	縄文時代	刃部欠	
73		180 号住居跡	石器・打製石斧	(6.45)	4.65	2.17	重量 70.80g 両極打法 / 注No.C区-2	ホルンフェ ルス	縄文時代	基部欠	
74		180 号住居跡	石器・打製石斧	(6.80)	(3.68)	1.80	重量 50.31g 両極打法 / 注No.C区-5	片岩	縄文時代	刃部欠	
75		180 号住居跡	石器・打製石斧	(8.40)	4.90	1.27	重量 60.71g 両極打法 / 注No.C区-2	黒色頁岩	縄文時代	基部欠	
76		180 号住居跡	石器・打製石斧	4.5	4.90	2.0	重量 53.24g 両極打法 / 注No.216	ホルンフェ ルス	縄文時代	刃部欠	
77		180 号住居跡	石器・打製石斧	7.9	5.30	4.20	重量 193.60g 両極打法 / 注No.96	砂岩	縄文時代	刃部、基部欠	
78		180 号住居跡	石器・敲石	6.8	4.20	0.8	重量 38.64g / 注No.365	頁岩	縄文時代	破片	
79		180 号住居跡	石器・磨製石斧	11.0	4.40	4.1	重量 306.1g 敲打後磨製成形 / 注No.483 床直	凝灰岩	縄文時代	基部欠	
80		180 号住居跡	石器・敲石	6.7	1.90	1.6	重量 33.45g 先端に敲打痕有 / 注No.B区-3	安山岩?	縄文時代	基部欠	
81		180 号住居跡	石器・磨製石斧、 敲石	7.6	4.50	3.1	重量 176.2g 先端に敲打痕有 / 注No.401	凝灰岩	縄文時代	基部欠	
82		180 号住居跡	石器・敲石	11.0	5.10	2.0	重量 170.29g 側面に敲打痕有 / 注No.C区-2	砂岩	縄文時代	一部欠	
83		180 号住居跡	石器・敲石	11.6	3.10	1.2	重量 69.4g 先端に敲打痕有 / 注No.236 床直	砂岩	縄文時代	一部欠	
84		180 号住居跡	石器・くぼみ石	11.0	13.90	1.9	重量 422.3g 径 2.0 cm の孔 1 ヶ所有 / 注No.271	片岩	縄文時代	一部欠	



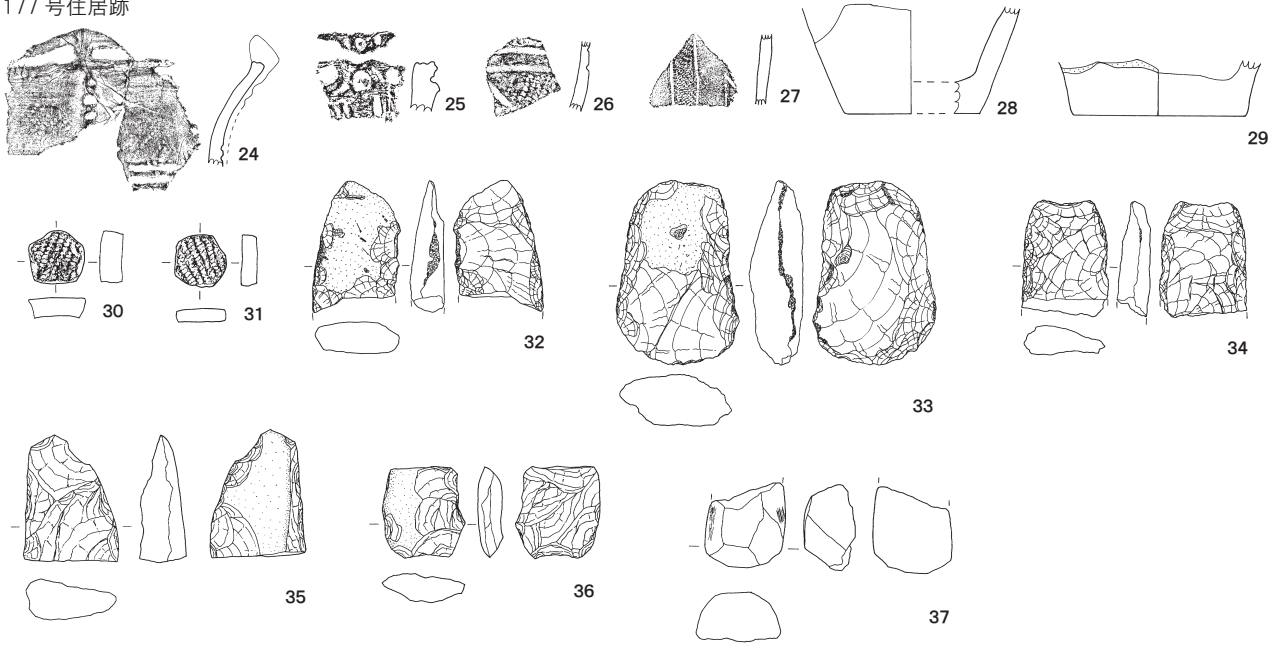
図版 番号	掲載 番号	遺構名	種別・器種	口径・ 長	底径・ 幅	器高・ 厚	技法 / 文様 / その他	石材 / 推定 生産地	推定年代・時期	残存 / 備考
134 図	1	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 幅広突帯に沈線による文様態 / 砂粒多量含む / 注No 1D-2		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	2	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯による区画文。隆帯上はへら状工具による連続刺突と交互刺突。区画内は沈線による三叉文と連続刺突で充填する / 砂粒多量含む / 注No 1D-3		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	3	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注No 1D-2		縄文中期	口縁部片
	4	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を横位に施文 / 砂粒多量含む / 注No 1D-1		縄文中期	口縁部片
	5	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / R 右巻きの擦糸文を縦位に施文後、2 本組みの隆帯を貼付、脇を沈線で押さえる / 砂粒多量含む / 注No 1D-1		縄文中期・加曾利 E I	胴部片
	6	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / R 右巻きの擦糸文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注No 1D-3		縄文中期	胴部片
	7	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文後、沈線で蛇行懸垂文を描く / 砂粒多量含む / 注No 1D-3		縄文中期・加曾利 E II	胴部片
	8	土坑 1	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を横位に施文 / 砂粒多量含む / 注No 1D-3		縄文中期	胴部片
	9	土坑 1	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁は内側に屈曲する。沈線による施文 / 砂粒多量含む / 注No 1D-2		縄文中期	胴部片
	10	土坑 1	縄文土器・鉢	—	(8.0)	(2.65)	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No 1D-2		縄文時代	底部片
	11	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 三角押文で文様描写 / 砂粒多量含む / 注No 2D-2		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	12	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は R 右巻きの擦糸文を縦位に施文。隆帯で囲い、脇を沈線で押さえる / 砂粒多量含む / 注No 2D-2		縄文中期・加曾利 E I	口縁部片
	13	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文後、平行沈線内を円形工具で連続刺突 / 砂粒多量含む / 注No 2D-2		縄文中期・加曾利 E II、連弧	口縁部片
	14	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は R 右巻きの擦糸文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注No 2D-2		縄文中期	胴部片
	15	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は R 右巻きの擦糸文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注No 2D-3		縄文中期	胴部片
	16	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文後、沈線で蛇行懸垂文を描く / 砂粒多量含む / 注No 2D-2		縄文中期・加曾利 E II	胴部片
	17	土坑 2	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 沈線で波状文を描く / 砂粒多量含む / 注No 2D-4		縄文中期	胴部片
	18	土坑 2	縄文土器・鉢	—	(10.0)	(2.3)	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No 2D-4		縄文時代	底部片
	19	土坑 3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯による楕円区画。区画内は縦位の沈線列で充填する / 砂粒多量含む / 注No 3D-2		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	20	土坑 3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 沈線列で充填する / 砂粒多量含む / 注No 3D-1		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	21	土坑 3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注No 3D-1		縄文中期	胴部片
	22	土坑 3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注No 3D-1		縄文中期	胴部片
	23	P3	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯貼付 / 砂粒多量含む / 注No P3-2		縄文中期	胴部片
	24	P6	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯による文様区画。隆帯上は爪形連続刺突 / 砂粒多量含む / 注No P6		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	25	P6	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁部の小把手。隆帯を貼付する / 砂粒多量含む。雲母片含む / 注No P6		縄文中期・阿玉台	口縁部片
	26	P7	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は L 右巻きの擦糸文を縦位に施文。粘土紐の波状懸垂文を貼付 / 砂粒多量含む / 注No P7-2		縄文中期・曾利 II	胴部片
	27	P8	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁部の小把手。隆帯を貼付する。隆帯上は連続刺突 / 砂粒多量含む。雲母片含む / 注No P8-2		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	28	P8	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注No P8-1		縄文中期	胴部片
	29	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 波状口縁部。隆帯による区画内脇を、半載竹管により平行した連続刺突を巡らせる / 砂粒多量含む。雲母片含む / 注No H2		縄文中期・阿玉台 I b 期	口縁部片
	30	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯脇に連続刺突 / 砂粒多量含む。雲母片含む / 注No H1		縄文中期・阿玉台 I b 期	胴部片
	31	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 隆帯脇に角押文を 3 列施文 / 砂粒多量含む。雲母片含む / 注No H1		縄文中期・阿玉台 II 期	胴部片
	32	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁部の小把手。環状の隆帯を内外面に貼付する。隆帯端に連続刺突 / 砂粒多量含む。雲母片含む / 注No H5		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	33	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 沈線に平行して連続刺突と半円形刺突を施文 / 砂粒多量含む / 注No H5		縄文中期・勝坂 3	胴部片
	34	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 波状口縁部。口縁は幅広の突帯。胴部は地文 R 右巻きの擦糸文を縦位に施文 / 砂粒多量含む / 注No H5		縄文中期・勝坂 3	口縁部片
	35	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁部は無文。胴部は RL 縄文を縦位に施文。口縁との境に隆帯を貼付後脇を沈線で押さえる。沈線による懸垂文を施文 / 砂粒多量含む / 注No H1		縄文中期・加曾利 E I	口縁部片
	36	遺構外	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No 1 トレ H1		縄文中期	口縁部片
	37	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁部は僅かに波状。地文は縦位の沈線列。隆帯で円形と楕円区画を配し、脇を沈線で押さえる / 砂粒多量含む / 注No H1		縄文中期・加曾利 E II	口縁部片
	38	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / RL 縄文を横位に施文 / 砂粒多量含む。角閃石含む / 注No H5		縄文中期	口縁部片
	39	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は条線を縦位に施文。口縁へ沈線を 2 列巡らす / 砂粒多量含む / 注No 1 トレ H1		縄文中期・加曾利 E II、連弧	口縁部片
	40	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は条線を縦位に施文。口縁へ沈線を 2 列と 3 列の連弧文 / 砂粒多量含む / 注No 1 トレ H1		縄文中期・加曾利 E II、連弧	口縁部片
	41	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 沈線による施文 / 砂粒多量含む / 注No H5		縄文中期	胴部片
	42	遺構外	縄文土器・深鉢	—	—	—	輪積み成形 / 地文は条線を縦位に施文。沈線で文様を描く / 砂粒多量含む / 注No H3		縄文中期	胴部片
	43	遺構外	縄文土器・浅鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁の断面三角。無文 / 砂粒多量含む / 注No H5		縄文中期	口縁部片
	44	遺構外	縄文土器・鉢	—	—	—	輪積み成形 / 口縁の断面三角。斜位の沈線列 / 砂粒多量含む / 注No H1		縄文中期・曾利 II	口縁部片
	45	遺構外	縄文土器・鉢	—	(6.4)	(1.5)	輪積み成形 / 無文 / 砂粒多量含む / 注No H5		縄文時代	底部片
	46	遺構外	鉄製品・刀子	—	—	—	鍛造品 / 注No H8			破片
	47	遺構外	鉄製品・釘	—	—	—	鍛造品 / 注No H4			頭部・先端欠
	48	遺構外	石器・打製石斧?	4.3	5.3	1.0	重量 33.56g / 注No H1	ホルンフェルス	縄文時代	
	49	遺構外	石器・打製石斧	16.37	8.05	4.35	重量 429.90g 両極敲打技法 / 注No H1	頁岩	縄文時代	完形
	50	遺構外	石器・ナイフ形	(2.90)	1.22	0.67	重量 1.49g 縦長剥片を素材に、基部両側片を調整剥離する / 注No H1	黒曜石	旧石器時代	先端欠
	51	遺構外	石器・楔形	2.1	1.5	0.6	重量 1.99g 両極技法 / 注No 2 トレ 1	黒曜石	縄文時代	完形



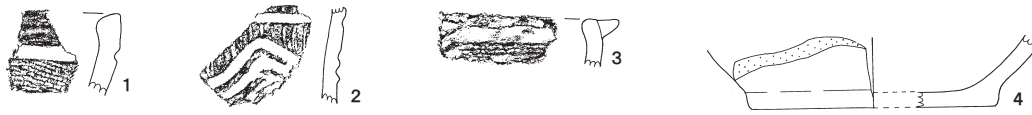


第125図 東台遺跡第51地点177号住居跡出土遺物① (1/4)

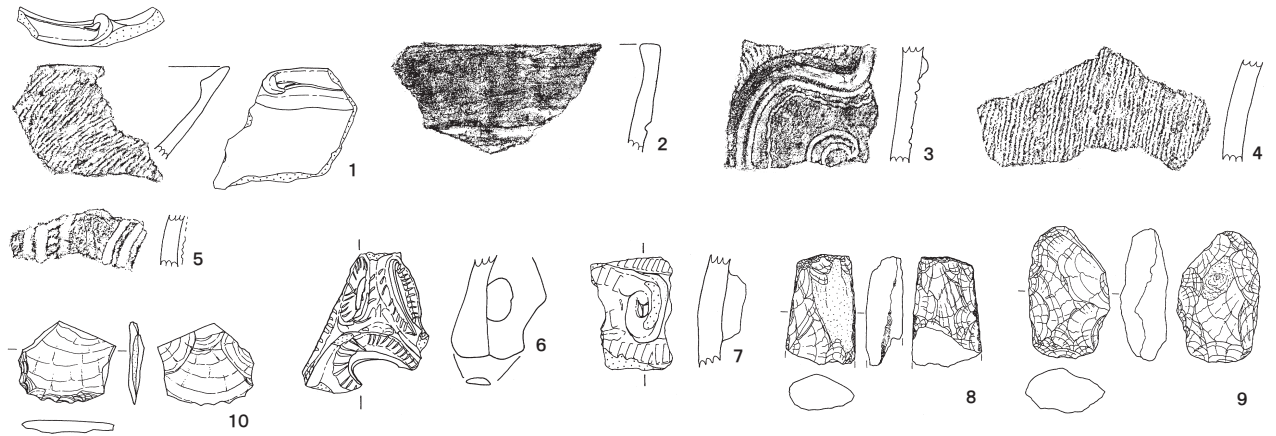
177号住居跡



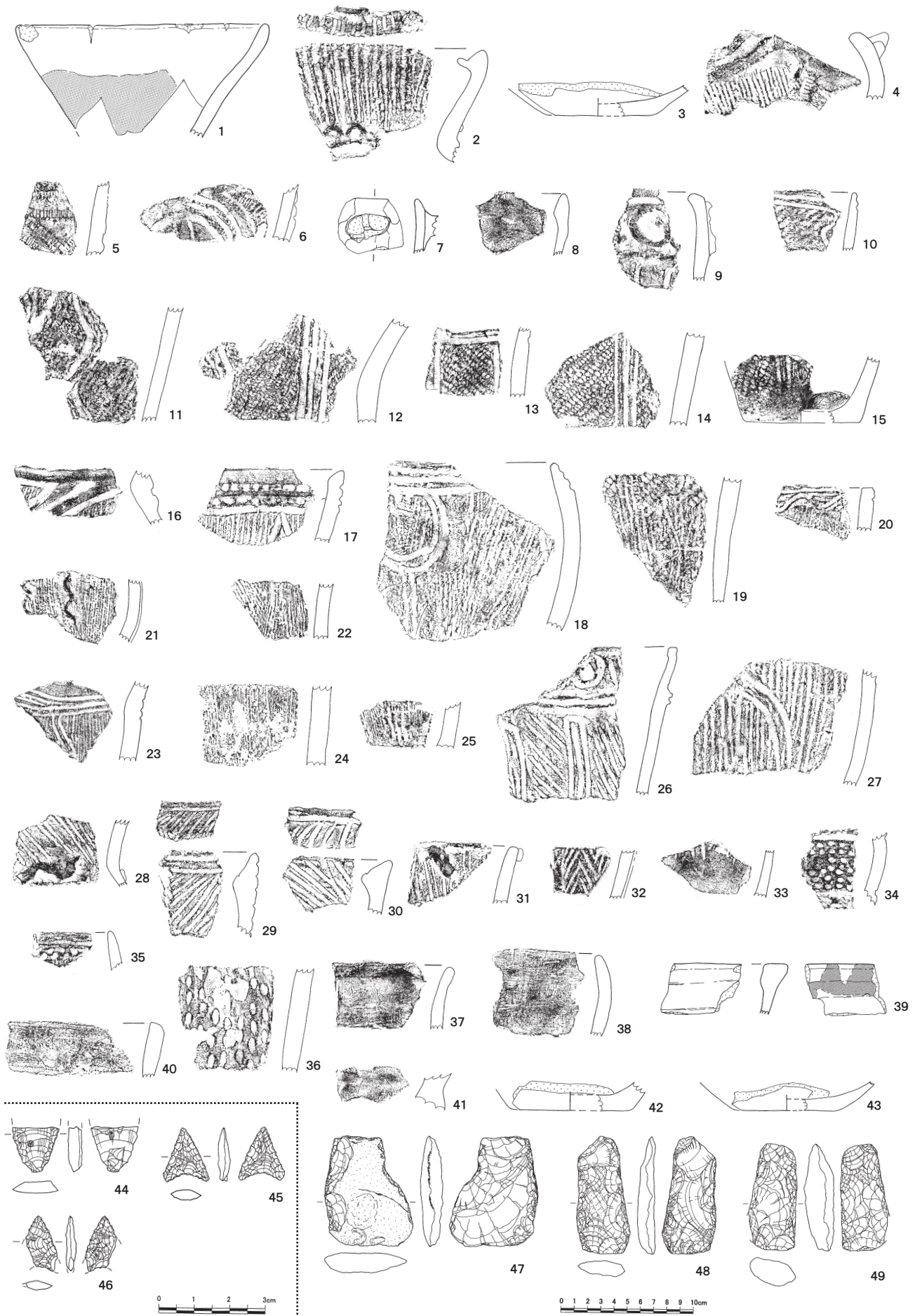
74号住居跡



182号住居跡



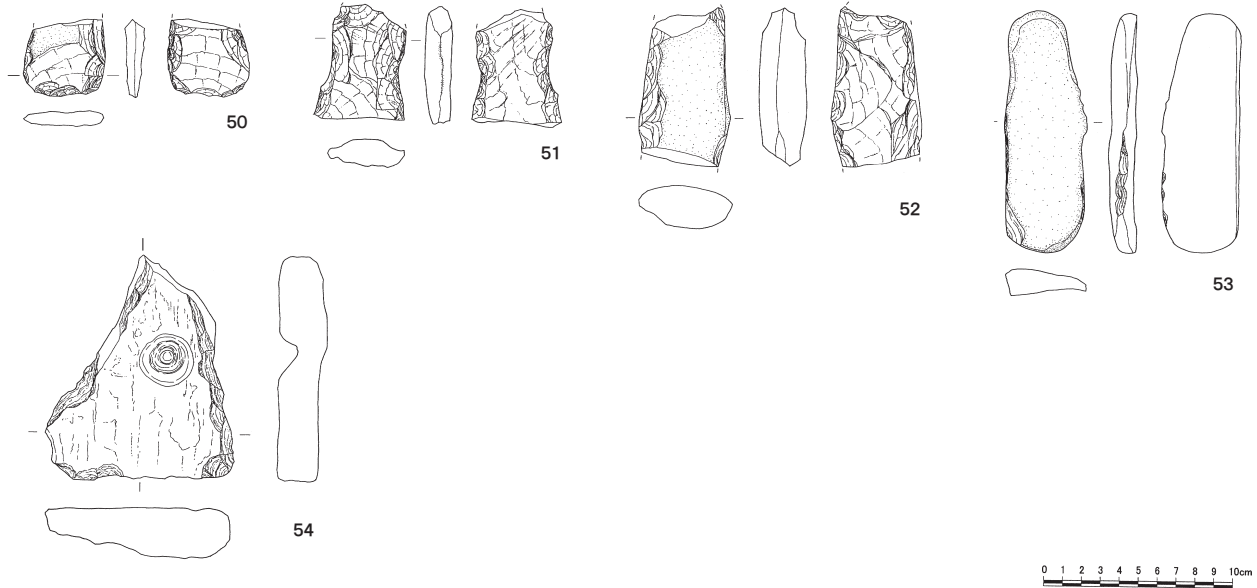
第126図 東台遺跡第51地点 177号②・74号・182号住居跡出土遺物 (1/4)



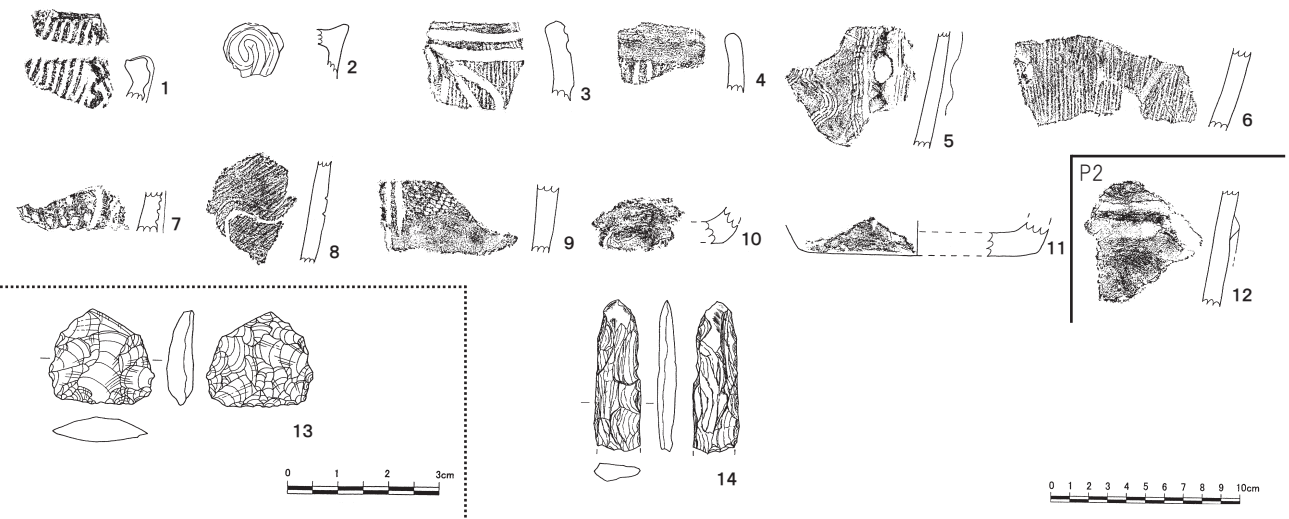
第127図 東台遺跡第51地点178号住居跡出土遺物① (1/4・2/3)



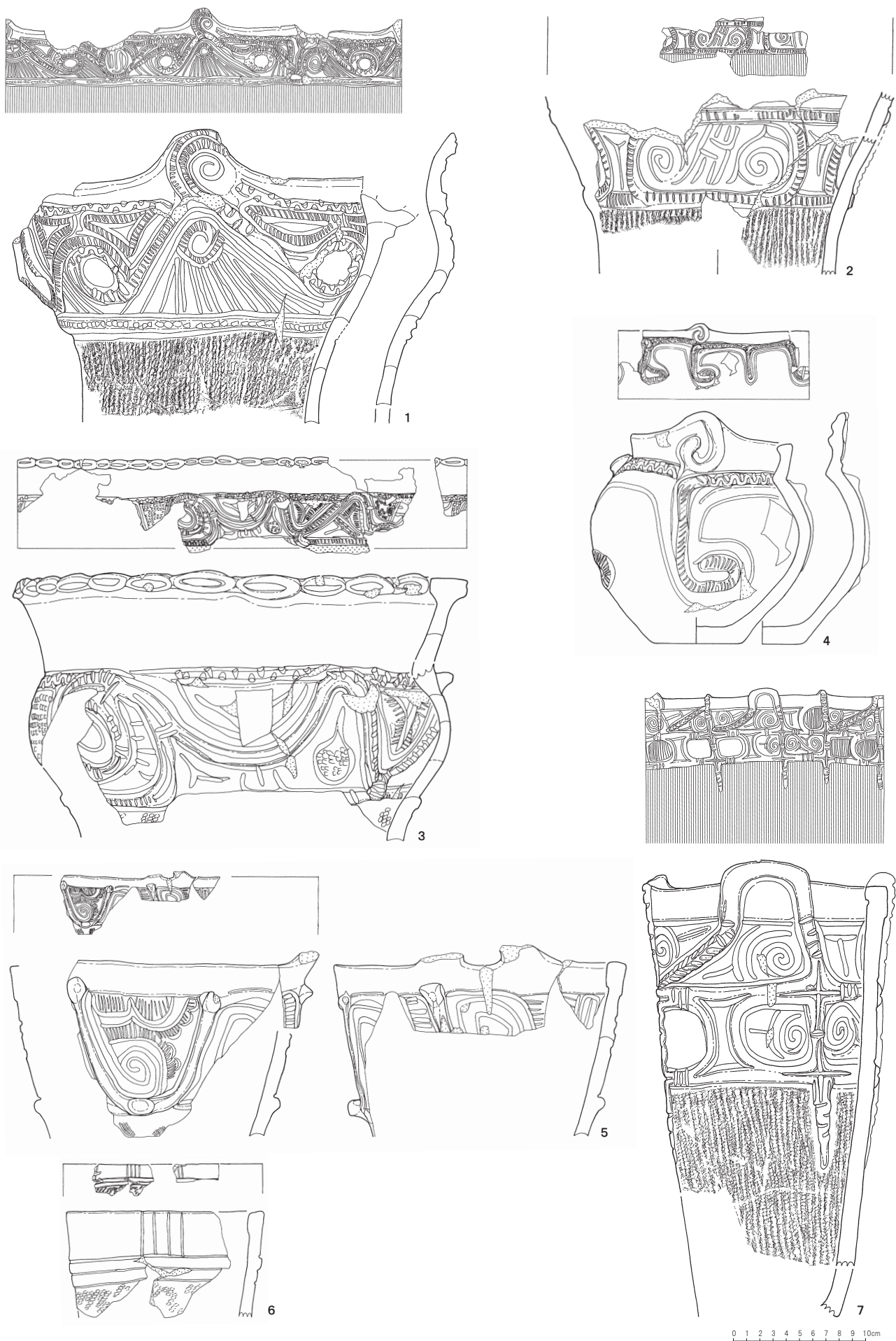
178 号住居跡



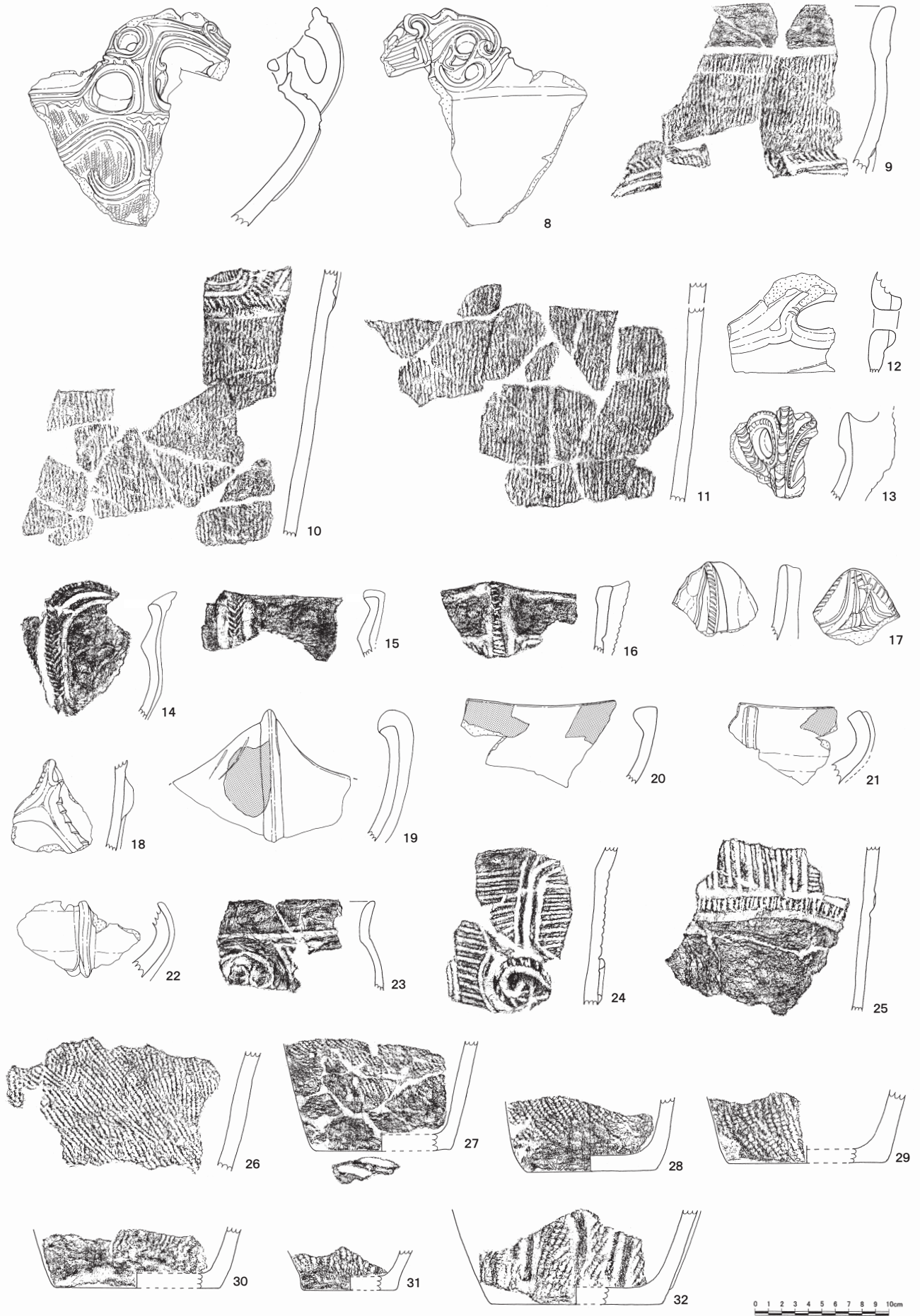
179 号住居跡







第129図 東台遺跡第51地点180号住居跡出土遺物① (1/4)

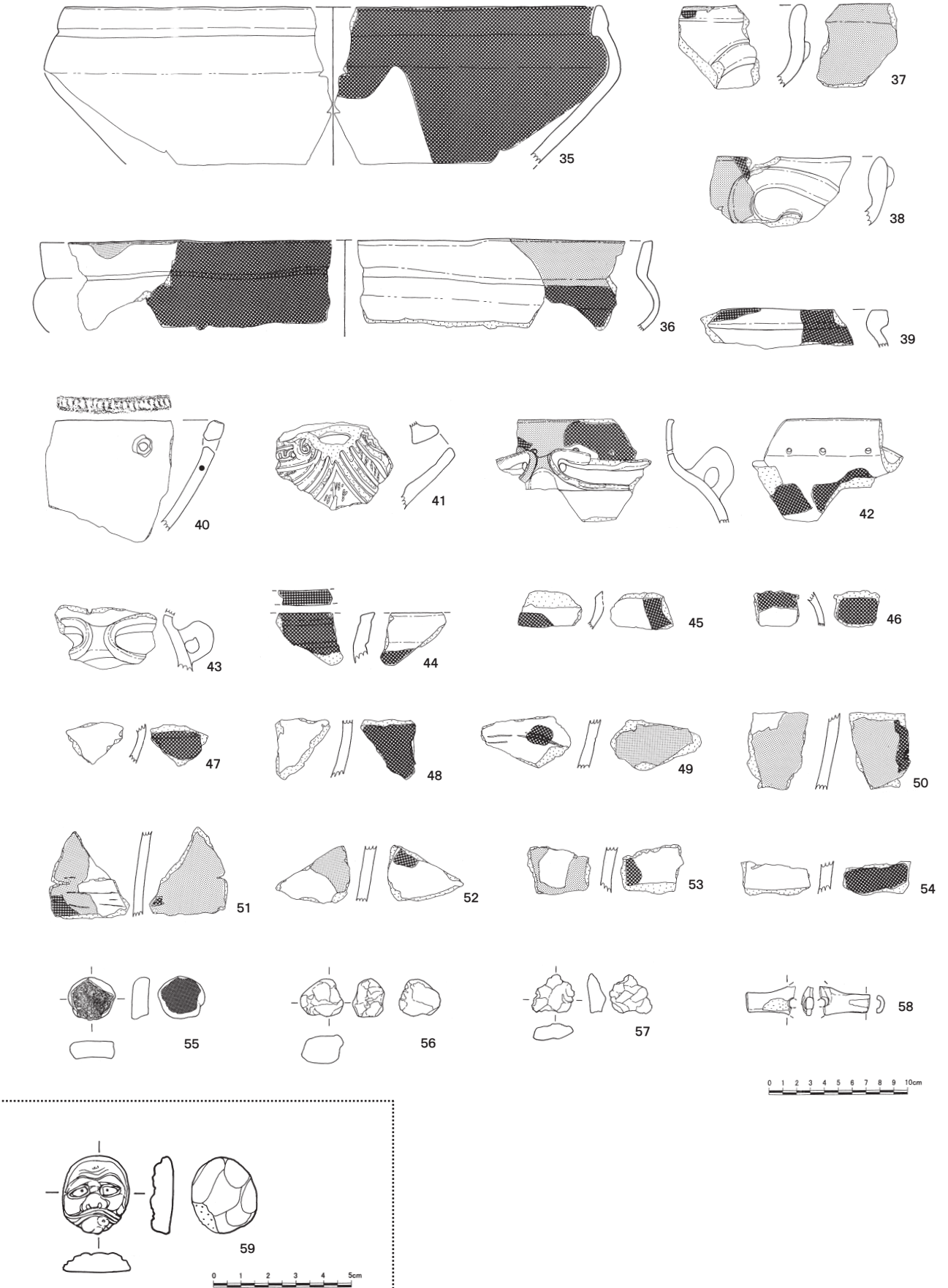


第130图 東台遺跡第51地点180号住居跡出土遺物② (1/4)



第 131 図 東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡出土遺物③ (1/4)





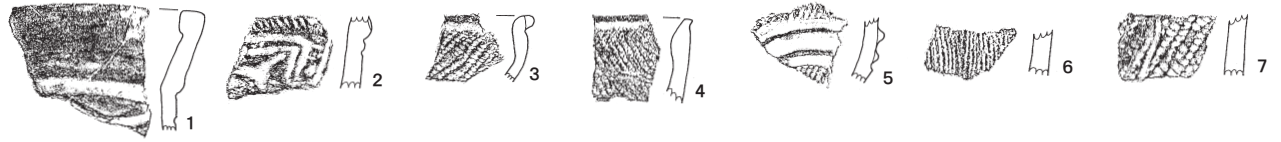
第 132 図 東台遺跡第 51 地点 180 号住居跡出土遺物④ (1/4・1/2)



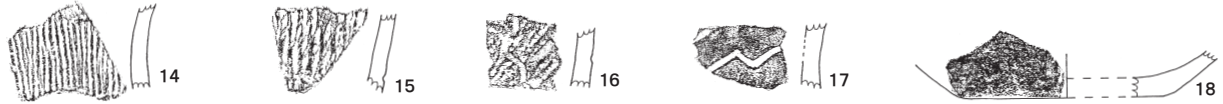


第133図 東台遺跡第51地点180号住居跡出土遺物⑤ (1/4・2/3)

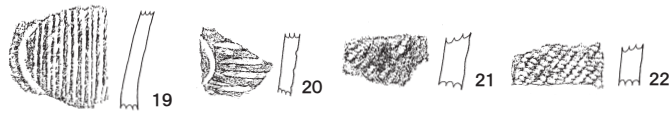
土坑 1



土坑 2



土坑 3



P3



P6



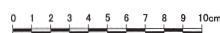
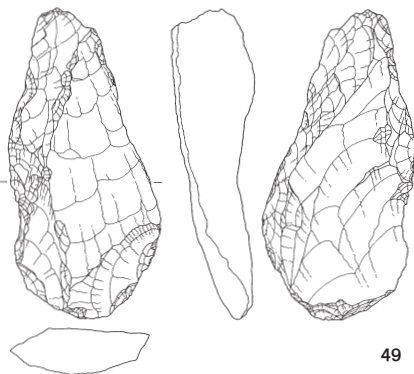
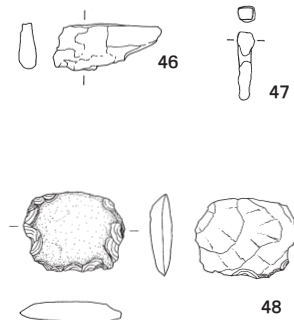
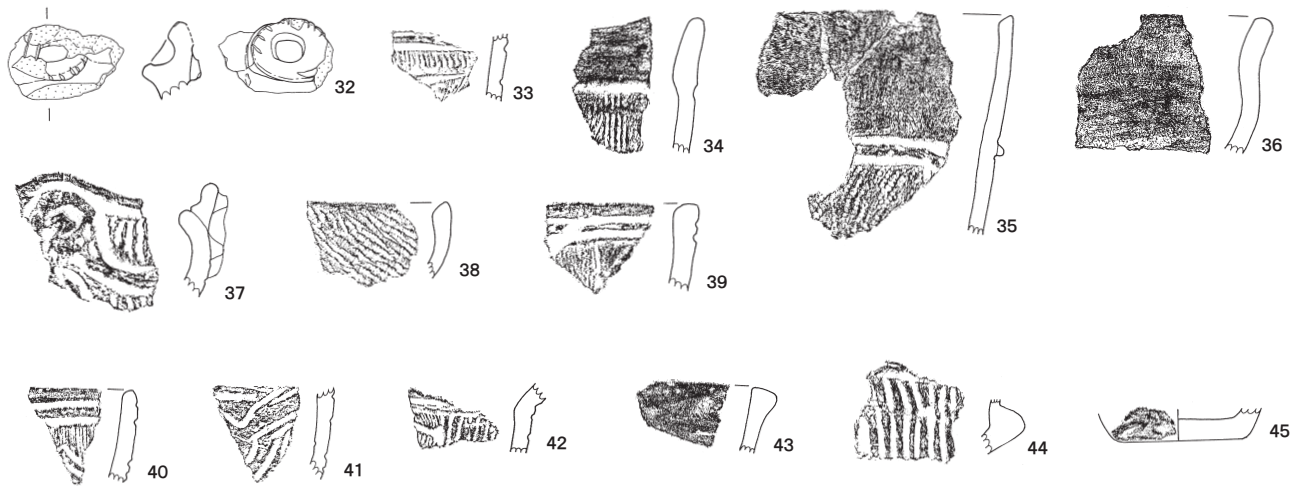
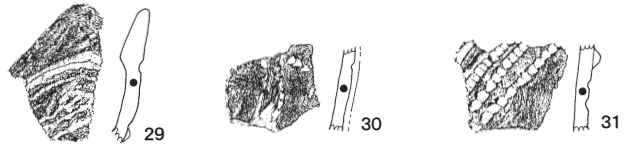
P7



P8



遺構外



第 134 図 東台遺跡第 51 地点土坑・ピット・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

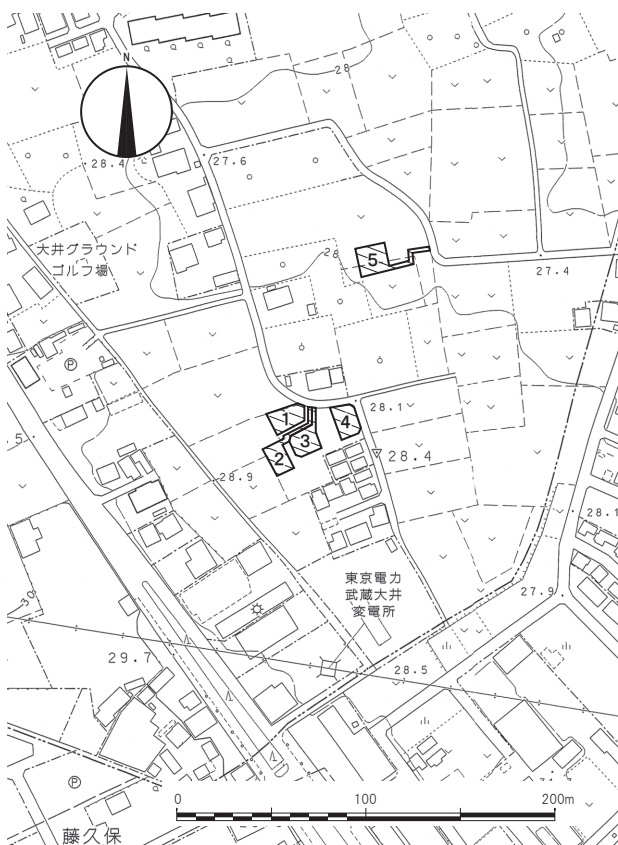
## 第 17 章 石塔畑遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

石塔畑遺跡は東武東上線ふじみの駅の南約 1.7 km、砂川堀右岸の台地奥に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は 28 m である。

現在徳性寺に建つ弘安四年（1281 年）の板碑は「大井坂上石塔の畑中より掘り出されたもの」（「大井町の散歩道」1974）と伝わる。弘安四年の板碑が発見され、徳性寺に持ち込まれた時期は不明であるが、この板碑は「大井町念佛講中」と刻まれた台石に埋め込まれており、江戸後期には発見されていたことが伺える。また、「石塔畑」の地は地元で鎌倉街道とも呼ばれる古道が通り、この地でクランク状に曲がる。中世に係わる遺構の検出が期待される。

周辺の遺跡は、北東 300 m に旧石器・縄文・古代の複合遺跡である東台遺跡、北 250 m に旧石器と近世の大井戸上遺跡、北西約 300 m に旧石器時代の西台遺跡が位置する。また、近世大井宿の上木戸跡が西側にある。



第 135 図 石塔畑遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

### II 石塔畑遺跡第 1 地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より 2008 年 11 月 5 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置しているため、申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

試掘調査は 2008 年 11 月 17 日から 20 日まで行なった。幅約 2 m のトレンチを 2 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土の遺構プランを確認したため、遺構の性格を確認するため一部調査したところ、現代の溝状遺構（イモビツ）であった。他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認面まで 70～90cm を測る。写真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

### III 石塔畑遺跡第 2 地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より 2008 年 11 月 5 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置しているため、申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

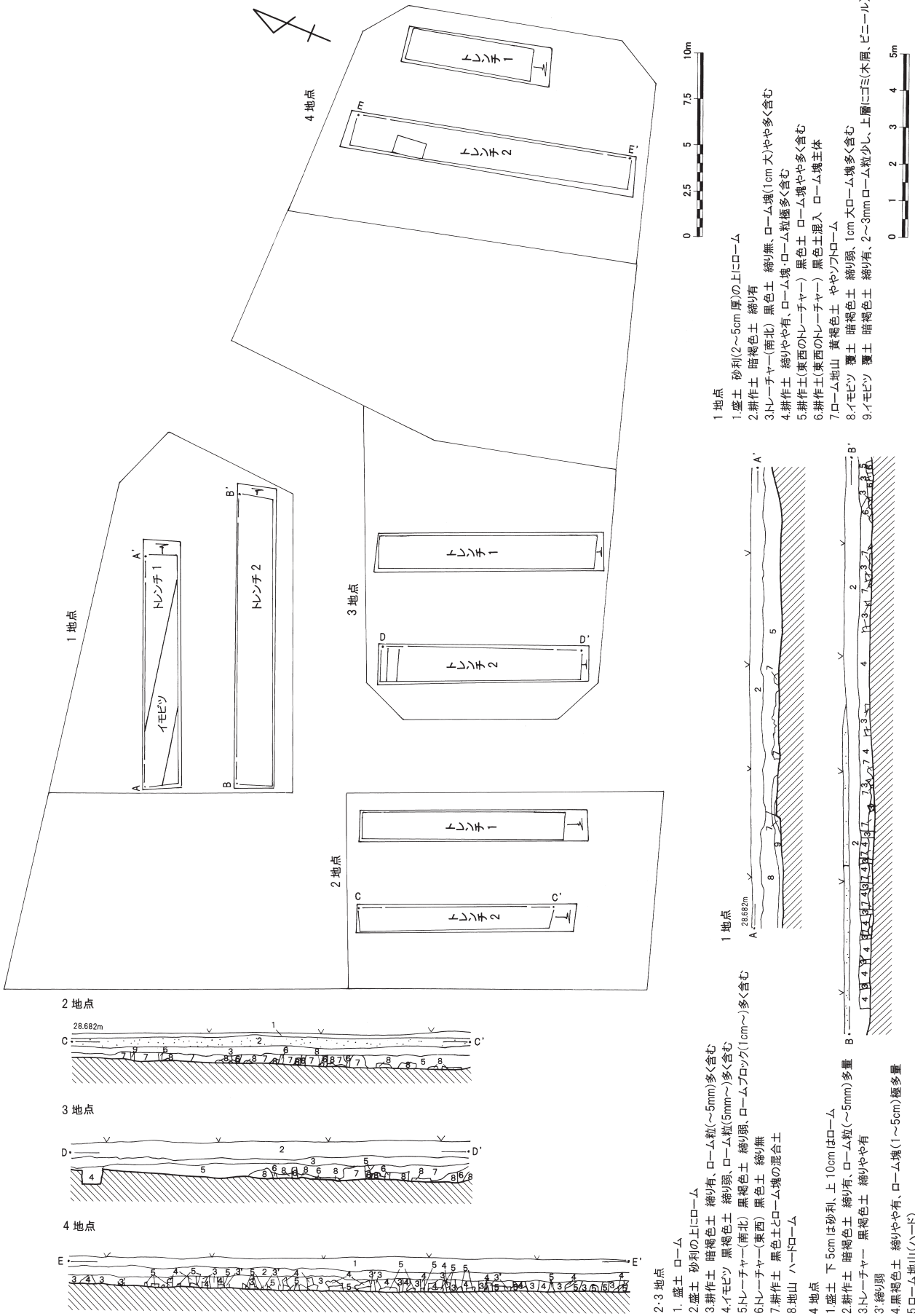
試掘調査は 2008 年 11 月 18 日から 21 日まで行なった。幅約 2 m のトレンチを 2 本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なったところ、暗褐色土の遺構プランを確認したため、遺構の性格を確認するため一部調査したところ、現代の溝状遺構（イモビツ）であった。他に遺構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認面まで 70～90cm を測る。写真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

### IV 石塔畑遺跡第 3 地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者より 2008 年 11 月 5 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置しているため、申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。





第136図 石塔畑遺跡第1~4地点調査区域図(1/300)、土層図(1/150)



試掘調査は 2008 年 11 月 19 日から 25 日まで行な  
った。幅約 2 m のトレンチを 2 本設定し、重機によ  
る表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺  
構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認  
面まで 70 ~ 90cm を測る。写真撮影・平板測量によ  
る全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

V 石塔畑遺跡第 4 地点

(1) 調査の概要

調査は個人専用住宅の建設に伴うもので、原因者よ  
り 2008 年 11 月 13 日付で「埋蔵文化財事前協議書」  
が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南  
端に位置しているため、申請者と協議の結果、遺跡範  
囲と遺構確認の試掘調査を実施することになった。

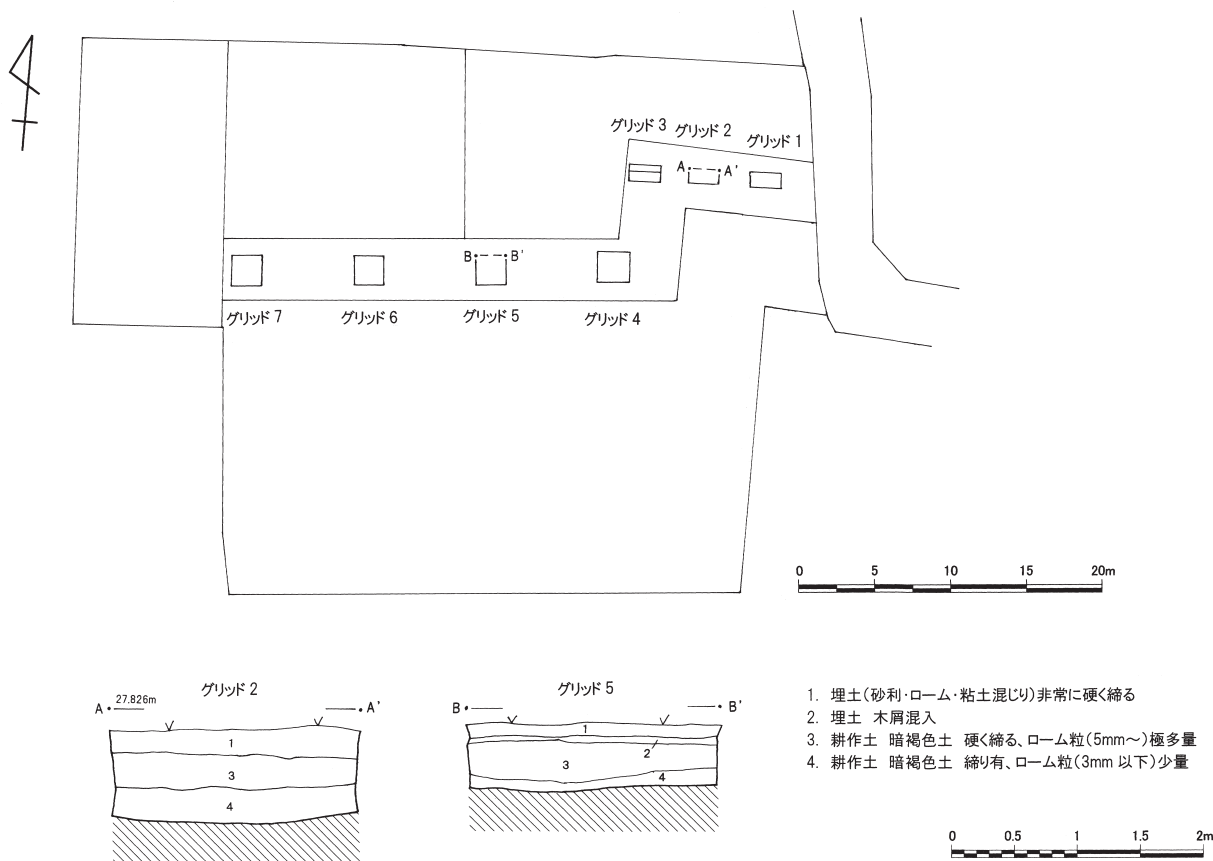
試掘調査は 2008 年 11 月 20 日から 25 日まで行な  
った。幅約 2 m のトレンチを 2 本設定し、重機によ  
る表土除去後、人力による表面精査を行なったが遺  
構・遺物は検出しなかったため慎重工事とした。確認  
面まで 70 ~ 90cm を測る。写真撮影・平板測量によ  
る全測図等記録保存を行ない、調査を終了した。

VI 石塔畑遺跡第 5 地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より  
2008 年 12 月 11 日付で「埋蔵文化財事前協議書」  
が市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲外で  
あるが、鎌倉街道と伝承される古道に面しているた  
め、申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘  
調査を実施することになった。

試掘調査は 2009 年 1 月 13、14 日に行なった。道  
路予定地に 2 × 2 m のグリッドを 3 カ所、2 × 1 m の  
グリッドを 3 カ所設定し、人力による表土除去と表  
面精査を行なったが遺構・遺物は検出しなかったため  
慎重工事とした。確認面まで 70 ~ 90cm を測る。写  
真撮影・平板測量による全測図等記録保存を行ない、  
調査を終了した。



第 137 図 石塔畑遺跡第 5 地点調査区域図 (1/500)、土層図 (1/60)

## 第18章 まとめ

2008（平成20）年度は、38件の試掘調査を行い、うち8件が個人住宅建設に伴う本調査、1件が公共工事に伴う本調査、3件が民間開発に伴う本調査に移行した。その他、20件の工事立会を行った。工事立会を除いた開発面積18,016㎡のうち5,164㎡を調査したことになる。前年度と比較すると調査面積は増加している。

開発の内容は、相続に伴い建売住宅や宅地開発する例が多かった。基礎工事が遺構面に影響を及ぼさないため宅地部分は保存し、道路部分や削平部分を発掘する等、部分的な発掘であった。

以下、本年度に行なった調査について、時代別に概観する。

【旧石器時代の調査】今年度は川崎遺跡第26地点で尖頭器1点、松山遺跡第45地点で剥片1点、神明後遺跡第34地点で縦長剥片1点、東台遺跡第51地点でナイフ形石器1点を検出した。いずれも表土や攪乱中からの検出であった。このうち松山遺跡第45地点、神明後遺跡第34地点、東台遺跡第50地点の3ヶ所で旧石器時代調査のため深掘りのグリッドを設定し調査したが、旧石器時代の遺構は確認できなかった。【縄文時代】川崎遺跡は舌状に張り出した台地の突端で、そのまま緩やかに沖積地となる。1928年には川崎貝塚として報告されており、縄文時代早期から後期にかけての住居跡等を検出している。川崎遺跡第25・26・28～30地点では早期～中期にかけての土器片や石器が奈良・平安の遺構内や遺構外から出土していたが、縄文期の遺構は検出しなかった。

ハケ遺跡C区第8地点と亀居遺跡第63地点では中期の住居跡を検出したが、盛土保存の措置をとり本調査は行っていない。なお、亀居遺跡の住居跡は16号住居跡として隣接する第61地点で1/4を調査しており、阿玉台Ⅱ期古相の炉体土器を伴う。

東台遺跡第51点では中期の住居跡を6軒検出した。住宅の建設予定地に入る住居跡4軒と土坑・ピットの調査を行ない、残り2軒は盛土保存の措置をとったが、サブトレンチを入れて深さや時期の確認を行なった。住居の時期は勝坂末3軒、加曾利EⅡ期3軒である。

180号住居跡は多量の土器が廃棄されていた。床直上の土器もあるが、レンズ堆積した土の上に土器を廃棄した、いわゆる吹上パターンを示す。出土土器は阿

玉台I b式から加曾利EⅠ期までで、勝坂3式が大半を占める。出土した土器には内面に文様が塗彩された浅鉢があった。（180頁第132図35）文様は半円形と斜めに垂下する線の組み合わせで、さらに右側の文様は不明であるが、半円形については明確に朱色で塗彩されていた。その他にも17点の破片に塗彩の痕跡があった。有孔鏝付土器（180頁第132図42）の内外面も塗彩されていた。塗彩された土器の破片は以前から多数検出していたが、文様の描かれた土器の検出は近年類例が増えている。（高崎2008）破片の場合特に注意が必要である。また、黒曜石の剥片が覆土中から54点出土しており、石器製作の場、もしくは廃棄場所と思われる。

177号住居跡と180号住居跡では炉体土器を検出したが、いずれも2個体の土器を埋設し、炉の補修を行なっている様子が伺われる。

【古代】奈良・平安時代の住居跡は、川崎遺跡で11軒、松山遺跡で2軒調査した。川崎遺跡は8世紀代4軒、9世紀代6軒、不明1軒である。

川崎遺跡第25地点では平安時代の掘建柱建物跡を1棟検出し、P3からは灰釉陶器皿が出土した。川崎遺跡の中では北端に位置し、隣接する第17点では平安時代の竪穴住居跡が1軒検出されているものの、住居跡の密度が低い地域である。

川崎遺跡第30地点H61号住居跡から灰釉陶器皿が、H62号住居跡から「用」字が書かれた墨書土器が出土した。また、H61号住居跡と、第26地点H54号住居跡からは竈内から支脚が出土した。

煤の付着した容器が川崎遺跡の各住居跡から出土している。第26地点H52号住居跡から須恵器杯2点と皿1点（31頁第18図9・10・19）、H54号住居跡から須恵器杯1点（33頁第20図48）、第29地点H59号住居跡から須恵器杯1点（53頁第37図6）等である。灯火具として利用された可能性が高いが、H52号住居跡出土の須恵器皿（31頁第18図19）の場合、煤が付着した破片と付着していない破片が接合しており、「芯押さえ」としての使用が考えられる。（坂野2005）

川崎遺跡28地点遺構外出土の円盤状土製品は用途不明の遺物である。埼玉県中壩遺跡出土の円盤状土製品より若干小ぶりであるが類似する。鍛冶や鑄造、製

鉄関連の遺物と報告されており、(岩瀬 1997) 川崎遺跡でも今後注意が必要である。

松山遺跡第45地点H35号住居跡は焼失家屋と思われるが、幅10cm前後、長さ220cm(一部途切れる)の「クリ」の炭化材が出土した。住居跡の中央から角に向かう対角線方向に位置し、垂木と思われる。その他、萱と思しき「イネ科」の炭化材も出土しており、屋根などの部材や家屋内で使用していた調度類であった可能性がある。

【中世】駒林遺跡第5・7地点で時期不明の溝・堀跡を検出した。

駒林遺跡は広範囲で溝跡を検出している。(121頁第91図参照)南北方向に130m、第1地点で東方向へ曲がる。その延長方向に当たる6ヶ所の調査地

点で同規模の溝跡を検出し、第7、第5地点を経てさらに東へ続く。連続した溝と仮定した場合、第1地点の曲がり角から第5地点までは東西275mを測る。

第1地点では、溝跡の覆土中に茶毘跡が構築されており、茶毘跡1で検出した炭化材の年代測定を行ったところ、中世(AD1316 - 1606)の結果を得た。

最後になりましたが、埼玉県埋蔵文化財調査事業団の田中広明氏には灰釉陶器について、富士見市立難波田城資料館の早坂廣人氏には縄文時代前期の土器について、川越市教育委員会の平野寛之氏には須恵器・土師器について御教示頂きました。また、同僚の鍋島直久、越村篤各氏には調査・整理にあたって助言を頂きました。誌上をもって謝意を記します。(高崎)

#### 第6表引用文献

- ②安孫子昭二 1988「勝坂式土器様式」『縄文土器大観』2 小学館
- ②鈴木保彦・山本暉久 1988「加曾利E式土器様式」『縄文土器大観』2 小学館
- ③植木弘 1994「行司免遺跡出土の中期土器群の変遷」『比企郡市における埋蔵文化財の成果と概要』
- ④黒尾和久 1995「縄文中期集落遺跡の基礎的検討(Ⅰ)」『論集 宇津木台』第1集 宇津木台地区考古学研究会
- ⑤谷井彪他 1982「縄文中期土器群の再編」『研究紀要』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ⑥小林達雄他 1981『シンポジウム 北関東を中心とする縄文中期の諸問題』考古学協会

#### 第1図引用文献

堀口萬吉 1980「埼玉県の地形と地質」『新編 埼玉県史 別冊3 自然』埼玉県

#### 参考文献

- 今井堯・小泉功・坪田幹男 1989『大井町史 資料編Ⅰ 原始古代 中世』大井町教育委員会
- 今井堯・坪田幹男・鍋島直久 1996『西ノ原遺跡』大井町遺跡調査会
- 岩瀬謙 1997「V1(10)円盤状土製品」『中堀遺跡』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 大川清ほか 1996『日本土器事典』雄山閣出版株式会社
- 大橋康二ほか 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
- 川名広文ほか 1999『上福岡市史 資料編第1巻 自然史・考古』上福岡市教育委員会
- 國平健三 1986「相模型坏の成立過程をめぐる土器様相」『神奈川考古』第22号 神奈川考古同人会
- 河野喜映 1986「8世紀前半代の坏形土器の実年代について」『神奈川考古』第22号 神奈川考古同人会
- 小林達雄ほか 2008『総覧 縄文土器』株式会社アム・プロモーション
- 酒井清治 1987「埼玉県の須恵器の変遷について」『埼玉の古代窯業調査報告書』埼玉県立歴史資料館
- 桜井準也 2006『ガラス瓶の考古学』六一書房
- 高崎直成 2008「神明後遺跡出土の縄文時代中期塗彩土器について」『市内遺跡群3』ふじみ野市教育委員会
- 田中広明 1997「V1(7)灰釉陶器」『中堀遺跡』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 寺島孝一ほか 2001『図説 江戸考古学研究事典』柏書房株式会社
- 長佐古真也ほか 1996『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ』江戸陶磁土器研究グループ
- 藤澤良祐 1986「瀬戸大窯発掘調査報告」『研究紀要 V』瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐 1987「西茨第1・2号窯発掘調査報告」『研究紀要 VI』瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐 1988「本業焼きの研究(2)」『研究紀要 VII』瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐 1988「本業焼きの研究(3)」『研究紀要 VIII』瀬戸市歴史民俗資料館
- 藤澤良祐 1991「瀬戸古窯址群Ⅱ—古瀬戸後期様式の編年—」『研究紀要 X』瀬戸市歴史民俗資料館
- 坂野千登勢 2005「再利用された土器群の考察」『若葉台遺跡発掘調査報告書VI』坂戸市教育委員会
- 水本和美 1998「陶磁器・土器 分類・計数基準」『伝中・上富士前Ⅱ』豊島区教育委員会
- 渡辺一 1990『鳩山窯跡群Ⅱ』鳩山町教育委員会

## 附編 自然化学分析

松山遺跡第 45 地点における放射性炭素年代 (AMS 測定)  
(株) 加速器分析研究所

## 1 測定対象試料

松山遺跡第 45 地点は、埼玉県ふじみ野市築地 3 丁目 4-7 (北緯 35° 52′ 21″、東経 139° 31′ 51″) に所在する。測定対象試料は、35 号住居跡から出土した炭化材より採取した炭化物 No.1 (IAAA-90421)、No.22 (IAAA-90422)、合計 2 点である。

## 2 測定の意義

住居跡の構築年代を推定する。

## 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA: Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液 (80°C) を用いて数時間処理する。なお、AAA 処理において、アルカリ濃度が 1N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°C で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°C で 30 分、850°C で 2 時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

## 4 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polash 1977)。
- (2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$  によって補正された値である。<sup>14</sup>C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の <sup>14</sup>C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により <sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の <sup>14</sup>C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の <sup>14</sup>C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の <sup>14</sup>C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、<sup>14</sup>C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは 2 標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない <sup>14</sup>C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データ



の蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04 データベース(Reimer et al 2004) を用い、OxCal4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

## 6 測定結果

松山遺跡第 45 地点試料の  $^{14}\text{C}$  年代は、炭化物 No.1 が  $1270 \pm 30\text{yrBP}$ 、炭化物 No.22 が  $1360 \pm 30\text{yrBP}$  である。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、No.1 が 7～8 世紀、No.22 が 7 世紀となった。両試料は同じ焼失住居跡の構築材と考えられており、 $2\sigma$  の範囲で暦年較正年代が重なる。

いずれも炭素含有率が 60% を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり		
						Libby Age (yrBP)		pMC (%)
<b>IAAA-90421</b>	炭化物 No.1	松山遺跡第 45 地点 35 号住居跡	炭化物	AAA	<b><math>-27.13 \pm 0.56</math></b>	<b><math>1,270 \pm 30</math></b>		<b><math>85.32 \pm 0.30</math></b>
<b>IAAA-90422</b>	炭化物 No.22	松山遺跡第 45 地点 35 号住居跡	炭化物	AAA	<b><math>-11.54 \pm 0.51</math></b>	<b><math>1,360 \pm 30</math></b>		<b><math>84.45 \pm 0.27</math></b>

[#2978]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし			暦年較正用 (yrBP)	$1\sigma$ 暦年代範囲	$2\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)		pMC (%)			
<b>IAAA-90421</b>	$1,310 \pm 30$		$84.95 \pm 0.28$	$1,274 \pm 28$	686AD - 725AD (37.7%) 739AD - 771AD (30.5%)	664AD - 780AD (93.6%) 792AD - 805AD (1.8%)
<b>IAAA-90422</b>	$1,140 \pm 20$		$86.80 \pm 0.26$	$1,357 \pm 25$	650AD - 671AD (68.2%)	637AD - 691AD (93.4%) 751AD - 763AD (2.0%)

[参考値]

## 参考文献

Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19, 355-363

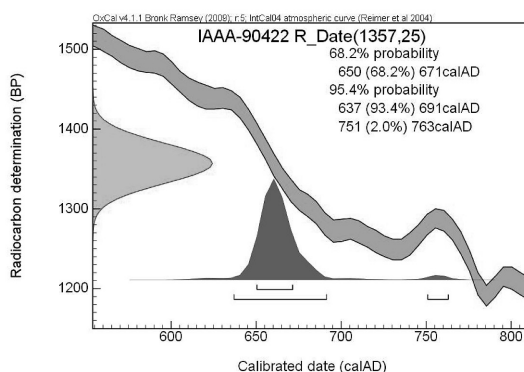
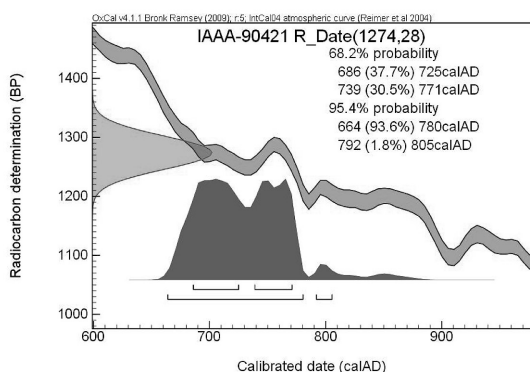
Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43(2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

[参考] 暦年較正年代グラフ



松山遺跡・本村遺跡出土炭化材の樹種

1. 松山遺跡第 45 地点

はじめに

松山遺跡は、新河岸川右岸の台地上に立地する。第 45 地点の調査で検出された 35 号住居跡は古代の焼失住居であり、住居構築材と考えられる炭化材が出土している。

本報告では、出土した炭化材を対象として、木材利用を明らかにするための樹種同定を実施する。

1. 試料

試料は、35 号住居跡から出土した炭化材 2 点（炭化物 No.1,22）である。

2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴については、島地・伊東（1982）および Wheeler 他（1998）を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

3. 結果

表 1. 松山遺跡第 45 地点の樹種同定結果

遺構	試料名	用途など	樹種
35 号住居跡	炭化物 No.1	住居構築材	クリ
	炭化物 No.22	屋根材（萱材）	イネ科

樹種同定結果を表 1 に示す。炭化材は、クリとイネ科に同定された。解剖学的特徴等を記す。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は 3-4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15 細胞高。

・イネ科 (Gramineae)

試料は、厚さ 1 mm 以内で、中空の円筒状、あるいは破損して薄い板状を呈する。横断面では、原生木部の小径の道管の左右に 1 対の大型の道管があり、その外側に師部細胞がある。これらを厚壁の繊維細胞（維管束鞘）が囲んで維管束を形成する。維管束は柔組織中に散在し、不斉中心柱をなす。放射組織は認められない。

4. 考察

35 号住居跡から出土した炭化材のうち、炭化物 No.1 は住居の隅から住居中央に向かって直線上に延びる 5 点の炭化材の内の 1 点である。5 点の炭化材は、同一部材に由来すると考えられており、合計で長さ 215 cm ある。炭化物 No.1 は、住居の隅に近い試料で、長さは約 73 cm あり、床上 5 cm の位置から検出されている。出土状況から、垂木などの部材が推定される。樹種は落葉広葉樹のクリであり、重硬で強度・耐朽性に優れた木材が利用されていたことが推定される。一方、炭化物 No.22 は、住居東端の床上 5 cm から出土しており、出土状況から屋根材として利用された萱材の可能性が考えられている。炭化物はイネ科に同定されており、同定結果からも萱材であることが裏付けられた。萱材に利用される種類としては、ヨシ属やススキ属などが考えられ、これらのイネ科植物が屋根材に利用された可能性がある。

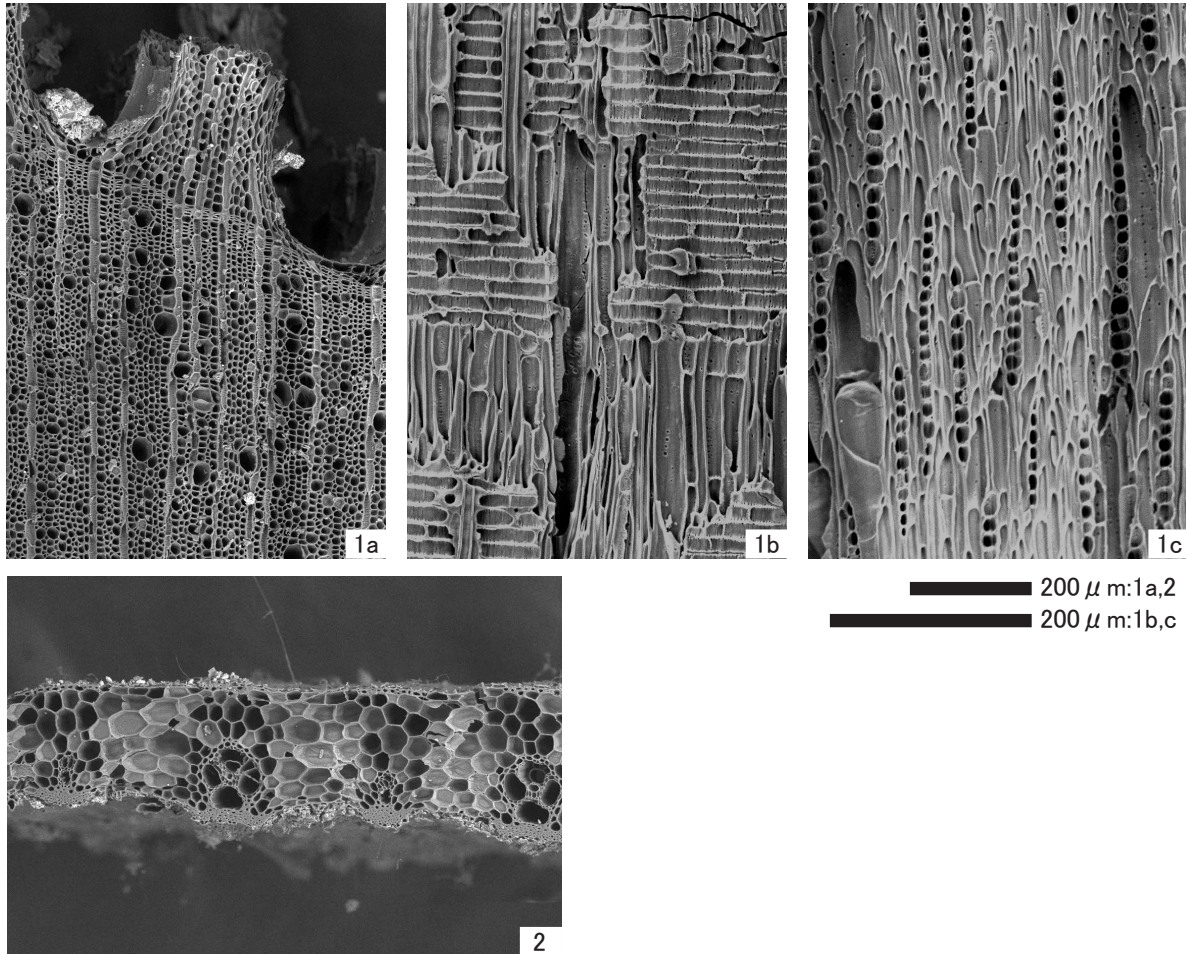
埼玉県内で、古代の住居構築材と考えられる炭化材にクリが確認された例は、勝呂廃寺（坂戸市）、谷津遺跡（富士見市）、鳩山窯跡群（鳩山町）、西久保遺跡（狭山市）、中道遺跡（志木市）、泉水山・下ノ原遺跡（朝霞市）等の報告例がある（パリノ・サーヴェイ株式会社,1989; 藤根,1990; 鈴木ほか,1993; 藤根・吉川,1995; 植田,1999; 鈴木,2003）。

勝呂廃寺では、8世紀頃と考えられる資料に、針葉樹のカヤ、広葉樹のオニグルミ、クヌギ節と共に確認されている。谷津遺跡では、平安時代とされる資料にクヌギ節とコナラ節を主体とした種類構成が認められ、クリが僅かに混じる。鳩山窯跡群では、主に8世紀後半～9世紀前半の資料にクヌギ節とコナラ節を主体とした種類構成が認められ、アカガシ亜属、クリ、モクレン属、サクラ属、ヌルデ、エゴノキ属が少数混じる。西久保遺跡では、9世紀とされる資料にクリを中心に、針葉樹の複雑管束亜属、モミ属、カヤ、広葉樹のオニグルミ、クヌギ節、コナラ節、アカガシ亜属、ケヤキ、モモ、サクラ属が少数混じる組成である。中道遺跡では、10世紀前半とされる資料にクリを中心にコナラ節やトチノキが混じる。泉水山・下ノ原遺跡では、奈良時代とされる資料の6点中5点がクリ、1点がクヌギ節であった。これらの結果から、クリは住居構築材として比較的良好に利用される木材の一つであったと考えられる。これまでの結果では、クヌギ節やコナラ節を主体とすることが多いが、クリを主体とする事例も西久保遺跡や泉水山・下ノ原遺跡で認められる。本遺跡の35号住居跡においても、他の試料の樹種を調べ、組成を検討することが望まれる。

## 引用文献

- 藤根 久,1990,谷津遺跡の炭化材樹種同定.「宮脇遺跡・谷津遺跡発掘調査報告書(2)」,富士見市遺跡調査会調査報告第34集,埼玉県富士見市遺跡調査会,50-54.
- 藤根 久・吉川 純子,1995,西久保遺跡出土炭化材及び炭化種実類.「狭山市 西久保/金井上 首都圏中央連絡自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告-V」,埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第156集,埼玉県埋蔵文化財調査事業団,293-297.
- 林 昭三,1991,日本産木材 顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.
- 伊東 隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.
- 伊東 隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所,66-176.
- 伊東 隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.
- 伊東 隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.
- 伊東 隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.
- パリノ・サーヴェイ株式会社,1989,1号住居址出土炭化材同定.「勝呂廃寺 勝呂廃寺F地区(西入間警察署勝呂駐在所)発掘調査報告書」,坂戸市遺跡発掘調査団,45-47.
- 島地 謙・伊東 隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.
- 鈴木 三男,2003,泉水山・富士谷遺跡第16地区焼失住居址の炭化材.「埼玉県朝霞市 泉水山・下ノ原遺跡Ⅱ 1981年度発掘調査報告書 第二分冊」,朝霞市泉水山・下ノ原遺跡調査会,763-766.
- 鈴木 三男・渡辺 一・能城 修一,1993,埼玉県比企郡鳩山窯跡群(8-9世紀)出土炭化材の樹種と燃料材の用材. Ann Sci Kanazawa Univ,30,金沢大学,65-88.
- 植田 弥生,1999,城山遺跡第35地点から出土した炭化材の樹種同定.「志木市遺跡群9」,志木市の文化財第27集,埼玉県志木市教育委員会,120-126.
- Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編),1998,広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東 隆夫・藤井 智之・佐伯 浩(日本語版監修),海青社,122p. [Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

図版1 松山遺跡第45地点の炭化材



1. クリ(35号住居跡;炭化物No.1) a:木口,b:柁目,c:板目
2. イネ科(35号住居跡;炭化物No.22) イネ科